平成 24 年 5 月現在

お茶の水女子大学教育情報の公表

（学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行により公開）

平成２４年１０月

１．大学の教育研究上の目的・方針に関すること（学則を抜粋）。　【担当：教務チーム】

＜　目　的　＞

（１）文教育学部の目的

文教育学部は、人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

①　人文科学科

人文科学科は、人類の様々な歩みの中の現象を広く文化として捉え、深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理した上で、独自の論理を築きあげる総合的な力を有する人材を養成する。

②　言語文化学科

言語文化学科は、人間の言語活動や様々な言語表現の本質について深い知見を有するような人材、また、個々の言語に関して高い運用能力を有するような人材、更には各言語圏に固有の文化とそれら相互間の交流について幅広い知識を有するような人材を養成する。

③　人間社会科学科

人間社会科学科は、社会学、教育科学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得し、人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成する。

④　芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科は、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的研究と実践の両面から追求し、現代的問題への対応に適用できるような人材を養成する。

（２）理学部の目的

理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

①　数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

②　物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

③　化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

④　生物学科

生物学科は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

⑤　情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その種々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

（３）生活科学部の目的

生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身に付け、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

① 食物栄養学科

食物栄養学科は、人間の「食」を自然科学的かつ総合的に捉え、豊かな食生活や健康な社会を実現するために、食物と栄養について科学的知識と実践的能力を備えた人材を養成する。

② 人間・環境科学科

人間･環境科学科は､生活者たる人間と環境との相互作用に関する深い理解を備え､科学的手法を応用して、生活面での諸課題に対して人間と環境が共存しうる方策を考案し､かつ､実社会にて実践できる優秀な人材を養成する。

③ 人間生活学科

人間生活学科は、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた優秀な人材を養成する。

（4）大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程の目的

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

博士前期課程各専攻の目的は、次のとおりとする。

① 比較社会文化学専攻は、言語、思想、歴史、芸術を軸とする人文諸科学に関する高度な専門性を構築し、幅広い教養に基づいた学際的で豊かな研究能力を備えた人材を養成する。

② 人間発達科学専攻は、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育・教育支援における基本的な研究能力とともに、人間の心の発達と社会環境に関る諸問題を学際的視点に基づき総合的･有機的に結びつける能力を身につけた人材を養成する。

③ ジェンダー社会科学専攻は、人間・生活・社会・環境をめぐる現代的諸問題を、生活政策学、地理環境学、開発・ジェンダー論の観点から解明しうる新しい学識の獲得をはかり、国際的な視野をもつ人材を養成する。

④ ライフサイエンス専攻は、生命科学、生活科学の学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉え、ライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解できる人材を養成する。

⑤ 理学専攻は、数学、物理学、化学・生物化学、情報科学の各分野において高度の専門的能力を有し、境界領域分野や未知の分野の学問を切り拓くことに意欲的な人材を養成する。

（5）大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程の目的

高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

博士後期課程各専攻の目的は、次のとおりとする。

① 比較社会文化学専攻は、人間・社会・文化のありように対応した人間理解・社会把握・文化構造の再考と、それに伴う領域横断的な視野を備え、多文化の相互理解に立脚した学際的･国際的な研究を推進する高度な研究者、専門職業人を養成する。

② 人間発達科学専攻は、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、社会政策学、保育学、児童学における高度な研究能力とともに､人間の心の発達と社会環境に関る学問領域について学際的視野に基づき創造的な研究を推進する高度な研究者、専門職業人を養成する。

③ ジェンダー学際研究専攻は、社会科学・人文科学・自然科学の諸学問領域を土台として、ジェンダーの視点から様々な研究課題群を分析し、問題意識に応じて学問領域を深めるとともに、研究課題に対し学際的な視点からの考察と提言ができる高度な研究者、専門職業人を養成する。

④ ライフサイエンス専攻は、生命科学、生活科学の学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉え、ライフサイエンスの諸領域を土台に、高度な専門知識と研究能力を有する、研究者、専門職業人を養成する。

⑤ 理学専攻は、自然界の複雑な諸現象を現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、高い専門性を基礎として新しい科学の創成を目指しつつ、幅広い知識と視野をもつ、次世代を担う高度な研究者、専門職業人を養成する。

＜　教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）＞　【担当：教務チーム】

（１）学士課程の教育課程編成・実施方針

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であるという使命」のもとに、「一人ひとりを大切にする豊かな教育文化を維持し、未来を拓く基礎研究を重視する」という理念を教育の根幹とし、「幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダの育成」という教育目標を実現するために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

１．発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を育むリベラルアーツ教育を実施し、その上に創造力と実践性を備えた高度な専門教育を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たしうる人材を養成する。
２．文系と理系を横断し融合するリベラルアーツ教育を実施して、幅広い教養を得させるとともにものの見方への不断の吟味を促し、広い問題意識をもって多様かつ柔軟に思考するための基礎力を養う。
３．複数プログラム選択履修制度を導入し、学修者が主体的に学びを構成する専門教育を実施する。教育目的に即して設けられた科目群を学修者が選択し組み合わせることによって、専門知識の深化や領域横断的な幅広い知識の獲得といった多様な学修パターンを保証し、キャリアを見すえ、主体的に自己形成する力を養成する。
４．グローバルな視野をもって思考し、国内外で活躍できる女性を輩出するために、実用力向上を目指す外国語科目や社会に開かれた学際的な科目や研修を設置し、国際的視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を養う。
５．主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導を行い、GPA 制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。

○　文教育学部の教育課程編成・実施方針

１．人間の文化と社会への関心を核とし、人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力の養成を目指す。
２．人文科学、言語文化学、人間社会科学、芸術表現行動学にかかわる多彩な専門教育プログラムと専門科目を開設し、講義・演習・実習などの多様な形態の授業を通して、学修者のニーズに応じて、人間の文化と社会の複雑な事象を追究・分析するために必要な知識や技能を習得させることを目指す。
３．学科により、高等学校・中学校・小学校・幼稚園教員免許取得ならびに、社会調査士、学芸員、社会教育主事資格取得のための科目を設置する。

(1) 人文科学科

人間の文化について、深く幅広い知識を習得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データを収集・整理した上で、独自の論理を築き上げる総合的な力を身につけさせることを目指す。

人文科学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

① 哲学・倫理学・美術史プログラムは、人類が求めてきた真・善・美という価値に関わる事象について、専門的かつ体系的知識を習得するとともに、それらの価値の問い直しをはかることを通じて、人間について深くまた多角的に分析・考察する力を養成することを目指す。
② 比較歴史学プログラムは、日本、アジア、西洋という地域軸と古代から現代までの時間軸を手がかりに、相互の比較や連関・交流に着目することで社会全体を俯瞰する視角を身に付け、社会の全体像を総合的に把握できるような柔軟な思考力を養うことを目指す。
③ 地理環境学プログラムは、研究では文系と理系の知をローカルな地域・場所で考え、結びつける総合科学をめざし、実践では現実的な諸問題の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを養成することを目指す。

(2) 言語文化学科

「ことば」やそれに基づき生成される文学・芸術について考究するために、日本語・日本文学、中国語圏言語文化学、英語圏言語文化学、仏語圏言語文化学の専門教育プログラムを設置し、各言語の習得及び体系的理解、また、文学・芸術に対する基本的な研究方法の習得を目指す。

言語文化学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

① 日本語・日本文学プログラムは、上代から現代に至る日本文学に関する基礎知識の習得、文学作品に対する研究方法の習得、日本語の体系と歴史についての基礎知識の習得、日本語に対する研究方法の習得を目的とする。

② 中国語圏言語文化プログラムは、確実な中国語運用能力の養成をはかり、その基礎の上にたって中国の現代文化および古典文化に関する基礎的知識と研究方法を習得し、中国に対する総合的な理解を深めることを目的とする。

③ 英語圏言語文化プログラムは、英語と英語圏の文学・文化に関する基礎知識と、さらに理解を深めるための方法論を習得し、また、柔軟な英語運用能力を習得するとともに深い思想を英語で正確に理解して、発信できる能力を身につけさせることを目的とする。

④ 仏語圏言語文化プログラムは、フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身につけ、仏語圏の言語文化や社会事情に精通し、さらに他の言語圏の文化との比較考察を行うことを目的とする。

また、上記の専門教育プログラムに加えて、日本語教育学の補助的なプログラムを設置し、日本語非母語話者などに対する日本語教育・習得に関する基本的知識や実践的技能を習得できるようにする。

(3) 人間社会科学科

人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たせるように、社会学、教育科学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得させることを目指す。

人間社会科学科が開設する専門教育プログラムの編成方針は以下のとおりである。

① 社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、社会意識・ジェンダー・社会政策等の主要な社会学的領域に文化人類学や教育社会学等の隣接領域科目も加えながら、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目指す。

② 教育科学プログラムは、教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育開発論、生涯学習論等の教育科学諸領域の知見と方法によって、人間と教育のあり方についての豊かで創造的な思考力を獲得させることを目指す。

③ 心理学プログラムは、心理学に関する基礎的な知識と、心理学研究に必要なテクニックを学ぶことを通して、人間に関わる事象への深い理解と科学的な見方、論理的で分析的な思考力、幅広い心理学的研究力や実践力を身につけさせることを目指す。

(4) 芸術・表現行動学科

講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見及び解決するための実践的能力の養成を目指す。

芸術・表現行動学科が開設する専門教育カリキュラムの編成方針は以下のとおりである。

① 舞踊教育学コースの専門教育カリキュラムは、講義、演習、実習など多様な形態の授業を通じて、舞踊やスポーツなどの表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見及び解決するための実践的能力の養成を目指す。

② 音楽表現コースの専門教育カリキュラムは、「音楽から世界を理解する」ことを目標に、理論と実践の高い次元での融合を目指す。学術面においては西洋近代のみならず幅広い時代・地域の音楽史・音楽理論の習得や学際的視野に立った問題提起力の養成、実技においては学修者各々のニーズに合わせた基礎から高度に専門的な水準に至る声楽・ピアノ演奏技術の習得、並びに学問領域で習得した内容を演奏に反映しうる能力の養成を目指す。

(5) グローバル文化学環

グローバル文化学環が開設する専門教育プログラムであるグローバル文化学プログラムの編成方針は以下のとおりである。

① グローバル化の進む現代世界において、多様な文化を越えた協働を実現するための専門的な教育を実施する。

② 地域研究・地域文化、多文化交流・多文化共生、国際関係・国際協力の３つの領域とこれを横断する問題について、参加と実践を通じて、専門的知識、スキル、倫理を養成する。

○ 理学部の教育課程編成・実施方針

理学は、自然の成り立ちの原理・法則を探求する学問である。理学部では、人類の英知が蓄積された理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につける。自然とその中で展開する人間活動を扱う様々な場面において、多大な貢献が出来る次世代のリーダーあるいは中核となる人材育成のための教育を行う。

学科により、高等学校・中学校教員免許取得ならびに、学芸員資格取得のための科目を設置する。

(1) 数学科

数学の基礎的素養として解析学・幾何学・代数学をバランス良く学び、講義で得た知識を、演習・輪講・数学講究（セミナー）を通して実践的に学ぶことにより、抽象化・一般化・厳密性などの数学的論理思考法が身に付けられるようにカリキュラムは編成されている他、数理逍遥など応用的素養のための科目も用意されている。基礎及び応用としての数学的素養を身につけ論理的に問題を捉え解決する能力を持つ人材育成のための教育を行う。

(2) 物理学科

物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野の教育・研究を一貫性を持って遂行することにより、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ論理的に探求する能力の養成を行う。物理学の探求を通じて、様々な場面で出会う問題に対して還元論的かつ多元的なものの見方を習得し、問題解決能力を向上させ、社会の各分野において時代を先導する人材育成のための教育を行う。

(3) 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学をはじめとする自然科学の諸分野、加えて、工学、医学、薬学などの応用的分野の知識の必須な領域まで広がっている。化学科では、自然科学はもとより、応用科学分野における諸問題、さらには人類が直面する社会的問題をも解決できる、論理的思考力や自然科学の基礎知識および研究能力を体得し、柔軟な思考力と優れた問題解決力を身につけ、社会に対して多大な貢献が出来る人材育成のための教育を行う。

(4) 生物学科

生物学は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を探求する学問であり、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野の基盤となり、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼす。生物学科では、多種多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を身につける。自ら考え、問題を提示し解決する能力を有し、豊かな人間社会の構築に貢献できる人材育成のための教育を行う。

(5) 情報科学科

情報科学は、「情報」を対象とした数理科学であると同時に、その知見をコンピュータを介して工学的に応用し、幅広く社会に貢献する学問である。情報科学科では、「計算とは何か」「認識とは何か」といった人間・社会・世界が関わる普遍的な法則性に対する思考力と、変化し続ける現代社会の諸相に柔軟に適応し、問題を解決する能力を併せ持つ人材育成のための教育を行う。

○ 生活科学部の教育課程編成・実施方針

生活科学部は、人間と生活と環境を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につけ、将来、社会の多方面で活躍する女性リーダーを育成することを使命としている。この目的を実現するために、食の科学と健康、人間と環境、人間の生活（発達と心の健康、社会、文化）という人間生活の主要問題群に従って、学部を３学科で編成し、高度に専門分化した学知を結集

して、現代生活の諸問題を、生活者の視点から多面的かつ総合的に解明することを目指す。カリキュラムは以下の見地から構成される。

1．文理融合の総合応用科学としての生活科学という見地からカリキュラムを構成する。
2．公共の利益に資する高度な専門知識、市民的教養、判断力を身につけることをカリキュラムの根本理念とする。それを実現するために、質の高い講義、少人数の実験・実習・演習、個々に応じた卒業論文作成指導を基軸とするカリキュラムの中で、思考力と対話能力を広めかつ深める。
3．専門教育に関連する各種資格の取得を念頭に置いたカリキュラムを構成し、卒業後の進路選択に資する。高等学校・中学校教員免許（家庭）取得のための科目を設置する。

(1) 食物栄養学科

豊かな食生活と健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた人材の育成を教育の目標としている。そのために、食物と栄養に関する広範な学問領域に関して教育を行う。この教育目標を実現するために、次の方針のもとにカリキュラムを実施する。

① 本学科は、入学年次から２年次までに自然科学系の基礎科目を履修するのと併行して、食物と栄養に関する基礎学問領域の教育を行う。
② ３年次には、食物と栄養に関するより専門性の高い専攻科目と実験実習を履修する。
③ ４年次には、食物と栄養に関する科学研究の専門教育として、卒業論文を必修とする。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室にて、特定のテーマに関する研究教育を行う。
④ 本学科を卒業すると栄養士免許と管理栄養士の国家試験受験資格が与えられる。栄養教諭免許取得のための科目を設置する。

(2) 人間・環境科学科

環境と人間との間でのアンバランスから生じる様々な問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置づけた上で、人間が環境がバランスを保ちつつ暮らせるための具体的な対策を社会に対して提案し実践する能力を養うことを教育目標とする。そのために、次の方針のもと人間・環境プログラムを編成し実施する。４年間の勉学を通じ、科学技術の生活関連分野における実践的な応用、研究成果の社会での応用・評価などを学ぶ。

① 人間と環境の間の問題の解決には定量性や客観性といった科学的な思考能力が不可欠である。入学後の１、２年次は徹底した自然科学系基礎教育を行い、卒業研究のための基礎力を涵養する。
② ３年次には、関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。選択プログラムの履修により、主プログラムで学んだ自然科学基礎力を一層発展させ、理工系の基礎能力を身につける。
③ 卒業年次には指導教員のもとで卒業論文を作成するための研究を行う。生活の質に関連した具体的応用課題に対する解決能力を育成する。
④ 一級建築士受験資格取得のための科目を設置する。(2012 年度認可予定)

(3) 人間生活学科

生活者の視点から、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的かつ複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を養うことを教育目標としている。この教育目標を実現するために、以下の学科の基本方針のもとに、発達臨床心理学、生活社会科学、生活文化学の三つの専門教育プログラムを開設する。

① 複数プログラム選択履修制度のもとで、学生は、自らの学問的関心に応じて、専門教育プログラム（主プログラム、強化プログラム、副プログラム、学際プログラム）を選択し、生活科学部履修規程に準じて、履修する。
② 専門教育プログラムにおいて、講義、演習、実習を履修し、専門領域に関する知識、研究手法を修得する。
③ 卒業年次に、指導教員のもとで卒業論文を作成する。

・ 発達臨床心理学プログラム

生涯にわたる人間の発達やこころの健康について、臨床心理学、保育・児童学などの多角的な視点からの理解力と、それらに対する支援・援助について実践的、複合的アプローチを駆使できる基礎力を養成する。

この教育目標を実現するために、次の方針のもとにプログラムを編成し、実施する。

ⅰ） 主プログラムでは、発達臨床心理学を学ぶための基礎的な知識と技法を習得し、併せて自ら問題意識をもって人間の発達・心理を追究することのできる分析力を身につける。

ⅱ） 強化プログラムでは、選択の講義科目、演習科目、および実習科目によってさらに広範な人間の発達・心理に関する知識、研究手法、実践的能力を養成する。

ⅲ） 小学校教員免許・幼稚園教員免許取得に対応する科目を設置する。また、保育士試験、ならびに大学院臨床心理士養成課程進学のための基礎教育に対応する科目を設置する。

・ 生活社会科学プログラム

社会科学の理論と方法論を取得し、身近な生活問題の発生メカニズムを理解するとともに、その解決の方途について提案する力を養うことを目的とする。

法学、政治学、経済学、社会学、の 4 分野にわたり広く社会科学の基礎知識を習得し、これを応用して各自の研究課題を解明するための基礎力を身につける。

基礎的な力を養った後は、各自の研究テーマ及びその関連領域につき体系的な知識を習得し、社会科学の高度な知識と研究方法論を自在に使いこなす力を身につけることを教育の目的としている。

このような教育目標を実現するために、次の方針のもとにプログラムを編成し、実施する。

ⅰ） 主プログラムでは、社会科学の理論と方法論の基礎を集中的に学ぶ。3 年次より演習を選択して、社会科学の理論、方法論をより深く、実践的に修得する。

ⅱ） 強化プログラムでは、必修の講義科目、演習科目を中心に履修することによって、主プログラムにより提示されたトピックへの関心をさらに広げ、人間と社会に関する知識、研究手法、実践的能力を養成する。

ⅲ） 社会調査士の資格取得、消費生活アドバイザー試験・国家公務員試験・地方公務員試験に対応する科目を設置する。

・ 生活文化学プログラム

生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた人物を養成する。

すなわち、服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出してきた文化・歴史を、比較文化論、民俗学、歴史学などの手法によって多角的に探究し、生活に根ざした文化論を基盤として、真に豊かな生活とは何かという生活の理念を考え、行動できるような知性と感性とを養うことを教育の目的としている。

このような教育目標を実現するために、次の方針のもとにプログラムを編成し、実施する。

ⅰ） 主プログラムでは、生活文化学を学ぶための基礎的な知識と技法を習得し、併せて自ら問題意識をもって文化事象を追究することのできる分析力を身につける。

ⅱ） 強化プログラムでは、選択の講義科目、演習科目、および実習科目によってさらに広範の古今東西の生活文化に関する知識、研究手法、コミュニケーション能力を養成する。

ⅲ） 学芸員の資格を取得するための科目を設置する。

（2）大学院博士前期課程の教育課程編成・実施方針

1．博士前期課程では、学士課程の教育によって得た成果を発展させて、本学の多様かつ学際的な学術研究を背景とした広い視野に立つ精深な学識を授け、専門分野における研究能力または高度な専門性を有する職業を担うために必要な能力を有する人材を養成する。

2．博士後期課程では、高度な専門教育および専門諸分野の基礎に立つ学際的総合研究を行うために必要な創造的能力を有し、研究者として自立して研究活動を行い、あるいはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材を養成する。

3．幅広い視野から自己の研究を位置づけることができるように、既成の専門分野にとらわれない文理融合と学際性を特色とするカリキュラムを編成・実施する。さらに、複数教員による指導体制を確立し、また、副専攻と大学間交流協定を整備することにより、高い専門性に立ちながら豊かな広がりを持つ知の創造に挑戦する研

究を実践させる。

4．国際性を重視し、海外の研究機関と積極的に連携したカリキュラムを編成することにより、最先端の研究成果に触れる機会を提供すると同時に、多文化の相互理解に立脚した学際的な研究を推進する国際社会で活躍できる能力を養成する。

5．社会と連携し、社会的ニーズを視野に入れた教育と研究を行うことにより、社会の変化に敏感でありつつも一貫して真理を探究する姿勢を身につけさせ、社会との間で望ましい知の循環を実現しうる研究者ならびに高度な職業人を養成する。

○　比較社会文化学専攻の教育課程編成・実施方針

言語文化分野の４コース（日本語日本文学、アジア言語文化学、英語圏・仏語圏言語文化学、日本語教育）と人文学分野の５コース（思想文化学、歴史文化学、生活文化学、舞踊・表現行動学、音楽表現学）において、言語、思想、歴史、芸術を軸とする人文諸科学に関する高度な専門性を構築し、幅広い教養に基づいた学際的で豊かな研究能力を備えた人材を養成するため、専門的であると同時に学際的な視点から、人間の文化活動を通時的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することを目指す。

⑴ 日本語日本文学コース

上代から現代に至る各時代の日本文学、また日本語の歴史と体系について、学士課程教育で得られた知識を踏まえ、より本格的な研究方法を身につけることを目指す。

⑵ アジア言語文化学コース

中国大陸、台湾、香港、東アジアなど、中国語圏における言語と文学を対象とする研究方法の習得を踏まえ、幅広いアジア研究を行いうる人材を養成する。

⑶ 英語圏・仏語圏言語文化学コース

英語とフランス語、英語圏および仏語圏の文学・文化の理論と実践に関する専門知識と、研究方法論を習得することを目指す。学士課程で身につけた英語およびフランス語の技能をさらに向上させ、高度な運用能力を習得するとともに、学術的な思想を正確に理解し、また発信できる能力を身につける。

⑷ 日本語教育コース

講義と演習を通じて、多様な言語及び文化背景を持つ学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる言語習得理論や方法、専門性と実践力を持ったグローバル社会の日本語教育専門家を育成する。

⑸ 思想文化学コース

哲学、倫理学について専門的かつ体系的知識を習得し、考え方の多様性を知り、考える可能性を拡大するとともに、現代社会の具体的な諸課題をふまえつつ、理論的にまた柔軟に考察する力を養成する。

⑹ 歴史文化学コース

多様な史料の読解を基礎とする歴史学の手法を身につけることで、日本、ヨーロッパ、アジアにおける政治経済や社会文化の諸問題を、論理的かつ独創的に解明していく能力を養う。また美術史学の研究方法を高いレベルで体得することにより、視覚文化の批判的な読解を可能にする能力の涵養を目指す。歴史学・美術史学のいずれの分野においても、深い専門性とそれを支える幅広い教養・知識の習得が必須である。

⑺ 生活文化学コース

服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形をとりまく文化・歴史を、比較文化論、民俗学、歴史学などの手法によって多角的に探究することにより、生活と文化に関する幅広い教養と視野、および専門的知識と独創的な分析力を備え、生活文化論を人間理解の途として日本の内外に発信できる能力を養う。

(8) 舞踊・表現行動学コース

講義及び演習を通じて舞踊やスポーツなどの表現行動を理論的に分析するための高度な専門的能力を養成し、幅広い教養と表現行動の実践に基づいた学際的で豊かな研究能力の養成を目指す。

(9) 音楽表現学コース

講義及び演習を通じて音楽を理論的に分析し実践するための能力の涵養とともに現場的な感覚の習得を目指し、幅広い音楽の教養を持った人材を育成する。

○ 人間発達科学専攻の教育課程編成・実施方針

1．教育科学コース、心理学コース、発達臨床心理学コース、応用社会学コース、保育・児童学コースの５つのコースで構成されている。これらのコースのもとで、経験科学的方法論の基礎を習得するとともに、社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論を身につける人材を育成する。

2．人間発達分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る研究能力と、指導的な高度専門的職業人としての能力を身につけた女性研究者の育成をめざす。

3．本専攻では、研究領域の結集のみならず、本専攻の理念である学際性を身につけた女性研究者・人材の養成を目指す。博士後期課程への進学を主眼とした、人間発達科学と社会科学との相互理解を備えた女性人材のほか、教育科学、心理学、社会学等を専門とし、実践力を身につけた公務員や研究員、臨床心理士や社会調査士等の資格を備えた人材、保育・児童学の知識と方法論を身につけた児童相談所等の育児・教育アドバイザー、および政策能力・実践能力を高めた教職員や教職員指導者などである。

(1) 教育科学コース

人間の生涯にわたる発達と教育の過程を、教育思想、教育史、教育社会学、教育方法学・教育課程論、教育開発論、生涯学習論等の多様な研究方法論により科学的に探究する博士後期課程進学者を育てるとともに、諸教育問題の解決に資する高度な専門職業人を養成する。

(2) 心理学コース

心理学における専門的な研究能力とともに、人間の心の問題を多次元的、総合的に分析できる能力を身につけさせ、心理学の高度な専門性を要する職業を担える人材を養成する。

(3) 発達臨床心理学コース

臨床心理学を柱として、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養うとともに、家庭、教育，医療，福祉，司法，産業等の様々な場における人々の心理臨床，発達的問題について専門的に対処する力を養成するのに必要なカリキュラムを設置する。なお、本コースは、(財) 日本臨床心理士認定協会の第１種指定校であり、資格認定のために必要なカリキュラムを設置する。

(4) 応用社会学コース

社会学の基礎的な研究能力とともに、社会の諸問題（家族、コミュニティ、格差と排除、法、コミュニケーション、福祉等）を学際的視点をふまえつつ社会学の方法を用いて解明し、研究活動もしくは高度な専門性を有する職業活動を通して、それらの諸問題の解決に寄与し得る能力を有する人材を養成する。

(5) 保育・児童学コース

保育・児童学領域の研究者、もしくは研究者的な視点を有する実践者として、家庭、保育・教育現場へ有効な支援を行える人材、そのような支援のあり方を研究する人材を育成する。

○ ジェンダー社会科学専攻の教育課程編成・実施方針

1．社会学、法学、政治学、経済学、開発学、地理学、環境学、文化人類学等の社会科学諸分野の研究方法論とジェンダー視点に立つ分析とを結びつけることにより、新たな問題領域を解明する研究を行うことを特色とし

ている。

2．家族、労働、経済、法政策、社会運動、国際関係、開発、地域研究、自然及び社会環境、テクノロジー、福祉、医療　空間、国際移動などの領域に関わる研究力を培うことにより、男女共同参画社会の構築やグローバル社会のもとで国際的な活動に貢献できる人材を養成することに主眼を置いている。

3．学生が研究テーマを多元的・複眼的に考察する上で有効であるように、３コースにまたがって演習等を履修することも可能であり、かつテーマによっては副指導教員を他コースに求めることもできる。

4．修士論文に関しては、当該分野の研究の前進に寄与しうる高度な研究成果を生み出すことができるよう、主指導教員を中心としながら、コース所属教員全員、また必要に応じてこれに他コース教員も加わった指導体制のもとで、段階的・系統的に研究指導を行う。

(1) 生活政策学コース

① 市民生活や家族生活、消費、労働、女性や男性の生き方をめぐる諸課題を、社会科学の理論と方法論をもって解明し、問題解決に向けて提案しうる力量の涵養を目指す。法学・政治学・経済学・社会学の基礎から応用にわたる分析手法を身につけるとともに、ジェンダー視点を織り込んだ課題設定を行うセンスを養うことを重視している。

② 学生が自ら選択した研究テーマにつき、幅広い視野を養うとともに先端的な研究成果を吸収することが可能となるよう、専攻共通科目とコース必修科目を基軸として、法学・政治学・経済学・社会学の多様な授業科目を設けている。

(2) 地理環境学コース

① グローバル化にともない変容する空間・地域・環境をめぐる諸問題を、人間・環境関係、社会経済の空間性、人間の移動とコミュニティ、健康・福祉、日常生活における場所の感覚やアイデンティティなどの視点から研究する力を養成する。

② 学生が自ら選択した研究テーマにつき、教員の指導の下に作成した研究計画に基づき主体的に研究活動を進めることを基本とし、フィールドワーク、観測、ＧＩＳ、統計分析などの研究方法を習得するため、専攻共通科目とコース必修科目を基軸として、地理学、環境学、国際政治学、開発学などの多様な講義・演習・実習科目を設けている。

(3) 開発・ジェンダー論コース

① 従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求するカリキュラム内容となっている。理論的分析に加え開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指す。

② 学生が自ら選択した研究テーマを中心に、ジェンダー研究と開発研究の幅広い視野を養うとともに先端的な研究成果を吸収することができるよう、専攻共通科目、コース必修科目に加えて、ジェンダー概念の成立やジェンダー研究の基礎となる科目群、開発研究や国際研究とリンクする科目群、ジェンダー政策やグローバル経済研究に関わる科目群、研究方法論／実践論の科目群などで構成されている。

③ 行政、NPO など男女共同参画社会づくりや「ジェンダーと開発」分野で国際協力に将来携わること、より理論的、方法論的な知識を深めジェンダー視点からの社会分析を将来継続することなど、修了後の社会実践や研究活動とのリンクを常に意識してカリキュラムが設定されている。

○ ライフサイエンス専攻の教育課程編成・実施方針

理学、工学、生活科学の学問領域の有機的な統合をはかるため、理学部学士課程、および生活科学部学士課程の教育成果を統合、発展させ、ライフサイエンス全般の広い視野に立って人間を生命、生活の両面から捉える能力を培う。このために、下記の方針に基づいて教育課程を編成し実施する。

1．ライフサイエンスの基礎から応用までを幅広く理解し、ライフサイエンスの諸分野における研究、または高度な専門性を必要とする職業を担いうる人材を養成する。

2．ライフサイエンスに関する研究計画を遂行するため、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力等を育成する。

3．連携機関との教育研究交流を図り、より先端的な研究、社会との密接なつながりを意識させるとともに、さ

らに幅広い視野を養う機会とする。

4．コース横断的講義であるライフサイエンス論を必修とする。また、主指導教員と副指導教員による複数指導体制のもとで、修士論文、または遺伝カウンセリングコースにあっては修士論文に代わる特定の課題についての研究報告を作成する。

(1) 生命科学コース

今や生命科学を理解し応用することは、人間社会のあらゆる局面において必須の教養かつ技法であるとみなされている。生命科学コースでは、それに応えるための研究と開発を担う高度専門職業人を養成する。そのために本コースでは、生きているもの全てを対象に、生きているということはどういうことなのかを明らかにするための基礎的な研究を行いつつ、バイオテクノロジーに至るまでの広い領域の科学と技術を修める。また本コースでは、初等中等の理科教育や科学コミュニケーションの領域で活躍する人材養成も目指している。以上の観点に基づき、選択科目と修士論文作成のためのコース科目群を編成し実施する。

(2) 人間・環境科学コース

人間生活を中心に環境に関する諸問題を扱うとともに、生物としての人間の特性・生命生理メカニズム、あるいは、人間の身体と環境との相互作用について研究を行うことを目的とする。そして、人間と環境の境界領域（インタフェース）の本質を、人間および環境の視点から科学的・工学的に捉えることができ、かつ、我々の生活を向上させるためのインタフェースの改良方策を具体的に提案する能力を有する人材を養成することを目指す。以上の観点に基づき、修士論文指導を中心としたコース科目群を編成し実施する。

(3) 食品栄養科学コース

食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、食に関する疾病や、食の安全性などの問題を解析・解決することを目的とする。そして、食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までを担うことができる、食品企業の研究者や開発者、管理栄養士のリーダーなどの「食のスペシャリスト」を育成する。以上の観点に基づき、修士論文指導を中心としたコース科目群を編成し実施する。

(4) 遺伝カウンセリングコース

医療保健の場において疾患の遺伝学的関与の医学的影響、心理学的影響および家族への影響を理解し、かつ、適応していくことを支援する遺伝カウンセリングを実践できる、高度な専門性を有する職業人を養成する。さらに、その実践に必要な「エビデンスを明らかにするための遺伝カウンセリング研究」をおこなうための基礎を学ぶ。カリキュラムは、専門職としての認定遺伝カウンセラーの資格取得の要件に従うよう編成される。遺伝医学の基礎となる最新の生命科学、人類遺伝学、ゲノム医科学、専門職として必要な医学についての基礎知識、医療面接、臨床遺伝学、遺伝カウンセリングの基礎と演習を必修として学び、連携している医療機関における遺伝カウンセリング陪席実習を行い、コミュニケーション能力とチーム医療の概念の理解できる能力を養成する。また修士論文に代わる特定の課題研究によって、論理的科学的思考、遺伝カウンセリング研究の基礎を習得する。

○　理学専攻の教育課程編成・実施方針

学士課程での基礎的科学体系の習得に基づき、数学、物理科学、化学・生物化学、情報科学の分野における研究者・技術者・高度職業人に必要とされる専門的知識、研究手法を身につけることを目標としている。その実現に向け、それぞれの分野の特徴に合わせて、特別研究を中心に、講義、演習、実験などからなるカリキュラムを用意している。

(1) 数学コース

大学院生各自が、大学において習得した基礎的素養の上に、解析学・幾何学・代数学それぞれの分野における専門性を高めるための講義・演習（セミナー）が用意されている他、同時に他分野への多様な理解も養うための科目も必修科目として設けられている。論理的問題解決力を育てることに加え、問題を研究し本質を見極め整理する能力を養うことが目的となる。

(2) 物理科学コース

学士課程で身につけた基礎的な物理科学的方法論を発展させ、最先端な専門的知識と理論的な研究手法を身につけることにより、物理科学的な専門分野に柔軟に対応できる研究者ないしは高度職業人・教育者を養成することを目的とする。その実現に向け、宇宙・素粒子・物性理論・物性実験の広範な範囲をカバーする専門的な研究・教育環境での特別研究を中心に、学内外の専門家による講義、演習などからなるカリキュラムを用意している。

(3) 化学・生物化学コース

化学・生物化学の分野は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展する学問領域であることを鑑み、学士課程での基礎的科学体系の習得に基づき、化学・生物化学分野における研究に従事するための専門的知識、研究手法を身につけることのみならず、関連する分野への展開力を身につけることを目標としている。その実現に向け、それぞれの分野の特徴に合わせて、特別研究を中心に、講義、演習、実験などからなるカリキュラムを用意している。

(4) 情報科学コース

学士課程での基礎的科学体系の習得に基づき、情報科学分野における自立した研究者あるいは高度職業人として成長することを目指す。その実現に向け、情報科学としての基礎理論および技術をさらに深化させる充実した講義、演習などからなる充実したカリキュラムを用意し、習得した知識に基づいて特別研究を遂行する。

（３）大学院博士後期課程の教育課程編成・実施方針

○　比較社会文化学専攻の教育課程編成・実施方針

人間・社会・文化のありように対応した人間理解・社会把握・文化構造の再考と、それに伴う領域横断的な視野を備え、多文化の相互理解に立脚した学際的・国際的な研究を推進する高度な研究者、専門職業人を養成する。このため、前期課程の９コースを再編成した４領域（国際日本学、言語文化論、比較社会論、表象芸術論）において、前期課程からの一貫した教育指導を受け、専門知識の深化を図るとともに、領域横断的な創造的能力を涵養することを実践する。さらに、海外の協定校と共同で開催する国際学会のほか、学生の海外派遣プログラムもあり、海外での調査研究や研究発表の機会が与えられる。とりわけ平成２２年度より開始したロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）とのダブル・ディグリープログラムを特筆しておく。

(1) 国際日本学領域

国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・考古学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を、世界に発信する人材を養成する。それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえての学際的な関心のもとに総合的な知識を習得し、積極的な研究交流を行う能力を涵養する。

(2) 言語文化論領域

講義と演習を通じて、中国語圏・英語圏・仏語圏・独語圏の文学／文化表象及び批評理論の追求と、言語学及び日本語教育を含めた言語教育論の研究・教育を推し進め、各国文学・言語の専門的知識を深めつつ、それらを横断する研究視点を育成し、言語を介した現代の文化・批評の機能を、国際協力の面からも積極的に開発・提言する人材を育成する。

(3) 比較社会論領域

哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、日本・アジア・欧米・イスラムの諸地域を相互に比較横断する研究を推し進め、過去の思想・歴史を踏まえつつ、現代社会が要請する新しい人文科学の創成に寄与し、平等と自由の理念の実現を希求する人材の育成につとめる。それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえての学際的な関心のもとに総合的な知識を習得し、積極的な研究交流を行う能力を涵養する。

(4) 表象芸術論領域

美術・工芸・服飾・舞踊・音楽、および博物館学を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音

楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する能力を養う。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の媒介として社会に提言することに意欲をもった人材を養成する。

○　人間発達科学専攻の教育課程編成・実施方針

1．教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域、社会学・社会政策領域、保育・児童学領域の５つの領域で構成されている。これら５領域のもと、人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集して、広い視野から学際的・総合的に教育研究を行うことを目指す。

2．人間発達分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る研究能力と、指導的な高度専門的職業人としての能力を身につけた女性研究者・人材の育成を目指す。

3．以上を実現するために、博士論文指導を中心とした科目群を編成し実施する。

⑴ 教育科学領域

人間の生涯にわたる発達と教育の過程を、教育思想、教育史、教育社会学、教育方法学・教育課程論、教育開発論、生涯学習論等の多様な方法論により科学的に探究するとともに、専門的研究者として自立できる研究能力と、指導的な高度専門職業人としての能力を身につけることのできる女性研究者を育成する。

⑵ 心理学領域

心理学における高度な研究能力や、人間の心の問題に関する優れて多次元的、総合的な分析力を身につけさせ、自立した研究者として創造的な研究を推進できる人材を養成する。

⑶ 発達臨床心理学領域

発達臨床心理学の教育および研究を行うのに必要なカリキュラムを設置する。臨床心理学を柱として、家庭，教育，医療，福祉，司法，産業等の様々な場における心理臨床的，発達的問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養うのに必要なカリキュラムを設置する。

⑷ 社会学・社会政策領域

社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、グローバルな視野をもって公共政策上の課題を含む社会の諸問題を解明し得る専門的研究能力を身につけ、研究者としての自立的・創造的な研究活動、もしくは高度な専門性を有する職業活動を通して、社会の諸問題の解決において主導的な役割を果たす人材を養成する。

⑸ 保育・児童学領域

保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、個々人の発達や心理、現場における相互作用のあり方、それを取り巻く社会や歴史的経緯と関わらせて多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる、高度な専門知識と実践能力を備えた研究者、実践者を育成する。

○　ジェンダー学際研究専攻の教育課程編成・実施方針

⑴ ジェンダー論領域

① 家族、労働、人権、教育、開発援助、経済、法政策、国際関係、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、幅広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究を行う。指導教員のもと研究を深化させるとともに、学問領域を超えてジェンダー課題を中心に取り組む。

② 博士論文の完成に向けて、年次ごとに定められた研究計画書、研究報告書を提出する。また、主指導、副指導教員による段階的指導を行う。学生は、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加などを通じて、計画的に成果をあげることが求められる。

○　ライフサイエンス専攻の教育課程編成・実施方針

1．理学、工学、生活科学の学問領域の有機的な統合をはかり、ライフサイエンス全般の広い視野に立って人間を生命、生活の両面から捉える能力をさらに発展させる。

２．ライフサイエンスの基礎から応用までを幅広く理解し、ライフサイエンスの諸分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担いうる人材を養成する。
３．ライフサイエンスに関する研究課題を設定し、研究計画を遂行し、研究成果を発表することを必要とする。そのため、独創性と先端性に優れた高度な研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力、発表能力等を育成する。
４．連携機関との教育研究交流を図り、より先端的な研究、社会との密接なつながりを意識させるとともに、さらに幅広い視野を養う機会とする。
５．主指導教員と副指導教員による複数指導体制のもとで、学位論文を作成する。

(1) 生命科学領域

人類の将来に大きな影響を与える生命科学領域を、先導して切り拓ける研究者および開発者を養成する。目指すべき人材像は、先端領域において自立的に研究と開発ができ、かつチームのリーダーとして、そのミッションを具現化できる指導者である。そのような資質を育成するために、指導教員と日常的に議論を行いつつ、周辺関連領域の教員にも指導を仰ぎ、学外における研究会などにも積極的に参加できるカリキュラムを編成する。また、研究だけでなく教育分野においても先導的な立場で活躍できる人材を養成することが、本領域の目的である。以上を実現するために、博士論文指導を中心とした科目群を編成し実施する。

(2) 人間・環境科学領域

生活している人間とその環境との関係を明らかにした上で、その環境が人間にとって合理的、快適なものとなるよう、設計・制御を行うことを目的とする。人間と環境の境界領域（インタフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインタフェースの改良方策を具体的に提案できる人材を育成する。本領域における学際的総合研究を行うために必要な創造的能力を養うとともに、自立した研究者を育成する。以上の観点に基づき、博士論文指導を中心とした科目群を編成し実施する。

(3) 食品栄養科学領域

食に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、食に関する疾病や、食の安全性などの問題を解析・解決することを目的とする。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までを担うことができる、大学や公的研究機関の研究者、管理栄養士のリーダー、栄養士や管理栄養士養成校の教員などの高度な「食のスペシャリスト」を育成する。以上の観点に基づき、博士論文指導を中心とした科目群を編成し実施する。

(4) 遺伝カウンセリング領域

遺伝の課題を有する人々に、遺伝カウンセリングをより良く還元するためのエビデンスを明らかにする研究者、および遺伝カウンセリングの指導者を養成する。博士前期課程までに修めた成果をもとに博士後期課程での医療機関での実習から、あるいは認定遺伝カウンセラーとしての実務経験から、遺伝カウンセリングにおける未解決の課題を探求する能力を養成する。自身の研究の発展に加えて、遺伝カウンセリング関連の研究会、研修会において継続的にファシリテーターなどの指導的役割を担う。さらに遺伝カウンセリングの広く社会への啓発のための活動、認定遺伝カウンセラーのプロフェッショナリズムの発展に尽くす。

○　理学専攻の教育課程編成・実施方針

博士前期課程で習得した科学的研究手法に基づき、数学、物理科学、化学・生物化学、情報科学の分野におけるより高度な研究に従事し、学位を取得し、自立した研究者・技術者・高度職業人として成長することを目標としている。その実現に向け、それぞれの分野の特徴に合わせて、特別研究、論文指導、研究指導などからなるカリキュラムを用意している。

(1) 数学領域

博士前期課程までに養われた知識と能力を土台として、純粋数学あるいは数学の応用として学際性を有する横断的な分野の発展的研究を目指したより高度な指導を行うために、各講義に付随する演習を設けることにより、

問題の立案、研究解決、その結果を整理し論文にまとめるという一連の作業が連続的に行えるようなカリキュラム構成を採用している。最終目的は博士論文の提出と学位の取得である。

(2) 物理科学領域

博士前期課程で習得した物理科学的研究手法に基に、最先端の研究を行うことにより、物理科学およびその関連分野において、自ら問題を設定し解決する能力を身につけ、これからの物理科学・物理工学分野を牽引する若手研究者を育成する事を目的とする。このために、グローバルかつ最先端の研究設備を駆使した研究環境を提供し、その成果を内外に公表するための、特別研究、論文指導、研究指導などからなるカリキュラムを用意している。

(3) 化学・生物化学領域

化学・生物化学の分野は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展する学問領域であることを鑑み、博士前期課程で習得した化学・生物化学的研究手法に基づき、化学・生物化学分野におけるより高度な研究に従事し、学位を取得し、自立した研究者として成長することのみならず、当該分野が関わる多様な分野を主導する人材として足る能力を習得することを目標としている。その実現に向け、それぞれの分野の特徴に合わせて、特別研究、論文指導、研究指導などからなるカリキュラムを用意している。

(4) 情報科学領域

博士前期課程で習得した情報科学的研究手法に基づき、情報科学分野におけるより高度な研究に従事し、学位を取得し、自立した研究者あるいは高度職業人を養成する。情報科学分野に新しい知見を提供するための研究課題を遂行するために、充実した研究指導、論文指導からなり特別研究を遂行するカリキュラムを用意している。

２．教育研究上の基本組織に関すること。　【担当：ファカルティ支援チーム】

（1）学　部

	学　　科	講　　座
文教育学部	人文科学科	形象分析学講座、哲学講座、比較歴史学講座、地理学講座
	言語文化学科	日本語・日本文学講座、中国語圏言語文化講座、英語圏・欧州言語文化講座、応用言語学講座、日本語教育講座
	人間社会科学科	応用社会学講座、教育科学講座、心理学講座
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学講座、音楽表現講座
理学部	数学科	数理構造講座、数理解析講座
	物理学科	基礎物理学講座、物性物理学講座
	化学科	構造化学講座、反応化学講座
	生物学科	構造生物学講座、機能生物学講座
	情報科学科	情報数理講座、情報処理講座
生活科学部	食物栄養学科	食物栄養学講座
	人間・環境科学科	人間・環境科学講座
	人間生活学科	発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

（2）大学院　人間文化創成科学研究科　【担当：ファカルティ支援チーム】

教育院

	専　　攻	コース・領域
博士前期課程	比較社会文化学専攻	日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コース、思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コース、舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コース
	人間発達科学専攻	教育科学コース、心理学コース、発達臨床心理学コース、応用社会学コース、保育・児童学コース
	ジェンダー社会科学専攻	生活政策学コース、地理環境学コース、開発・ジェンダー論コース
	ライフサイエンス専攻	生命科学コース、人間・環境科学コース、食品栄養科学コース、遺伝カウンセリングコース
	理学専攻	数学コース、物理科学コース、化学・生物化学コース、情報科学コース
博士後期課程	比較社会文化学専攻	国際日本学領域、言語文化論領域、比較社会論領域、表象芸術論領域
	人間発達科学専攻	教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域、社会学・社会政策領域、保育・児童学領域
	ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー論領域
	ライフサイエンス専攻	生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域
	理学専攻	数学領域、物理科学領域、化学・生物化学領域、情報科学領域

研究院

	系	概　　要
基幹部門	文化科学系	哲学、思想、倫理学、美術史学、歴史学、考古学、生活文化学、民俗学、文学、言語学、日本語教育、音楽学、スポーツ科学、舞踊学などの分野を研究している教員が所属しています。教育面では、おもに文教育学部や、生活科学部、それに大学院の比較社会文化学専攻での授業や学生指導を担当しています。また、文化科学系の教員が中心となって、研究活動や国際シンポジウムを開催している組織として、比較日本学教育研究センターがあります。ジェンダー研究センターの運営や研究活動にかかわる教員が多いのも特徴です。このほか文化科学系の教員は、外国語教育センターをはじめとして、グローバル教育センターなど、本学の教育の基幹部門も支えています。
	人間科学系	教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育・児童学、ジェンダー研究、生活政策学、地理環境学、開発研究などの分野を研究している教員およそ40名が所属しております。日本における人間に関る諸問題に取り組むとともに、国際的な文脈の中で研究を位置づけ、海外に研究成果を発信していきたいと考えています。
	自然・応用科学系	自然科学および応用科学の研究を行っている約80名からなる教員集団です。大学の教員は教育と研究を担当しており、自然・応用科学系の教員は、理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科）の専門教育または生活科学部の理系の専門教育（食物栄養学科、人間・環境科学科）を担当している教員集団です。大学院教育からみれば、ライフサイエンス専攻と理学専攻を担当している教員集団ということができます。また、本学にはいくつものセンターがありますが、自然・応用科学系の一部の教員は、生活環境教育研究センター、糖鎖科学教育研究センター、ライフワールド・ウオッチセンター、ソフトマター教育研究センター、湾岸生物教育研究センター、サイエンス＆エデュケーションセンター、情報基盤センター、ラジオアイソトープ実験センター、保健管理センターでも研究活動を続けております。
先端融合部門	先端融合系	先端融合という分野は時代とともに変化していくものであるため、およそ5年を目途に教員の配置換えが行われる予定ですが、今後社会のニーズに応えるお茶の水女子大学における重要な教育研究拠点に発展していくことを想定しております。

（3）学内共同教育研究施設　　【担当：ファカルティ支援チーム】

①教育開発センター

平成21年度から、全学教育システム改革推進本部のもとに設置しました。教育カリキュラムの開発、授業評価など教育効果の測定、教職員やティーチング・アシスタントの研修など、教育の質を高めるための取組を、学部や大学院と連携して、企画・運営・実施しております。

https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/CRDESite/top.html

②外国語教育センター

外国語教育の改善及び推進を行い、学生の語学力及び異文化に対する理解力の向上を図り、高度教養教育を推進し、もって国際社会において活躍する人材の育成を行うことを目的として運営しております。

http://www.ocha.ac.jp/intl/le/

③総合学修支援センター

複数プログラム履修相談、GPA制度、カラーコードベンチマークに関する相談など、総合的な学修相談や学修の支援を行うことを目的として、新たに平成23年度から運営しております。

http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/supports/index.htm

④グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うととも

に、地域と連携した留学生のための支援事業を実施することにより、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/gec/　　http://www.ocha.ac.jp/intl/ipo/index.html

⑤グローバル協力センター

開発途上国の女子教育に関する研究および国際協力活動を行い、国際社会へ貢献することを目的に平成15年度に設立しました。平成14年度から開始された、五女子大学コンソーシアムによるＪＩＣＡアフガニスタン女性教員研修など女子教育に関する協力事業を実施・研究する女子教育協力研究部門と、開発途上国、特にアフリカ中西部諸国における幼児教育に関する協力事業を実施・研究する幼児教育協力研究部門を加えた2部門で活躍が進められています。

http://www.ocha.ac.jp/intl/cwed/

⑥生活環境教育研究センター

生活環境教育研究センターは、人間生活と環境とのかかわりあいについて多面的に考察し、快適な生活のための環境に関する総合的研究を行い、もって教育研究の進展に資することを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/ieshl/

⑦糖鎖科学教育研究センター

糖鎖科学教育研究センターは、本学のもつ伝統的な糖鎖の研究基盤を基礎とし、糖鎖の持つ様々な情報解析を中心に独自性を持った研究を展開すること、糖鎖を含む広範な生命科学の研究に従事できる有能な人材を養成すること、さらに、社会に向かってそれらの科学的知識の重要性を発信することを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/tousa/index.htm

⑧ソフトマター教育研究センター

ソフトマターは次世代の新機能性物質の中心的役割を果たす事が期待される工業的応用の観点から、また物理学と生物学の境界領域における物質であるという観点から21世紀のおける物理学のフロンティアとして非常に注目されている研究領域であります。このような背景から日本ではまだ注目される機会の少ないソフトマター物理学の充実を目指して研究体制の確立を進め、平成16年度の国立大学法人化とあわせて、総合的なソフトマター研究および教育を強力に推進するために研究センターを設立いたしました。

http://www.phys.ocha.ac.jp/softmatter/index.html

⑨比較日本学教育研究センター

比較日本学教育研究センターは、日本学研究の国際的な交流とネットワークの形成を目的として平成１６年４月に発足しました。世界各地で行なわれている日本学研究を結びつけて、交流を促進しつつ国際共同研究を推進します。国際日本学シンポジウムを開催するとともに、共同研究プロジェクトを作り国際的・学際的情報ネットワークの構築を進めております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/

⑩生命情報学教育研究センター

生命情報学教育研究センターは、生物学の全領域を対象として、生命を原子・分子のレベルから捉え、ゲノム塩基配列、タンパク質の構造や相互作用、細胞の形などのデータを情報科学の方法論を用いて系統的に解析するバイオインフォマティクスとシステムバイオロジーの教育および研究を行うことを目的として運営しております。

http://cib.cf.ocha.ac.jp/index.xml

⑪シミュレーション科学教育研究センター

シミュレーション科学教育研究センターは、文理融合型の研究拠点を形成し、シミュレーションの諸手法を収集、共有、分析し、それらを統合・発展させ、生活者の視点に立って社会的に重要な種々の問題解決を図ることを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/simulation/index.html

⑫教育研究特設センター

教育研究特設センターは、外部資金プロジェクトを遂行し、本学の研究及び教育に資することを目的として運営しております。

⑬情報基盤センター

情報基盤センターは、学生の皆様のＩＴライフを支援するために、情報教育の提供や環境整備を行っております。また、本学の情報化を推進し、研究及び教育の向上と事務処理等の効率化に寄与することを目的として運営しております。

http://www.cc.ocha.ac.jp/

⑭共通機器センター

共通機器センターは、教育研究の一層の充実と便宜のために、大型機器および共通性の高い機器の共同利用を円滑に行うことを目的として運営しております。

http://kikicent.cf.ocha.ac.jp/

⑮ラジオアイソトープ実験センター

ラジオアイソトープ実験センターは、放射線を利用した学術的な研究・教育及び放射線の安全管理、放射線を取り扱う研究者・学生の健康管理を行うことを目的として運営しております。

http://www.ocha.ac.jp/radioisotope/top.html

⑯動物実験施設

動物実験施設は、動物実験に関する教育研究及び調査を行うとともに、動物実験の研究者の養成に資することを目的として運営しております。

http://www.ocha.ac.jp/animal/index.html

⑰湾岸生物教育研究センター

本学の海洋科学に関する教育研究を行うことを目的に、昭和 45 年 4 月に千葉県館山市に理学部附属臨海実験所として設置し、平成 16 年 4 月から現在の湾岸生物教育研究センターに改組しました。

これまで、関東近郊の多くの大学・高校の臨海実習を受け入れ、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進するなど、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開してまいりました。

平成 23 年 4 月、文部科学大臣よりその実績が認められ「東京湾口の浅海性・深海性生物の体験的な理解から科学的な認識を育む教育拠点」として、本センターは教育関係共同利用拠点に認定されました。(認定期間　平成 23 年度～平成 27 年度)

今後は、更に、センター周辺の豊富な生物相と専門・教職・教養の各種実習に対応した内容から、利用大学の目的に応じたオーダーメイド型の臨海実習を構築し、公募によって幅広く利用されることになります。

http://www.ocha.ac.jp/attached/index.html

⑱サイエンス＆エデュケーションセンター

サイエンス＆エデュケーションセンターは、本学における研究成果を基盤として、科学教育コンテンツの開発・実施と、科学コミュニケーターを養成することで、科学文化の醸成を目指すことを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/

⑲ライフワールド・ウオッチセンター

科学・技術の発展により多くの人々が豊かで便利な生活を享受できるようになった反面、環境汚染や地球温暖化などの問題が現れそして飢餓や疫病の脅威が続いております。特に化学物質や生物による人の健康や環境への影響について世界的に関心が高まっております。ライフワールド・ウオッチセンターは、人々が安全に安心して

暮らせる世界の構築を目指して、関係諸機関と連携して化学物質管理に係る国際的な動向や国内法体系の調査研究を行うとともに、化学物質の総合的な管理のあり方に関して社会に提言しています。また、化学物質とともに人の健康に大きな影響を与える病原菌などの生物の管理や生活・社会に大きな変化を与える技術革新に関する調査研究を行い広く社会に発信することを目的として運営しております。
http://www.lwwc.ocha.ac.jp/

⑳保健管理センター

保健管理センターは、皆さんの健康を保持・増進し、病気の予防や早期発見につとめ、学業が病気で妨げられないようにし、皆さんのキャンパスでの生活を質の高いものにすること、また保健管理をさらに充実・向上させるための調査・研究を行うことを目的として運営しております。
http://www.ocha.ac.jp/healthho/index.html

㉑学生支援センター

大学生活全般における悩みや心配事の相談については学生相談室で対応支援し、セクシャル・ハラスメントその他の人権侵害の対応についてはセクハラ・人権相談室で対応しております。さらに、留学生に対する、研究・学修・生活面での教育的援助活動を行うことを目的として運営しております。
http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/

㉒キャリア支援センター

キャリア支援センターは、キャリア教育、キャリア支援・就職支援を行います。

キャリア教育としては、「キャリアデザインプログラム」を実施しています。主体的に授業や学生生活に取り組む思考力や行動力を育てる基幹・関連科目群と、自分の適性や能力をみきわめ将来像を描くためのコンピテンシー評価プログラムにより、学生の就業力育成をはかります。

キャリア支援・就職支援としては、定期的な就職ガイダンスにより、長期の視点で職業選択を行い就職活動の実践的な準備ができるよう低学年から指導や情報提供を行います。また、個人別の進路・就職相談では、就職活動の進め方から、エントリーシートの書き方、面接対策、公務員試験対策まで対応します。その他、セミナーやワークショップ、OG懇談会などを随時開催しています。
http://www.cf.ocha.ac.jp/csc/

㉓人間発達教育研究センター

人間発達教育研究センターは、子どもの発達過程の解明を基礎として、より良い養育や保育、教育のあり方を提案していくこと。平成20年4月からは、さらに視点を広げて、生涯にわたる人間の発達に関する総合的な研究、社会的格差と人間発達科学との関連に関する研究、子どもの発達と教育に関わる実践的な開発研究を行い、また大学と本学附属学校との研究上の連携全般の企画・調整を行うことを目的として運営しております。
http://www.cf.ocha.ac.jp/rchde/

㉔ジェンダー研究センター

ジェンダー研究センターはジェンダーに関する総合的・国際的な研究を行い、研究者の育成に資することを目的としております。本センターはこれまでの女性学研究を、さらにジェンダーの視点から発展させることを目指しており、また、国内外から客員研究員を招聘し、特にアジアにおけるジェンダー研究を推進し、国際的な共同研究を行うことを目的として運営しております。
http://www.igs.ocha.ac.jp/

㉕リーダーシップ養成教育研究センター

リーダーシップ養成教育研究センターは、グローバル化した現代社会において求められているリーダーシップに関する研究および教育を行います。グローバル化のみならず、高度に専門化した現代世界において、広い視野と指導力を有する人材の育成は大学における研究と教育を基礎とする。本学が展開する「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」を基盤に、新たなリーダーシップの研究を展開し、その成果を教育に反映させることを目的として運営しております。

http://www.cf.ocha.ac.jp/leader/index.html

３．教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

（１）教員組織、運営組織図（H24.5.1 現在）

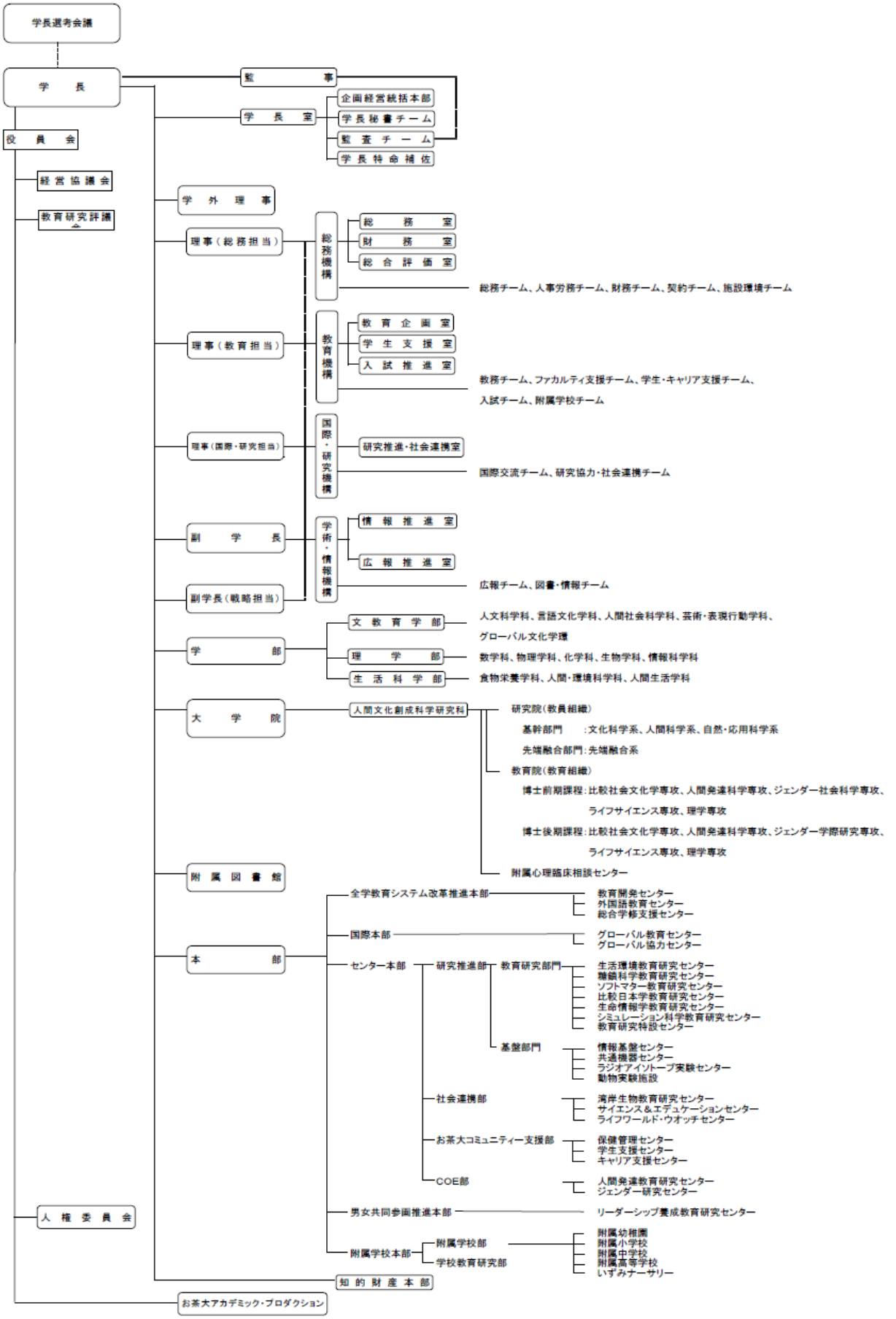
①系、講座等の組織、組織内の役割分担（系長、委員会委員等）、年齢構成等 【担当：ファカルティ支援チーム、人事労務チーム】

人間文化創成科学研究科　研究院　　24．5．1

部門	系名	氏名	性別	年齢（歳） ～35	36～45	46～55	56～	職階	学位	研究院長	系長	代議員（研究院選出）	全学委員会（研究院選出委員） 学術リポジトリ	研究倫理	附属図書館運営	附属学校	附属学校（保育医専門委員会）	高圧ガス危害予防	毒物及び劇物管理	公的研究費等の不正使用防止対策	利益相反マネジメント	安全衛生管理	部局内委員会（研究院選出委員） 研究・教育	自己評価	広報	ホームページ
基	文	高崎 みどり	女				○	教授	文学修士																	
		荻原 千鶴	女				○	教授	博士（人文科学）						荻原											
		大塚 常樹	男				○	教授	文学修士			大塚														
		宮尾 正樹	男				○	教授	文学修士		宮尾															
	文	内田 正子	女				○	教授	文学修士											内田						
		エドワード・シェファー	男				○	教授	Ed.D																	
	科	中村 俊直	男				○	教授	文学修士																	
		岡崎 眸	女				○	教授	Ph.D																	
	学	高島 元洋	男				○	教授	博士（文学）					高島												
		古瀬 奈津子	女				○	教授	博士（文学）														古瀬			
	幹	小風 秀雅	男				○	教授	博士（文学）																	
		安田 次郎	男				○	教授	博士（文学）																	
		秋山 光文	男				○	教授	文学修士																	
		鷹野 光行	男				○	教授	文学修士																	
		藤井 淑子	女				○	教授	博士（学術）																	
		柴 眞理子	女				○	教授	博士（学術）																	
		猪崎 弥生	女				○	教授	博士（学術）																	
		杉山 達	男				○	教授	体育学修士																	
	部	永原 慶二	男				○	教授	博士（文学）																	
		近藤 譲	男				○	教授	芸術学士																	
		岸本 美緒	女				○	教授	文学修士																	
		佐々木 泰子	女				○	教授	文学修士 修士（人文科学）																	
		三浦 徹	男				○	教授	文学修士																	
		加賀美 常美代	女				○	教授	博士（文学）																	
		新井 由紀夫	男			○		教授	文学修士																	
		森山 新	男			○		教授	博士（文学）															森山		
		頼住 光子	女			○		教授	博士（文学）												頼住	頼住				
		浅田 徹	男			○		教授	文学修士				浅田													
		天野 知香	女			○		教授	博士（文学）																	
		伊藤 美重子	女				○	教授	博士（人文科学）																	
		松崎 毅	男			○		教授	文学修士																	
		古田 暁	男			○		准教授	文学修士																	
		和田 英信	男			○		准教授	文学修士																	
門		清水 徹郎	男				○	准教授	文学修士																	
		戸谷 陽子	女			○		准教授	文学修士 M.F.A.																	
		野口 徹	男			○		准教授	Ph.D.																	
		ダイアン・ホーリー・ナダッキ	女			○		准教授	Ph.D.																	
		吉野 健	男				○	准教授	文学修士																	
		三浦 謙	男			○		准教授	理学修士											三浦						
		ロール・シュリルケーブレイス	女		○			准教授	博士（文学）																	
		神田 由築	女		○			准教授	博士（文学）																	
		安成 英樹	男			○		准教授	文学修士																	
		鈴木 禎宏	男		○			准教授	博士（学術）																	
		宮内 貴久	男			○		准教授	博士（文学）																	
		中村 美奈子	女		○			准教授	修士（人文科学）																	
		新名 謙二	男			○		准教授	修士（教育学）																	
		水村 真由美	女			○		准教授	博士（教育学）								水村									
		小坂 圭太	男			○		准教授	芸術学修士															小坂		小坂
		伊藤 さとみ	女		○			准教授	博士（人間・環境学）																	
		中西 公子	女		○			准教授	Ph.D.																	
		松岡 智之	男		○			准教授	博士（文学）																	
		山腰 京子	女		○			准教授	Ph.D																	
		中野 裕考	男		○			助教	Ph.D.																	
		田中 琢三	男		○			助教	博士（文学）																	
		西川 朋美	女		○			助教	Ph.D.																	
		鞍波 知子	女	○				助教	博士（学術）																	
56		56																								
		米田 俊彦	男			○		教授	教育学博士																	
		三輪 康一	男			○		教授	博士（教育学）																	
		石口 彰	男				○	教授	文学博士	石口																
	人	内藤 俊史	男				○	教授	博士（教育学）			内藤	内藤													
		井原 成男	男				○	教授	文学修士																	
		葷 倫子	女				○	教授	博士（医学）							葷										
	間	藤田 宗和	男				○	教授	文学修士		藤田															
		坂本 佳鶴恵	女			○		教授	社会学修士																	
		平岡 公一	男				○	教授	社会学修士																	
	科	高嶺 裕子	女				○	教授	博士（人文科学）																	
		石井 カツ 具子	女				○	教授	博士（社会学）																	
		藤崎 宏子	女				○	教授	博士（社会学）														藤崎			
	学	杉田 孝夫	男				○	教授	文学修士																	
		熊谷 圭知	男				○	教授	社会学修士															熊谷		
		舘 かおる	女				○	教授	文学修士																	
	系	棚機 創	男			○		教授	博士（社会人類学）																	
		永瀬 伸子	女			○		教授	博士（経済学）																	
		小林 誠	男			○		教授	法学修士																	
		足立 眞理子	女				○	教授	修士（経済学）																	
		水野 勲	男			○		教授	博士（理学）																	
		池田 全之	男			○		教授	博士（教育学）								池田									
		大桑 美香	女			○		教授	Ph.D.																	
		小玉 亮子	女			○		教授	教育学修士																	
		柴坂 寿子	女				○	教授	理学博士																	
		飯野 陸	男		○			准教授	教育学修士																	
		富士原 紀絵	女		○			准教授	修士（人文科学）																	
		青木 紀久代	女			○		准教授	博士（心理学）																	
		伊藤 亜矢子	女			○		准教授	博士（教育学）																	
		岩堅 茂	男		○			准教授	Ph.D.																	
		刑部 育子	女		○			准教授	博士（学術）																	
		飯口 順子	女			○		准教授	博士（人文科学）																	
		大桑 正博	男			○		准教授	修士（経済学）																	
		小谷 眞男	男			○		准教授	学術修士											小谷						
		宮澤 仁	男		○			准教授	博士（理学）																	
		荒木 美奈子	女			○		准教授	Ph.D(開発研究)											宮澤						
		杉野 勇	男		○			准教授	修士（社会学）																	
		申 琪榮	女		○			准教授	博士（政治学）												申	申				
		斎藤 悦子	女		○			准教授	博士（学術）					斎藤												
		上原 泉	女		○			准教授	博士（学術）																	
		De Alcantara Marcelo	男	○				准教授	博士（法学）																	
40		40																								

部門	系名	氏名	性別	年齢（歳）				職階	学位	研究院長	系長	代議員（研究院選出）	全学委員会（研究院選出委員）								部局内委員会（研究院選出委員）			
				～35	36～45	46～55	56～						学術リポジトリ	研究倫理	附属図書館運営	附属学校	附属学校（保育所等門委員会）	高圧ガス含有予防	毒物及び劇物管理	公的研究費等不正使用防止対策	利益相反マネジメント	安全衛生管理委員会	研究・教育	自己評価	広報	ホームページ
	自然・応用科学系	山本 貞樹	男				○	教授	理学博士																
		宮伏 きみ子	女				○	教授	医学博士					宮伏											
		松浦 悦子	女				○	教授	理学博士																
		小林 哲幸	男				○	教授	薬学博士																
		千葉 和義	男			○		教授	理学博士																
		最上 善広	男				○	教授	理学博士																
		松浦 秀治	男				○	教授	理学博士											松浦	松浦				
		増田 優	男				○	教授	博士（学術）																
		久保田 紀久枝	女				○	教授	学術博士																
		村田 容常	男				○	教授	農学博士																
		香西 みどり	女				○	教授	博士（学術）			香西													
		大塚 譲	男				○	教授	農学博士																
		近藤 和雄	男				○	教授	医学博士																
		真島 秀行	男				○	教授	理学博士																
		堀田 和美	男				○	教授	理学博士																
		榎本 陽子	女				○	教授	理学博士																
		中居 功	男			○		教授	理学博士																
		横川 光可	男			○		教授	博士（理学）				横川												
		菅本 晶夫	男				○	教授	理学博士		菅本														
		浜谷 望	男				○	教授	理学博士																
		森川 雅博	男			○		教授	理学博士																
		小林 功佳	男			○		教授	博士（理学）																
		出口 哲生	男			○		教授	博士（理学）																
		奥村 剛	男		○			教授	博士（理学）														奥村		
		古川 はづき	女		○			教授	博士（理学）																
		益田 祐一	男				○	教授	理学博士									益田							
		小川 雅子	女				○	教授	理学博士																
		鷹野 景子	女			○		教授	理学博士																
		山田 眞二	男			○		教授	工学博士														山田		
		小口 正人	男		○			教授	博士（工学）																
		吉田 裕亮	男			○		教授	工学博士											吉田					
		浅本 紀子	女			○		教授	博士（工学）																
		川日 裕	男			○		教授	博士（医学）																
		鈴木 恵美子	女				○	教授	農学博士																
		加藤 美砂子	女			○		教授	理学博士																
		藤原 葉子	女			○		教授	博士（学術）																
		太田 裕治	男			○		教授	博士（工学）																
		小林 一郎	男		○			教授	博士（工学）																
		近藤 敏弥	男			○		教授	博士（工学）																
		伊藤 貴之	男		○			教授	博士（工学）																
		曽 基哲	男		○			教授	博士（理学）																
		仲西 正	男			○		教授	工学博士									仲西							
		大澤 雅寛	男		○			教授	博士（工学）																
		作田 正明	男				○	教授	理学博士																
		宮本 泰則	男			○		准教授	理学博士																
		服田 昌之	男			○		准教授	博士（理学）																
		清本 正人	男			○		准教授	博士（理学）																
		元岡 展久	男		○			准教授	博士（工学）																
		森 光康次郎	男			○		准教授	博士(農学)										森光						
		平田 亜古	女			○		准教授	修士(学術)																
		大場 清	男			○		准教授	理学博士																
		戸田 正人	男		○			准教授	博士（医歯科学）																
		外舘 良衛	男			○		准教授	理学博士									外舘							
		森 義仁	男			○		准教授	薬学博士																
		相川 京子	女			○		准教授	博士（薬学）							相川									
		浅井 健一	男		○			准教授	博士（理学）																
		柏川 正克	男			○		准教授	博士（理学）																
		荻田 真理子	女		○			准教授	博士（理学）																
		赤松 利恵	女		○			准教授	博士(社会健康医学)																
		戸次 大介	男		○			准教授	博士（理学）																
		篤田 晋	男		○			准教授	博士（理学）															篤田	篤田
		飯田 薫子	女		○			准教授	博士（医学）																
		矢島 知子	女		○			准教授	博士（工学）										矢島						
		須藤 紀子	女		○			准教授	博士（保健学）																
		梁田 和正	男	○				准教授	博士（情報学）																
		松田 雄二	男	○				准教授	博士（工学）																
		森 寛敏	男	○				准教授	博士（工学）																
		工藤 和恵	女	○				准教授	博士（理学）																
		郡 宏	男		○			准教授	博士（理学）																
		近藤 るみ	女			○		講師	博士（理学）										近藤						
		古田 悦子	女				○	講師	博士（理学）																
		渡辺 知恵美	女		○			講師	博士（理学）																
		古谷 希世子	女				○	講師	博士（理学）																
		堀江 充子	女				○	講師	理学博士																
		市 育代	女	○				講師	博士（農学）																
		梅原 利宏	男			○		助教	博士（理学）																
		山野 泰子	女				○	助教	医学博士																
		近藤 恵	女		○			助教	博士（理学）																
		渡部 亜矢子	女		○			助教	博士（理学）																
		山本 佳世乃	女	○				助教	博士（学術）																
		三宅 亮介	男	○				助教	博士（理学）																
	81		81																						
先端融合部門	先端融合部門	椎尾 一郎	男				○	教授	工学博士																
		坂元 章	男				○	教授	博士（社会学）			坂元								坂元					
		菅原 ますみ	女				○	教授	文学博士																
		菅 雅司	男				○	教授	理学博士				菅												
		由良 敬	男		○			教授	博士（理学）														由良		
		榊原 祥一	男				○	教授	博士（医学）		榊原			榊原							榊原				
		櫛谷 綾	女		○			准教授	博士（薬学）									櫛谷	櫛谷						
		北島 佐知子	女		○			准教授	博士（理学）															北島	北島
		長谷川 直子	女		○			准教授	博士（理学）															長谷川	
	9		9																						

②運営組織図（H24.5.1 現在）【担当：総務チーム】



（2）教員数【担当：総務チーム】

①法令上必要な専任教員数

学部の収容定員 1,868 名に対する専任教員数は 184 名（うち教授 104 名）であり、法令上の基準（必要な専任教員数 97 名（うち教授 53 名））は遵守しています。大学院の収容定員 663 名に対する研究指導教員数は 319 名（うち教授 217 名）、研究指導補助教員数は 52 名であり、法令上の基準（必要な研究指導教員数 55 名（うち教授 40 名）、研究指導補助教員数 14 名）は遵守しています。

□学　部　　(H24.5.1 現在)

		収容定員	教授	准教授	講師	助教	計	大学設置基準上必要な専任教員数	(うち教授)	助手
文教育学部	人文科学科	220	12	7	0	1	20	6	(3)	
	言語文化学科	320	14	11	0	2	27	6	(3)	
	人間社会科学科	160	12	4	0	0	16	6	(3)	
	芸術・表現行動学科	108	5	4	0	0	9	5	(3)	
	学部共通	20	2	0	0	0	2			
	小　　計	828	45	26	0	3	74	23	(12)	
理学部	数学科	80	5	4	2	1	12	7	(4)	
	物理学科	80	9	2	0	1	12	7	(4)	
	化学科	80	5	5	0	1	11	7	(4)	
	生物学科	100	9	4	1	0	14	7	(4)	1
	情報科学科	160	6	5	1	0	12	8	(4)	
	学部共通	20	1	0	1	0	2			
	小　　計	520	35	20	5	3	63	36	(20)	1
生活科学部	食物栄養学科	144	7	5	1	1	14	5	(3)	1
	人間・環境科学科	96	4	2	0	1	7	5	(3)	
	人間生活学科	260	13	12	0	1	26	7	(4)	
	学部共通	20	0	0	0	0	0			
	小　　計	520	24	19	1	3	47	17	(10)	1
大学全体の収容定員に応じた教員数		1,868						21	(11)	
学　部　合　計		1,868	104	65	6	9	184	97	(53)	2

□大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程　　(H24.5.1 現在)

	収容定員	研究指導教員数	(うち教授)	研究指導補助教員数	計	大学設置基準上必要な研究指導教員数	(うち教授)	大学設置基準上必要な研究指導補助教員数	大学設置基準上必要な教員数　計
比較社会文化学専攻	120	52	(33)	6	58	6	(4)		6
人間発達科学専攻	54	27	(18)	0	27	3	(2)	3	6
ジェンダー社会科学専攻	36	17	(10)	1	18	4	(3)	2	6
ライフサイエンス専攻	94	37	(25)	6	43	7	(5)		7
理学専攻	140	43	(25)	4	47	10	(7)		10
小　　計	444	176	(111)	17	193	30	(21)	5	35

□大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程　　(H24.5.1 現在)

	収容定員	研究指導教員数	(うち教授)	研究指導補助教員数	計	大学設置基準上必要な研究指導教員数	(うち教授)	大学設置基準上必要な研究指導補助教員数	大学設置基準上必要な教員数　計
比較社会文化学専攻	81	45	(32)	8	53	7	(5)		7
人間発達科学専攻	42	20	(15)	10	30	4	(3)	4	8
ジェンダー学際研究専攻	12	13	(9)	1	14	4	(3)	2	6
ライフサイエンス専攻	45	32	(25)	6	38	5	(4)	1	6
理学専攻	39	33	(25)	10	43	5	(4)	2	7
小　　計	219	143	(106)	35	178	25	(19)	9	34
大学院合計	663	319	(217)	52	371	55	(40)	14	69

②男女別、職別の人数等の詳細

(H24.5.1 現在　学校基本調査)

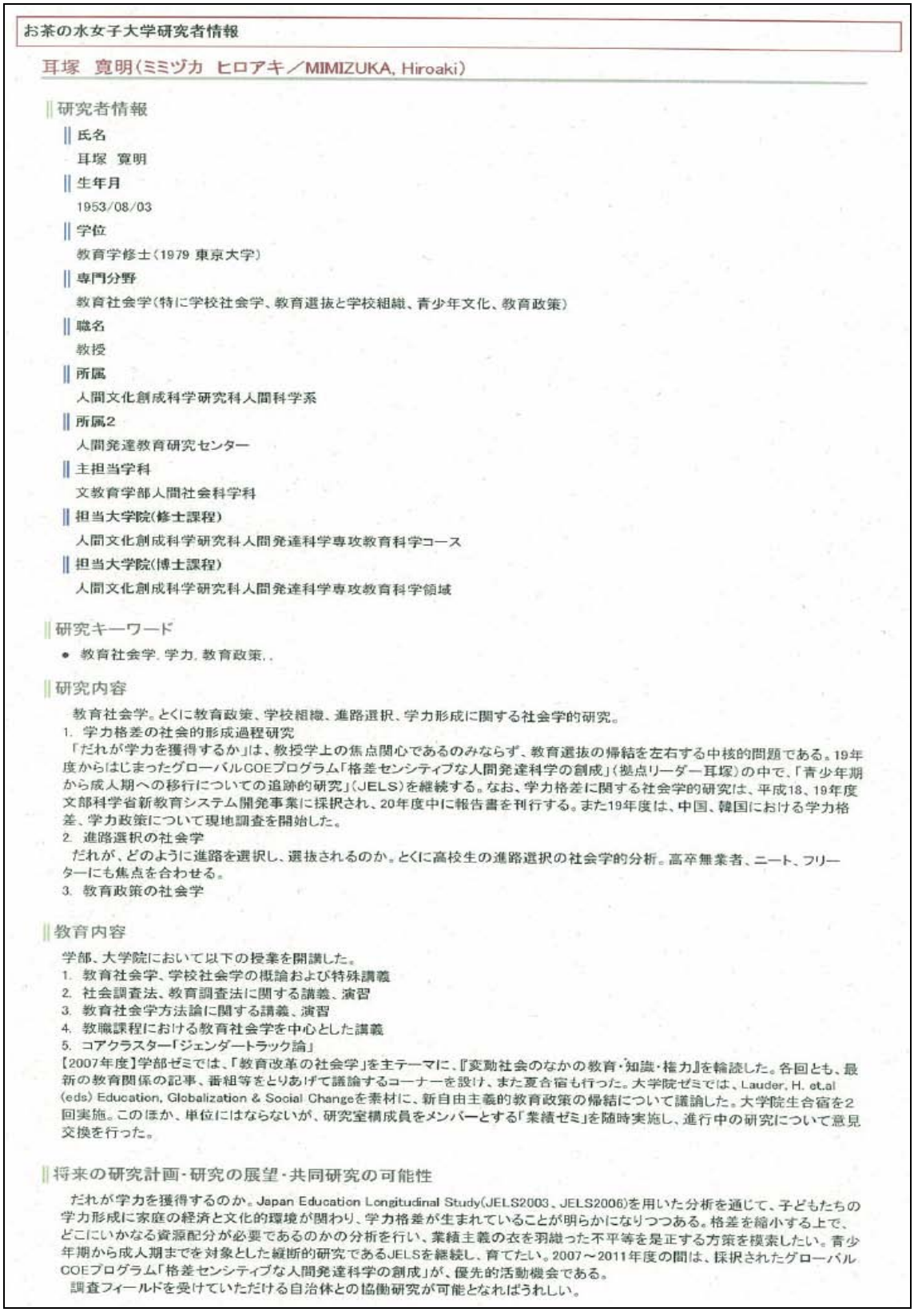
教員数（本務者）		学長		副学長		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
学長・副学長			1	3												3	1	4
理学部															1	0	1	1
生活科学部															1	0	1	1
大学院人間文化創成科学研究科						67	38	36	29		6	4	6		12	107	91	198
その他						2					7	2	1	1	4	5	12	17
計			1	3		69	38	36	29		13	6	7	1	18	115	106	221
上記本務教員のうち（再掲）	大学院担当者					67	38	36	29		6	5	6		12	108	91	199
	休職者							2								2	0	2
	外国人					2		1	3							3	3	6

教員数（兼務者）	学長		副学長		学長・副学長以外の教員				計			左記のうち外国人（再掲）		
					教員からの兼務		教員以外からの兼務							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
					54	45	54	96	108	141	249	6	12	18

（3）各教員が有する業績、学位　【担当：広報チーム】

本学の教員の教育研究活動に関する情報を広く公開しております。本サイトのデータは教員が自ら入力したデータに基づいています。（平成 21 年 1 月～）

教員情報の例　【教員情報提供：http://researchers.ao.ocha.ac.jp/】



お茶の水女子大学研究者情報

耳塚　寛明（ミミヅカ　ヒロアキ／MIMIZUKA, Hiroaki）

研究者情報

氏名
耳塚　寛明

生年月
1953/08/03

学位
教育学修士（1979 東京大学）

専門分野
教育社会学（特に学校社会学、教育選抜と学校組織、青少年文化、教育政策）

職名
教授

所属
人間文化創成科学研究科人間科学系

所属2
人間発達教育研究センター

主担当学科
文教育学部人間社会科学科

担当大学院（修士課程）
人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻教育科学コース

担当大学院（博士課程）
人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻教育科学領域

研究キーワード

- 教育社会学, 学力, 教育政策, .

研究内容

教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する社会学的研究。
1. 学力格差の社会的形成過程研究
「だれが学力を獲得するか」は、教授学上の焦点関心であるのみならず、教育選抜の帰結を左右する中核的問題である。19年度からはじまったグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」（拠点リーダー耳塚）の中で、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」（JELS）を継続する。なお、学力格差に関する社会学的研究は、平成18、19年度文部科学省新教育システム開発事業に採択され、20年度中に報告書を刊行する。また19年度は、中国、韓国における学力格差、学力政策について現地調査を開始した。
2. 進路選択の社会学
だれが、どのように進路を選択し、選抜されるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。高卒無業者、ニート、フリーターにも焦点を合わせる。
3. 教育政策の社会学

教育内容

学部、大学院において以下の授業を開講した。
1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
4. 教職課程における教育社会学を中心とした講義
5. コアクラスター「ジェンダートラック論」
【2007年度】学部ゼミでは、「教育改革の社会学」を主テーマに、『変動社会のなかの教育・知識・権力』を輪読した。各回とも、最新の教育関係の記事、番組等をとりあげて議論するコーナーを設け、また夏合宿も行った。大学院ゼミでは、Lauder, H. et.al (eds) Education, Globalization & Social Changeを素材に、新自由主義的教育政策の帰結について議論した。大学院生合宿を2回実施。このほか、単位にはならないが、研究室構成員をメンバーとする「業績ゼミ」を随時実施し、進行中の研究について意見交換を行った。

将来の研究計画・研究の展望・共同研究の可能性

だれが学力を獲得するのか。Japan Education Longitudinal Study（JELS2003、JELS2006）を用いた分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭の経済と文化的環境が関わり、学力格差が生まれていることが明らかになりつつある。格差を縮小する上で、どこにいかなる資源配分が必要であるのかの分析を行い、業績主義の衣を羽織った不平等を是正する方策を模索したい。青少年期から成人期までを対象とした縦断的研究であるJELSを継続し、育てたい。2007～2011年度の間は、採択されたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が、優先的活動機会である。
調査フィールドを受けていただける自治体との協働研究が可能となればうれしい。

受験生等へのメッセージ

いま日本の教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとし（たとえば義務教育費国庫負担制度や教員人材確保法）、「脱ゆとり路線」へと舵が切られました。行政の重点は、教育条件整備から結果の評価に基づく資源配分へとシフトしつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういう帰結をもたらすのでしょう。とりわけ、格差が再生産される社会に日本は変わっていくのでしょうか。教育と社会の現在に危機感を持ち、エビデンス・ベースにアプローチしようとする皆さんを歓迎します。

著書、論文、研究発表等

- 耳塚寛明・牧野カツコ, 学力とトランジッションの危機, 金子書房, 206, 2007, 12月, 研究書
- 矢島　正見・耳塚　寛明, 変わる若者と職業世界　トランジッションの社会学（第2版）, 学文社, 201, 2005, 3月, 研究書
- 樋田　大二郎・耳塚　寛明・岩木　秀夫・苅谷　剛彦, 高校生文化と進路形成の変容, 学事出版, 234, 2000, 2月, 研究書
- 耳塚　寛明・樋田　大二郎, 多様化と個性化の潮流をさぐる　高校教育改革の比較教育社会学, 学事出版, 175, 1996, 9月, 研究書
- 森　隆夫・耳塚　寛明・藤井　佐知子, 生涯学習の扉, ぎょうせい, 333, 1997, 3月, 研究書
- 森隆夫・耳塚寛明, 志　社会へのおもいやり, ぎょうせい, 212, 2006, 9月, 研究書
- Hiroaki MIMIZUKA, Tackling Academic Achievement Gaps among Elementary Schools: Who acquires academic ability?, Proceedings 01 Selected Papers, No.1, 1-12, 2008, 3月, 原著, 査読なし, 大学・研究所等紀要
- 耳塚寛明, 小学校学力格差に挑む, 教育社会学研究, 第80集, 23-39, 2007, 5月, 原著, 査読あり, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 高校の現在, IDE　現代の高等教育, 489, 4-9, 2007, 4月, 総説, 査読なし, 学術雑誌
- MIMIZUKA, Hiroaki, The Instability of the School Function and the Transition from School to the Workforce, Research Monograph, 1, 123-130, 2006, 3月, 原著, 査読なし, 大学・研究所等紀要
- 耳塚寛明・金子真理子・諸田裕子・山田哲也,「先鋭化する学力の二極分化　学力の階層差をいかに小さくするか」,『論座』, 2002/11, 212-227, 2002, 11月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明,「分析　誰がフリーターになるのか」,『世界』, 710, 107-112, 2003, 1月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 揺れる学校の機能と職業社会への移行, 社会政策学会誌, 第13号, 17-30, 2005, 10月, 原著, 査読あり, 学術雑誌
- 耳塚寛明,「誰がフリーターになるのか　社会階層的背景の検討」, 小杉礼子編,『自由の代償/フリーター』, 日本労働研究機構, 133-148, 2002, 10月, 研究書
- 耳塚寛明, 学力格差は今や社会問題だ, エコノミスト, 3872, 50-53, 2007
- 耳塚寛明, 教育課程行政と学力低下　関東調査による検討, 苅谷剛彦・志水宏吉, 学力の社会学, 岩波書店, , 2005, 2月, 研究書
- 耳塚寛明, 何が学力を決めるのか　Aエリア小6算数学力の規定要因分析, , 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　JELS第4集　細分析論文集（1）, 1-21, 2005, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 学力・家庭的背景・地域, , 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　JELS第8集, 5-14, 2006, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 学力達成の構造　JELS2003とJELS2006の比較を中心に, , 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　JELS第11集　AエリアWave2調査報告, 105-121, 2008, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 進路選択の社会学　いわゆる「高卒無業者」分析を事例に, 教育心理学年報, 第44集, 22-23, 2005, 10月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 学力テストの社会的帰結　ATとPA, 教育心理学年報, 第45集, 30-31, 2006, 3月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明,「学力格差社会」の現状と課題, 月刊ヒューマンライツ, 231, 32-38, 2007, 6月, 資料, 査読なし, 大学・研究所等紀要

学会活動

- 日本教育社会学会, 国内（全国組織）, 会長, 2007年, 9月
- 日本教育社会学会, 国内（全国組織）, 理事, 1997以前, 9月
- 教育社会学研究, 0387-3145, 日本教育社会学会, 国内（全国組織）, 委員長, 編集委員長, 1999年, 9月
- 日本教育社会学会, 国内（全国組織）, 学会賞選考委員会, 副委員長, 副委員長, 2003年, 10月
- 犯罪社会学研究, 0386-460X, 日本犯罪社会学会, 国内（全国組織）, 委員, 編集委員, 1999年, 10月
- 日本犯罪社会学会, 国内（全国組織）, 研究委員会, 委員, 研究委員, 2005年, 10月

研究資金

- 耳塚寛明, グローバルCOEプログラム, 文部科学省, 格差センシティブな人間発達科学の創成, 152900, 2008
- 耳塚寛明, 新教育システム開発事業, 文部科学省, 教育と格差の発生・解消のメカニズムの調査研究, 65775, 2007
- 基盤研究（B）（2）, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　東北エリア第二波調査, 3800, 2008
- 耳塚寛明, グローバルCOEプログラム, 文部科学省, 格差センシティブな人間発達科学の創成, 150800, 2007
- 基盤研究（B）（2）, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究　東北エリア第二波調査, 11300, 2007
- 基盤研究（B）（2）, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 1700, 2006
- 耳塚寛明, 新教育システム開発事業, 文部科学省, 教育と格差の発生・解消のメカニズムの調査研究, 18750, 2006
- 耳塚　寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2006
- 耳塚　寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2005
- 基盤研究（B）（2）, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 4100, 2005
- 耳塚　寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2004
- 基盤研究（B）（2）, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 5600, 2004
- 基盤研究（B）（1）, メリトクラシー規範の比較教育社会学　後期中等教育改革の日米英比較研究, 900, 2003
- 耳塚　寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2003
- 基盤研究（B）（1）, メリトクラシー規範の比較教育社会学　後期中等教育改革の日米英比較研究, 2000, 2002
- 基盤研究（C）（2）, 高卒無業者の教育社会学的研究－高卒労働市場と進路指導の地域差を中心に－, 1100, 2002
- 耳塚　寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2002
- 耳塚寛明, ベネッセコーポレーション奨学寄付金, ベネッセコーポレーション, 学力構造研究, 500, 2002
- 基盤研究（C）（2）, 高卒無業者の教育社会学的研究－高卒労働市場と進路指導の地域差を中心に－, 2200, 2001
- 基盤研究（B）（1）, メリトクラシー規範の比較教育社会学　後期中等教育改革の日米英比較研究, 3600, 2001
- 基盤研究（C）（2）, 高卒無業者の教育社会学的研究－進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に, 1000, 2000
- 基盤研究（C）（2）, 高卒無業者の教育社会学的研究－進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に, 2300, 1999

（4）外部資金の状況

① 共同研究、受託研究、受託事業 【担当：研究協力・社会連携チーム】 （H23 年度分）

研究科・センター等	共同研究	金額(千円)	受託研究	金額(千円)	受託事業	金額(千円)
人間文化創成科学研究科	２６	20,163	１７	83,797	4	13,461
グローバル協力センター					2	5,007
情報基盤センター	1	2,000				
ｻｲｴﾝｽ&ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ					6	22,590
人間発達教育研究センター	2	2,100				
ジェンダー研究センター					1	1,901
お茶大ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ	1	2,310	2	24,830		

② 機関補助金 【担当：研究協力・社会連携チーム】 （H23 年度分）

事業(対象)	プログラム名	件数	金額(千円)
人間文化創成科学研究科	グローバルCOE	1	115,400
人間文化創成科学研究科	科学技術人材育成費補助金(旧科学技術振興調整費)	3	270,348
人間文化創成科学研究科	厚生労働科学研究費補助金	3	14,275

③ 競争的資金等補助金（国公私立大学を通じた大学教育改革事業補助金）【担当：教務チーム】（H23 年度分）

事業(対象)	プログラム名	件数	金額(千円)
全学部	新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム	1	12,600
全学部	大学教育･学生支援推進事業【テーマA】	1	15,427
全学部	大学生の就業力育成支援事業	1	17,674

④ その他補助金（②,③以外の補助金）【担当：研究協力・社会連携チーム】（H23 年度分）

研究科・センター等	件数	金額（千円）
人間文化創成科学研究科	6	62,109

⑤ 科学研究費補助金【担当：研究協力・社会連携チーム】（H23 年度分）

研究科・センター等	研究費の件数	金額（千円）
人間文化創成科学研究科等	106	253,097
文教育学部	2	1,690
理学部	2	2,171
お茶大アカデミック・プロダクション	8	12,610
グローバル協力センター	2	7,800
生活環境教育研究センター	3	5,070
比較日本学教育研究センター	2	1,820
生命情報学教育研究センター	2	2,730
人間発達教育研究センター	6	8,190
学生支援センター	1	780
ジェンダー研究センター	1	910
リーダーシップ養成教育研究センター	2	1,820

（５）寄附金の状況　【担当：研究協力・社会連携チーム、広報チーム】（H23 年度分）

名　　称	寄付金の件数	金額（千円）
奨学寄附金	５０	50,299
大学運営基金等	3	40,765
大学院生修学奨学基金	1	1,000
大学院生（博士後期課程）奨学基金	1	60
奨学基金	6	10,500
被災学生支援基金	１３０	9,765

（６）寄附講座設置の状況　【担当：研究協力・社会連携チーム】（H23 年度分）

名　　称	講座の件数
なし	

４．入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。【担当：入試チーム、教務チーム、学生・キャリア支援チーム】

（１）入学者受入方針【担当：入試チーム】

①全　体

【お茶の水女子大学の概要及び方針（アドミッション・ポリシー）】

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため不断に教育改革を進め、文理融合 21 世紀型リベラルアーツ教育の導入（平成 20 年度）に引き続き、平成 23 年度に複数プログラム選択履修制度を導入して新たな専門教育課程をスタートさせました。お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわりなく自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

【大学院博士前期課程の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

【大学院博士後期課程の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

②学部・学科の一般入試

【文教育学部（全体）】

人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多次元的なアプローチが必要です。文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の４つの学科からなり、各学科には複数のコースが置かれ、また学科の枠を越えたグローバル文化学環が設けられています。あわせて 13 のコース・環があり、専門教育の各種プログラム（主・強化・副・学際）を提供し、学生が所属する組織となります。多彩なプログラムと少人数教育によって、専門的に深く、総合的に広く学ぶためのカリキュラムを用意しています。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。

本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどん欲に深く学習することを望みます。多様な領域でのリーダーを目指し、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望されることを期待します。

文教育学部　人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの３つのコースがあり、入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、１年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。

前期日程入試では、大学入試センター試験および本学の個別学力検査の合計点によって合否を判定します。

後期日程入試では、より個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の得点の高い方から順に３教科・科目を利用し(150 点)、本学の試験(100 点)との合計で合否を判定します。本学の試験では、英語の課題文を読んだうえで、設問に従って論述するという小論文を出題します。この試験では英和辞書（電子式を除く。）の持ち込みを認めています。なぜなら、ここでは英文の逐語訳ができるかどうかよりも、全体の文意を的確に捉えることができるか(英語の読解力)という点を重視しているからです。くわえて、発想の独創性、論理構成力、豊かで正確な文章表現力といった点が評価の対象となります。

文教育学部　言語文化学科

皆さんは学校では主として国語や外国語の授業で文学や言語に接してきました。そしてそれ以上に、生まれてから現在までの家庭生活や社会生活の中で、言葉を操る力を獲得し、心を揺さぶる文学作品に出会ってきたことでしょう。その中で、言葉や文学の美しさや不思議さを一度も感じたことのない人はあまりないと思います。

言語文化学科での学習研究を通じて、皆さんは漠然とした感動や疑問を明確な言語として表現し、さらにそれを説明、解明していく方法を学ぶことでしょう。また、そうした方法を身につけることにより、これまで気づかないでいた言葉や文学の面白さや不思議さを発見することでしょう。また、日本語・中国語・英語・フランス語の各言語文化圏に固有の文化や思想、そして異文化間の交渉や交流について深く知ることになるでしょう。私たちは、そのような知的行為に興味を持ち、そのための訓練に耐えられるだけの、十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への愛着を持った学生を求めます。入学後は、１年次末に、主プログラムを決定します。

前期日程入試では、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で決まります。大学入試センター試験に関しては、国語や外国語の点数を特に重く見ることはしていません。それは、本学科の選抜方法が、高等学校までどの科目もおろそかにすることなくきちんと学習してきた学生を選ぶことを目的としているからです。大学入試センター試験では主要５又は６教科の基礎的な学力を判定します。本学の個別学力検査は国語と外国語ですが、いずれも基礎的な知識の他に、長い文章を正確に読みとる力、自分の考えを文章できちんと表現する力があるかを見ます。

後期日程入試では、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の小論文試験の合計点で決まります。前期日程と同様、大学入試センター試験の成績については、科目による傾斜配点はしていません。私たちは高校までの学習におけるいわゆる「得意不得意」ではなく、本人の本当の意味での知的関心や適性を尊重したいと考えるからです。本学の個別学力検査の小論文では、与えられた文章や設問を正確に理解する力と、自分の考えを整った文章にまとめる力、そして言葉に対する感覚を中心に評価します。

文教育学部　人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり(社会学)、心理的側面を考察したり(心理学)、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、３つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

人間社会科学科には、上記のように社会学コース、心理学コース、教育科学コースの３つのコースがあり、各コースはそれぞれ主・強化・副プログラムを提供しています。入学後、各コースの特徴と自分の関心とを精査検討して、１年次末にいずれかのコースまたはグローバル文化学環が提供する主プログラムを選択することになります。

前期日程入試では、大学入試センター試験によって、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。学科ごとの個別学力検査では、大学での研究に必要不可欠な基礎的能力を身につけた志願者を得るために、国語・数学・外国語の３科目入試にしています。

後期日程入試では、幅広い基礎的教養のほか個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の５又は６教科に加え、小論文を採用しています。小論文では、「読み、思考し、表現する」能力などが評価の対象と

なります。

文教育学部　芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追究しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに２年次から所属することになります。

[舞踊教育学コース] 本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。

前期日程では、大学入試センター試験および本学の個別学力検査の合計点によって合否を判定します。

[音楽表現コース] 音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科はすべて重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。

前期日程：大学入試センター試験と本学の個別学力検査による合計点で決まります。但し、実技検査全科目の平均点が６割に満たない場合は不合格となります。

後期日程：大学入試センター試験によって決まります。但し、実技検査全科目の平均点が６割に満たない場合は不合格となります。

文教育学部　グローバル文化学環について

文教育学部では平成１７年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の３つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

【理　学　部（全体）】

理学部とは、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。本理学部は、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の５学科からなり、少人数ゆえのきめ細かな指導により、高水準の教育・研究を行ってきており、数少ない女子大学の理学部として多くの有為な人材を養成してきました。最近はさらに大学院に進む者も多く平均進学率は６割を超えています。

このような教育・研究の場に知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、および、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（国語、社会、英語）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。

「推薦入試」、「帰国子女・外国学校出身者特別入試」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

理学部　数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人。

受験生に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

入試問題について：数学については、学習指導要領の趣旨を踏まえて、高等学校の生徒が教科書の中から論理的に思考して直ちに理解できる事項を出題範囲とします。

前期日程入試では、基礎学力を試すために標準的問題を多数、そして柔軟な思考能力を試す問題を少し出題します。標準的問題は、「答えが合っているかどうか」という問題を解く能力を見るだけでなく、上記のように「論理的な文章の読み書き」の能力を調べるためのものです。数学に限らないことですが、自分の考えを説明するには筋道を明確にして議論をすすめなくてはいけません。ですから、受験生は数式を使った小論文を書くつもりで答案を書けば、高い評価を得るでしょう。合否は、大学入試センター試験の得点と、出願書類及び本学の個別学力検査の結果により判定されます。

後期日程入試では、数学の力を重視して選考します。本学の個別学力検査（数学）では、高校で学ぶ数学の基礎的事項を正確に理解し応用できる力、基本的な計算を確実に行える力、考えたことを明解かつ論理的に述べることができる力などをみます。また、外国語で書かれた数学の文献を読む必要性や国際的にも活躍する人材の養成という趣旨を踏まえ、大学入試センター試験の外国語を選考に用います。

理学部　物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

前期日程入試では、豊かな人間性をもつ志願者を得るために、大学入試センター試験から幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。また本学の物理の試験では、単なる公式の暗記力を見るのではなく、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を判定するために、様々な工夫を凝らした問題が出題されます。このような能力を発揮するためには、数理的な解析力や表現力が必須です。そのため数学の試験を課しています。合否は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で判定します。合計点が同点の場合には、本学の個別学力検査の物理の点数を重視しています。

後期日程入試では、大学入試センター試験のみを課しています。これは、幅広い教養を身につけた学生をバランスの取れた出題問題から求めようとするものですが、物理学科のアドミッション・ポリシーに従って、物理学と数学の試験を重視しています。合否は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の合計点で判定します。

理学部　化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要で

す。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

前期日程入試では、合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で判断しています。本学の個別学力検査では、化学の知識と理解力などの基礎学力ばかりでなく、筋道を立てて考える論理的な思考力や、答えに至るまでの自分の考えを正しく表現する能力も判定します。

後期日程入試では、大学入試センター試験および本学の個別学力検査（小論文）を課しています。（個別学力検査の内容については、入試チームホームページを参照のこと。(URL http://www.ao.ocha.ac.jp/)

大学入試センター試験では、化学を中心とした幅広い基礎知識と理解力を身につけているかどうかを判断するため、理科にウエイトを置きつつ、数学、外国語、国語などの試験も重視します。合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の成績及び本学の個別学力検査の結果に基づいて行います。なお、入学後、化学科専門科目では、化学Ⅱ及び数学Ⅲの内容を理解していることを前提に授業を行うので注意してください。

理学部　生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

前期日程入試では、生物の基礎知識や考え方を判定しますが、それだけでなく、データや図形を理解する能力、それらを組み合わせて考える能力も判定します。さらに、数学、物理学、化学の論理と知識も重要と考えています。したがって、数学と物理・化学（選択）の試験を課しています。また、学年が上がるにつれて外国語の文献や本を読んだり、外国語で研究成果を発表する機会が多くなります。そのため、外国語試験を課しています。合格判定は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で行っています。合計点が同点の場合には、本学の生物の点数を重視します。

後期日程入試では、大学入試センター試験及び本学の個別学力検査（小論文及び面接）を課しています。大学入試センター試験では、科学に関する幅広い知識と考え方を身につけているかを判断するために、理科にウエイトを置きます。小論文では、生命現象をさまざまな視点から解析する柔軟かつ論理的な思考力、問題提示及び問題解決能力を備えているかどうかを見ます。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して総合的な思考力を判断します。それと同時に生物学を学ぶ意欲も重視します。

理学部　情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

前期日程入試では、豊かな人間性をもつ志願者を得るために、大学入試センター試験から幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。基本的な考え方にあるように、情報科学は奥行きの深い学問であり、高校時代には理数系全般を学んで来ることが望まれます。そのため本学の情報科学科の試験では、理科系の選択で数学、物理、化学および生物の４つの試験から２科目を選べるようにしています。また、理系において数学は基本的な能力であり、本学科の試験でも数学を重視しています。合格判定は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の試験の重みを付けた合計点に基づいて行われます。（詳しいことは募集要項の配点表を参照してください。）合計点が同点の場合には、本学の個別学力検査の点数を重視します。なお、入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

後期日程入試では、大学入試センター試験と本学独自の数学の試験を課しています。大学入試センター試

験を課すことは、幅広い教養を身につけた学生をバランスのとれた出題により求めたいという趣旨ですが、情報科学科のアドミッション・ポリシーに従って、数学、理科と外国語の点数を重視しています。また、本学独自の数学の試験は情報科学を勉強するために必要となる数学の素養を持った学生を求めたいという趣旨に基づいています。

合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の上記３科目に重みを付けた合計点と本学独自の数学の試験に基づいて行われます。（詳しいことは、入試要項の配点表を参照してください。）入学時までにコンピュータを習得していることは仮定しません。

【生活科学部（全体）】

現代のわたしたちの日常生活は、日々、地球規模の変化と連関の中で営まれており、あらゆる場面で持続可能性が問われています。生活の質と作法を再検討し、現代にふさわしい価値と規準を発見し創出することは、まさに時代の要請だといえます。

生活科学はこの要請に応えるために、食の科学と健康、人間と環境、人間の発達と心の健康、人間生活と社会、人間生活と文化に関する諸問題を、高度に専門分化した学知を結集して、生活者の視点から多面的かつ総合的に解明することを目ざしています。

生活科学部の特徴は、第１に、このような文理融合の総合応用科学としての生活科学を学ぶ点にありますが、第２に、(1)高密度の講義、(2)少人数の実験・実習・演習、(3)個別的な卒業論文指導を軸とする少人数教育にあります。また特に家庭科の教員免許を取得しやすいカリキュラムになっていることも生活科学部の特徴の一つです。

生活科学部は、人間と生活と環境を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につけ、将来、社会の多方面で活躍する女性リーダーを育成することを使命としています。

高校での学習はすべての科目が、大学での勉学に必要な基礎です。志願学科の別を問わず、家庭科・芸術科目・保健体育も含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを望みます。

生活科学部　食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを勧めます。また、数学Ⅲ・Ｃについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

前期日程入試では、大学入試センター試験（５教科７科目）と本学の個別学力検査（数学、理科、外国語）において、自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はＡＢＣ評価により、合格判定の資料とします。

生活科学部　人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学（意匠・計画）などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを強く望みます。また、数学Ⅲ・Ｃについては履修していることを望みます。

前期日程入試では、大学入試センター試験（５教科７科目）と本学の個別学力検査（数学、理科、外国語）において、自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はＡＢＣ評価により、合格判定の資料とします。

生活科学部　人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する３つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の３つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。志望される方は、人間生活学科の３つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。入学後は一年次末に主プログラムを選択することになります。

前期日程入試では、大学入試センター試験（５又は６教科７科目）と本学の個別学力検査（２教科：外国語、国語または数学）により、幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、問題意識や人文科学・社会科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はＡＢＣ評価により、合格判定の資料とします。

③　ＡＯ入試

【本学の教育理念とＡＯ入試の趣旨】

多様化しグローバル化する社会では、たしかな専門的知識とともに、それを人に伝えるコミュニケーション力や応用する実践力が求められています。女性は、仕事、家庭、地域社会といったさまざまな場での活躍が期待され、その社会的影響力は大きなものがあります。

お茶の水女子大学では、女性の能力開発とリーダーの育成を教育目標に掲げ、さまざまなプログラムを設けています。専門的な知識を多様な場で使いこなせる土台を育成するための「文理融合 21 世紀型リベラルアーツ」科目群を平成 20 年度から新設しました。さらに、リベラルアーツを踏まえた高度な専門教育をすすめ、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ女性の育成を実現するために、平成 23 年度から学生主体の「複数

プログラム選択履修制度」を専門教育課程に導入するとともに、総合学習支援センターを新設して主体的な学修プロセスの実現をサポートする体制を整えました。国際的な場で活動する人材を育成するための語学教育、国際学、多文化交流などのプログラムを強化し、海外の交流協定校への留学を推奨しています。また、これらの基礎となる情報収集力や発信力を高めるため、希望者に対するノートパソコン貸与事業を実施しています。「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」では、大学院生・学部学生向けに、将来の女性リーダーを育成するために各種の講座を開講し実践的な指導を行っています。

「学際性」と「国際性」をもった将来の女性リーダーには、通常の学力試験には表れない総合的な力（ポテンシャル）が重要であると考えます。このような資質をもった学生を、広く各地から選抜するため、AO 入試を行います。

【求める人物像】

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力をもっている。これに加えて、以下の項目のいずれかひとつ以上に当てはまる方を求めています。

1．知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
2．真理の探究に対する憧憬と文・理双方への興味・関心をもっている。
3．自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確にもっている。
4．グローバルな視野をもって思考し、国際的な場での活動を希望している(活動の場は国内国外を問わない)。

【学科の受入方針】

文教育学部　人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの３つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、１年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。ＡＯ入試では、英・数・国の基礎学力をバランスよく備え、自分の将来像をある程度、具体的にもっている学生を望みます。

文教育学部　言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの４つのコースがあります。これらのコースにおいては、当該の言語の深い理解と高度な運用能力を身に付けることを目指し、またそれぞれの言語圏の文学や文化の本格的な分析を行います。そのためにこの４つのコースのいずれにおいても、文理両分野における十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への強い愛着を持った学生を求めます。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、１年次末に最終的に所属するコースが決まります。

文教育学部　人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学)、心理的側面を考察したり（心理学)、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、３つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語)・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに必要です。また、このほか地歴・公民や理科の学習を

通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、１年次末に最終的にいずれかのコースまたはグローバル文化学環の提供する主プログラムを選択することになります。

文教育学部　グローバル文化学環について

文教育学部では平成１７年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の３つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

理学部　数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。本学ＡＯ入試で求める人物像に加えて、上記のような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

理学部　物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

ＡＯ入試では、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望しています。このため、物理学へ強い興味を持ち、物理コンテストなどへ積極的に参加した実績を重視します。大学での物理の授業を履修するうえで、高校での物理および数学の十分な習得は必須ですので、これらの科目は指定科目になっています。

理学部　化学科

化学科の志願者は、まず、化学に深い関心を寄せ、学びへの強い意欲と情熱を持つことが必要です。化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的かつ理科的な思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが前提となります。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しており、１年次から３年次にわたり幅広い学生実験を必修として課しています。化学への強い興味と学習意欲に加えて、実験が好きで主体的に取り組む学生を望みます。

理学部　生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。ＡＯ入試では、生物だけでなく、自然科学を広く学習して、科学的基礎知識や考え方を備えるとともに、論理的思考や知的好奇心を育んでいることを希望します。生物学のさまざまな領域において強い好奇心や疑問を持ち、積極的かつ行動的に自ら探究した経験（自由研究や参考文献の調査など）を評価しますので、志望理由書及び活動報告書に記載してください。入学後は、生物学科のカリキュラムにしたがって、幅広い分野の生物実験科目を履修して生物学の専門性を高めることを希望します。

理学部　情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。

情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。一方、ＡＯ入試のかなめは国際性と学際性です。国際性とは、国際社会で自分の考えを堂々と議論できることですが、そのためには、当然ですが、国際レベルで通用する内容を自分が持っていることが前提です。情報科学科の先輩たちの中には、有名な国際会議において自分の研究を発表してきた人達も少なくありませんが、これも深い専門的素養を身に付けた上でのたゆまない研究が可能としたものです。なお、情報科学では、ほとんどの新しい知識は英語で発信されるので、普通に情報科学を学ぶのにも、基本として英語の実力が不可欠です。

次に学際性ですが、これは一つの専門分野に閉じこもらず、広くいろんな分野に通ずることを意味します。実はこれも、情報科学と言うものの性格から、普通に必要とされる態度です。コンピュータを用いた解析は、今や伝統的な科学的計算の分野はもちろんのこと、CG による芸術創造、文学作品の特徴抽出、インターネットの情報分析による社会の動向予測、化学物質の膨大なデータを処理した新薬の開発アシストなど、あらゆる分野で、使われているという表現を越えて、むしろ無くてはならないものとなっています。情報科学科の卒業生たちは、就職してどのような場所で自らの知識と技術を活かすことになるか分からないので、普通に入学した人達に対しても広く学ぶという意味での学際性を要求してきました。

ＡＯ入試の目的の一つはジェネラリストの養成ですが、よく言われるように、本当にものの分かったジェネラリストになるには、ある一つの分野で専門家に匹敵する習練を積み研究活動を経験する必要があります。ＡＯで合格し、情報科学科に所属してＡＯの目的を貫徹しようと思ったら、まずは一般の入学者と同様、情報科学の専門教育に励むことが必要です。入試の要件に数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ａ、Ｂ、Ｃの全てを課しているのは、これを可能にするために最低限必要なことであり、講義や演習もこれらを習得していることを前提にして行われます。さらにその上で、今までの情報科学の先輩たちの中でもっとも活躍している人達を目標にして、国際性と学際性に磨きをかける努力を一般の学生以上にしてください。理科の少なくとも一科目でⅠ、Ⅱを要求しているのは、学際性を支える最低の要件であり、その趣旨を全うするためには、本当は、少なくとも理科３科目でⅠ、Ⅱを履修してきて欲しいところです。現に、情報科学科では、遺伝子情報のデータ解析や、物理・科学現象のシミュレーションを行っている研究室もあり、そのような講義も開かれているので、情報科学に関連した広い知識や方法論を学ぶ環境は整っていますが、高校レベルの理科の知識を大学に入ってから自分で補うのはなかなかやさしいことではないでしょう。高校で意欲的に学んできた、やる気に満ちた学生を歓迎します。

生活科学部　食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを求めます。また、数学Ⅲ・Ｃについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

生活科学部　人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学（意匠・計画）などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを求めます。また、数学Ⅲ・Ｃについては履修していることを望みます。

生活科学部　人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し､人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する３つのアプローチによって目指しています｡①人間の生涯発達にかかわる発達心理学･臨床心理学･保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の３つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。

志望される方は、人間生活学科の３つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、一年次末に主プログラムを選択することになります。

④ 推薦入試

文教育学部　人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの３つのコースがあり、学科共通進学コースとしてのグローバル文化学環を含め、１年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。なお、主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

推薦入試では、第１次選考合格者に対し、第２次選考を行います。第２次選考では、自分が学びたいと考えている専門分野（哲学・倫理学・美術史、歴史学、地理学）についての基本的知識や考え方（問題意識）、意欲や資質などを見るため、小論文と面接（口述試験を含む。）を課し、総合的に合否を判断します。

（小論文）課題文や資料を読んだうえで、設問に沿って論述してもらいます。課題文・資料の内容を十分に把握し（読解力）、自分なりの論理を組み立て（論理展開力や独創性）、それを適切かつ表現豊かに論述できるか（表現力）、を評価の対象とします。

（面接）質疑を通して、将来の勉学の計画や自分の考えなどを明確にもち、かつそれを相手に的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を見ます。

文教育学部　言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの４つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むことになります。「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

推薦入試では、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験生を求めます。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、１年次末に最終的に所属するコースが決まります。

選考は書類による第１次選考と、小論文及び面接（口述試験を含む。）による第２次選考に分かれます。第２次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。面接では、質疑を通して、自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

文教育学部　人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、３つの研究領域があります。

推薦入試では、子どもや大人の学習・教育の勉学や、教育問題の研究に強い意欲をもち、将来、教育科学コース（主プログラム）を選択して教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育課程論、教育開発論、教育行財政学、生涯学習論、博物館学といった、教育科学のさまざまな研究方法を通して、教育問題に迫り、そのうえで大学院に進んで教育科学の研究を深めたい、あるいは小学校の教員その他の教育関係の職に就きたいと考えている学生を期待します。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つ

でしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。推薦入試は、第１次選考を出願書類の審査によって行い、第２次選考では、教育科学に関する小論文と面接（口述試験を含む。）によって総合的に判断します。

文教育学部　芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに２年次から所属することになります。

［ 舞踊教育学コース ］本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。

推薦入試では、第１次書類専攻合格者に対し、小論文･実技検査・面接（口述試験を含む。）を行います。

［ 音楽表現コース ］音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科はすべて重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。推薦入試では、第１次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接（口述試験を含む。）を行います。

理学部　数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

推薦入試では、書類選考のほか、面接（口述試験を含む。）を行います。面接ではあらかじめ数学的内容の質問事項をいくつか提示し、考えを整理してもらう時間を設けます。その上でそれらについてどのように考えたかなどいろいろなことを質問します。基本的なことがらを筋道正しくきちんと考えることができ、かつ説明できるかが試されます。合格の判定は提出された書類（高校での成績、志望理由書、推薦書など）と面接の結果を総合して行われます。

理学部　物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

推薦入試では、高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、物理学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。補足資料（自由研究レポート、実験ノート、それまで関心を持ち続けたテーマについて考えをまとめたノート等のコピー）の添付を認めているのも、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を発見したいためです。

第１次選考合格者に対しては、２種類の面接（口述試験を含む。）を課しています。別室で解かせた計算問題に関する質疑応答から計算力と理解力を問う口述試験（２０分間）と、様々な物理現象を直観的に説明させることから自由な発想力と直感力を問う口述試験（２０分間）の２種類がこれにあたります。合否は出願書類と２種類の面接を総合して判定します。

理学部　化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学･物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

これをふまえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。一般入試に対して特別入試では、口述試験を通して化学を含む自然科学における総合的理解力はもちろんのこと、論理的思考力・文章表現力に併せて創造性も評価します。

推薦入試では、第１次書類選考合格者に対し、面接（口述試験を含む。）を課しています。面接では、化学を中心に自然科学全般の知識と理解力、筋道を立てて考える論理的な思考力や、答え至るまでの自分の考えを正しく表現する能力を問い、応用力や個性的な発想力も評価します。なお、最近の面接の内容に関しては、本学入試チームホームページ（入試過去問題，http://www.ao.ocha.ac.jp/)に紹介しています。合格判定は、出願書類と面接を総合して行います。

理学部　生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

推薦入試では、多様な領域を含む生物学を学ぶには、多彩な才能の持ち主を期待します。第１次選考合格者に対し、小論文と面接（口述試験を含む。）を課します。小論文では、生物学を中心とした科学の基礎知識、科学的文章の読解力、論理的表現力を判定します。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して、自らの生物学の知識と考え方、社会に向き合う態度、将来への明確な展望、思考能力、個性や才能等、さらに、これらを面接担当教員に的確に伝える能力を重視します。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

理学部　情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

推薦入試では、高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、情報科学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。また第１次選考合格者に対しては、２種類の面接（口述試験を含む。）を課しています。特に数学の問題に関する質疑応答から推論力とコミュニケーション能力及び問題分析能力と解決能力を問う口述試験を行います。出願書類とこの口述試験を総合的に評価して合格判定を行っています。なお、情報科学科に入学後の講義は高校における数学Ⅲの知識と外国語(特に英語)

能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

生活科学部　食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを勧めます。また、数学Ⅲ・Ｃについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

推薦入試では、第１次選考では書類審査にて評価し、第２次選考では小論文及び面接（口述試験を含む。）により基礎学力や論理的思考、勉学に対する意欲を総合的に評価します。

生活科学部　人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学（意匠・計画）などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち２科目以上を履修しておくことを強く望みます。また、数学Ⅲ・Ｃについては履修していることを望みます。

推薦入試では、人間・環境科学科の専門領域に具体的な問題意識と強い勉学意欲のある人、研究者としての資質をもつ人などが望まれます。第１次選考では書類審査、第２次選考では面接（口述試験を含む。）により論理的な考え方や基礎学力を評価します。

生活科学部　人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する３つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の

３つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。志望される方は、人間生活学科の３つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、一年次末に主プログラムを選択することになります。

推薦入試では、選考は、書類による第１次選考と、その合格者に対する第２次選考の２段階で行います。第１次選考では、調査書、志望理由書、推薦書によって、基礎学力や専門領域への適性を評価します。第２次選考では、面接（口述試験を含む。）により、論理的思考力、自己表現力、志望領域に対する問題意識などを総合的に評価します。

⑤ 帰国子女・外国学校出身者特別入試

文教育学部　人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの３つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、１年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。なお主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次選考合格者に対し、第２次選考を行います。第２次選考では推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうかと考えているのかが問われます。

文教育学部　言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの４つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むことになります。「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験生を求めます。また、外国での学校生活から多くを学び、大学でその経験を生かした研究活動を進めることのできる皆さんの応募を期待しています。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、１年次末に最終的に所属するコースが決まります。

選考は書類による第１次選考と、小論文及び口述試験による第２次選考に分かれます。第２次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。口述試験では、質疑を通して、自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

文教育学部　人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲あ

る人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学)、心理的側面を考察したり（心理学)、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、３つの研究領域があります。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次選考合格者に対して、小論文及び口述試験を課します。これに関するポリシーは推薦入試と同様で、将来、教育科学コース（主プログラム）を選択して教育問題にさまざまな研究方法から迫りたいと考えている学生を期待します。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、口述試験において外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、小論文と口述試験の内容を総合して判断します。

文教育学部　芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに２年次から所属することになります。

［ 舞踊教育学コース ］本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。

帰国子女･外国学校出身者特別入試の場合には、第１次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・口述試験を行います。この基準に加え面接にて、外国の学校生活において体験・学んだことと自身の舞踊との関わりなどに関しての質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

［ 音楽表現コース ］音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、第１次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・口述試験を行います。この基準に加え面接にて、外国での学校生活において体験・学んだことと自身の音楽との関わりなどに関しての質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

理学部　数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次選考合格者に対して、口述試験を行います。口述試験のうち数学に関わるポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、外国における学校生活から何を学んだのか、及び本学入学後それをどのように活かそうと考えているのかを訊ねます。合格判定は、出願書類と口述試験を総合して行います。

理学部　物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次選考合格者に対して、２種類の口述試験を課しています。これに関するポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかを問います。合格は、出願書類と２種類の口述試験（各々20 分間）を総合して判定します。

理学部　化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学･物理学の理解が不可欠な分野から､さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。これらをふまえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。一般入試に対して特別入試では、口述試験を通して化学を含む自然科学における総合的理解力はもちろんのこと、論理的思考力・文章表現力に併せて創造性も評価します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次書類選考合格者に対し、口述試験を課しています。推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。なお、最近の口述試験の内容に関しては、本学入試チームホームページ（入試過去問題、http://www.ao.ocha.ac.jp/）に紹介しています。合格判定は、出願書類と口述試験を総合して行います。

理学部　生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが重視されます。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

理学部　情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人，さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第１次選考合格者に対して、筆記試験および口述試験を課しています。筆記試験では、理系の基本的な能力を問うための数学の試験と、表現力および自分で考えながら論述する能力を問うための小論文を課しています。口述試験では、入学後の必修講義に対応できるだけの数学等の学力が備わっているかどうかを判断します。さらに帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、外国における学校生活から何を学んだのか、およびそれを本学科に入学後どのように活かそうと考えているのかも問われます。合格判定は、出願書類を参考にしながら、筆記試験の合計点と口述試験の内容を総合して判断しています。なお、情報科学科に入学後の講義は高校程度の外国語（特に英語）能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

生活科学部　食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

生活科学部　人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学（意匠・計画）などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

生活科学部　人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する３つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の３つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、一年次末に主プログラムを選択することになります。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第２次選考の成績を総合して行います。

⑥ 私費外国人留学生特別入試

文教育学部　人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある方の入学を希望します。とくに留学生には、異なる文化圏で生活・勉学することから掴むもの、そして他の日本人学友へのフィードバックを期待します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの３つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、１年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。入学後は一般の学生と同じカリキュラムを受講していくわけですから、それについていくだけの日本語能力と基礎学力が必要となります。

実際の入学試験では、日本留学試験および本学の学力検査（外国語）の成績、最終出身校の成績証明書、及び口述試験の結果などから総合的に合否を判定します。日本留学試験及び本学の入学試験では、日本語の能力を始めとして、高等学校卒業水準の全般的な基礎学力を見ます。口述試験では、これまで学んできたこと、入学後の勉学の計画と意欲、人文科学科で何を学びたいのか、などについて質問し、それらの問いに的確に応答できるかといった点を評価の対象とします。

文教育学部　言語文化学科

皆さんは生まれて以来、家庭や社会での生活の中で自分の母語を操る力を獲得してきました。また学校では、母語に加えて外国語の授業も受けてきたでしょう。そして、同時に、心揺さぶる文学作品にもいろいろと出会ってきたことでしょう。そういった経験の中で言葉や文学の美しさ、不思議さを一度も感じたことのない人はあまりいないだろうと思います。言葉や文学の美しさへの感動、不思議さへの好奇心は、まだ漠然としたものであるかもしれません。言語文化学科での学習・研究は、それを明確なことばで形にし、さらにそれを解き明かしていく方法を皆さんに示していくはずです。いったんそのような方法に目を開かれたならば、言語も文学もこれまでよりさらに面白く、驚きに満ちたものであることに皆さんは気づくに違いありません。また、皆さんは言語のみでなく、それを支える各地域の文化や思想についても学ぶことになるでしょう。異なる文化圏から来られる皆さんにとっては、異文化間の交流ということも、興味のあるテーマではないでしょうか。そうした事柄についても、ぜひこの学科で学習してほしいと思います。私たち言語文化学科は、言葉に愛着を持ち、以上述べてきたような学習・研究に興味を感じ、かつそのための訓練に耐えられるだけの十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心を持った学生を求めます。

選考は、語学能力と全般的基礎学力を測るために、日本留学試験の点数を参考とし、また外国語の試験、面接による口述試験が課されます。口述試験では、質疑を通して、本学での学習計画などを的確に相手に伝えられるかどうかといったコミュニケーション能力や自己表現力を判断します。さらに最終出身校での成績などを加えて総合的に合否を判定します。

文教育学部　人間社会科学科

当学科には、人間の意識や行動の社会的側面や心理的側面を考察したり、人間の発達について教育科学的、総合的に考えるなどの、さまざまな研究アプローチがありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

当学科を受験するにあたっては、さまざまな教科や科目について幅広く学んできてください。特に、日本語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するために必要です。このほか社会科学（地理、歴史、公民など）や自然科学（理科）の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。出願資格には、日本留学試験を受験した者であることを定めてあります。

この日本留学試験によって、日本語能力と、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。また、入学試験では、大学での研究に必要不可欠な基礎的能力と日本語能力を身につけた志願者を得るために、外国語の学力検査と口述試験を行います。

文教育学部　芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに２年次から所属することになります。

実際の入学試験では、日本留学試験および本学の学力検査（外国語）の成績、最終出身校の成績証明書、及び実技試験の結果などから総合的に合否を判定します。

［ 舞踊教育学コース ］本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。

［ 音楽表現コース ］音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。

文教育学部　グローバル文化学環について

文教育学部では平成１７年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の３つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

理学部　数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

理学部　物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

理学部　化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学･物理学の理解が不可欠な分野から､さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、理論的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。これらをふまえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。

理学部　生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。

“生き物”に関する理解と関心を深め､人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

理学部　情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから､広くかつ深い理系のセンスが問われます｡情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

生活科学部　食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。選考では、試験の成績と口述試験の結果及び日本語能力を総合して判定します。

生活科学部　人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では､「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学（意匠・計画）などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科

学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。本学の試験（数学、理科、外国語）では自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

生活科学部　人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する３つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の３つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。選考は、試験の成績と口述試験の結果を総合して判定します。口述試験では質疑を通して、将来の勉学計画や自分の考えを明確に持ち、かつそれを相手に的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を評価します。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、一年次末に主プログラムを選択することになります。

⑦ 大学院博士前期課程

【比較社会文化学専攻（全体）】

社会と文化に関する専門研究を真に高いレベルで構築することを目指す本専攻は、個々の分野における専門研究を展開する基礎となる充分な知識と学力をもち、さらに、学際的な研究視野を得るために必要な幅広い教養を具えた学生を求めている。

言語文化分野の 4 コース（日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コース）では、人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

人文学分野の 5 コース（思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コース、舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コース）では、思想、歴史、生活の各側面とともに、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、専門的であると同時に学際的な視点から、人間の文化活動を通時的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することを目指す。

日本語日本文学コース

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髄にせまる。

本コースでは次の 4 点を備えた学生を受け入れる。

1．日本古典文学から日本近現代文学及び日本語学に関して、幅広い知見を有すること。
2．研究対象に対する専門的な知識を有し、かつ深い問題意識を持つこと。
3．一定の外国語（留学生は研究に必要な日本語）の読み書き能力を有すること。
4．十分なコミュニケーション能力を有し、学問の社会還元に前向きなこと。

アジア言語文化学コース

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照研究も行う。

中国語学や中国文学の研究者を目指す人、中国語教師、国語教師としてのスキルアップを目指す人を歓迎する。

筆記試験では専門（中国古典語学、現代語学、古典文学、近現代文学）に関する知見（中国語（古典・現代）の読解力を含む）を測る。口述試験では、主として具体的な研究計画についての説明をもとめるが、卒業論文やこれまでの研究成果についての説明をもとめたり、中国語の口頭能力を試すこともある。

英語圏・仏語圏言語文化学コース

英語圏言語文化専修と仏語圏言語文化専修に分かれるが、必要に応じ、各言語圏のあいだの交流や比較対照の視点も採り入れて研究を行う。研究分野は文学系と語学系に大別され、文学系では、各言語圏の文学と文化を研究対象とする。語学系では、英語学、仏語学、ならびに英語学を基礎とした英語教育の研究を行う。

実際の選抜方法においては、特に以下の三点を評価の基準としている。即ち、自分の専門分野の言語と、更にそれとは異なる外国語とを確実に習得していること（英語、フランス語、ドイツ語、中国語から選択）、専門分野の基礎的な知識を十分に有していること、独創的な研究論文を書く能力が認められるということ、という三点である。

日本語教育コース

国内外における日本語教育への多様なニーズに対応できる高度な専門性と研究能力をもった人材の養成と現職日本語教員の再教育を行う。

日本語教育学及びその周辺諸領域における基本的な知識と、これらの領域において 2 年間で修士論文としてまとめられるような具体的な研究計画をもっているかどうかを筆記と口述試験で判定する。

思想文化学コース

本コースは哲学と倫理学より成る。スタッフの専門も、前者に対応する、西洋（主にギリシャ・英米・独）の哲学・思想及びその伝統や方法を受け継ぐ現在の哲学研究と、後者に対応する、神道・仏教・儒教を中心とする日本の倫理思想史に分けられている。哲学で扱われる問題は、人間存在の基底や人間観、知識や言語のあり方やはたらき、文化や社会における価値や理想に関わり、われわれ自身の持っている世界観・価値観の基礎を再検討する契機となるものである。また日本倫理思想史においても、各時代の画期をなす思想家の原典研究に加え、民衆の精神世界や文化的現象の広がりを考察・調査することを通じて、現在の日本人の理解につながるものと考えられる。

本コースの志望者は、本コースのこのような研究領域・姿勢を理解し、研究に関係するテキストや資料を理解し、共感するための基礎的な教養に加え、客観的・論理的な分析や議論を尊重し、また自身の研究の現代における位置付けや意義を考えられる視野と、問題を主体的に追及する積極性を求めたい。

歴史文化学コース

歴史学と美術史学の視点から、日本、ヨーロッパ、アジアにおける政治経済と社会文化の諸問題を、文学資料と造形資料を多角的に用いて研究し、また視覚文化の批判的な読解に取り組む。筆記試験では、資料や研究文献を読解するために必要な語学力と専門分野（日本史、東洋史、西洋史、美術史に区分）の研究をするうえで基本となる知識を測る。

口述試験では、卒業論文（又はそれにかわる研究成果）と研究計画を中心に、資料の分析能力や論理構成力を測る。将来、研究を仕事としていきたいという人とともに、前期課程で習得した能力や知見を社会の場で発揮したいという人の双方を歓迎する。

生活文化学コース

服飾・工芸・住居など生活造形を中心とした生活文化の諸事象を対象とし、文化史・社会史・比較文化論・美学・民俗学などの多様な視座のもとで新しい学際研究を試みるコースである。特に、日本・西洋の服飾の歴史や現代モードなどの服飾文化を通して、時代の生活感情や美意識を明らかにする研究、工芸・デザインから食・住の文化に至るまで、広範の生活文化を比較文化論の立場から総合的に論じる研究、および代々受け継がれてきた生活文化を民俗学・文化人類学の立場から論じる研究が中心である。

生活文化に関する幅広い教養と視野、および研究対象についての専門的知識と独創的な分析力をもち、生活文化論を人間理解の途として日本の内外に発信する意思のある学生を求める。

舞踊・表現行動学コース

舞踊・スポーツなどの身体表現運動について、芸術学、民族学、教育学、身体運動科学などの分野から学際的

に教育・研究を行なう。特に舞踊教育、舞踊芸術、民族舞踊、体育科教育、動作学、スポーツマネジメントといった研究領域が中心である。舞踊やスポーツの実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に修得した専門的人材（研究者、体育教師、指導者、上演者など）の育成を目指す。

本コースを志望するものは、実技経験に加えて、修士論文作成のために十分な外国語の能力と専門知識が必要である。

音楽表現学コース

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化と音楽との関連を扱う音楽学研究、または作曲。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を主要な対象として、身体行動による表現技術の研究を行ない、国際的に通用する演奏者を養成する。本コースでは、音楽学、作曲、声楽、ピアノいずれを専攻するにせよ、水準の高い修士論文が要求されるので、十分な外国語（特に英語）の力と専門知識とが必要である。また、大学院は研究の場であるので、自ら思考し実践する積極的姿勢を備えていることが求められる。

【人間発達科学専攻（全体）】

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。また、社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

教育科学コース

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程論、教育方法論、教育開発論、生涯学習論、博物館学を設置する。

当コースでは、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。第１次選考では、英語および専門試験（教育科学コース「専門試験」に掲載されている 6 領域から、志望する領域を含めて 4 問を選択）によって、教育科学の基礎的能力を確認する。第 2 次選考（口述試験）では卒業論文（又は研究成果等がわかるもの）を含む出願書類を参照しながら、志望動機、研究計画などを評価し、合否を総合的に判断する。

心理学コース

心理学コースでは、人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「社会心理学特論」、「発達心理学特論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「認知科学基礎論」、「発達精神病理学基礎論」、「健康心理学特論」。

これらの授業科目における教育・研究を通して心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

将来研究者や心理学の専門職を希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的な統計的手法や研究方法を習得していること、英文の学術論文の読解力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「発達心理学」、「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学」「教育心理学」「パーソナリティ心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。入学試験では、英語および専門試験によって、志望する分野において専門的な研究を進めるために必要な基礎的能力を確認する。

発達臨床心理学コース

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭、幼稚園、学校、病院等の場における心理臨床的、発達的問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

コースとしては、次のような学生に学んで欲しいと願っている。1）臨床心理士になりたい者で、かつ相当の知力、意欲、時間のある方、2）臨床心理学や発達心理学の研究者になりたい方。そのため、入学の条件として、専門、外国語の力はもちろんのこと、志望目的、研究計画の明確さを求める。また、臨床実践の場としての相談室

活動に授業時間以外の時間を割ける方を求める。※本コースは（財）日本臨床心理士認定協会の第一種指定校である。

応用社会学コース

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会学的に研究する。人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

社会学の理論・研究法についての基礎的な知識を有し、社会学の諸分野（社会学理論もしくは家族・メディア・ジェンダー・福祉・社会意識・社会集団・社会階層等の社会学的研究）に関する具体的で発展性のある研究計画をもつ方の入学を期待する。前期課程修了後は、博士後期課程への進学と民間研究機関や公務員・一般企業への就職という 2 つの方向が考えられる。

試験科目は、外国語試験・専門試験・口述試験であるが、合否の判定にあたっては、卒業論文も重要な判定の資料となる。卒業論文を執筆していない場合、あるいは卒業論文の分野が理系であるか、卒業論文が日本語以外の言語で書かれている場合は、卒業論文と同等以上の水準の社会学的な主題に関する日本語の論文を提出すること。ただし、社会学的な主題に関する卒業論文を英語で執筆している場合に限り、英語論文に日本語要約を添付して提出することを認める。

保育・児童学コース

保育学・児童学領域の研究者、もしくは研究者的な視点を有する実践者として、家庭、保育・教育現場へ有効な支援をおこなえる人材、そのような支援のあり方を研究する人を育成することを目的とする。

研究領域としては、主に教育学、児童学、発達心理学、社会学、教育学、小児科学、行動学などをベースに、専門的力量と研究的資質の向上を図る。たとえば乳幼児期以降の保育・教育の研究、親子の発達支援および社会における子育て支援の研究、保育所・幼稚園から小学校以上の学校教育を見通した連携の在り方や接続期における教育の研究等を行う。学部からの進学者はもとより現職者、現場経験者等の社会人で、多様な実践的課題に分析的・科学的にアプローチしようとする方を歓迎する。入学試験では、保育学、児童学、発達心理学、教育学、社会学、教育学、小児科学、行動学等の基礎知識と科学的な論述や分析力を期待する。なお、出願前に必ず本コースのホームページを参照すること。

【ジェンダー社会科学専攻（全体）】

ジェンダー社会科学専攻では、ひろく社会科学諸分野の分析手法とジェンダー視点を結びつけることにより、従来の「常識」を再検討し、新たな問題領域を発見する研究をめざしている。方法論的には、人間・生活・社会・環境をめぐる現代的諸問題をテーマとして、既存の個別領域のアプローチを尊重しつつ、ジェンダー視点と切り結んだ学際的アプローチに依拠することにより、21 世紀社会を展望する新領域創成に挑戦する。教育目標は、新領域開拓にふさわしい教養と学力を涵養し、男女共同参画社会の構築や社会問題の解決に寄与しうる人材、グローバル社会のもとで国際的な活動に貢献できる人材を養成することに主眼を置いている。本専攻の 3 コースにおけるスタッフ構成は多様であり、学生が研究テーマを多元的・複眼的に考察する上で助けとなる。また、学生は、自分の関心に即して複数のコースにまたがって演習等を履修することが可能であり、テーマによっては副指導教員を他コースに求めることもできる。新領域を切り拓く領域横断的な研究に意欲と関心のある志願者を歓迎する。

生活政策学コース

ポスト近代における人びとの市民生活や家族生活、消費、労働、女性や男性の生き方などをめぐる諸課題を、社会科学の理論と方法論にもとづき解明し、問題解決に向けて提案しうる力量の涵養をめざす。法学・政治学・経済学・社会学の基礎から応用にわたる分析手法を身につけるとともに、ジェンダー視点を織り込んだ課題設定を行うセンスを養うことを重視している。修了後の進路は、研究職、国家及び地方公務員、ＮＰＯ職員などをめざす人が多い。また、すでにその種の現職に就いて、より専門的な調査研究能力を養うことを目的に入学するという先行例も数多くある。資格取得に関しては、家庭科の専修免許、専門社会調査士資格関連の授業科目を用意している。

外国語試験（英語　8 月・2 月入試）、小論文（8 月入試）、専門試験（2 月入試）、口述試験（8 月入試・2 月入試）の成績と提出論文・研究計画などの内容を総合的に評価し選考を行う。

地理環境学コース

グローバル化にともない変容する空間・地域・環境をめぐる諸問題を、人間―環境関係、社会・経済の空間性、国際関係、国際協力、人間の移動とコミュニティ、健康・福祉、日常生活における場所の感覚やアイデンティティなどの視点から研究する。研究対象は、自然環境、建造環境、居住空間、地域開発、ローカルな文化とその変容など多岐にわたり、具体的な研究方法も、社会科学の理論に加え、フィールドワーク、観測、GIS、統計分析と数理モデルの構築など多彩である。

研究職をめざす人だけでなく、国際機関や政府関係機関、NGO などで国際協力や国際交流に関わろうとする／関わった経験を持つ人、学校教育の場で開発教育や異文化理解などに関わる人、環境政策やマーケティングなどの分野で活躍しようとする人、地域振興（地域おこし）に関わろうとする人など、幅広い関心を持つ人を期待する。

詳細は地理環境学コースの HP　http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm　を参照のこと。

開発・ジェンダー論コース

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することをめざし、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

カリキュラムは、ジェンダー概念の成立やジェンダー研究の基礎となる科目群、開発研究や国際研究とリンクする科目群、ジェンダー政策やグローバル経済研究に関わる科目群、研究方法論／実践論の科目群などで構成されている。

行政、ＮＰＯなど男女共同参画社会づくりや「ジェンダーと開発」分野で国際協力に将来携わりたい人、あるいはすでにその分野での経験のある人、より理論的、方法論的な知識を深めジェンダー視点からの社会分析をしたい人など、実践家や研究者をめざす人を選抜する。専門と外国語試験による基礎学力試験に加えて提出論文の分析内容や研究計画も重視され選抜が行われる。

ジェンダーおよび開発をめぐる問題を、ジェンダー理論、文化人類学、社会学、経済学、政治学、地域研究等の方法を用いて多面的、理論・実証的に解明することに意欲を持つ人を求める。なお、博士後期課程にはジェンダー学際研究専攻が設置されている。

詳細は、開発・ジェンダー論コースのサイト http://devgen.igs.ocha.ac.jp/ を参照のこと。

【ライフサイエンス専攻（全体）】

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学コース、人間・環境科学コース、食品栄養科学コース、遺伝カウンセリングコースを設置する。ライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解できる人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、実験を主体とする、ライフサイエンスに関する研究計画を作成、実施することが求められる。そのため、文献調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力等が求められる。

生命科学コース

生命科学コースでは、生物種としてのヒトとヒトをとりまく多様な生物種を対象として、多様性と独自性を特徴とする生命の本質を、遺伝子、ゲノム、生体分子、細胞、個体、集団などのレベルにおいて理解するための教育と研究を目指している。研究を進めるためには、目の前にある問題を解決するための能力もさることながら、「まだ分かっていないことは何か」「問題にどのように取り組んでいくのか」という、問題を発見し、それを明らかにしていく道筋を具体化する能力が必要である。また、自分の興味以外にも視野を広げ、そこから自らの問題に関連のある知見を引き出す努力も必要とされる。本コースでは、生命科学分野に関心が深く、自らを高める向上心に満ち、かつ知的好奇心に溢れた人材を期待する。

人間・環境科学コース

本コースでは、人間生活を中心に環境に関する諸問題を扱うとともに、生物としての人間の特性・生命生理メカニズム、また人間の身体と環境との相互作用につき研究教育を行う。具体的には、都市・住居デザインの提案・設計、人間の神経・生理機能の工学解析ならびにそれに基づく人間工学機器設計、消臭・高吸水性材料等の生活材料開発、繊維製品における染色・仕上げ加工機構、安全快適な水環境構築のための消毒・有害物質除去技術、

身体的側面を中心とした人類の進化、変異、適応等のデータ分析、などを行う。各研究の主眼は、人間と環境の境界領域（インターフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインターフェースの改良方策を具体的に提案するところにある。従って、基礎となる自然科学系諸科目に習熟していること、自然環境・生活環境と人間に関わる現実的諸問題に関心が高いこと、研究成果を具体的なデザインとして社会に提案・還元する意欲を有する学生を求める。

食品栄養科学コース

本コースでは、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析、解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストを育て、食品企業の研究者や開発者、管理栄養士のリーダーを育成する。本コースでは食品の品質、嗜好性、機能、安全性、代謝、疾病との関連など食を取りまく諸問題を有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などを用い、食品科学と栄養科学の両面から教育・研究を行なう。学生には研究・実験に対し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を持つことを求める。化学や生物学を中心とする一般的な自然科学の知識を必要とする。

遺伝カウンセリングコース

遺伝カウンセリング学は近年の遺伝医学の発達に伴って誕生した学際的な学問で、人類遺伝学、遺伝医学、カウンセリング、生命倫理と幅広い領域と連携しながら独自の学問体系を構築している。本コースでは遺伝カウンセラーに要求される遺伝カウンセリング学の基礎と実践技術を学ぶと同時に教育・研究者として必要な能力を身につけるための教育を行なう。

【理学専攻（全体）】

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。十分な基礎学力と緻密な思考力をもつと同時に、自然の論理の美しさに感動し、未知との遭遇に好奇心をそそられるような感受性を有する多くの学生と共に科学を楽しみたい。

数学コース

様々な分野との関連も視座に入れた数学理論の展開に関する高度な専門教育と研究を行い、高度な数学的知識と数学的な運用能力をもつ高度専門職業人、中学校・高等学校教師、研究者等を養成することを目標とする。この教育目標に沿って、未解決の問題にチャレンジしたい、数学の美しさ面白さに深く感動したい、数理的な方法センスを身につけ社会の場で生かしたい等数学が好きで学ぶ意欲に溢れ、数学分野に対する基礎的な学力を持つ学生を広く受け入れる方針である。

実際の選考では、微分積分学、線形代数学など、どの数学分野を専攻するにも必要となる内容や専攻したいと希望する数学分野の基礎について、基本的な概念や事実の理解度、基本的な計算を確実に行える力、明解正確な説明論証を行える力などをみる。

物理科学コース

極微の素粒子から、原子分子の集合体である固体や液体、そして宇宙までを対象に、物質が示す性質を解明し新たな現象を予測することを目的として、量子論、統計力学、相対論等の物理学によるアプローチを総合して教育研究を行っている。自然を考える好奇心に満ちた学生や、しつこく考える忍耐強い学生、自然を直感的に発想する学生、論理にこだわって緻密に推論する学生、など個性的で主体的な学生を望む。

化学・生物化学コース

有機・無機分子および金属錯体から、タンパク質や糖などの生体高分子に渡る広範な分子および分子集合体を対象とし、合成、構造、反応、物性、機能、および分子間相互作用に関して、幅広い角度から実験と理論の研究および教育を行う。分子科学的な研究を推進するために必要な知識を得ることや、生命の普遍的なしくみを化学的に解明することに興味を持ち、境界領域や未知の分野を切り拓くことに意欲的な学生を望む。

情報科学コース

情報科学は進展の速い分野である。このような分野で世界の先端を走る研究者、高度専門職業人、情報科学の次世代を語れる教育者等を養成するため、情報の基礎理論から応用技術まで幅広い分野の研究、教育を行う。この目標に沿って、情報科学、数理科学に対する基礎的な学力、英語で書かれた文献の読み書きができる素養を持ち、強い意欲を持つ者を広く受け入れる。

⑧ 大学院博士後期課程

【比較社会文化学専攻（全体）】

比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際的視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。

本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うことに強い自覚をもった人材を求めており、特に、以下の２点を、前提として強調しておきたい。

１．資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。

２．日本を含む世界各地域の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地域の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となり得る知識と研究能力を有していること。

国際日本学領域

国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応して、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・考古学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界の教育拠点となることを目標としている。

本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の涵養と総合的な知識な蓄積、さらに研究交流への積極的な参加やそうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成にも留意して研究を進めていくことが期待される。

言語文化論領域

アジア、欧米を中心とする各国文学・言語学・言語教育学の専門的知識を深めつつ、それらを横断する研究視点を育成し、言語を介した現代の文化・批評の機能を、国際協力の面からも積極的に開発・提言する人材の養成につとめる。

比較社会論領域

哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、過去の思想･歴史をふまえつつ、日本･アジア･欧米･イスラムの諸地域を相互に比較横断する研究を推し進める領域である。社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的･総合的な研究を進めていくことが期待される。

表象芸術論領域

美術・工芸・服飾・舞踊・音楽、および博物館学を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する領域である。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の強力な媒介として社会に提言することに意欲をもった学生を求める。

【人間発達科学専攻（全体）】

人間発達科学専攻は、人間の生涯にわたる発達と社会環境にかかわる広いテーマに関連する高度の専門研究を進める女性研究者となる人を育てている。人間の発達、環境、教育、生活などの領域について、日本や世界の、過去から現在、あるいは２１世紀への諸問題の解決に意欲を持つ学生の入学を期待する。後期課程３年間で博士論文の完成ができることが期待される。入学後は１年次から毎年、学会発表、学会誌への論文の投稿、学内外の

研究活動への参加など、計画的に研究成果をあげることが求められる。まず、優れた修士論文を完成させること。

入学試験では、修士論文の質と、今後の研究計画が明確かどうかを審査する。原則として、言語試験での６０％以上の得点も条件とする。研究指導を受けたいと考える教員に事前に相談すること。意欲的な学生の皆さんの応募を期待する。

教育科学領域

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論、生涯学習論を設置する。当領域では、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。

心理学領域

心理学領域では、人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「発達心理学先端研究」、「道徳性形成論」、「メディア心理学」、「健康行動論」、「発達精神病理学」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること、英文で学術論文を作成する力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「発達心理学」「社会心理学」「教育心理学」「臨床心理学」「パーソナリティ心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。

発達臨床心理学領域

発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を柱として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業等のさまざまな場における心理臨床的、発達的課題について専門的に対処する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を求める。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。

社会学・社会政策領域

社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を解明する。また、社会科学の研究における理論と実証の関係のみならず、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることを重視している。

保育・児童学領域

保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期における保育・幼児教育、乳幼児期以降の親子の発達支援、０歳から就学期・児童期を見通した接続的教育などを研究する研究者、専門職業人を養成する。乳児期、幼児期、児童期の発達過程、それにかかわる親や保育者・教師などの発達過程を射程に入れ、社会的に要請される多様な問題の分析能力、課題解決や問題への接近方法、および援助方法について高度な知識と実践経験をもつ人材を目指す。専門領域における研究者、育児や教育アドバイザーなどのリーダーとして活躍する人材を想定している。

【ジェンダー学際研究専攻（全体）】

家族、労働、人権、教育、開発援助、経済、政治、法政策、国際関係、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、幅広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究に関心を持ち、これらに関する諸問題の解決に意欲を持つ方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域での優れた修士論文またはそれに代わるものを完成させていることが必要である。入学試験では、原則として、言語試験での６０％以上の得点も条件となる。入学後は１年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果を挙げることが求められ、３年間で、博士論文を完成できることが期待される。研究指導を受けたいと考える教員に必ず事前に相談をすること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

ジェンダー論領域

ジェンダーを中心とした理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点を中心にした分析は、家族、労働、人権、教育、開発援助、経済、政治、国際関係、地域計画、環境、科学技術、医療など、あらゆる政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群を中心に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。

【ライフサイエンス専攻（全体)】

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅ひろく理解でき、ライフサイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担いうる人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験を主体とする研究計画を作成、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自覚と意欲を持った上で、文献調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が求められる。

生命科学領域

高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、固体・細胞・分子レベルで解明する。

人間・環境科学領域

本領域では、生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境が人間にとって合理的、快適なものとなるよう設計・制御を行うことを目的とする。具体的には生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行う。また、生物としての人間、すなわちヒトの本質・由来・変異などに関する研究も行う。人間と環境の境界領域（インターフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインターフェースの改良方策を具体的に提案することに研究の主眼を置く。

食品栄養科学領域

本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストを育てる。具体的には大学や公的研究機関の研究者、管理栄養士のリーダー、栄養士や管理栄養士養成校の教員、公務員、食品企業の研究者、病院管理栄養士などをめざす。本領域では、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康や疾病と食品の関連などを含めた食を取りまく諸問題について有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などを用い、専門的教育ならびに先端的研究を行う。

遺伝カウンセリング領域

遺伝カウンセリングという新しい学際領域で活躍する先駆的人材を養成することを目的とする。遺伝カウンセラーとしての知識、技術、臨床実践の研鑽をふかめ、遺伝カウンセリング学の構築と、遺伝医療に寄与する研究を遂行し、新しい学問分野の開拓と、後進の指導のための教育推進に資する人材を育成する。人類愛と医療に対する深い理解を基盤に持ち、国際的視野から日本における新しい分野の確立に貢献する意欲と能力が必要とされる。

【理学専攻（全体)】

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究

し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を保ちながらより高度な専門的能力の開発を望む方や独自のライフスタイルで学問を究めることを志す女性を広く求めたい。

数学領域

代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行いうる能力、数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力の上に、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となろうという志をもち、自己の専門分野のみならず隣接分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。

物理科学領域

物理学の各分野及び他領域との隣接分野における最先端の研究を通して、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になろうとする自覚と意欲をもった学生を求めている。

化学・生物化学領域

物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や糖などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの諸分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもち、国際的視野を拡げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力を惜しまない人を歓迎する。

情報科学領域

情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人達を経歴を問わず広く受け入れている。

（2）入学者数、在学者数、収容定員、編入学定員、編入学者数【担当：教務チーム】

学　部　　(H24.5.1 現在)

		入学定員	第3年次入学定員	収容定員	入学者・在学者数							
					1年次	2年次	3年次		4年次		合　計	
					入学者	在学者	在学者	※(編入者)	在学者	※(編入者)	入学者+在学者	※(編入者)
文教育学部	人文科学科	55	10	220	57	60	60	(0)	72	(1)	249	(1)
	言語文化学科	80		320	86	83	91	(4)	111	(6)	371	(10)
	人間社会科学科	40		160	42	43	48	(6)	59	(10)	192	(16)
	芸術・表現行動学科	27		108	28	29	27	(0)	33	(0)	117	(0)
	学部共通			20								
	小　　計	202		828	213	215	226	(10)	275	(17)	929	(27)

理学部	数学科	20	10	80	22	18	22	(0)	27	(2)	89	(2)
	物理学科	20		80	22	21	23	(2)	30	(2)	96	(4)
	化学科	20		80	23	21	24	(1)	24	(0)	92	(1)
	生物学科	25		100	27	27	25	(1)	28	(3)	107	(4)
	情報科学科	40		160	40	42	39	(1)	47	(2)	168	(3)
	学部共通			20								
	小　　計	125		520	134	129	133	(5)	156	(9)	552	(14)
生活科学部	食物栄養学科	36	10	144	39	39	39	(0)	40	(0)	157	(0)
	人間・環境科学科	24		96	28	26	26	(0)	33	(0)	113	(0)
	人間生活学 発達臨床心理講座	65		260	70	70	30	(8)	34	(9)	311	(17)
	人間生活学 生活社会科学講座						29		37			
	人間生活学 生活文化学講座						18		23			
	学部共通			20								
	小　　計	125		520	137	135	142	(8)	167	(9)	581	(17)
合　　計		452	30	1,868	484	479	501	(23)	598	(35)	2,062	(58)

※（　）の編入者数は、その年次の在学者に含む

大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～) (H24.5.1 現在)

	入学定員	収容定員	在学者数		
			1年次	2年次	合　計
比較社会文化学専攻	60	120	51	89	140
人間発達科学専攻	27	54	34	41	75
ジェンダー社会科学専攻	18	36	15	29	44
ライフサイエンス専攻	47	94	51	67	118
理学専攻	70	140	70	82	152
合　　計	222	444	221	308	529

大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)　　(H24.5.1 現在)

	入学定員	収容定員	在学者数			
			1年次	2年次	3年次	合　計
比較社会文化学専攻	27	81	27	41	98	166
人間発達科学専攻	14	42	16	18	56	90
ジェンダー学際研究専攻	4	12	5	6	23	34
ライフサイエンス専攻	15	45	12	18	37	67
理学専攻	13	39	14	18	15	47
合　　計	73	219	74	101	229	404

大学院　人間文化研究科博士後期課程(～平成 19 年 3 月 31 日)　　(H24.5.1 現在)

	入学定員	収容定員	在学者数			
			1年次	2年次	3年次	合計
比較社会文化学専攻	－	－	－	－	13	13
国際日本学専攻	－	－	－	－	20	20
人間発達科学専攻	－	－	－	－	17	17
ジェンダー学際研究専攻	－	－	－	－	8	8
人間環境科学専攻	－	－	－	－	1	1
複合領域科学専攻	－	－	－	－	3	3
合　計	－	－	－	－	62	62

（3）退学者数、退学率【担当：教務チーム】

学　部　　(H24.5.1 現在)

		入学定員	第3年次入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率														
					1年次 (H24 入学者対象)			2年次 (H23 入学者対象)			3年次 (H22 入学者対象 +H24 編入者)			4年次 (H21 入学者対象 +H23 編入者)			合計 (H24～21 の入学者合計)		
					入学者数	退学者数	退学率	入学者数	退学者数	退学率	入学者数＋編入者	退学者数	退学率	入学者数＋編入者	退学者数	退学者率	合計数	退学者数	退学率
					a	b	b/a	A	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a
文教育学部	人文科学科	55	10	220	57	0	0%	61	1	1.6%	61	1	1.6%	61①	0	0%	240①	2	0.8%
	言語文化学科	80		320	86	0	0%	83	0	0%	91④	0	0%	95⑤	1	1.0%	355⑨	1	0.2%
	人間社会科学科	40		160	42	0	0%	43	0	0%	49⑥	1	2.0%	48⑥	0	0%	182⑫	1	0.5%
	芸術・表現行動学科	27		108	28	0	0%	29	0	0%	27	0	0%	28	1	3.5%	112	1	0.8%
	学部共通			20															
	小　計	202		828	213	0	0%	216	1	0.4%	228⑩	2	0.8%	232⑫	2	0.8%	889 (22)	5	0.5%
理学部	数学科	20	10	80	22	0	0%	20	2	10%	23	1	4.3%	25②	0	0%	90②	3	3.3%
	物理学科	20		80	22	0	0%	22	1	4.5%	23②	0	0%	26①	0	0%	93③	1	1.0%
	化学科	20		80	23	0	0%	21	0	0%	24①	0	0%	22	0	0%	90①	0	0%
	生物学科	25		100	27	0	0%	27	0	0%	26①	1	3.8%	28③	2	7.1%	108④	3	2.7%
	情報科学科	40		160	40	0	0%	43	1	2.3%	40①	1	2.5%	44②	0	0%	167③	2	1.1%
	学部共通			20															
	小　計	125		520	134	0	0%	133	4	3%	136⑤	3	2.2%	145⑧	2	1.3%	548⑬	9	1.6%
生活科学部	食物栄養学科	36	10	144	39	0	0%	39	0	0%	39	0	0%	39	0	0%	156	0	0%
	人間・環境科学科	24		96	28	0	0%	26	0	0%	26	0	0%	29	0	0%	109	0	0%
	人間生活学科	65		260	70	0	0%	70	0	0%	77⑧	0	0%	82⑥	0	0%	299⑭	0	0%
	学部共通			20															
	小　計	125		520	137	0	0%	135	0	0%	142⑧	0	0%	150⑥	0	0%	564⑭	0	0%
合　計		452	30		484	0	0%	484	5	1.0%	483 (23)	5	1.0%	527 (26)	4	0.7%	2,001 (49)	14	0.6%

○の数字は、編入者数を示す（入学者数に含む）

大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)　(H24.5.1 現在)

	入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率								
			1年次 (H24 入学者対象)			2年次 (H23 入学者対象)			合計 (H23,24 入学者の合計)		
			入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率
			a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a
比較社会文化学専攻	60	120	51	0	0%	84	2	2.3%	135	2	1.4%
人間発達科学専攻	27	54	34	0	0%	33	0	0%	67	0	0%
ジェンダー社会科学専攻	18	36	15	0	0%	19	0	0%	34	0	0%
ライフサイエンス専攻	47	94	51	0	0%	64	0	0%	115	0	0%
理学専攻	51	102	70	0	0%	77	0	0%	147	0	0%
合　計	203	406	221	0	0%	277	2	0.7%	498	2	0.4%

大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)　(H24.5.1 現在)

	入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率											
			1年次 (H24 入学者対象)			2年次 (H23 入学者対象)			3年次 (H22 入学者対象)			合計 (H24,23,22 入学者対象)		
			入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率
			a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a
比較社会文化学専攻	27	81	51	0	0%	41	1	2.4%	22	0	5.7%	114	1	0.8%
人間発達科学専攻	14	42	34	0	0%	18	0	0%	24	1	0%	76	1	1.3%
ジェンダー学際研究専攻	4	12	15	0	0%	6	0	0%	6	0	0%	27	0	0%
ライフサイエンス専攻	15	45	51	0	0%	20	2	10%	19	2	21.4%	90	4	4.4%
理学専攻	13	39	70	0	0%	19	1	5.2%	13	0	0%	102	1	0.9%
合　計	73	219	221	0	0%	104	4	3.8%	84	3	3.5%	409	7	1.7%

（4）卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数　【担当：学生・キャリア支援チーム】

学　部　(H23 年度卒業生)

		卒業者数	進学者数 (a)	就職希望者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
文教育学部	人文科学科	64	16	47	45	96%	1
	言語文化学科	97	17	70	68	97%	10
	人間社会科学科	49	8	37	36	97%	4
	芸術・表現行動学科	27	6	16	15	94%	5
	小　計	237	47	170	164	96%	20
理学部	数学科	23	10	11	10	91%	2
	物理学科	24	14	8	7	88%	2
	化学科	21	17	4	4	100%	0
	生物学科	28	16	11	11	100%	1
	情報科学科	41	27	14	14	100%	0
	小　計	137	84	48	46	96%	5

生活科学部	食物栄養学科	40	21	17	15	88%	2
	人間・環境科学科	22	9	13	13	100%	0
	人間生活学科	78	16	60	56	93%	2
	小　　計	140	46	90	84	93%	4
合　　計		514	177	308	294	95%	29

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)　(H23 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻	63	17	34	31	91%	12
人間発達科学専攻	29	10	14	12	86%	5
ジェンダー社会科学専攻	18	5	11	9	82%	2
ライフサイエンス専攻	45	6	38	37	97%	1
理学専攻	74	7	66	65	98%	1
合　　計	229	45	163	154	94%	21

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)　(H23 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻	2	0	―	1	―	1
人間発達科学専攻	2	0	―	1	―	1
ジェンダー学際研究専攻	3	0	―	2	―	1
ライフサイエンス専攻	12	0	―	10	―	2
理学専攻	10	0	―	6	―	4
合　　計	29	0	―	20	―	9

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

大学院　人間文化研究科博士後期課程(～平成 19 年 3 月 31 日)　(H23 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻	4	0	―	1	―	3
国際日本学専攻	4	0	―	0	―	4
人間発達科学専攻	4	0	―	1	―	3
ジェンダー学際研究専攻	1	0	―	0	―	1
人間環境科学専攻	2	0	―	0	―	2
複合領域科学専攻	0	0	―	0	―	0
合　　計	15	0	―	2	―	13

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

（５）就職先及び進学先等の状況　　【担当：学生・キャリア支援チーム】

学　部　　（H23 年度卒業生）

		主な就職状況	主な進学先の状況
文教育学部	人文科学科	株式会社日立システムズ、大日本印刷株式会社、株式会社ゆうちょ銀行、株式会社シーマ、日鐵物流株式会社、神奈川県庁、日本貨物鉄道株式会社（ＪＲ貨物）、スターツコーポレーション株式会社、内閣府、調布市役所、千葉県庁、公安調査庁、埼玉地方裁判所、楽天株式会社、　他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	言語文化学科	三菱商事株式会社、東京都庁、麒麟麦酒株式会社、㈱三菱東京 UFJ 銀行、横浜市役所、埼玉県庁、、神奈川県警、みずほフィナンシャル・グループ、三井物産株式会社、大分県、株式会社ルミネ、秋田県庁、株式会社資生堂、野村證券　　他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	人間社会学科	日本電気株式会社、株式会社三井住友銀行、東京都小学校、富士重工業、横浜市役所、NTT データグループ、東京都庁、東芝株式会社、ソフトバンクモバイル株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東京ガス株式会社、横浜小学校、　他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	芸術・表現行動学	日本生命保険相互会社、株式会社北海道新聞社、三井不動産株式会社、富士通システムソリューションズ株式会社、青森朝日放送株式会社、名古屋市役所、社団法人全日本ピアノ指導者協会、東海東京証券株式会社、　他	お茶の水女子大学大学院
理学部	数学科	株式会社みずほフィナンシャルグループ、ブラザー工業株式会社、ＳＭＢＣフレンド証券株式会社、日立情報通信エンジニアリング㈱、東京コンピューターサービス㈱、湘南白百合学園、　他	お茶の水女子大学大学院
	物理学科	株式会社サンリオ、日本マイクロソフト株式会社、日本銀行、大妻多摩高等学校、中部大学春日丘高校、　他	お茶の水女子大学大学院
	化学科	株式会社みずほ銀行、三菱瓦斯化学株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、みずほ情報総研株式会社、　他	お茶の水女子大学大学院
	生物学科	東京海上日動火災保険株式会社、日本製紙株式会社、花王株式会社、東京ガス㈱、㈱オービック、東日本電信電話㈱、大和証券㈱、ヒノキ新薬株式会社、マルホ株式会社、　他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	情報科学科	みずほ情報総研株式会社、九州電力株式会社、共同印刷株式会社、日本銀行、山梨大学、㈱JTB メディアリテーリング、TIS㈱、㈱日立情報制御ソリューションズ、シスコシステムズ合同会社、　他	お茶の水女子大学大学院
生活	食物栄養学科	埼玉県職員（栄養士）、株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社リクルート、㈱ダスキン、サントリーホールディングス㈱、西洋フーズ・コンパスプループ㈱、東京都、東京ガス㈱、　他	お茶の水女子大学大学院

	人間・環境科学科	東日本電信電話株式会社、岩手県庁、日本アイ・ビー・エム株式会社、㈱南日本銀行、大成建設㈱、みずほ情報総研㈱、横浜市役所、㈱サンケイビル、ニッセイ情報テクノロジー㈱、　他	お茶の水女子大学大学院
	人間生活学科	東京都庁、千代田区保育園、株式会社丸井グループ、国土交通省、横浜市、土浦市幼稚園、東京都小学校、私立安田学園安田小学校、富山県庁、杉並区役所、KDDI㈱、㈱幻冬舎、㈱明治屋、　他	お茶の水女子大学大学院

大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程（人間文化研究科を含）　（H23 年度修了生）

	主な就職状況	主な進学先の状況
比較社会文化学専攻	東京書籍株式会社、大妻中学高等学校、東京都庭園美術館、三井造船システム技研㈱、柏日体高等学校、独立行政法人国際交流基金、　他	お茶の水女子大学大学院
人間発達科学専攻	株式会社三菱総合研究所、法務省矯正局、千葉県庁、東京都庁、浜松医科大学、埼玉県庁、神奈川県職員、西宮市役所、富山県小学校、　他	お茶の水女子大学大学院
ジェンダー社会科学専攻	総務省、株式会社時事通信社、株式会社 Spoon Press、奥井ホールディングス、㈱ジーニアス・エデュケーション、東京海上日動システムズ㈱、他	お茶の水女子大学大学院
ライフサイエンス専攻	埼玉県庁、日本ユニシス株式会社、株式会社資生堂、財団法人日本繊維製品品質技術センター、キッコーマン㈱、戸田工業㈱、大正製薬㈱、　他	お茶の水女子大学大学院
理学専攻	日産自動車株式会社、ソニー株式会社、三菱電機株式会社、中外製薬㈱、東芝㈱、㈱ニコン、　他	お茶の水女子大学大学院

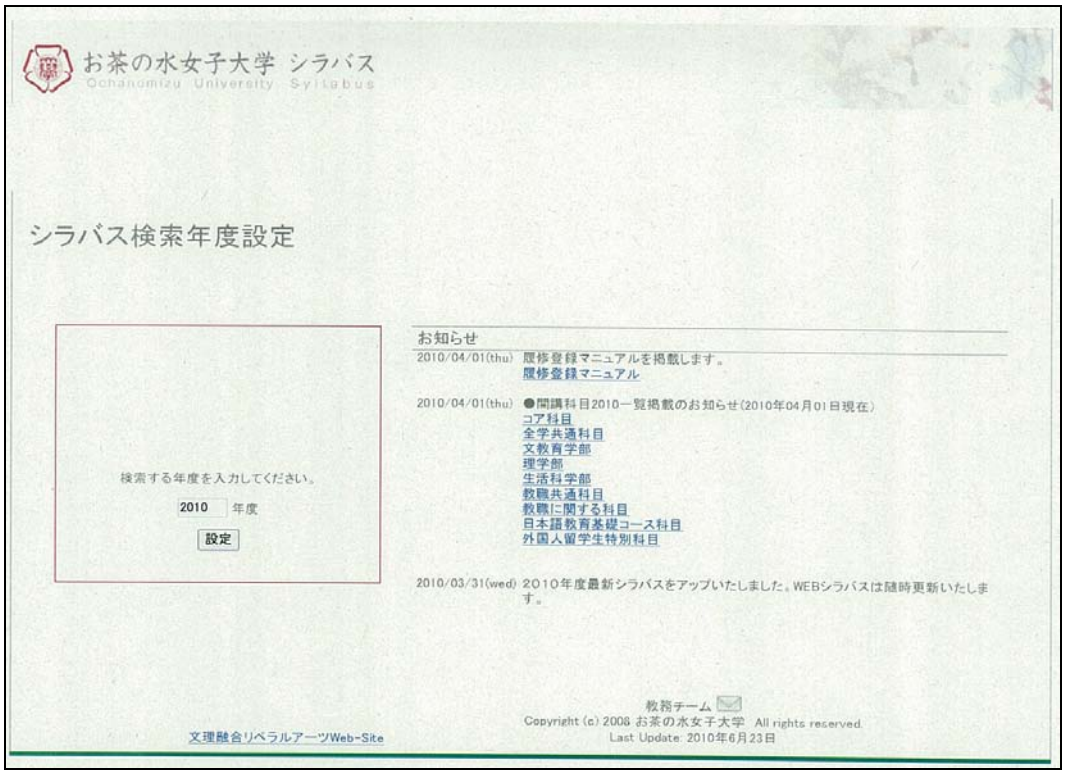
大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程（人間文化研究科を含）　（H23 年度修了生）

	主な就職状況
比較社会文化学専攻	お茶の水女子大学リサーチフェロー
人間発達科学専攻	お茶の水女子大学特任講師
ジェンダー学際研究専攻	カリタス女子短期大学（特任准教授）
ライフサイエンス専攻	神戸学院大学（講師）
理学専攻	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

５．授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。【担当：教務チーム】

本学のシラバスに関する情報を広く公開しております。本サイトは、年度別、科目別、学科別、教員別、時間割、全文検索から構成されております。

■シラバスのトップページ　　【シラバス提供：http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/】



■学科別検索

６．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。 【担当：教務チーム】

（１）学士課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

１．各学部に所定の年限在学し、全学ならびに学部の教育理念と教育目的に沿って設定された専門教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得することが学位授与の要件である。

２．文理融合リベラルアーツ教育、外国語教育、スポーツ健康教育、情報教育からなる教養教育と、各学部の特性に応じて編成された専門教育プログラムや授業科目をともに修得していることが、学位授与の基準となる。

○　文教育学部の学位授与の方針

１．所定の年限在学し、コア科目の中から所定の単位数を修得し、さらに、本学部の教育理念と教育目標に基づいて開設された専門教育プログラムと専門科目から所定の単位数を修得した者に、学士の称号を授与する。

２．修了に際しては、教員の指導のもとに卒業論文ないしは卒業研究のテーマを決定し、専攻する学問分野の手法に則り、卒業論文ないしは卒業研究を完成することが求められる。

３．人文・社会科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力が着実に習得されていることが修了の要件である。

(1) 人文科学科

哲学、倫理学、美術史学、歴史学、地理学を研究するのに必要な基礎知識と専門知識を体系的に習得した上で、人間の文化に対する深い洞察力を身につけていることが修了の要件である。

(2) 言語文化学科

日本語・日本文学、中国語圏言語文化学、英語圏言語文化学、仏語圏言語文化学のいずれかにつき、当該言語を習得、また体系的に理解し、当該言語による文学・芸術に対する基本的な研究方法を習得していることが修了の要件である。

(3) 人間社会科学科

社会学、教育科学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得していることが修了の要件である。

(4) 芸術・表現行動学科

音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的に分析するための基礎的能力と、理論的成果を実践に適用して現代的問題を発見及び解決するための実践的能力が着実に習得されていることが修了の要件である。

(5) グローバル文化学環

文化を越えた協働を実現するためのグローバル文化学についての所定の単位数を取得し､グローバル化の進む社会で求められる知識、スキル、倫理を習得することが修了の要件である。

○　理学部の学位授与の方針

１．学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部学士課程の修了を認める。

２．理学部各学科が定めた教育課程を履修し、人類の英知が蓄積された理学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、理学部学士課程の修了を認める。修了に際しては、卒業研究（数学講究もしくは特別研究）を行わなければならない。教員の指導のもとにテーマを選択し、自然科学の方法論に則って主体的に研究し、その成果を発表しなければならない。

(1) 数学科

①　学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部数学科学士課程の修了を認める。

②　学科が定めた教育課程を履修し、基礎的な数学的素養と論理的に問題を捉え解決する能力が身に付いていると判断するに足る十分な科目を修得できたものに数学講究の受講を認め、さらに、規定の単位数が取得できた上で最終試験に合格したものに学士課程の修了を認める。

(2) 物理学科

① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部物理学科学士課程の修了を認める。

② 学科が定めた教育課程を履修し、物理学の探求によって還元論的かつ多元的な観点を持って問題解決能力の向上を達成し、社会の各分野において活躍が期待できる人材に対して、学士課程の修了を認める。

(3) 化学科

① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部化学科学士課程の修了を認める。

② 学科が定めた教育課程を履修し、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連した化学の理論や知識を深く知り、さらに新たな謎に挑むための柔軟な思考力と優れた問題解決能力を身につけ、人類社会に対して多大な貢献が期待できる人材に対し、学士課程の修了を認める。

(4) 生物学科

① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部生物学科学士課程の修了を認める。

② 学科が定めた教育課程を履修し、「生き物」の複雑で多様な生命現象の理論や知識を深く知り、さらにより広く高度な応用的または先進的な知識、理解力、論理力、実践手法を身につけ、人間社会に、より豊かな知の財産を築ける人材に対し、学士課程の修了を認める。

(5) 情報科学科

① 学則の定める所定の修了条件を満たしたものに対して理学部情報科学科学士課程の修了を認める。

② 学科が定めた教育課程を履修し、プログラミングや数学等、情報科学の基礎知識と手法を広く学んだ上で、特定の数理領域もしくは応用領域において、科学的方法論に基づく情報科学の研究を経験し、学術的成果とそこで培った能力を広く社会に還元しうる人材に対し、学士課程の修了を認める。

○ 生活科学部の学位授与の方針

生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身につけ、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的としている。

課程を修了し学位が授与されるためには、学生には以下のことが要件として求められる。

1．生活科学部の学生は、所定の期間在学し、生活科学部履修規程に定められた科目群から所定の単位数を修得しなければならない。

2．学生は、教員の指導のもとに卒業論文のテーマを決定し、資料・データの収集を行い、学問の手法に則り、論理的な分析を行い、自ら卒業論文を完成することが求められる。卒業論文は、審査によって合格することが必要である。

(1) 食物栄養学科

生活者視点に立った食と健康の専門家、とくに食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた指導的人材の養成を目標としている。これを実現すべく、学科が定める栄養士免許取得および管理栄養士国家試験受験資格に必要な全単位を含む所定の単位を修得し、食品栄養科学分野に関する幅広い知識とその実践・応用能力を身につけたことが認められた者に、学位が授与される。

(2) 人間・環境科学科

生活者たる人間と環境との相互作用に関する理解を備えるとともに、生活面での諸課題に対して科学的手法を応用することで、人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる優秀な人材を養成することを目的とする。これを実現すべく、学科の教育理念・目標にそって設定された授業科目群を履修し、理工系の基礎学力を身につけ、所定の単位を修得した者に、学位が授与される。

(3) 人間生活学科

生活者の視点から、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し探求する力を備えた優秀な人材を養成することを目的としている。これを実現すべく、学科の教育理念・目標にそって設定された授業科目群を履修し、人文

社会科学系の基礎学力を身につけ、所定の単位を修得し者に学位が授与される。

（2）大学院博士前期課程の学位授与の方針

1．博士前期課程にあっては、所定の年限在学して、人間文化創成科学研究科が教育の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の要件である。さらに、修士論文の審査又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することが必須である。

2．博士前期課程にあっては、幅広い視野に立った学識を備え、専門分野における研究能力または高度な専門性を必要とする職業を担うために必要な能力を身につけていることが、課程修了の基準となる。

3．博士後期課程にあっては、所定の年限在学して基準となる単位数を修得し、人間文化創成科学研究科の教育理念と目的に沿った研究指導を受け、標準修業年限内に博士論文の審査及び最終試験に合格することが、課程修了の要件である。

4．博士後期課程にあっては、高度な専門研究や学際的総合研究のために必要な能力を身につけ、研究者として自立して研究活動を行い、あるいは高度な専門的業務に従事するために必要な能力と学識を身につけていることが、課程修了の基準となる。

○　比較社会文化学専攻の学位授与の方針

社会と文化に関する専門研究を真に高いレベルで構築することを目指すため、個々の分野における専門研究を展開する基礎となる充分な知識を習得し、さらに、横断領域的な研究視野を得るために必要な幅広い教養を具えることが要求される。このため、所定の単位を取得し、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけ、さらに修士論文の審査および最終試験に合格することが課程修了の必須要件となる。なお、本専攻では、修士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

(1) 日本語日本文学コース

上代から現代に至るいずれかの時代の日本文学、または日本語の歴史と体系について、学士課程で得られた知識を踏まえ、より本格的な研究方法を身につけていることが修了の要件である。

(2) アジア言語文化学コース

所定の年限在学して所定の単位を修得し、専門分野における研究実践能力を獲得することが、修了の要件となる。

(3) 英語圏・仏語圏言語文化学コース

所定の年限在学して所定の単位を修得することで、英語圏・仏語圏言語文化コース専門分野における専門知識と研究方法論を習得し、学術的な思想を正確に理解し発信できる研究能力を身につけ、さらに修士論文を提出して審査および最終試験に合格することを修了の要件とする。

(4) 日本語教育コース

日本語教育を中心に関連諸分野における学術研究のための確かな基礎、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力が着実に習得されていること、さらに修士論文を提出して審査および最終試験に合格することが修了の要件となる。

(5) 思想文化学コース

哲学、倫理学を研究するのに必要な基礎知識と専門知識を体系的に習得した上で、人間の文化に対する深い洞察力を身につけていることが修了の要件である。

(6) 歴史文化学コース

今後更に学問を志すにせよ、社会に出てその知識を活かすにせよ、その基礎となる歴史学や美術史学の高い専門知識と方法論、加えて幅広く豊かな学識を体得していることが求められるとともに、所定の年限在学し、所定の科目・単位数を修得することが修了の要件である。

(7) 生活文化学コース

生活と文化に関する幅広く深い学識を備え、専門分野における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための能力を習得していること、さらに真に豊かな生活への理解と実現に貢献できる能力を身につけていることが修了の要件となる。

(8) 舞踊・表現行動学コース

舞踊やスポーツなどの表現行動を理論的に分析するための高度な専門的能力と、幅広い教養と表現行動の実践に基づいた学際的で豊かな研究能力が着実に習得されていることが修了の要件となる。

(9) 音楽表現学コース

問題提起力・分析力・概念化能力・言語駆使能力や実技分野における技量など、高度な専門家としてのスキルを身につけ、そしてそれらを個々人として総合的にコーディネートして発信する能力が習得されていることが修了の要件となる。

○ 人間発達科学専攻の学位授与の方針

所定の年限以上在学して、人間発達科学専攻が研究と教育の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位を修得すること、および修士論文の審査と試験に合格することが学位取得の要件である。

修士論文については、主題に応じた適切な研究方法を用い、適切な論文の形式に則り、そのもとで適切な論述を行い、研究倫理の遵守に配慮し、当該の主題に関わる研究の進展に寄与し得る内容を含むことが求められる。なお本専攻では、修士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

(1) 教育科学コース

教育科学の専門諸領域の知見と方法によって、人間と教育のあり方についての豊かで創造的な思考力と研究能力、および高度な専門性を必要とする職業を担うことのできる優れた能力を身につけているかどうかが、課程修了の基準となる。

(2) 心理学コース

心理学における専門的な研究能力とともに、人間の心の問題を多次元的、総合的に分析できる能力を身につけ、心理学の高度な専門性を要する職業を担いうることが課程修了の基準となる。

(3) 発達臨床心理学コース

発達臨床心理学の基礎的な研究能力と臨床心理学の諸分野に応じた研究能力を有すること、ならびに高度な専門性をもった職業に対応できる能力と倫理意識を身につけることが課程修了の基準となる。

(4) 応用社会学コース

幅広い視野に立った学識を備え、社会学の基礎的な研究能力、ならびに社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーション、福祉、ジェンダーや格差など）を解明し得る能力を有することが、課程修了の基準となる。

(5) 保育・児童学コース

保育・児童学に関して幅広い視野に立った学識を備え、保育・児童学における研究能力、高度な専門性を要する職業を担いうる能力を身につけていることが課程修了の基準となる。

○ ジェンダー社会科学専攻の学位授与の方針

1．所定の年限以上在学し、所要の単位以上を修得し、必要な研究指導を受けることを学位授与の要件とする。

2．修士論文については、主指導、副指導教員による段階的指導を受け、年次ごとに定められた研究報告を行い、修士論文を完成し、修士論文審査基準に従い、①明確な問題意識のもとに、②適切な研究の目的・対象・方法・視座を設定し、③論文としての形式上の要件を満たすとともに、④研究倫理の遵守に配慮し、当該領域の研究の進展に寄与しうる十分な水準に達することが求められる。

なお本専攻では、修士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

(1) 生活政策学コース

市民生活や家族生活等に関する諸課題を、グローバルでジェンダー・センシティブな関心を基礎におきつつ、社会科学の理論と方法論をもって解明し、社会の諸問題の解明とその解決に寄与しうる専門的研究能力、あるいは高度な職業能力を身につけることが課程修了の基準となる。

(2) 地理環境学コース

現実社会の諸問題の解明と解決に寄与するため、グローバル、ナショナル、ローカルなどを結びつけた地理的マルチスケールでの視点を備えた専門的研究能力、あるいは国際協力、異文化理解、環境教育などの実践的な能力を身につけることが、課程修了の基準となる。

(3) 開発・ジェンダー論コース

グローバルな視野とジェンダー・センシティブな学識を備え、創造的な研究活動を通して国内外の諸問題の解明とその解決に寄与しうる専門的な研究能力、あるいは高度な職業能力を身につけることが、課程修了の基準となる。

○　ライフサイエンス専攻の学位授与の方針

1．ライフサイエンスの基礎から応用までを幅広く理解し、ライフサイエンスの諸分野における研究、または高度な専門性を必要とする職業を担いうる能力を身につけていることが課程修了に必要である。

2．所定の年限在学し、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。

以上の方針に基づき、各コースにおいて以下の要件を満たした者に学位を授与することとする。なお、本専攻では、修士（生活科学、理学、学術）の学位が取得できる。

(1) 生命科学コース

①　カリキュラム・ポリシーに沿って設定された科目を履修し、所定の単位を修得している。

②　複数の指導教員による指導の下で修士論文を作成し、修士論文発表会で発表し、合格する。

(2) 人間・環境科学コース

①　教育理念・目標にそって設定された授業科目群を履修し、所定の単位を修得している。

②　各々の研究分野における十分な理工系学力を身につけていること。また、生活に関連した問題に対する課題設定、解決方策の考案・実現、および、その発表能力を有している。

③　複数教員の指導のもと修士論文を作成し提出する。具体的な課題に対し、情報を収集・分析するとともに、実験や設計、もしくは解析などを通じて、その解決方策を提示し報告する。修士論文発表会においてその内容を発表し、教員による審査および最終試験に合格する。

(3) 食品栄養科学コース

①　食品栄養科学分野に関し、幅広い視野に立った学識を備え、専門分野における研究能力または高度な専門性を必要とする職業を担うために必要な能力を身につけている。

②　カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格する。

(4) 遺伝カウンセリングコース

①　カリキュラム・ポリシーに沿って設定された科目を履修し、所定の単位を修得している。

②　指定された医療機関における遺伝カウンセリング陪席実習について規定の出席をしている。

③　以下の条件をすべて満たす、特定の課題についての調査研究論文の提出をして最終試験に合格する。

a）遺伝カウンセリングの領域において、新規性、進歩性、有用性、独創性のいずれかが含まれた課題についての調査研究である。

b）十分な文献調査や研究動向調査がおこなわれている。
c）論文審査会において、調査研究内容を適切に発表し、質疑に正確に答えられる。
d）論文としての体裁が整っている。

○　理学専攻の学位授与の方針

数学、物理科学、化学・生物化学、情報科学の分野における、専門知識、研究手法を身につけるとのカリキュラム・ポリシーに照らして、専攻科目等の習得及び研究成果が基準を満たすことを判定するために、以下のディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれのコースで具体的な学位論文審査基準を定めている。なお、本専攻では、修士（理学、学術）の学位が取得できる。

(1) 数学コース

数学的素養の確立のための規定の科目の単位取得に加えて、専門分野における研究成果として得られた知識を学術的に集大成し論文の形にまとめて提出し、審査に合格したものに修士の学位取得を認める。

(2) 物理科学コース

規定の科目を履修することにより、その専門的な知識を習得することに加えて、物理科学的な手法を用いて行った研究結果を適切に考察することによりまとめた修士論文を提出し、審査に合格した者に修士の学位取得を認める。

(3) 化学・生物化学コース

当該分野の博士前期課程としてふさわしい学術的素養の習得のため、規定の科目の単位取得に加えて、専門分野における研究成果を学術的に集大成し論文の形にまとめて提出し、審査に合格した者に修士の学位取得を認める。

(4) 情報科学コース

自然科学分野の適切な方法を用い、的確な考察が提示されており、かつ情報科学の研究分野における研究の位置づけが示され、内容に十分な独自性が認められる研究成果をまとめた修士論文を提出し、修士論文発表会においてその内容を発表し、教員による審査および最終試験に合格した者に修士の学位取得を認める。

（3）大学院博士後期課程の学位授与の方針

○　比較社会文化学専攻の学位授与の方針

所定の在学年限と修得単位数を満たし、本専攻の教育理念と目的に沿った研究指導を受け、研究成果を審査のある学会等で口頭発表するほか、査読付きの論文を専攻で定めた基準以上発表し、在学期間年限内に博士論文の審査および最終試験に合格することが、課程修了の要件である。本専攻にあっては、研究者として自立して活動しあるいは高度な専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につけているばかりでなく、高い倫理性と強固な責任感をもって、自らの研究を遂行する能力を身につけているか否かも求められる。なお、本専攻では、博士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

(1) 国際日本学領域

国際的視野のもとに日本研究を進め、高度な専門性と豊かな学際的総合性をそなえた日本学を発信するに必要な、能力と学識を身につけていることが、修了の基準となる。

(2) 言語文化論領域

人文・言語科学系の学問を中心とした学術研究のための確かな基礎、国際的に通用する問題発見・解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力が着実に習得されていることが修了の要件となる。

(3) 比較社会論領域

いずれかの分野を軸とした高度な専門性と、豊かな学際的総合性をそなえた比較横断的な研究を発信するに必要な、能力と学識を身につけていることが、修了の基準となる。

(4) 表象芸術論領域

専門的かつ横断的に文化表象・表現に関する研究を進め、表象芸術論を人間理解・国際協力の媒介として社会に提言するのに必要な能力と学識を身につけていることが、修了の基準となる。

○　人間発達科学専攻の学位授与の方針

定められた年限在学して、当該領域の研究と教育の理念と目的に沿った研究指導を受け、かつ標準年限以内に博士論文の審査および試験に合格することが、課程修了の要件である。

本専攻では、博士論文の完成にむけて、年次ごとに定められた研究計画書、研究報告書を提出し、領域ごとに設定されるステージ制（教育ステージ、研究ステージ）のポイントを取得するなど、研究を計画的に進めることで、専門家としての能力を身につけることが必要である。博士論文では、博士論文審査基準に従い、①テーマ設定の適切性・明確性、②当該分野の学問的水準の理解と研究の位置づけ、③研究の独創性・発展可能性、④論文構成・論理展開・論述の妥当性、⑤研究倫理の自覚と遵守のそれぞれの点について、十分な水準に達することが求められる。本専攻では、博士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

本専攻では、人間と教育、心理、発達、社会等のあり方について、研究者として自立して活動し、高度な専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につけているだけでなく、高い倫理性と責任感をもって、自らの研究遂行能力を身につけているかも求められる。

(1) 教育科学領域

ステージ制で定められた必要条件を満たすとともに、研究者として自立して活動し、あるいは高度な専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につけているかどうかが、課程修了の目安となる。

(2) 心理学領域

ステージ制における必要要件を満たすとともに、心理学における高度な研究能力や、人間の心の問題に関する優れて多次元的、総合的な分析力を身につけ、自立した研究者として創造的な研究を推進できることが課程修了の基準となる。

(3) 発達臨床心理学領域

所定の年限在学し､別に定めるステージ制における必要条件を満たすとともに､発達臨床心理学における様々な研究能力を身につけていることが課程修了の要件となる。博士論文については、当該分野の発展に寄与する新たな視点を提供するとともに、その臨床的適用と限界についても述べられ、また、研究倫理についても十分な配慮のなされていることが求められる。

(4) 社会学・社会政策領域

ステージ制における必要条件を満たすとともに、グローバルな視野に立った学識を備え、自立的・創造的な研究活動を通して公共政策上の課題を含む社会の諸問題を解明し得る専門的研究能力を身につけることが、課程修了の基準となる。

(5) 保育・児童学領域

ステージ制における必要要件を満たすとともに、保育・児童学における高度な専門的研究あるいは学際的総合研究の能力を身につけ、研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的業務に従事できる能力と学識を身につけていることが、課程修了の基準となる。

○　ジェンダー学際研究専攻の学位授与の方針

(1) ジェンダー論領域

① 所定の年限以上在学し、所要の単位以上を修得し、必要な研究指導を受ける。

② 博士論文については、博士論文審査基準に従い、①新たな知見を提出し、当該研究分野の進歩や社会の発展に寄与するものであること、②当該研究分野、及び関連分野の先行研究が十分にレビューされ、これを踏まえた上で、自らが取り組む研究の意義や独創性が明示されていること、③学術論文として適切な形式であるとともに、結論が論理的に導き出されていること、④研究倫理の遵守に配慮し、当該領域の研究の進展に寄与しう

る十分な水準に達することが求められる。なお本専攻では、博士（人文科学、社会科学、生活科学、学術）の学位が取得できる。

○　ライフサイエンス専攻の学位授与の方針

１．ライフサイエンスの基礎から応用までを幅広く理解し、ライフサイエンスの諸分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担いうる能力を身につけていることが課程修了に必要である。

２．所定の年限在学し、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。

以上の方針に基づき、各領域において以下の要件を満たした者に学位を授与することとする。なお、本専攻では、博士（生活科学、理学、学術）の学位が取得できる。

⑴ 生命科学領域

①　カリキュラム・ポリシーに沿って設定された科目を履修し、所定の単位を修得している。

②　複数の指導教員による指導の下で博士論文を作成し、博士論文発表会で発表し、合格する。

⑵ 人間・環境科学領域

①　領域の教育理念・目標に沿った研究指導を受け、かつ、所定の単位を修得している。標準修業年限内に博士論文の審査および最終試験に合格する。

②　研究領域における十分な学力を身につけている。加えて、生活に関連した問題に対する課題設定、オリジナリティーや新規性に優れる解決方策の考案・実現の能力を有している。

③　学位論文においては、具体的現実的課題に対し、情報を収集・分析するとともに、実験や設計、解析などを通じて、その解決方策を提示し報告する。

⑶ 食品栄養科学領域

①　食品栄養科学に関する高度な専門研究や学際的総合研究のために必要な能力を身につけ、研究者として自立して研究活動を行い、あるいは高度な専門的業務に従事するために必要な能力と学識を身につけている。

②　領域のカリキュラム・ポリシーに沿って設定された科目を履修し、所定の単位を修得している。また、複数の指導教員による指導の下で博士論文を作成し、博士論文の審査に合格する。

⑷ 遺伝カウンセリング領域

①　領域のカリキュラム・ポリシーに沿って設定された科目を履修し、所定の単位を修得している。

②　認定遺伝カウンセラーとして資格を取得しており、実際の遺伝カウンセリングの基礎から応用までを幅広く理解し、実践でき、かつ遺伝カウンセリング実践の指導ができる。

③　遺伝カウンセリングの領域において研究者として自立でき、また研究面の指導的役割を担いうる能力を身につけている。

○　理学専攻の学位授与の方針

数学、物理科学、化学・生物化学、情報科学の分野における、専門知識、研究手法を身につけカリキュラム・ポリシーに照らして、専攻科目等の習得及び研究成果が基準を満たすことを判定するために、以下のディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれの領域で具体的な学位論文審査基準を定めている。なお、本専攻では、博士（理学、学術）の学位が取得できる。

⑴ 数学領域

数学の各専門分野における研究成果､あるいは､学際的分野の高度な研究成果を集大成して論文として提出し、審査に合格したものに博士の学位取得を認める。

⑵ 物理科学領域

物理学の各専門分野において、自らオリジナルかつ専門性の高い研究を行ない、国際的な審査つき学術雑誌などに公表できるレベルの研究成果をまとめて博士論文として提出し、審査に合格したものに博士の学位取得を認める。

(3) 化学・生物化学領域

化学・生物化学領域における各専門分野における研究成果、あるいは、学際的分野の高度な研究成果を集大成して論文として提出し、審査に合格したものに博士の学位取得を認める。

(4) 情報科学領域

現代の高度な情報科学を体系的に深く理解し、自立した研究者として情報科学の発展に貢献しうる能力または様々な領域に活用・応用しうる能力が習得されたと認められ、下記評価の観点のいずれかで優れた内容をもつものと認められるとき、博士論文として合格とする。

① 情報科学あるいは応用数学に関わる重要な新しい結果を示している。
② 当該研究領域を発展させる独創的な理論体系を作り上げている。
③ 情報科学または応用数学の独創的な応用を与えている。

（4）学部の必修科目、選択科目及び自由科目の区分ごとの必要単位修得数

①文教育学部

科目区分／学科別	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専門教育科目（必修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）				コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合ＬＡ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム										
人文科学科	18			16	2	44	20			28									124
言語文化学科	18			20	2	44	20			26									124
人間社会科学科	18			10	2	48	20			26									124
グローバル文化学環	18			18	2	44	20			26									124

②文教育学部

科目区分／学科別	必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合ＬＡ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康												
芸術・表現行動学科	18			10	2	20		28									124

③理学部

科目区分／学科別	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専門教育科目（必修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）				コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合ＬＡ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム									
数学科	30					60	20			14								124
物理学科	30					60	20			14								124
化学科	30					60	20			14								124
生物学科	30					60	20			14								124
情報科学科	30					60	20			14								124

④生活科学部

科目区分／学科別	必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専門教育科目（必修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）				コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合ＬＡ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム										
人間･環境科学科	30					60	20			14									124
人間生活学科	30					42	20			32									124

⑤生活科学部

科目区分／学科別	必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
	コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合ＬＡ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康												
食物栄養学科	30					101	4	28									138

（５）学部の成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

Ｓ（90 点以上）： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

Ａ（90 点未満～80 点以上）： 基本的な目標を十分に達成している。

Ｂ（80 点未満～70 点以上）： 基本的な目標を達成している。

Ｃ（70 点未満～60 点以上）： 基本的な目標を最低限度達成している。

Ｄ（60 点未満不合格）： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、Ｓ評価を評価対象者の 15%以内（履修者数が 10 人未満の場合は２名以下）に留めることを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はＤ（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

Ｓ＝95、Ａ＝85、Ｂ＝75、Ｃ＝65、Ｄ（不合格）＝55

② ＧＰＡ制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているＧＰＡ（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（ＧＰ）に置き換え、そのＧＰに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

ＧＰＡ制度は単位数という学習の「量」だけではなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。ＧＰＡにより、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を３つあげます。

１）学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が５段階のみであらわされ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

ＧＰＡでは科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

２）不合格を避け、しっかり履修

ＧＰＡの算定ではある科目が不合格になると、そのＧＰは０で、しかもＧＰＡ算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的なＧＰＡの値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が上書きされてあらためてＧＰＡ算定がなされます。

ともあれＧＰＡ制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

３）自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目のＧＰやＧＰＡ値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにＧＰＡ値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③　ＧＰＡの算定方法

ＧＰＡは、授業科目ごとの成績評価（100 点満点の素点評価 SS）をつぎに示した１）の算定方法でＧＰに置き換え、つぎに２）の算定方法で、そのＧＰに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

１）　ＧＰ＝（SS－55）／10　　ただし、ＧＰ＜0.5 はＧＰ＝0.0 とする。
SS は 100 点満点の素点評価

２）　ＧＰＡ＝（履修科目のＧＰ×当該科目の単位数）の総和　／　履修総単位数
・履修総単位数には不合格となった科目（ＧＰ＝０）の単位数も含まれる。

④　２つのＧＰＡ指標（f-general ＧＰＡと f-strict ＧＰＡ）の併用

本学ではＧＰＡの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict ＧＰＡと f-general ＧＰＡ（f-は functional の略）、２つの指標を併用します。

f-strict ＧＰＡは現在、多くの大学で採用されているＧＰＡと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学においてＧＰ（Ａ）の最高点を 4.0、合格域の最低点を 1.0 にしているのに対して、f-strict ＧＰ（Ａ）では最高点が 4.5、最低点が 0.5 になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いるＧＰＡとして f-strict ＧＰが点4.0以上の値(100点満点換算で95点以上)を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general ＧＰも用います。

一方、学内でＧＰＡを種々の用途に使う場合には（成績の全範囲について原成績を忠実に反映する）f-strict ＧＰ（Ａ）を用います。

⑤　ＧＰＡ算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥　成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともに f-strict ＧＰ（A）、f-general ＧＰ（A）両指標を併記します。

また、ＧＰＡ算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とＧＰＡ間の整合性を明白にします。

（6）大学院の修了要件

①　大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程の修了要件

博士前期課程の修了要件は、当該課程に 2 年以上在学し、所要の授業科目について 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該博士前期課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

②　大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程の修了要件

博士後期課程の修了要件は、当該課程に 3 年以上在学し、所要の授業科目について 10 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

（7）大学院の成績評価

成績の評価は、「A」（基本的な目標を十分に達成している）、「B」（基本的な目標を達成している）、「C」（基本的な目標を最低限度達成している）、「D」（基本的な目標を達成していない。再履修が必要である）の 4 種類の評語をもって表し、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。

（8）取得可能な学位

学　部

	学位	専攻分野の名称
文教育学部	学士	人文科学
理学部		理学
生活科学部		生活科学

大学院　人間文化創成科学研究科博士前期課程

	学位	専攻分野の名称
比較社会文化学専攻	修士	人文科学、社会科学、生活科学、学術
人間発達科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ジェンダー社会科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ライフサイエンス専攻		生活科学、理学、学術
理学専攻		理学、学術

大学院　人間文化研究科博士前期課程

	学位	専攻分野の名称
博士前期課程	修士	専攻分野に応じ　学術、人文科学、理学、社会科学 又は 生活科学

大学院　人間文化創成科学研究科博士後期課程

	学位	専攻分野の名称
比較社会文化学専攻	博士	人文科学、社会科学、生活科学、学術
人間発達科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ジェンダー学際研究専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ライフサイエンス専攻		生活科学、理学、学術
理学専攻		理学、学術

大学院　人間文化研究科博士後期課程

	学位	専攻分野の名称
博士後期課程	博士	専攻分野に応じ　学術、人文科学、理学、社会科学 又は 生活科学

（9）学位の授与数　　（H23 年度卒業生）

学部・研究科等名	学位名称	学位授与状況				
		学位区分				
		学士	修士	博士		
				課程博士	論文博士	博士合計
文教育学部	人文科学	237				
理学部	理学	137				
生活科学部	生活科学	140				
人間文化研究科	学術			1		1
	社会科学			4		4
	人文科学			9		9
	生活科学					
	理学			1		1
人間文化創成科学研究科	学術		7	4	1	5
	社会科学		30	5	3	8
	人文科学		76	2	8	10
	生活科学		24	3	1	4
	理学		92	15	3	18
大学総合計	学術	0	7	5	1	6
	社会科学	0	30	9	3	12
	人文科学	237	76	11	8	19
	生活科学	137	24	3	1	4
	理学	140	92	16	3	19
	合計	514	229	44	16	60

（１０）取得可能な資格関係

①　教育職員免許状

全ての学部・研究科（専攻）で取得することができ、学科・研究科（専攻）で学んだ専門科目を生かすことができます。具体的には以下のとおりです。

一種免許状

学部	学科	免許状の種類及び教科			
		中学校一種	高等学校一種	その他の免許状の種類	
文教育学部	人文科学科	社会	地理歴史 公民		
	言語文化学科 日本語・日本文学履修コース	国語	国語		
	中国語圏言語文化履修コース	中国語	中国語		
	英語圏言語文化履修コース	英語	英語		
	人間社会科学科　社会コース	社会	公民		
	小学校・幼稚園コース			小学校一種	幼稚園一種

	芸術・表現行動学科 舞踊教育学履修コース	保健体育	保健体育		
	音楽表現履修コース	音楽	音楽		
理学部	数学科	数学	数学		
	物理学科	理科	理科		
	化学科	理科	理科		
	生物学科	理科	理科		
	情報科学科　数学コース	数学	数学		
	情報コース		情報		
生活科学部	人間生活学科　家庭コース	家庭	家庭		
	食物栄養学科			栄養教諭一種	

専修免許状

研究科・課程	専攻		免許状の種類及び教科			
			中学校専修	高等学校専修	その他の免許状の種類	
大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程	比較社会文化学専攻					
		国語コース	国語	国語		
		中国語コース	中国語	中国語		
		英語コース	英語	英語		
		社会コース	社会	地理歴史 公民		
		保健体育コース	保健体育	保健体育		
		音楽コース	音楽	音楽		
		家庭コース	家庭	家庭		
	人間発達科学専攻		教育職員免許法 4 条第 5 項第 1 号に掲げる全ての教科(外国語は英語、中国語、フランス語に限る)	教育職員免許法 4 条第 5 項第 2 号に掲げる全ての教科(外国語は英語、中国語、フランス語に限る)	小学校専修	幼稚園専修
	ジェンダー社会科学専攻					
		社会コース	社会	地理歴史 公民		
		家庭コース	家庭	家庭		
	ライフサイエンス専攻					
		家庭コース	家庭	家庭		
		理科コース	理科	理科		
	理学専攻					
		理科コース	理科	理科		
		数学コース	数学	数学		
		情報コース		情報		

②博物館学芸員の資格取得

博物館学芸員の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法施行規則に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。したがって、資格の取得を希望する者は、低学年次から計画的に履修する必要があります。

博物館学芸員として就職する際には、本学が発行する卒業証明書及び学芸員の資格認定に関する科目の単位

修得証明書を任命権者（都道府県及び市町村の教育委員会等、博物館の管理機関）に提出する必要があります。

③社会教育主事の資格取得

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与える専門職員であり、地方公共団体の教育委員会の事務局に置かれています。資格を取得するには、低学年次から計画的に卒業に必要な単位を修得するほか、社会教育主事講習等規程に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。

学校教員（地域の人々との協働）、地方公務員、ＮＰＯ・ボランティア団体リーダー、企業内教育担当者として就職するときも、社会教育主事の資格とその中身は役立ちます。

④社会調査士の資格取得

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会が認定・発行する資格であり、社会調査に関する基礎的な知識・技能・相応の応用力と倫理観を習得したことを証明するものです。

資格取得には、社会調査協会が認定した機関・大学における標準カリキュラムの履修と、大学卒業が要件となります。また、社会調査士資格は、より上位の専門社会調査士の取得の要件となっています。

⑤栄養士の資格取得

栄養士の資格は､生活科学部食物栄養学科の必要な科目を取得(卒業に必要な履修単位 138 単位を取得)すると取得できます。

⑥食品衛生管理者および食品衛生監視員の国家試験受験資格

食品衛生管理者および食品衛生監視員は、以下の科目から 40 単位以上取得すると得られます。食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格は、必要な職種についたとき、その任につくことができる任用資格であり、特に証書は発行されません。

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
Ａ群	◎基礎有機化学	2	Ｅ群	◎代謝栄養学	2
化学関係	◎分析化学	2	関連科目	・食物学概論	2
	◎分析化学実験	2		◎病態栄養学	2
Ｂ群	◎生化学	2		・食品学	2
生物化学	◎細胞生化学	2		◎調理科学	2
	◎食品化学	2		・食品評価論	2
	◎食品化学実験	2		◎栄養学実験	2
Ｃ群	◎食品製造・保存学	2		・食物栄養学基礎演習	2
微生物学	◎食品微生物学	2		◎解剖生理学Ⅰ	2
	◎食品微生物学実験	1		◎解剖生理学Ⅱ	2
	◎食品製造・保存学実験	2		◎食品機能論	2
Ｄ群	◎食品衛生学	2		◎臨床医学総論	2
公衆衛生学	◎生活環境学	2		◎臨床医学各論Ⅰ	2
	◎公衆衛生学	2		◎臨床医学各論Ⅱ	2
				◎解剖生理学実験	1

◎は必修科目

⑦管理栄養士の国家試験受験資格

管理栄養士は､医療機関などで傷病者に対する栄養評価･判定に基づく専門的な病気療養のための栄養管理、保健所における健康増進を図るための専門的な栄養指導、および特定給食施設において利用者の栄養状態等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理などを行う専門職です。生活科学部食物栄養学科の必要な科目を修得(卒業に必要な履修単位 138 単位を修得)すると国家試験受験資格が与えられます。

⑧二級建築士の国家試験受験資格

建築物の設計、工事監理等の業務を行う専門職です。生活科学部人間・環境科学科の必要な科目を修得すると国家試験受験資格が与えられます。

７．校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。【担当：広報チーム】

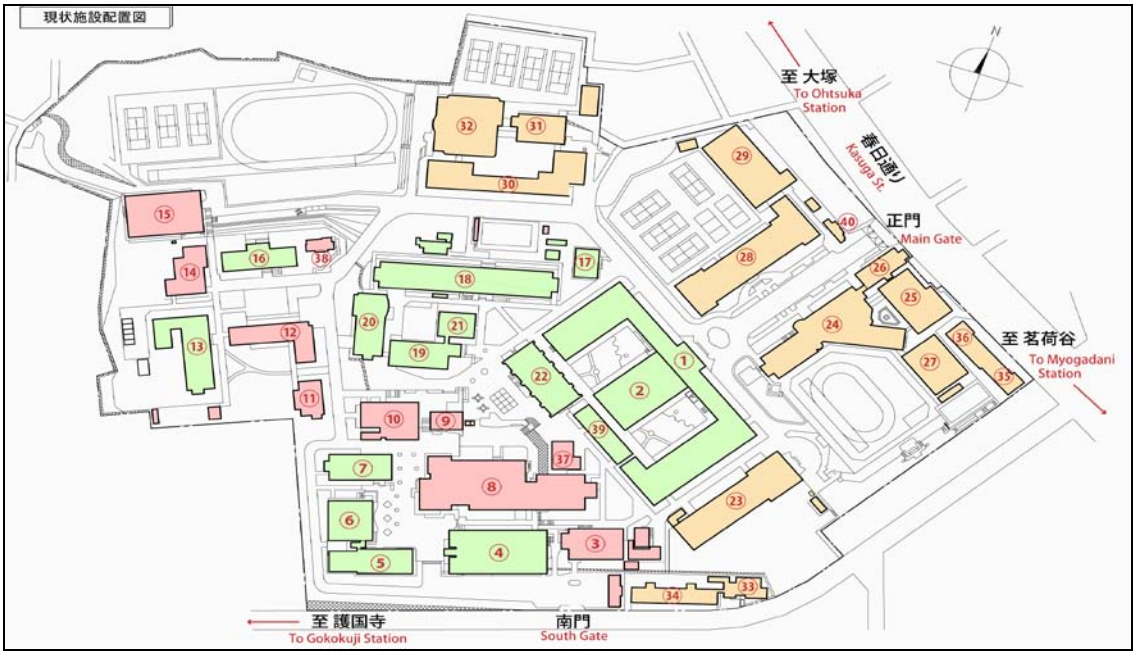
（１）所在地

区　　分	所　在　地	電話番号
学長室 総務機構 教育機構 国際・研究機構 学術・情報機構 文教育学部 理学部 生活科学部 大学院人間文化創成科学研究科 附属図書館 全学教育システム改革推進本部 国際本部 センター本部 男女共同参画推進本部 附属学校本部 知的財産本部 お茶大アカデミック・プロダクション	〒112-8610 東京都文京区大塚２丁目１番１号	ダイヤルイン局番 03-5978-5106
いずみナーサリー	〒112-0012 東京都文京区大塚２丁目１番 22 号	03-5978-5337
国際学生宿舎	〒173-0022 東京都板橋区仲町２番１号	03-3956-6870
小石川寮	〒112-0012 東京都文京区大塚１丁目６番６号	03-3944-2395
お茶大ＳＣＣ	〒112-0012 東京都文京区大塚１丁目６番６号	―
東村山郊外園	〒189-0012 東京都東村山市萩山町２丁目３番１号	―
湾岸生物教育研究センター	〒294-0301 千葉県館山市香 11 番地	0470-29-0838
館山野外教育施設		0470-29-0979
志賀高原体育運動場	〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 7149 番地	0269-34-2507

（２）主な交通手段・・・アクセスマップ等　【担当：広報チーム】

・東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩７分 、・東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩８分
・都営バス「大塚二丁目」停留所より徒歩１分

（3）キャンパス概要・・キャンパスマップ等　【担当：広報チーム】



1:大学本館　2:大学講堂(徽音堂)　3:学生センター棟　4:文教育学部 1 号館　5:共通講義棟 1 号館　6:共通講義棟 2 号館　7:共通講義棟 3 号館　8:附属図書館　9:保健管理センター　10:大学食堂　11:課外活動共用施設　12:学生会館　13:文教育学部 2 号館　14:課外活動団体談話室　15:大学体育館　16:人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟　17:ラジオアイソトープ実験センター　18:理学部 1 号館　19:理学部 2 号館　20:理学部 3 号館　21:情報基盤センター　22:総合研究棟　23:附属幼稚園　24:附属小学校第 1 校舎　25:附属小学校第 2 校舎　26:附属小学校第 3 校舎　27:附属小学校体育館　28:附属高等学校校舎　29:附属高等学校体育館　30:附属中学校第 1 校舎　31:附属中学校第 2 校舎　32:附属中学校体育館　33:いずみナーサリー　34:大塚宿舎　35:作楽会館　36:桜蔭会館　37:お茶大アカデミック・プロダクション研究棟　38:茶室 芳香庵　39:生活科学部本館 2　40:お茶大インフォメーションプラザ

（4）運動施設の概要・・運動施設の機能と規模　【担当：施設環境チーム】

名　　称	構造	建面積	延面積	施設等の概要
大学体育館	RC：2	927 ㎡	1,390 ㎡	大学の運動施設として利用
大学運動場	－	－	6,585 ㎡	大学の運動施設として利用
大学テニスコート	－	－	2,000 ㎡	３面、砂入人工芝である
附属小学校体育館	S：1	588 ㎡	615 ㎡	附属小学校の生徒が体育実習施設として利用
附属中学校体育館	RC：2	1,056 ㎡	1,493 ㎡	附属中学の生徒が体育実習施設として利用
附属高等学校体育館	S：1	1,004 ㎡	1,060 ㎡	附属高校の生徒が体育実習施設として利用
館山野外教育施設 館山宿舎	W：1 ３棟	277 ㎡ 51 ㎡	277 ㎡ 51 ㎡	施設は、千葉県館山市にあり、体育実習及び附属学校の校外教育施設として利用
志賀高原体育運動場管理棟 志賀高原体育運動場宿泊棟	RC：2 RC：3	177 ㎡ 164 ㎡	324 ㎡ 342 ㎡	施設は、長野県下高井郡山ノ井町にあり、体育実習及び附属学校の校外教育施設として利用

ＲＣ：鉄筋コンクリート造、　ＳＲＣ：鉄骨鉄筋コンクリート造、　Ｓ：鉄骨造、　Ｗ：木造

（5）休息など行える施設・・食堂、談話室等【担当：学生・キャリア支援チーム、図書・情報チーム】

①　附属図書館

平成 19 年 12 月 17 日に附属図書館 1 階にキャリアカフェをオープンしました。

このキャリアカフェは、コーヒーを片手に「リラックスできる知的空間、学生が主体となった知的コミュニケーション空間」を目指し設置されたものです。

また、平成 20 年 4 月からキャリアカフェ内に「キャリアカフェ文庫」を設置しました。「夢・キャリア・ライフワーク」「美しい日本語」「心を癒す」をテーマに図書館が選書した少し軽めの図書を置き、利用者の

自主管理による一夜貸しを行っています。こちらも学生に人気のコーナーになっています。

② 食　　堂

食堂の営業時間外（14 時～16 時３０分）を活用し、学生の休息のフロアーとして活用しています。

③ 学生会館

学生会館（大ホール）は、学生相互の親睦や学生の教養を高め、また課外活動を積極的に進め、学園生活を豊かにする場所として談話室を開放しています。

８．学生の教育研究環境に関すること。

（１）附属図書館の学習環境　　【担当：図書・情報チーム】

附属図書館は、共通講義棟、食堂、大学生協、保健管理センター等に隣接し、キャンパスで最も人通りが多く、学生にとってアクセスしやすい場所に立地しています。昭和 57 年 2 月竣工の建物は決して新しいとは言えませんが、近年、館内に大幅な改修を施し、居心地のいい学習空間と最先端の学術情報サービスを提供しています。来館者数は年々増加しており、平成 22 年度には年間総計 282,000 人を記録しました。平成 23 年度は節電等の影響で、やや減少しましたが、それでも 1 日当たり 1,000 人近い来館者があり、館外貸出冊数は続伸しています。

1）　基本情報

A：建物面積（平成 24 年 5 月 1 日現在）

名　　称	構　造	建面積	延面積
附属図書館	RC：3-1	1,837 ㎡	4,422 ㎡

B：利用状況（平成 23 年度）※平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響による臨時休館あり。

開館日数	入館者数	館外貸出冊数
264 日	261,504 人	37,138 冊

C：蔵書冊数（平成 24 年 5 月 1 日現在）

図書の冊数		所蔵雑誌の種類数	
和　　書	448,460 冊	和雑誌	7,443 種
洋　　書	209,399 冊	洋雑誌	2,617 種
計	657,859 冊	計	10,060 種

D：年間受入冊数（平成 23 年度）

年間受入図書冊数		年間受入雑誌の種類数	
和　　書	16,132 冊	和雑誌	2,426 種
洋　　書	2,575 冊	洋雑誌	654 種
計	18,707 冊	計	3,080 種

E：開館時間　※年末年始休館、蔵書点検のための部分休館などの定めあり。

	授業のある期間	授業のない期間
月～金	8:45～21:00 （資料の閲覧等は 9:00～）	8:45～17:00 （資料の閲覧等は 9:00～）
土	9:00～17:00	休館
日・祝日	休館	休館

F：貸出できる資料の冊数と期間

	図　書	視聴覚資料
学部 1～3 年生	10 冊、2 週間	3 点、1 週間
学部 4 年生、大学院生	20 冊、4 週間	
研究生等	10 冊、2 週間	

・　本学には、附属図書館のほかに学科・講座等にも 20 余りの図書室・資料室があります。上記Ｃ，Ｄの数値は学科・講座等図書室を含めたものです。附属図書館は本学の教育・研究基盤として、21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育を支える学習図書、基本的・学際的な研究図書を収集しており、約 36 万冊が配架されています。また、視聴覚資料、電子ジャーナル、電子ブック、各種データベースの整備にも努めています。学科・講座等の図書室は、それぞれの研究分野に応じた専門性の高い図書・雑誌等を収集しています。

・　【電子ジャーナル】Elsevier 社、Springer 社、Wiley-Blackwell 社の三大出版社をはじめ、American Chemical Society、American Physical Society、Oxford University Press、Nature、Science など、約 13,000 種の電

子ジャーナルを利用することができます。

・ 【電子ブック】和書・洋書あわせて、約 15,000 冊の電子ブックを利用することができます。

・ 【データベース】雑誌論文検索データベースの EBSCOhost、SciFinderScholar、SciverseSCOPUS、医中誌 Web、各種百科事典やハンドブックのオンライン版である GVRL（Gale Virtual Reference Library）、新聞記事データベースの「聞蔵Ⅱ」なども利用することができます。

2） 特徴的な施設と学習支援サービス

A：ラーニング・コモンズ（1 階）

本学のラーニング・コモンズは、平成 19 年 4 月、全国に先駆けて図書館 1 階南側スペース（約 150 ㎡）に設置されました。情報基盤センターの協力により、現在、約 70 台のパソコン（シンクライアント方式）とスキャナー機能付きネットワークカラープリンタが運用されています。全学統一認証システムを介し、持ち込みパソコンで無線 LAN を利用することもできます。

大学院生 TA がラーニング・アドバイザーとして常駐し、利用者の疑問に答えています。パソコンを使用する授業や、図書館が提供するリテラシー講習会にも活用されており、単なるパソコン利用スペースではなく、参加・協働する学習コミュニケーション空間として機能しています。

B：キャリアカフェ（1 階）

ラーニング・コモンズに隣接するキャリアカフェは、平成 19 年 12 月に開設されました。図書館エントランスホールの自販機で購入したコーヒーや持ち込みの飲み物を片手に「リラックスできる知的空間、学生が主体となった知的コミュニケーション空間」を目指し、設置されたものです。少人数のグループ学習に最適で、無線 LAN に接続したパソコンを囲み、熱い議論が交わされることもあります。可動性にすぐれた椅子・テーブルはレイアウトも自由自在で、学生主体のイベントに活用されています。楽しみながら、企画・運営力やプレゼンテーション能力が身につき、実践的なキャリア意識が育ちます。

さらに、キャリア支援センターによる就職セミナー、グローバル教育センターによる留学相談なども実施されており、さまざまな学生支援サービスをワンストップで利用できる場所になっています。

C：ラウンジ（1 階）

大きなテーブル、ゆったりしたソファでくつろげるラウンジには、当日の新聞、週刊誌、情報誌、お茶の水女子大学関連の広報資料などが配架されています。また、平成 22 年 5 月から、附属図書館と音楽表現コースの協働によるピアノコンサートが定期的に開催されています。使用されるピアノは、1920 年代にドイツで製作されたベヒシュタイン社製のもので、70 年以上にわたって本学附属学校で音楽教育を支えてきました。大学資料委員会は、本学に残る歴史的文物を保存するという目的から、この楽器を次の世代にも受け継ぐために、演奏可能な状態に復元したものです。

D：クワイエット・スタディスペース（2 階）

活気あふれる 1 階とは対照的に、図書館 2 階は静寂の中で学習に集中するための空間です。学生専用のノートパソコン自動貸出ロッカーも設置されています。

E：ノートパソコン自動貸出ロッカー（2 階）

平成 22 年 4 月には、クワイエット・スタディスペースに学生専用のノートパソコン自動貸出ロッカーが設置されました。40 台のノートパソコンが準備されており、いつでもパソコンを借り出して、当日に限り図書館内で利用することができます。好評のため、平成 24 年 3 月には、さらに貸出ロッカーを増設し、閲覧スペース内でのみ利用できるノートパソコン 34 台の提供を開始しました。

F：視聴覚コーナー（2 階）

視聴覚コーナーでは、図書館所蔵のビデオテープ、DVD、CD 等の視聴覚資料を利用することができます。一部貸出可能な資料もあります。また、学習・研究に必要な視聴覚資料を持ち込んで、ここで視聴することもできます。

3） 附属図書館が提供する学習・研究支援サービス

A：レファレンスサービス

図書館 2 階のレファレンスカウンターでは、図書館の利用に関する質問・相談、学外への文献複写・図書借用申込み、紹介状の発行などを受け付けています。中でも特筆すべきサービスは、学生に対し、文献複写の取り寄せを無料で実施していることです。図書借用の場合は、片道分の送料が無料になります。

B：リテラシー講習会

図書館は、学習・研究をサポートするさまざまな講習会を企画・開催しています。「リテラシー」とは、図書館の資料や電子リソース、データベースなどを使いこなす力のことを言います。

情報探索講習会「図書館を使いこなそう！」は、年 2 回、6 月と 10 月に、3 週間から 1 ヶ月にわたり、30～40 分の講習会を 1 日 2 コマないし 3 コマ、集中的に開催するプログラムです。各回の参加人数は 3～4 人で、短時間で効率よく学習したい利用者に向いています。「オーダーメイド講習会」は、授業やゼミ、研究室等のグループ単位の申し込みに対応しています。時間や内容は要望に応じてアレンジしますので、専攻分野や関心に即した内容をじっくり深く学習することができます。

C：LiSA（Library Student Assistant）プログラム

平成 19 年 11 月より始まった、図書館スタッフと学生の協働による図書館活性化プロラムです。半年を 1 期とし、図書館に関心をもつ学生を募集し、図書館スタッフの指導・助言のもと、図書の装備、カウンター業務の補助、機関リポジトリのデータ入力など、さまざまな業務を体験してもらいます。時には、学生の側から積極的に、資料展示や図書館ツアーなど自主企画の提案も行われます。多様な図書館資料に触れることにより、積極的な学習意欲を喚起すること、他者をサポートする体験を通じて、実践的なキャリア意識の形成を図ることを目標としています。

D：教育・研究成果コレクション TeaPot（機関リポジトリ）

お茶の水女子大学の教育・研究成果を蓄積・発信する機関リポジトリは、平成 19 年 4 月に正式公開されました。本学の名前にちなんだ「TeaPot」の愛称で親しまれています。雑誌『幼児の教育』の初号からの電子化公開、舞踊教育学コースの創作舞踊公演の動画など特徴的なコンテンツに加え、本学の学部・学科・センター等が発行する紀要雑誌の目次情報と本文の公開にも努めています。平成 23 年度末の累計登録件数は 34,209 件となりました。大学または附属図書館のトップページからアクセスできます。

http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/

キャリアカフェ（1 階）

ラーニングコモンズ（リテラシー講習会）

TeaPot 画面

（2）課外活動の状況　【担当：学生・キャリア支援チーム】

平成23年度　サークル一覧

サークル名	顧問教員	部員数	部員構成（内訳）				活動場所	活動日	活動内容
			文教	理	生活	大学院			
美術部	小谷　眞男	32	18	4	10	0	部室、陶芸小屋	絵画：隔週水・木　17：00～18：00 陶芸：火・金　17:00～20：30	個人製作を主として活動する。他大学合同展覧会。
裏千家茶道部	荻原　千鶴	37	15	6	15	1	茶室（芳香庵）	水・木　15:00～19:00	茶道の稽古、茶会の開催、合宿。
表千家茶道部	香西　みどり	16	7	8	0	1	学館和室、茶室（芳香庵）	月　17：00～21：00　火　17:00～21:00	点前の稽古、作法の稽古、歴史・道具等の勉強会、茶会行事準備。
華道部	近藤　敏啓	14	7	3	3	1	新サ　和室１，２	火・　12:00～17:00	お稽古、マルシェと徽音堂の生け花、行事での生け花、留学生に教える。
写真部	大塚　常樹	22	12	5	4	1	新サ１階　暗室、器具庫	火　12:10～13:20	週に一度の部会で写真・展示会などについて話し合い、連絡を行う。
囲碁部	宮尾　正樹	4	1		1	2	学館１階ロビー	火・金　17:30～21：00	碁を通じてのコミュニケーションと各種大会への参加、棋力の向上をはかる
箏曲部	荻原　千鶴	11	8	2	1	0	新サ１階和室、3階和練室	水　12：00～21：00	個人レッスン、個人練習。合宿、定期演奏会など。
ギター部	古瀬　奈津子	17	8	5	4	0	新サ　2階　集会室	火　17:00～21:00	演奏会に向けた練習。ジョイントコンサート、独奏会、定期演奏会
ピアノ班	浅田　徹	29	12	12	4	1	学館ホール　新サ３階		平時は個人で練習。定演、七夕コンサート、ピアノ喫茶など。
お茶の水管弦楽団	秋山　光文	69	34	16	19	0	新サ　集会室、大練習室等	水　18:00～21:00・土　14：00～17：00	5月、11月の定期演奏会、徽音祭での音楽喫茶
白ばら会合唱団	香西　みどり	29	14	9	6	0	新サ棟	水　18:00～20:00　土　13：00～17：00	徽音祭での発表、12月定期演奏会
緑会合唱団	浅田　徹	28	10	8	6	4	学館ホール　新サ３階	月・木　17：00～20：00	12月定期演奏会、徽音祭での演奏会
オレンジマニア	ﾛﾄﾞﾙﾌ・ﾃﾞｨｵ	72	26	23	22	1	新サ３階　集会室、大練	各バンドの都合のよい時間	新歓ライブ、新人ライブ、徽音祭ライブ、クリスマスライブなど
Ｅ・Ｓ・Ｓ	野口　徹	33	20	8	5	0	学生会館、共通講義棟	月・木　12：30～13：10	ディスカッション大会参加、ショートドラマ作成
漫画研究会	新井　由紀夫	37	24	8	5	0	新サ２階　部室	月　昼休み部会	年２回部誌発行，コミックマーケット・徽音祭への出店、パネル展
ＳＦ研究会	浅田　徹	7	5	2	0	0	学館	水　昼休み打合せ	年２回部誌発行　部誌の品評会
狂言研究会	市古　夏生	13	9	0	0	4	学館２階　和室	火　17:00～21:00	6大学合同狂言発表会「蝉の会」開催。自演会。
考古学研究会	鷹野　光行	6	5	0	0	1	文２・3階博物館学資料室	水　昼休み	週1回討論会、一日巡検（不定期）、発掘・調査旅行
児童文化研究会しいのみ	伊藤　亜矢子	38	7	2	29	0	公園、千石図書館	第３日曜　公園、第4土曜　読み聞かせ	子どもと触れ合う。公園で遊ぶ、キャンプ、合宿、読み聞かせ
氷川下こども会	井原　成男	4	3	0	1	0	窪町公園他	木　家庭訪問　　土　公園で交流	子供の家庭を訪問、公園で遊ぶ、ハイキング、キャンプ
劇工舎プリズム	三浦　徹	19	7	7	5	0	学生会館	平日　18:00～21:00、土日　14:00～17:00	年２回の本公演、3月新人公演
ﾐｭｰｼﾞｶﾙｶﾝﾊﾟﾆｰMMG	三輪　建二	12	9	2	1	0	学館ﾎｰﾙ、№５・６　新サ大練	平日　17：00～21：00・ 土　13：00～21：00もしくは10:00～17:00	基礎練と本稽古を主とする。年２回公演，合宿
文芸サークル青い花	大塚　常樹	9	7	1	0	1	学館1階	金　昼休み	年４回文芸誌発行
百人一首同好会	浅田　徹	18	5	6	4	3	新サ　１階和室	月17-21　他　東大駒場他	競技カルタの練習および大会参加
国際ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟｻﾎﾟｰﾄｻｰｸﾙ	大瀧　雅寛	17	14	2	1	0	学外	金　19：00～21：00	団IAESTEの日本支部における学生ボランティア
日本舞踊研究班	市古　夏生	9	6	2	0	1	新サ　１階和室	金　12:30～17:00	徽音祭で発表会「秋の温習会」
Ochas	赤松　利恵	99	0	0	99	0	本館128、209	昼休みにミーティング	食と栄養に関する実践活動、日本栄養・食糧学会出展、懇親会等
硬式庭球部	杉山　進	5	4	1	0	0	テニスコート	水15:00～17:00、土又は日９：00～12：00	春関、国公立戦、夏関、新進など出場
バレーボール部	新名　謙二	10	6	1	3	0	体育館	月･水･金　17:00～20:30	春･秋リーグ戦、国公立戦、奈良女子大学戦など
バスケットボール部	杉山　進	9	3	5	1	0	体育館	月･水･金17:00～21:00、日13：00～17：00	リーグ戦、国公立戦、奈良女子大学交流戦など
弓道部	佐々木　泰子	25	12	6	7	0	弓道場	水　17:00～18:30、土　９：00～13：00	リーグ戦、国公立戦、他校との練習試合など
バドミントン部	新名　謙二	19	4	9	4	2	体育館	火・木　17:00～20:00、土13：00～16：00	リーグ戦、国公立戦、理工系戦、三多摩戦など
陸上競技部	杉山　進	11	7	2	2	0	グランド	火・金　17:00～	春・秋オープン、国公立戦など
アーチェリー部	久保田　紀久枝	1	0	1	0	0	弓道場	土　15:30～18:30	アーチェリーの練習及び大会への出場
フィギュアスケート部	近藤　恵	16	4	6	6		高田馬場シチズンアイススケートリンク	火・木　18:00～20:00	競技会、交流戦、新人戦などへの出場
剣道部	杉山　進	9	6	2	0	1	講談社野間道場	月・水・金　18:00～20：00	各種大会に参加、他大学との合同稽古など
テクテク	小林　誠	16	10	0	6	0	学館1階	木　12：20　お弁当会	週末山行、レク。出版活動。
モダンダンス部	猪崎　弥生	36	36	0	0	0	体育館ﾀﾞﾝｽ室　他	不定期	アーティスティックムーブメント、関東学生舞踊連盟発表会参加など。
民族舞踊研究会	中村　美奈子	9	3	4	2	0	学館１階　ホール、新サ大練	火・木18：00～20：00、土10：00～13：00	各国の民族舞踊/フォークダンスの習得。徽音祭での発表など
サイクリング部	香西　みどり	6	3	1	2	0	新サ2階	土日	ツーリング班、サイクルボール班、レーサー班に分かれて活動
山岳愛好会　雷鳥	安田　次郎	3	1	1	0	1	新サ2階	水　19:00～	月2回程度の山行、夏合宿
合氣道部	杉山　進	15	10	4	1	0	体育館	月・木18：30～21：00、土10：00～12：30	年２回演武会に参加、他大学との合同稽古
ＬＢＪスキーチーム	奥村　剛	7	4	2	1	0	代々木公園	土　14：00～18：00	合宿、スキー大会出場
空手部	神田　由築	8	0	2	0	6	体育館	火・木　17:30～19:00	審査、技術講習会、大会参加
ジャズダンスサークルflow	太田　裕治	65	30	20	15	0	学館ホール、体育館	月　17:30～21:00、土　13:00～15:00	ジャズダンス技術の習得。合宿、9大学合同練習会、コンテストなど
27		701	293	141	245	22			
18		270	143	67	50	10			
45		971	436	208	295	32			

（3）学部学科、大学院の学習環境【ファカルティー支援チーム】

1）学部学科

	学部学科等	学習環境の状況				
		学生控え室の有無	図書室の有無	学生用ﾊﾟｿｺﾝの有無	個人ロッカーの有無	その他、各学科等の状況
文教育学部	人文科学科					
	哲学・倫理学・美術史ｺｰｽ	有(文 1-620)	有(文 1-619)	有(1 台)	有(文 1-620)	
	比較歴史学コース	有(文 1-612)	有(文 1-612)	有(10 台)	有(文 1-612)	他、図書室(文 1-613)
	地理学コース	有(文 1-717)	有(文 1-709)	有(21 台)	有(文 1-717)	地図室、計算機室、地学標本室など有
	言語文化学科					
	日本語・日本文学コース	有(文 1-523)	有(文 1-522)	有(3 台)	有(文 1-523)	
	中国語圏言語文化コース	有(文 1-417)	有(文 1-413)	有(4 台)	有(文 1-417)	学習、休憩のｽﾍﾟｰｽあり。
	英語圏言語文化コース	有(文 1-818)	有(文 1-420)	有(3 台)	有(文 1-818)	他、図書室(文 1-421)
	仏語圏言語文化コース	有(共 3-405)	有(共 3-206)	有(1 台)	有(共 3)	
	人間社会科学科					
	社会学コース	有(文 1-821)	有(文 1-616)	有(10 台)	有(文 1-821)	控室ﾊﾟｿｺﾝ、ﾛｯｶｰは教育科学ｺｰｽと共同
	教育科学コース	有(文 1-821)	有(文 1-218)	有(10 台)	有(文 1-821)	AA が学生の学習、アドバイスを支援
	心理学コース	有(文 1-227)	有(文 1-812)	有(9 台)	有(文 1-227)	ﾊﾟｿｺﾝは院生と共通
	芸術・表現行動学科					
	舞踊教育学コース	有(文 2-207)	有(文 2-213)	有(4 台)	有(文 2-207)	ﾊﾟｿｺﾝは院生と共通
	音楽表現コース	有(文 2-207)	有(文 2-109)	有(2 台)	有(文 2-207)	個人用ピアノ練習室 10 室有
	グローバル文化学環	有(文 1-305)	有(文 1-708)	有(6 台)	有(文 1-305)	
理学部	数学科	有(理 1-618)	有(理 1-602)	有(7 台)	有(理 1-618)	他、控室-理 1-622,628,632,641 など
	物理学科	有(理 1-218)	有(理 1-601)	有(76 台)	有(理 1-218)	4 年次配属先研究室にて,机,ﾛｯｶｰ, ﾊﾟｿｺﾝを配分。ﾊﾟｿｺﾝは大学院生と共有含。
	化学科	有(理 1-418)	有(理 1-601)	有(20 台)	有(理 1-玄関)	
	生物学科	有(理 1-518)	無	有(57 台)	有(理 1-518)	他、ロッカー室(理 1-1 階)
	情報科学科	有(理 3-604)	有(理 3-501)	有(50 台)	有(理 3-604)	他、控室 4 年には研究室で机を用意
生活科学部	食物栄養学科	有(総-405)	有(本-208)	有(27 台)	有(生 2-164)	他、控室(総-504)、 図書室(生-266)
	人間・環境科学科	有	無	有(3 台)	有(生 2-164)	
	人間生活学科					
	発達臨床心理学講座	無	有(本-331)	有(2 台)	有(生 2-163)	
	生活社会科学講座	無	有(本館-303)	有(12 台)	有(生 2-161)	他、図書室(本館 305,310,315 など)
	生活文化学講座	有(本館-321)	有(本館-329)	有(6 台)	有(生 2-162)	

2）大学院

	学部学科等	学習環境の状況				
		学生控え室の有無	図書室の有無	学生用ﾊﾟｿｺﾝの有無	個人ロッカーの有無	その他、各学科等の状況
博士前期課程	比較社会文化学専攻					
	日本語日本文学コース	有(文 1-501)	有(文 1-523)	有(4 台)	有(文 1-524)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	アジア言語文化学コース	有(文 1-417)	有(文 1-413)	有(4 台)	有(文 1-417)	他、図書室-文 1-414
	英語圏言語文化学コース	有(文 1-815)	有(文 1-420)	有(3 台)	有(文 1-815)	他、図書室-文 1-421、ﾊﾟｿｺﾝは共用
	仏語圏言語文化学コース	有(共 3-405)	有(共 3-206)	有(1 台)	有(共 3)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	日本語教育コース	有(文 2-102)	有(文 2-103)	有(1 台)	有(文 2-102)	図書室は助手室と共用
	思想文化学コース	有(文 1-620)	有(文 1-619)	有(1 台)	有(文 1-620)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	歴史文化学コース	有(文 1-805)	有(文 1-613)	有(10 台)	有(文 1-805)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	生活文化学コース	有(本館-324)	有(本館-329)	有(6 台)	有(本館-324)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	舞踊・表現行動学コース	有(文 2-215)	有(文 2-舞踊)	有(4 台)	有(文 2-215)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	音楽表現学コース	有(文 2-112)	有(文 2-109)	有(2 台)	有(文 2-207)	他、控室-文 2-207、ﾊﾟｿｺﾝは共用

博士後期課程	人間発達科学専攻					
	教育科学コース	有(文 1-713)	有(文 1-213)	有(18 台)	有(文 1-713)	控室、ﾊﾟｿｺﾝは共用
	心理学コース	無	有(文 1-812)	有(47 台)	有(文 1-223, 818,801,224 生本 2-262-2)	図書室、ﾊﾟｿｺﾝは共用
	発達臨床心理学コース	有(本館-129)	有(本館-331)	有(20 台)	有(本館-129)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	応用社会学コース	有(文 1-713)	有(文 1-616)	有(17 台)	有(文 1-713)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	保育・児童学コース	有(生 2-261-1)	有(本館-331)	有(6 台)	有(生 2-261-1)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	ジェンダー社会科学専攻					
	生活政策学コース	有(本館-319)	有(本館-303 305,315, 318)	有(10 台)	有(本館-319) 有(文 1-701)	他に、図書室-本館-305,310,315 など
	地理環境学コース	有(文 1-701)	有(文 1-709)	有(20 台)		他、地図室,計算機室,地学標本室等有 ﾊﾟｿｺﾝは共有
	開発・ジェンダー論ｺｰｽ	有(生本 2-261)	無	有(5 台)	有(生本 2-261)	ﾊﾟｿｺﾝ、机、椅子は共用
	ライフサイエンス専攻					
	生命科学コース	有(理 1-518)	有(理 1-601)	有(53 台)	有(理 1-518)	ﾊﾟｿｺﾝは各教員が学生用に用意
	人間・環境科学コース	無	無	有(20 台)	無	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	食品栄養科学コース	有(総-405)	有(本-208)	有(28 台)	有(配属研究室	他に、控室-総-504、食品ライブラリー-生-201
	遺伝カウンセリングｺｰｽ	有(共 3-502)	有(共 3-502)	有(4 台)	有(共 3-502)	
	理学専攻					
	数学コース	有(理 2-606)	有(理 1-602)	有(10 台)	無	他、控室-理 2-607、理 1-641
	物理科学コース	有(各研究室)	有(理 1-601)	有(76 台)	有(各研究室)	ﾊﾟｿｺﾝは学部生との共有を含む。
	化学・生物化学コース	有(理 1-418)	有(理 1-601)	有(20 台)	有(理 1-3,4)	ﾊﾟｿｺﾝは共有
	情報科学コース	有(全 12 室)	有(理 3-501)	有(160 台)	有(各研究室)	ﾊﾟｿｺﾝは共有
	比較社会文化学専攻					
	国際日本学領域	有(文 1-620)	有(文 1-523, 619)	有(6 台)	有(文 1-620)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	言語文化論領域	有(文 1-815 共 3-405)	有(文 1-420 共 3-206)	有(9 台)	有(文 1-815 共 3)	他、控室-文 1-417,図書-文 1-421,413
	比較社会論領域	有(文 1-805 文 2-215)	有(文 1-613 文 2-舞踊)	有(9 台)	有(文 1-805 文 2-215)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	表象芸術論領域	有(本館-324, 文 2-215)	有(本館-329, 文 2-舞踊 109	有(6 台)	有(本館-324, 文 2-215)	ﾊﾟｿｺﾝは共用 他、控室-文 2-112,207、ﾊﾟｿｺﾝは共用
	人間発達科学専攻					
	教育科学領域	有(文 2-307)	有(文 1-213)	有(18 台)	無	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	心理学領域	無	有(文 1-812)	有(47 台)	有(文 1-223, 818,801,224 生本 2-262-2)	図書室、ﾊﾟｿｺﾝは共用
	発達臨床心理学領域	有(本館-129)	有(本館-331)	有(20 台)	有(本館-129)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	社会学・社会政策領域	有(文 1-713, 本館-312 等)	有(文 1-616, 本館 303 等)	有(23 台)	有(文 1-713, 本館 312 等)	ﾊﾟｿｺﾝは共用
	保育・児童学領域	有(生 2-261-2)	無	有(6 台)	有(生 2-261-2)	ﾊﾟｿｺﾝは共用

ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域	有(学生ｾﾝﾀｰ ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ研究ｾﾝﾀｰ内,本館 312, 313, 文 1-701,生 2-261)	有(本館-303, 305,310,315, 318,208, 文 1-709)	有(9 台)	有(学生ｾﾝﾀｰｹﾞｼﾞｪﾝﾀﾞｰ研究ｾﾝﾀｰ内,本館 312, 文 1-701)	ﾊﾟｿｺﾝは共用、ただし、学生ｾﾝﾀｰｼﾞｪﾝﾀﾞｰ研究ｾﾝﾀｰ内の控室とﾛｯｶｰは 6 月まで(ｾﾝﾀｰの移転)、文 1-701,生 2-261 は、博士前期課程ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会科学専攻地理環境学ｺｰｽ、同開発･ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ論ｺｰｽの控室の一部ｽﾍﾟｰｽを使用
ライフサイエンス専攻					
生命科学領域	有(理 1-518)	有(理 1-601)	有(53 台)	有(理 1-518)	ﾊﾟｿｺﾝは共有、各教員が学生用に用意
人間・環境科学領域	無	無	有(20 台)	無	ﾊﾟｿｺﾝは共有
食品栄養科学領域	有(総-405)	有(本館-208)	有(28 台)	有(配属研究室	他に、控室(総-504)、食育ライブラリー(生-201)
遺伝カウンセリング領域	有(共 3-204)	有(共 3-502)	有(4 台)	有(共 3-502)	ﾊﾟｿｺﾝは共有
理学専攻					
数学領域	有(理 2-502)	有(理 1-602)	有(2 台)	無	
物理科学領域	有(各研究室)	有(理 1-610)	有(76 台)	有(各研究室)	ﾊﾟｿｺﾝは学部生との共有を含む。
化学・生物化学領域	有(理 1-418)	有(理 1-601)	有(20 台)	有(理 1-3,4)	ﾊﾟｿｺﾝは共有
情報科学領域	有(各研究室)	有(理 3-501)	有(160 台)	有(各研究室)	ﾊﾟｿｺﾝは共有

注１）文＝文教育学部、 理＝理学部、 生＝生活科学部、 本館＝大学本館、 生＝生活科学部、 学生セ＝学生センター棟
共＝共通講義棟、 総＝総合研究棟、生本 2＝生活科学部本館 2

注２）控え室・図書室・パソコン・ロッカーの学習環境は、学部と大学院が分かれておりませんので、共有して使用しています。また、上記に示したパソコンの台数も、重複して計上しております。

（4）情報教育の学習環境

情報教育環境整備では、学部・学科等で保有しているパソコンとは別に学生が利用できるコンピュータとして、IT ルーム等に約 250 台のパソコンを設置しています。すべての学生に、メールアドレスとともにユーザアカウントが配付され、電子メールや学内のコンピュータ、無線 LAN 等を利用できます。

キャンパス内には、インターネットを利用できる認証ネットワークのポートや無線 LAN のアクセスポイントが随所に設置されており、セキュリティに配慮した環境で、安全にインターネットが利用できます。

９．授業料、入学料等に関すること。

（１）授業料等費用【経理チーム、施設環境チーム、学生・キャリア支援チーム、ファカルティ支援チーム】

徴収の種類	金　　額（単位：円）	納入時期・目的など
授業料	年間　535,800 （前期 267,900、　後期 267,900）	口座振替　前期 4 月下旬,後期 10 月下旬 銀行振込　前期 5 月末日,後期 11 月末日
入学料	1 年生 282,000	銀行振込　入学手続き時
寄宿料		
国際学生宿舎寄宿料	1 ヶ月　　4,700	毎月 20 日までに納付
小石川寮寄宿料	1 ヶ月　　4,300	毎月 20 日までに納付
お茶大 SCC （Students Community Commons）	1 ヶ月　 30,000	毎月 20 日までに納付
寮の諸経費		
電気料、水道料、ガス料、消耗品等の費用	国際学生宿舎寄宿料 1 ヶ月　　平均 9,000～15,000 小石川寮寄宿料 1 ヶ月　　平均 9,000～11,000 お茶大 SCC 寄宿料 1 ヶ月　　平均 3,000～ 5,000	毎月○日までに納付 ○居室で使用する電気その他寮生の私生活のために使用する電気料金 ○補食室、洗面・洗濯室、浴室、便所で使用する水道料金 ○寮生の洗面、洗濯、入浴及び補食のために使用するガス料金

教材購入費		学生の自己負担額（有無及び予算）		内　　容　　等
文教育学部	人文科学科			
	哲学・倫理学・美術史コース	調査研究費	40,000～60,000	日本倫理思想史研究「ゼミ旅行費」
		調査研究費	40,000～60,000	日本美術史研修旅行
	比較歴史学コース	教材実験実習費	8,000～24,000	歩いて学ぶ比較歴史実習費
		調査旅行費	12,500～14,000	コース旅行費
		調査旅行費	50,000	歴史現地調査Ⅰ・Ⅱ
	地理学コース	調査旅行費	20,000～30,000	地理学ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸA
		調査旅行費	10,000 程度	地理学ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸB
	言語文化学科			
	日本語・日本文学コース	調査旅行費	35,000～45,000	3 年生研修旅行費
	中国語圏言語文化コース	無		
	英語圏言語文化コース	無		
	仏語圏言語文化コース	無		
	人間社会科学科			
	社会学コース	調査旅行費	11,000 程度	現代社会論演習Ⅰ「ゼミ合宿費」（任意）
	教育科学コース	調査旅行費	10,000 程度	教育実地研究旅費(1 年次)
		調査旅行費	1,000 程度	教育科学研究指導Ⅰ(3 年次宿泊費補助有)
	心理学コース	無		
	芸術・表現行動学科			
	舞踊教育学コース	調査旅行費	15,000	ｽｷｰ実習参加費
	音楽表現コース	教材実験実習費（6 種類）	18,970	西洋音楽史,比較音楽文化論,作曲原論等
	グローバル文化学環	教材実験実習費	5,000	地域研究実習Ⅰ「4 回、交通費・入場料」
		調査旅行費	25,000	地域研究実習Ⅱ、Ⅲ
		調査旅行費	8,000	平和構築論Ⅱ「ゼミ合宿費」
		調査旅行費	80,000	多文化交流実習ⅢⅣ
		調査旅行費	150,000	国際協力実習Ⅰ～Ⅲ(隔年)

理学部	数学科	無	
	物理学科	無	
	化学科	調査旅行費　2,000	22 年化学科研修会
		実験実習費　2,000	化学専門課程実験実習科目(6 科目 18 単位)
	生物学科	無	
	情報科学科	無	
生活科学部	食物栄養学科	臨地実習費　40,000	実習費用健康診断・予防摂取費用
	人間・環境科学科	無	
	人間生活学科		
	発達臨床心理学講座	無	
	生活社会科学講座	生活社会科学研究会費　2,000	入会金 2,000（初年度のみ）
	生活文化学講座	教材実験実習費　500	生活文化実習費
		調査旅行費　10,000	民俗文化史演習ゼミ旅行費
博士前期課程	比較社会文化学専攻		
	日本語日本文学コース	無	
	アジア言語文化学コース	無	
	英語圏言語文化学コース	無	
	仏語圏言語文化学コース	無	
	日本語教育コース	無	
	思想文化学コース	無	
	歴史文化学コース	教材実験実習費	歴史・地理特別演習(基礎)実習費
	生活文化学コース	無	
	舞踊・表現行動学コース	無	
	音楽表現学コース	無	
	人間発達科学専攻		
	教育科学コース	無	
	心理学コース	無	
	発達臨床心理学コース	無	
	応用社会学コース	無	
	保育・児童学コース	無	
	ジェンダー社会科学専攻		
	生活政策学コース	生活社会科学研究会費　2,000	入会費 2,000（初年度のみ）
	地理環境学コース	調査旅行費　20,000～30,000	地理環境学講義実習を受講の場合
		調査旅行費　10,000 程度	環境認識論を受講の場合
	開発・ジェンダー論ｺｰｽ	調査旅行費　50,000 前後	アジア工科大学への派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加費
	ライフサイエンス専攻		
	生命科学コース	無	
	人間・環境科学コース	無	
	食品栄養科学コース	無	
	遺伝カウンセリングｺｰｽ	無	
	理学専攻		
	数学コース	無	
	物理科学コース	無	
	化学・生物化学コース	無	
	情報科学コース	無	
博士	比較社会文化学専攻		
	国際日本学領域	無	
	言語文化論領域	無	

後期課程	比較社会論領域	無	
	表象芸術論領域	無	
	人間発達科学専攻		
	教育科学領域	無	
	心理学領域	無	
	発達臨床心理学領域	無	
	社会学・社会政策領域	無	
	保育・児童学領域	無	
	ジェンダー学際研究専攻		
	ジェンダー論領域	調査旅行費 150,000	ｱｼﾞｱ工科大学への派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加する場合
	ライフサイエンス専攻		
	生命科学領域	無	
	人間・環境科学領域	無	
	食品栄養科学領域	無	
	遺伝カウンセリング領域	病院陪席実習費 66,400	遺伝ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論演習・遺伝ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ実習
	理学専攻		
	数学領域	無	
	物理科学領域	無	
	化学・生物化学領域	無	
	情報科学領域	無	
施設利用料等			
志賀高原体育運動場			
使用料(1人1泊)	学生等	1,200(5/1～9/30)	施設利用の2週間前までに徴収
〃	〃	1,400(10/1～4/30)	〃
〃	職員	2,300(5/1～9/30)	〃
〃	〃	2,800(10/1～4/30)	〃
〃	学外	3,900(5/1～9/30)	〃
〃	〃	4,500(10/1～4/30)	〃
入湯税(1人1泊)	全員	150	
洗濯代(1人)	全員	実費	5日単位の料金
食事代(1人2食)	全員	1,800（朝 600 / 夕 1,200）	
館山野外教育施設			
使用料(1人1泊)	学生及び職員	420	施設利用の2週間前までに徴収
〃	その他の者	840	〃
洗濯代(1人)	全員	実費	5日単位の料金
湾岸生物教育研究センター			
宿泊棟(1人1泊)	全員	840	施設使用申込のあったときに徴収
実験実習室(1日1人)		315	〃
和船（小型）	1h	840	〃

（2）利用できる授業料減免の概要 【学生・キャリア支援チーム】

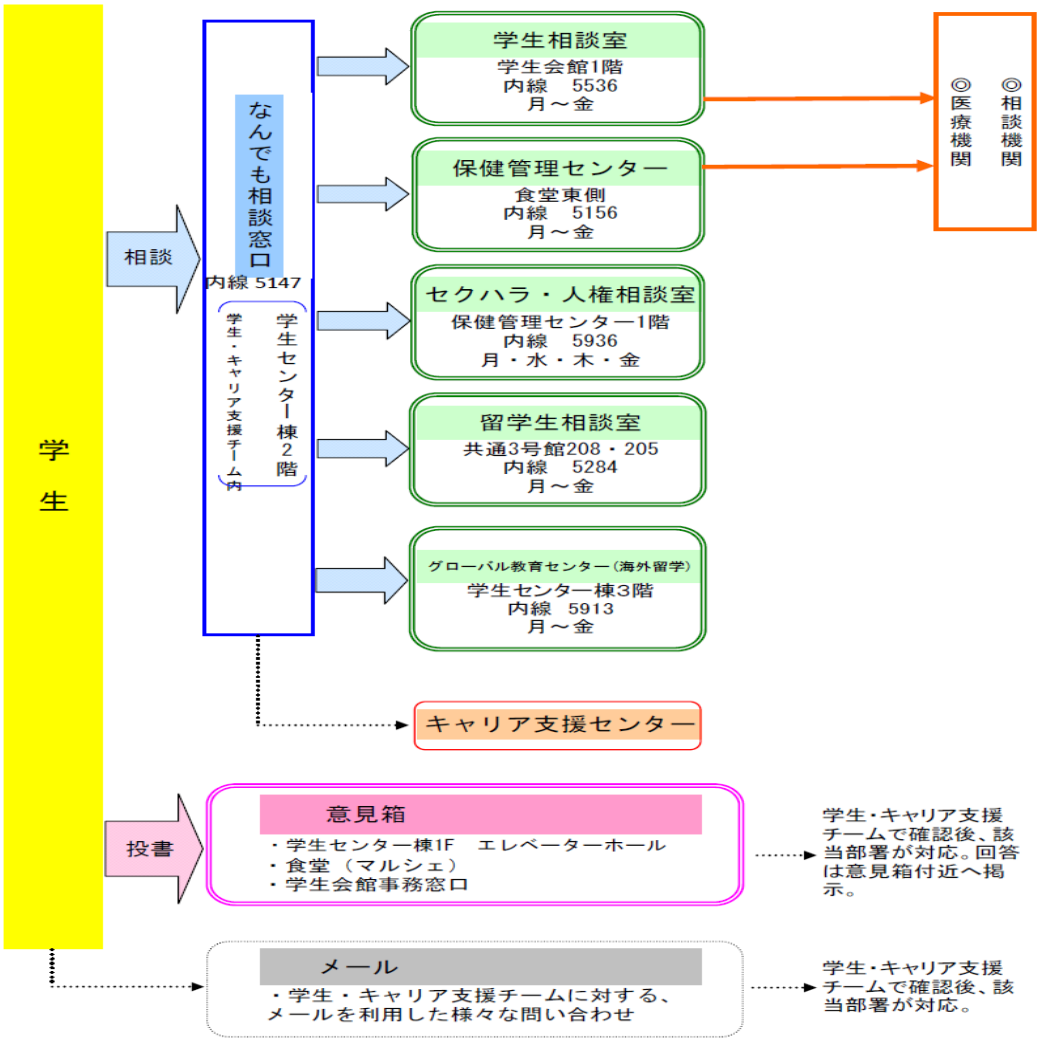
種　　類	要　　件	必 要 手 続 等
授業料免除（前期、後期）	・成績が優秀かつ、経済的事情により授業料の納入が困難であること。 ・各家庭の家計状況及び、成績を評価し、免除可能者に対して授業料の全額又は半額の免除を行う。判定は学生委員会で行う。	前期分は3月、後期分は9月に申請を受け付けており、家族全員の住民票及び所得に関する証明書の提出が必要。また、成績証明書についても提出してもらう。

被災学生支援授業料免除制度	・東日本大震災被災者の方で、一定程度以上の被害に遭われたことが罹災証明書等で確認できる場合に、授業料の半額又は全学の免除を行う。	授業料免除申請と同時に申込むこと、また被害の程度を証明する罹災証明書などの書類を提出してもらう。

１０．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

（１）学内の学生支援組織・・就職支援、メンタルヘルス等学生生活に関わる組織と機能 【担当：学生・キャリア支援 T】

＜学生相談体制図＞



（２）宿舎整備状況　　【担当：学生・キャリア支援チーム】

家庭から離れて暮らす学生のために学部生と留学生をした国際学生宿舎（板橋区）と大学院を対象とした小石川寮の二つの寮があります。また、学部 1,2 年生向けの新寮（お茶大ＳＣＣ）が完成しました。入居希望者は、2 月頃に入寮申請書配付の掲示が学生センター前の掲示板に出ますので、提出期限までに入居申請書を提出してください。

（参照　http://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html　）

（３）キャリア形成支援・就職支援状況　【担当：学生・キャリア支援チーム】

キャリア支援・就職支援は、キャリア支援センターを中心に支援しています。

キャリア教育としては、「キャリアデザインプログラム」を実施しています。主体的に授業や学生生活に取り組む思考力や行動力を育てる基幹・関連科目群と、自分の適性や能力をみきわめ将来像を描くためのコンピテンシー評価プログラムにより、学生の就業力育成をはかります。

キャリア支援・就職支援としては、定期的な就職ガイダンスにより、長期の視点で職業選択を行い就職活動の実践的な準備ができるよう低学年から指導や情報提供を行います。また、個人別の進路・就職相談では、就職活動の進め方から、エントリーシートの書き方、面接対策、公務員試験対策まで対応します。その他、セミナーやワークショップ、OG懇談会などを随時開催しています。　（参照　http://www.cf.ocha.ac.jp/csc/）

（4）カウンセリング　【担当：学生・キャリア支援チーム、】

1）学生相談室

当学生相談室は、皆さんが充実した学生生活をおくることができるようにするためのサポート機関の一つです。大学生活やご自分のことで、問題や悩み、心配事があれば相談に応じています（相談内容については、固く秘密を守ります）。場所は、学生会館の一階にあります。

○ 申込方法：予約制です。
　相　　談：月～金曜日　　10：00ー16：00、　相談予約：月～金曜日　　10：00ー16：30

○ 相談室に直接来ていただくか、電話で日時を予約してください。
　なお、相談室が閉室・使用中の場合は、学生会館事務室で予約してください。

○ 学生相談室　電話（5978-5536）

＜相談室からのメッセージ＞

相談室では、個人相談とワークショップを実施しております。相談は、カウンセラーとの個人相談が原則です。ただし、「どうしても一人では行きにくいが、相談室を利用したい」という場合等は、友人同伴という形でスタートしてもかまいません。なお、カウンセラーとの面談は、16 時終了とします。

また、相談室では、学業や学生生活・進路決定・健康増進に役立つスキルを楽しみながら学習するために、「心理検査で自分を知ろう」や「職業興味検査を受けてキャリアについて考えよう」「ヨガ体験をして健康増進に役立てよう」等についてのワークショップを開催しております。

2）セクシャル・ハラスメント等人権侵害相談室

セクシュアル・ハラスメント（その意図に関わらず、相手を不快にさせる性的な言動）、アカデミック・ハラスメント（教育・研究上の地位または権限を利用して、相手に対し、不適切で不当な言動）、パワー・ハラスメント（職務上の地位または権限を利用して、相手に対し、不適切で不当な言動）、その他の人権侵害について対応しますので、問題が生じたら、一人で悩まずに気軽に相談してください。

相談受付 電話、電子メール、直接の来訪等で受付け、相談の日時を決めます。相談は匿名でもできます。
電話：03-5978-5936　　E-mail：shsoudan@cc.ocha.ac.jp
開室日時：毎週月・水・木・金曜日　10 時から 17 時、場　所：保健管理センター1 階

3）保険管理センター

保健管理センターは、皆さんの健康を保持・増進し、病気の予防や早期発見につとめ、学業が病気で妨げられないようにし、皆さんのキャンパスでの生活を質の高いものにすることを目的に活動しています。皆さんがかぜをひいたり、けがをしたり、体調がすぐれないとき、あるいは心に悩みごとやストレスがあって日常生活や勉学に支障を来たしたときは、いつでもセンターのスタッフに相談し、応急処置や助言を受けることができます。毎年春に定期健康診断があり、その結果や、日常の健康相談記録に基づいて、皆さんが健康で充実した学生生活を送れるように配慮しています。これらのサービスについては一切無料で、保険証も不要です。センターの業務時間は 9：00ー17：00 です（12：00ー13：00 は除く）。土曜、日曜、祝日、年末年始は閉館します。また、学内外の行事などによる休業日があります。

① スタッフ：所長（内科医師）、看護師 1 名、非常勤校医（婦人科医師 1 名、精神科医師 2 名）
② 内科健康相談の曜日・時間

	午前	午後
月	10：00ー11：30 （但し、講義により休診もあり）	13：00ー16：30
火		13：00ー15：00
水		13：00ー16：30
木		13：00ー16：30
金		

③ 精神科・婦人科の健康相談

精神科は月 2 回（第 1 金曜日、第 3 木曜日、13：00ー16：30）

産婦人科は月 1 回（第 2 金曜日、13：00ー16：30）

受診希望者は前もって保健管理センターで予約してください。

④ 保健・健康相談

学内で起きた思いがけないけがや病気に対しては医師・看護師が応急処置をするか、あるいは近くの病院を紹介します。また、長期にわたり継続的な処置を要する病気については外部の医療機関を紹介します。年 1 回 4 月に 4 日間実施します。自分の健康状態をチェックできる唯一の機会ですから受診してください。主な内容は胸部レントゲン撮影、内科的診察、貧血検査、身長・体重・視力の測定です。就職、進学、教育実習や奨学金の申請のために、健康診断書を発行していますが、各年度の定期健康診断を受けていないと発行できませんのでご注意ください。日程は、保健管理センター及び学生センター・各学部・研究科の掲示板に掲示しますので、各自確認の上受診してください。なお、健診結果で異常のある場合には保健管理センターから連絡しますので、その指示に従ってください。

健康診断受診者には、健診後 12 か月間は、健康診断書を発行します。

発行については、学生センター2 階にある証明書自動発行機を利用してください。

4）学年担当教員、顧問教員

本学では、相談室の他に、学生生活をより豊かに過ごしてもらうために、各学科（講座・コース）、学年毎に学年担当教員を配置しています。授業の履修に関することや、休学、退学、転学部、転学科など学生の身分に関することから、授業料免除や奨学金、健康問題など大学生活に関することなど、在学中の様々な問題に助言を受けることができます。

また、学生が学内において新たに団体（サークル）を設立または継続しようとするときは、顧問教員を定めることとなっています。顧問教員は、各団体のメンバーが最も適当と思われる先生に依頼してください。

5）なんでも相談窓口

どこに行けばよいかわからない…。履修・課外活動など学生生活全般で分からないことがあれば、まずは「なんでも相談窓口」へ来てください。皆さんの問い合わせ内容に応じて担当または情報をお知らせします。

場所は、学生センター2 階学生・キャリア支援チームです。

○ 場　　所：学生センター2 階生・キャリア支援チーム内

○ 相談時間：平日 8 時 30 分ー17 時 15 分

6）大学院生相談窓口

本学大学院生が研究・教育の中で何らかの問題が生じた場合、指導教員には直接相談しにくいこともあります。そのような際には、他の教員に相談することで問題が解決されることがあります。

相談窓口となる教員は研究・教育者の立場から相談者のプライバシーに最大限配慮しながら、問題解決を支援していきます。相談の内容によっては、相談者の了解を得た上で、上記の相談室等と連携して解決を図ることもあります。

（5）留学生支援の状況　　【担当：入試チーム、国際交流チーム】

1）入学手続きに関する項目

① 入学要件（年齢・学歴）および学業要件

A：日本政府（文部科学省）奨学金留学生として入学

日本政府（文部科学省）奨学金制度には、1)研究留学生、2)教員研修留学生、3)学部留学生、4)日本語・日本文化研修留学生、5)高等専門学校留学生、6)専修学校留学生、7)ヤング・リーダーズ・プログラム（YLP）留学生の 7 種類があります。本学では、そのうち 3 つの種類の留学生を受け入れております。

研究留学生	学部留学生	日本語・日本文化研修留学生
大学院正規生、 大学院研究生（非正規生）	学部正規生	学部の日本語・日本文化研修コース生（非正規生）

B：日本政府（文部科学省）奨学金留学生への応募方法

・海外採用の応募方法には、以下の 2 種類があります。

1) 海外にある日本公館（大使館又は総領事館）を通じて応募する「大使館推薦」
詳細はあなたの国の最寄りの在外日本公館に問い合わせ願います。

2) 日本の大学を通じて応募する「大学推薦」（海外の協定校大学の学生が対象）
お茶の水女子大学と海外の大学との間で締結されている交流協定等に基づく研究留学生候補者を、本学で選考の上、日本政府（文部科学省）に推薦します。詳細は、協定校の海外留学担当者に問い合わせてください。

3) 日本の大学を通じて応募する「国内採用」（日本国内の大学に既に在籍する私費留学生を対象）
本学に既に在学している私費外国人留学生の中から選考の上、日本政府（文部科学省）に推薦します。国際交流チームへ問い合わせてください。

□ 申請一覧表

<table>
<tr><td>区分</td><td colspan="3">研究留学生</td><td>学部留学生</td><td colspan="2">日本語・日本文化研修留学生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">募集方法</td><td colspan="2">海外採用</td><td>国内採用</td><td>海外採用</td><td colspan="2">海外採用</td></tr>
<tr><td>大使館推薦</td><td>大学推薦</td><td>国内採用</td><td>大使館推薦</td><td>大使館推薦</td><td>大学推薦</td></tr>
<tr><td>募集時期</td><td>在外公館により異なる</td><td>12 月末～1 月末頃</td><td>12 月上旬頃</td><td>在外公館により異なる</td><td>在外公館により異なる</td><td>3 月中旬頃</td></tr>
<tr><td>選考方法</td><td colspan="2">書類審査</td><td colspan="4">書類審査及び面接</td></tr>
<tr><td>資格
(2012 年度)</td><td colspan="3">日本国政府と国交のある国のものを有すること。日本の大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者、その他</td><td>日本国政府と国交のある国のものを有すること。学校教育における 12 年の課程を修了した者又は高等学校に対応する学校の課程を修了した者、その他</td><td colspan="2">日本国政府と国交のある国のものを有すること。
渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部に在学し，原則，日本語・日本文化に関する分野を専攻している者、その他</td></tr>
<tr><td>年齢制限
(応募、
2012 年度)</td><td colspan="3">1979 年 4 月 2 日以降に出生した者</td><td>1990 年 4 月 2 日から 1995 年 4 月 1 日までの間に出生した者</td><td colspan="2">1982 年 4 月 2 日から 1994 年 4 月 1 日までの間に出生した者</td></tr>
<tr><td>支給期間</td><td colspan="2">4 月入学：1 年 6 か月
10 月入学：2 年</td><td>最短修業年限まで</td><td>予備教育を含み 5 年間</td><td colspan="2">1 年間</td></tr>
<tr><td>奨学金
(月額)
(2012 年度)</td><td colspan="3">146,000 円（研究生）
147,000 円（博士前期）
148,000 円（博士後期）</td><td>120,000 円</td><td colspan="2">120,000 円</td></tr>
<tr><td>授業料</td><td colspan="6">免　除</td></tr>
<tr><td>渡航旅費</td><td colspan="2">居住地から最寄りの国際空港から成田空港又は羽田空港までの下級航空券が交付される。</td><td>該当せず</td><td colspan="3">居住地から最寄りの国際空港から成田空港又は羽田空港までの下級航空券が交付される。</td></tr>
</table>

C：交換留学生として入学

正規生はなし

D：私費研究生として入学

私費留学生には、正規生と非正規生があります。学位取得を目的として学部・研究科に在籍する学生は正規生となります。また、学位取得を目的としない、研究生、交換留学生は非正規生なります。

正規生と非正規生の区分は、奨学金、授業料免除等の扱いが異なることがありますので、直接、国際交流チームへ問い合わせください。　http://www.ocha.ac.jp/intl/intl-st/2-2.html

□　正規学生（学部生）

１．出願資格、次の(1)及び(2)の要件をともに満たす者

(1)日本国籍を有しない女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者で、次のいずれかに該当する者であること。

① 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。

② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、満 18 歳に達する者。

③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、満 18 歳に達する者。

④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、満 18 歳に達する者。

(2)独立行政法人日本学生支援機構主催の「日本留学試験」を受験した者。さらに理学部物理学科を志願する者については、「ＴＯＥＦＬ試験」を受験した者

２．選抜方法等

志願者(理学部物理学科志願者を除く。)に本学の入学試験を課し、その結果と日本留学試験成績及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。

なお、理学部物理学科を志願する者には、本学の入学試験は課さず、日本留学試験、ＴＯＥＦＬ試験及び最終出身校の成績証明書等の提出書類により合格者を判定する。

３．学位の授与

所属学部に応じて、人文科学、理学、生活科学の学士の学位が授与される。

□　正規学生（大学院生）

１．出願資格

下記のいずれかに該当する外国人女子で出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とします。

【博士前期課程】

(1) 日本の大学を卒業した者

(2) 学校教育法第１０４条第４項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において学校教育における１６年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１６年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育の１６年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 専修学校の専門課程(修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和２８年文部省告示第５号）

(8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学月の前月末日現在２２歳に達する者

【博士後期課程】

(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者

(2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は

専門職学位を授与された者
(5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
(6) 外国の学校、第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学において教育課程を履修し、大学院設置基準第１６条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
(7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第１１８号）
(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学月の前月末日までに２４歳に達する者
※ 博士前期課程、博士後期課程ともに、日本において高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをしてください。

２．選抜方法等、
筆記試験、口述試験並びに出願書類を総合して行います。課程、専攻、コースによって詳細は異なるので、受験希望者は必ず募集要項で確認をしてください。なお募集要項内容は、本学ホームページ入試情報内（http://www.ao.ocha.ac.jp/application.html）にも掲載しています。

３．学位の授与
【博士前期課程】
専攻分野に応じて、学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の修士の学位を授与される。
【博士後期課程】
専攻分野に応じて、学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位を授与される。

□非正規学生
(1) 研究生
入学するためには、あなたが指導を希望する教員（教員の教育研究活動等検索、http://researchers.ao.ocha.ac.jp/ ）等を利用して、事前に教員に連絡を取り、受入れの内諾を得る必要があります。その後に、入学願書等の必要な書類をそろえて申請してください。
詳細は、http://www.ocha.ac.jp/intl/intl-st/2-2.html を参照してください。

私費研究生

募集方法	ホームページに募集要項等を掲載（出願は大学に直接持参のみ）
出願期限	4 月入学：前年の 11 月上旬
	10 月入学：その年の 6 月上旬
資格	・学部研究生：４年制大学を卒業していること（又は卒業見込） ・大学院研究生（博士前期課程）：大学院修士課程を修了していること（又は修了見込） ・大学院研究生（博士後期課程）：大学院博士課程を修了していること（又は修了見込）
年齢制限	なし
奨学金	なし

(2) 交換留学生
本学では、海外協定大学との大学間交流協定に基づき、交換留学生の受け入れを行っております。期間は原則として、６ヶ月から１年以内です。交換留学を希望する方は、在籍する大学を通して応募してください。

募集方法	協定校を通じて募集
出願期限	4 月入学：前年の 10 月中旬
	10 月入学：その年の 4 月中旬
資格	・日本語の授業を受けるための日本語能力を持っていること ・留学前から留学を終えて帰国するまで、協定校に在学していること ・成績評価係数が 2.30 以上であること
年齢制限	なし
奨学金（JASSO 奨学金に採	月額：80,000 円

用された場合)	
支給期間	受入許可期間と同じ

② 渡日前入学

学部・研究科名	実施状況
文教育学部	実施していない
理学部物理学科のみ	実施している
生活科学部	実施していない
人間文化創成科学研究科	実施していない

③ 独自の現地入試実施

学部・研究科名	実施状況
文教育学部	実施していない
理学部	実施していない
生活科学部	実施していない
人間文化創成科学研究科	実施していない

④ 日本留学試験利用状況

学部・研究科名	利用状況
文教育学部	利用している
理学部	利用している
生活科学部	利用している
人間文化創成科学研究科	利用していない

2）入学後の生活に関する項目

① 宿舎整備状況 【担当：学生・キャリア支援チーム】

国際学生宿舎

国際学生宿舎では、留学生と日本人学生が生活を共にすることにより、日本語や日本の習慣を学ぶ事ができます。個室にはベッドや机などが備えられています。

（参照 http://www.ocha.ac.jp/intl/intl-st/6.html ）

（参照 http://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/download/kokusai_gaiyou.pdf ）

② 日本語指導 【担当：学生・キャリア支援チーム】

A：ピアサポートプログラム

ピア（peer）という言葉は、仲間という意味で、ピアサポートプログラムは学生同士の支援制度です。「先生や事務の方に聞きに行くほどの問題ではないけれども、先輩や友達だったら気楽に質問できる」ということで、重要な学生支援制度の一つです。

各学部及びグローバル教育センターでは、新入生が学業面や生活面で困らないように、コース・講座ごとに先輩サポーターが新入生の支援を行っています。

B：留学生相談室の設置 【担当：国際交流チーム】

大学院生が留学生相談室チューターとして、外国人留学生に対して、グローバル教育センター教員の指導のもとに、教育・研究に関する助言や日本語添削等を行い、留学生の学習・研究効果の向上及び環境への適応を図ることを目的として設置しています。

C：留学生への個人チューター制度 【担当：国際交流チーム】

大学院生が個人チューターとして、指導教員の指導のもとに、外国人留学生に対して、学習・研究について個別に相談・助言等を行い、留学生に学習、研究効果の向上を図るための制度です。入学後、１年間

支援を受けることができます。

③　カウンセリング　【担当：国際交流チーム】

学習・研究上の悩みや指導教員との関係の相談等について、学生担当教員が学科・コース等毎に配置され、留学生については、留学生担当教員が対応しています。

④　学内文書の英語化　【担当：国際交流チーム】

留学生には、和文・英文による併記で周知、実施済。また、一部、中国語で作成。

⑤　経済的支援　【担当：国際交流チーム】

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体及び民間奨学団体からの奨学金を取り扱っています。また、本学関係者等からの寄附金などによる本学独自の奨学金も用意されています。

a：日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で経済的理由により学資支弁の困難な学生が対象となります。応募者に対し、学内で選考を行い、適格者を日本学生支援機構に推薦し、同機構が採択者を決定します。

また、外国人留学生については、下記の奨学金に申請することができます。

渡日前：協定校からの推薦に基づき大学から申請し、同機構が採択者を決定します。

・留学生交流支援制度（短期受入れ）（交換留学生）（平成 24 年度採用実績：1 名）

・日韓大学生交流事業（交換留学生）（平成 23 年度採用実績：1 名、本事業は H23 年度で終了）

渡日後：正規課程在籍の私費留学生を対象として、大学から申請し、同機構が採択者を決定します。

・学習奨励費（平成 24 年度採用実績：9 名）

b：地方公共団体及び民間奨学団体等の奨学金

外国人留学生については、事前に民間奨学金の登録を行い、要件・資格に応じて大学から申請します。（平成 24 年度採用実績：8 名）個人応募の奨学金については、掲示及びメールにてその都度案内し、各自申請するよう指導ています。

C：国費奨学金

外国人留学生は、国費奨学金に申請することができます。

①　渡日前

・大使館推薦国費奨学金：文部科学省が採択候補者を選考し、大学が受入れを許可します。

・大学推薦国費奨学金：協定校からの申請者を大学が選考・推薦し、文部科学省が採択者を決定します。

・国費留学生（研究留学生）（大学推薦）（平成 23 年度採用実績：2 名）

・国費留学生（研究留学生）（大使館推薦）（平成 23 年度採用実績：6 名）

・国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）（大学推薦）（平成 23 年度採用実績：1 名）

・国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）（大使館推薦）（平成 23 年度採用実績：4 名）

②　渡日後：正規課程在籍の私費留学生を対象として、大学から申請し、文部科学省が採択者を決定します。

・国費留学生（国内採用）（平成 23 年度採用実績：なし）

⑥　国際交流支援　【担当：国際交流チーム】

留学生と日本人学生との交流を深めるための「国際交流の夕べ」や日本文化理解及び日本人との交流を促進するための「国際交流研修旅行」も催されます。

3）入学後の教育支援に関する項目　【担当：国際交流チーム】

① 個人チューターによるサポート状況　（H23 年度）

学部・研究科名	サポートを実施している人数
文教育学部	４０人
理学部	１人
生活科学部	８人
人間文化創成科学研究科	６５人

② 留学生をチューターとして活用（留学生相談室）　（H23 年度）

学部・研究科名	サポーターを実施している活用人数
全学部、大学院対象	前期２０人、後期２０人

4）学位取得に関する項目　【担当：教務チーム】

① 学部　（H23 年度）

	文教育学部	理学部	生活科学部	計
学位授与者数	4	0	3	7

② 大学院人間文化創成科学研究科博士修士課程　（H23 年度）

	比較社会文化学専攻	人間発達科学専攻	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会科学専攻	ﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ専攻	理学専攻	計
学位授与者数	１３	1	3	1	0	１８

③ 大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程　（H23 年度）

	比較社会文化学専攻	人間発達科学専攻	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ学際研究専攻	ﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ専攻	理学専攻	計
学位授与者数					1	1

④ 大学院人間文化研究科博士後期課程　（H23 年度）

	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ学際研究専攻		計
学位授与者数	1	1	2	1		5

5）学位取得後の就職等の状況に関する項目　（H23 年度）

① 就職後の進路調査　【担当：学生・キャリア支援チーム】

学部・研究科名	実施状況
文教育学部	実施していない
理学部	実施していない
生活科学部	実施していない
人間文化創成科学研究科	実施していない

② 海外におけるインターンシップを含む企業との連携状況【担当：学生キャリア支援チーム、国際交流チーム】

学部・研究科名	連携状況
文教育学部	行っていない
理学部	行っていない
生活科学部	行っていない
人間文化創成科学研究科	行っていない

③ OB 等卒業後のネットワーク形成状況

卒業後のネットワークとして、桜陰会（一般社団法人）があります。この組織は、お茶の水女子大学・旧東京女子高等師範学校までの前身校並びに付属教員養成所の卒業生の同窓会です。

詳細については、http://www008.upp.so-net.ne.jp/ouinkai/　を参照。

6）英語による授業のみで学位を取得可能なコースの設置状況　【担当：教務チーム】

学部・研究科名	設置状況
文教育学部	設置していない
理学部	設置していない

生活科学部	設置していない
人間文化創成科学研究科	設置していない

（６）奨学金の種類、要件、申し込み方法　【担当：学生・キャリア支援チーム、国際交流チーム】

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体及び民間奨学団体からの奨学金を取り扱っています。また、本学関係者等からの寄附金などによる本学独自の奨学金も用意されています。

①　日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で経済的理由により学資支弁の困難な学生が対象となります。応募者に対し、学内で選考を行い、適格者を日本学生支援機構に推薦し、同機構が採択者を決定します。

②　地方公共団体及び民間奨学団体等の奨学金

奨学生の募集は、大学を通して募集するもの、奨学団体で直接に募集するものがあるため、出願希望者は、学生・キャリア支援チーム、あるいは出身の都道府県や市区町村の教育委員会又は奨学団体に問い合わせたうえ、応募することとなります。本学に募集の依頼があった団体は、掲示板により周知しています。（平成 23 年度募集件数・・・地方公共団体　12 件、民間奨学団体　23 件）

③　本学独自の奨学金

本学卒業生及び関係者からの寄附などにより本学独自の奨学金を次表のとおり授与しています。

予約型奨学金、大学院生修学奨学金、育児支援奨学金については、希望者の応募により、審査委員会の議を経て学長が受賞者を決定することとしています。他の奨学金は、各研究分野において成績顕著な学生について、各学部等からの推薦に基づき、審査委員会の議を経て学長が決定することとしています。

なお、外国人留学生を対象とする奨学金は、池田摩耶子記念奨学基金（大学院生対象）及び池田重記念奨学基金（大学院生対象）及び冨永ふみ奨学基金（私費正規生で開発途上国出身者対象）です。以上３種類の奨学金は、すべて一時金として支給されます。

		基金の名称	授与対象者		奨学金の額	人数
全学	学部生	みがかずば奨学金（予約型奨学金）	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 ②当該年度の４月に本学学部１年生に入学する予定で、本学に強く入学を志望する者 ③成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者 （①～③のすべてを満たす者）		1年目 300,000円 2年目 300,000円	(H23) 19名
		学部生成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生（中途に休学期間がない者に限る。）のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者		200,000円	(H23) 25名
		桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生		100,000円	(H23) 4名
	大学院生	大学院生修学奨学金	本学大学院に在籍し、経済的理由により修学が困難であり、学業成績優秀かつ将来が嘱望される者のうち、寄附者が指定する課程等に在籍する者又は大学院修了後に教員等の職を強い志を持って目指す者		1,000,000円	(H23) 4名
		桜蔭会研究奨励賞（予約型奨学金）	本学学部を卒業し、引き続き本学大学院博士前期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者		200,000円	(一部制度変更予定) 20名
		博士後期課程研究奨励賞（予約型奨学金）	本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本学大学院博士後期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者		600,000円	(新設予定) 10名
		お茶の水女子大学120周年記念桜蔭会国際交流奨励賞	海外留学支援事業	本学大学院博士後期課程修了者又は在学生で、成績優秀かつ将来が嘱望される者のうち海外研修を希望する者	2,000,000円を限度	(H23) 1名
			アジア女性研究者支援事業	本学学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍し来日研修を希望する者		(H23) 2名
		育児支援奨学金	本学の正規学生で本学が設置する保育所を利用する者		原則、保育料の半額	(H23) 11名
学科・専攻等		大学院研究科奨学基金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、その成績顕著な者		100,000円	(H23) 2名
		保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者		30,000円	(H23) 2名
		被服学奨学基金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者		100,000円	(H23) 1名
		食物学奨学基金	食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者		100,000円	(H23) 1名
		家庭経営学奨学基金	家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者		100,000円	(H23) 2名
		池田摩耶子記念奨学基金	1．本学大学院において国際的な研究に従事し、成績顕著な者 2．学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で成績顕著な者		100,000円	(H23) 2名
		池田重記念奨学基金			100,000円	(H23) 1名
		湯浅年子記念特別研究員奨学基金	本学出身者、在学する者又は附属高等学校出身者で、自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者		250,000円	(H23) 1名
		数学奨学基金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部に在学する者で、数学の成績顕著な者		100,000円	(H23) 3名
		生物学優秀学生賞奨学基金	本学学部及び大学院博士前期課程に在学する者で、生物学の成績顕著な者		20,000円	(H23) 1名
		グローバル文化学環奨学基金	本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者		10,000円	(H23) 1名
		化学科（宮島直美）奨学基金	本学理学部化学科に在学する者で、成績顕著な者		200,000円	(H23) 1名
		生物学科（小沼英子）奨学基金	本学理学部生物学科に在学する者で、成績及び人物が優秀であり、本基金による支援が必要な者		500,000円を限度	1名

（7）障害者支援の状況　【担当：学生・キャリア支援チーム】

障がいのある学生支援を検討する部会の設置（障害者の相談室等はないのか？）

障がいのある学生を支援するため、学生支援室と学生支援センターから５人のメンバーで専門部会を学生支援室のなかに設置し、当該学生に対しての支援体制を整えました。

（8）その他学生支援の状況　【担当：学生・キャリア支援チーム】

1）学資貸付制度

親元から送金が遅れたときや、病気になったとき及び事故にあったとき等、急にお金が必要になった場合学生に貸付する制度として、「学資貸付金」、「後援会学資等緊急貸付金」があります。

2）博物館等の利用

本学では、国立科学博物館、東京国立博物館及び国立美術館の会員として登録していますので、本学の学生は学生証を提示することで、企画展については割引、常設展については無料で入館することができます。

１１．国際的な大学評価活動の展開等に関すること

世界屈指の女子大学として、２１世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成することをミッションに掲げており、１３０余年にわたる女子高等教育を通して検証・蓄積された知的・教育的財産を継承しつつ、女性の活躍を促進する教育研究を国際的に展開することを目指しています。２１世紀ＣＯＥやグローバルＣＯＥの成果を活かしつつ、また本学に固有な伝統的分野や研究ポテンシャルの高い分野、女性の活躍が期待される分野の研究を推進しつつ、国際的な教育研究拠点としての機能を果たすため、教員や学生の海外派遣に力を入れるとともに、国際協力・国際貢献も積極的に進めています。

（１）本務教員１人当たり学生数（フルタイム教員）【担当：教務チーム】

本務教員１人当たりの学生数（フルタイム教員）

（平成24年5月1日現在）

部局名	大学院学生数内訳						
	修士課程学生数	博士課程学生数	科目等履修生		研究生		小計
			前期課程	後期課程	前期課程	後期課程	
比較社会文化学専攻	140	179	7		1		327
人間発達科学専攻	75	107	7		5		194
ジェンダー社会科学専攻	44	―	6				50
ジェンダー学際研究専攻	―	42		1			43
ライフサイエンス専攻	118	67			3	2	190
理学専攻	152	47		1			200
国際日本学専攻	―	20					20
人間環境科学専攻	―	1					1
複合領域科学専攻	―	3					3
小　計	529	466	20	2	9	2	1,028

部局名	学部生数内訳					本務教員1人当たりの学生数 A/B
	学部生数	聴講生	科目等履修生	研究生	小計	
文教育学部	929	5	71	9	1,014	
理学部	552		5	2	559	
生活科学部	581	3	44	3	631	
小　計	2,062	8	120	14	2,204	
合　計	3,057	28	122	23	3,232 ← A	17.19

※　本務教員は大学院人間文化創成科学研究科の基幹部門（文化科学系、人間科学系、自然・応用科学系）、先端融合部門に所属し、大学院と学士課程の全学的運営に携わることになった。従って、学部・大学院毎に本務教員数が配属されていないため、全学生数を本務教員数で除する。本学の本務教員数は188名（B）

※　履修する科目が学部を跨ぐ場合（科目等履修生のみ）には、学部毎に整理。

（2）各授業の平均学生在籍数　　【担当：教務チーム】

学部　　H23年度

開講学部・学科等		科目区分		開講科目数	単位取得者数	平均受講者数
文教育学部	人文科学科	コア	文理融合リベラルアーツ	10	339	33.9
			基礎講義	1	115	115.0
			情報	7	217	31.0
		専門	講義	96	1,878	19.6
			演習	47	376	8.0
			実習・実験	2	15	7.5
		教職、留学生特別科目、関連科目等		5	101	20.2
	言語文化学科	コア	文理融合リベラルアーツ	5	505	101.0
			外国語	199	4,108	20.6
		専門	講義	85	1,911	22.5
			演習	64	834	13.0
		教職、留学生特別科目、関連科目等		40	358	9.0
	人間社会科学科	コア	文理融合リベラルアーツ	4	199	49.8
			基礎講義	2	445	222.5
		専門	講義	73	1,615	22.1
			演習	26	295	11.3
			実習・実験	3	44	14.7
		教職、留学生特別科目、関連科目等		31	2,443	78.8
	芸術・表現行動学科	コア	文理融合リベラルアーツ	1	20	20.0
			スポーツ健康	14	1,117	79.8
		専門	講義	59	784	13.3
			演習	16	158	9.9
			実習・実験	15	234	15.6
		教職、留学生特別科目、関連科目等		10	180	18.0
	グローバル文化学環	コア	文理融合リベラルアーツ	3	61	20.3
		専門	講義	43	1,026	23.9
			実習・実験	5	56	11.2
理学部	数学科	コア	文理融合リベラルアーツ	2	23	11.5
			基礎講義	5	149	29.8
		専門	講義	45	825	18.3
			講演	12	249	20.8
		教職、留学生特別科目、関連科目等		11	190	17.3
	物理学科	コア	文理融合リベラルアーツ	3	168	56.0
		専門	講義	36	747	20.8
			演習	6	123	20.5
			実習・実験	3	57	19.0
		教職、留学生特別科目、関連科目等		4	46	11.5
	化学科	コア	文理融合リベラルアーツ	3	171	57.0
			基礎講義	2	248	124.0
		専門	講義	31	666	21.5
			演習	2	46	23.0
			実習・実験	8	157	19.6
		教職、留学生特別科目、関連科目等		10	196	19.6
	生物学科	コア	文理融合リベラルアーツ	7	174	24.9
		専門	講義	40	847	21.2
			演習	2	48	24.0
			実習・実験	20	353	17.7
		教職、留学生特別科目、関連科目等		5	54	10.8
	情報科学科	コア	文理融合リベラルアーツ	5	296	59.2
			基礎講義	1	12	12.0
			情報	18	520	28.9
		専門	講義	46	1,458	31.7
			演習	8	301	37.6
			実習・実験	6	187	31.2
		教職、留学生特別科目、関連科目等		5	35	7.0

開講学部・学科等		科目区分		開講科目数	単位取得者数	平均受講者数
生活科学部	食物栄養学科	コア	文理融合リベラルアーツ	1	18	18.0
			情報	1	40	40.0
		専門	講義	48	1,573	32.8
			演習	2	80	40.0
			実習・実験	17	657	38.6
		教職、留学生特別科目、関連科目等		2	24	12.0
	人間・環境科学科	コア	文理融合リベラルアーツ	3	354	118.0
			情報	1	25	25.0
		専門	講義	35	913	26.1
			演習	12	238	19.8
			実習・実験	6	98	16.3
	人間生活学科	コア	文理融合リベラルアーツ	8	525	65.6
			基礎講義	5	336	67.2
			情報	2	73	36.5
		専門	講義	95	2,534	26.7
			演習	55	449	8.2
			実習・実験	7	83	11.9
		教職、留学生特別科目、関連科目等		23	444	19.3
	生活科学部特別設置科目			5	54	10.8
全学共通		コア	基礎講義	1	12	12.0
		コア	文理融合リベラルアーツ	4	32	8.0
		コア	基礎講義	1	70	70.0
		コア	文理融合リベラルアーツ	2	6	3.0
		コア	文理融合リベラルアーツ	1	11	11.0
		キャリアプランニング等		6	86	14.3

学部コア科目

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人文科学科	LA	色・音・香24　感覚の歴史を読む（演習）	White	19	19
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	35	34
人文科学科	LA	生命と環境2　生命倫理	White	122	83
人文科学科	基礎	哲学	White	131	115
人文科学科	LA	ことばと世界3　論理学　（読替：倫理学）	White	52	37
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	29	28
人文科学科	LA	生活世界の安全保障21　歴史のなかの危機とその克服（演習）	White	9	9
人文科学科	LA	生命と環境26　地図を読む（演習）	White	18	17
人文科学科	LA	生活世界の安全保障25　地図を読む（演習）	White	5	3
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	26	26
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	25	25
人文科学科	LA	生活世界の安全保障2　情報社会の安全保障（読替：社会情報学）	White	40	32
人文科学科	LA	生命と環境7　大気と水	White	52	34
人文科学科	LA	ジェンダー4　アートとジェンダー	White	124	99
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	43	43
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	33	33
人文科学科	LA	ことばと世界12　知能環境論	White	7	6
人文科学科	情報	情報処理演習	Pink	28	28
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（理・生活A）	Pink	27	26
言語文化学科	外国語	英会話Ⅱ　後期（理・生活B）	Pink	8	8
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅴ　前期（全学科）	※2	14	11
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅵ　後期（全学科）	※2	7	5
言語文化学科	外国語	英語プレゼンテーションⅠ	Green	30	25
言語文化学科	外国語	英語プレゼンテーションⅡ	Green	14	13
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級会話Ⅰ（読替：基礎ドイツ語会話Ⅰ）	Pink	14	14
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級会話Ⅱ（読替：基礎ドイツ語会話Ⅱ）	Pink	9	8
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（文C）	Pink	29	29
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（生活B）	Pink	16	16
言語文化学科	外国語	英会話Ⅱ　後期（文C）	Pink	12	10
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（文A）	Pink	29	29
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（理・生活A）	Pink	26	24
言語文化学科	外国語	英会話Ⅱ　後期（文A）	Pink	29	29
言語文化学科	外国語	英会話Ⅱ　後期（理・生活A）	Pink	12	12
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期（文Ac）	Green	31	29
言語文化学科	外国語	英会話Ⅲ　前期（全学科）	Green	11	9
言語文化学科	外国語	英会話Ⅳ　後期（全学科）	Green	7	7
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅰ　前期（全学科）	Red	35	30
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅱ　後期（全学科）	Red	28	25
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期（文Bd）	Green	35	31
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅱ　後期（文Ac）	Green	28	28
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（文B）	Pink	28	28
言語文化学科	外国語	英会話Ⅱ　後期（文B）	Pink	18	17
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅲ　前期（全学科）	※2	8	7
言語文化学科	外国語	上級英語Ⅳ　後期（全学科）	※2	2	1
言語文化学科	外国語	英会話Ⅰ　前期（文D）	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	フランス語初級（応用）Ⅰ（読替：基礎フランス語（応用）Ⅰ）	Pink	21	19
言語文化学科	外国語	フランス語初級（応用）Ⅱ（読替：基礎フランス語（応用）Ⅱ）	Pink	10	9
言語文化学科	外国語	フランス語初級（応用）Ⅰ（読替：基礎フランス語（応用）Ⅰ）	Pink	12	8
言語文化学科	外国語	フランス語初級（応用）Ⅱ（読替：基礎フランス語（応用）Ⅱ）	Pink	6	6
言語文化学科	外国語	フランス語初級会話Ⅰ（読替：基礎フランス語会話Ⅰ）	Pink	27	24
言語文化学科	外国語	フランス語初級会話Ⅱ（読替：基礎フランス語会話Ⅱ）	Pink	20	19
言語文化学科	外国語	フランス語上級会話Ⅰ	※2	13	9
言語文化学科	外国語	フランス語上級会話Ⅱ	※2	5	5
言語文化学科	外国語	ロシア語会話Ⅰ	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	ロシア語会話Ⅱ	Pink	2	2
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期（理3b）	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期（理1）	Pink	23	21
言語文化学科	外国語	中国語初級（演習）Ⅰ	※2	1	0

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
言語文化学科	外国語	中国語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎中国語(演習)Ⅱ)	Pink	39	36
言語文化学科	外国語	基礎中国語(演習)Ⅰ	Pink	39	39
言語文化学科	外国語	中国語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎中国語(文法)Ⅰ)	Pink	40	40
言語文化学科	外国語	中国語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎中国語(文法)Ⅱ)	Pink	39	39
言語文化学科	外国語	中国語初級(応用)Ⅰ(読替:基礎中国語(応用)Ⅰ)	Pink	7	7
言語文化学科	外国語	基礎中国語(応用)Ⅱ	Pink	6	6
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(生活Ba)	Green	32	31
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(理3a)	Pink	27	27
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(生活3)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(文2d)	Pink	27	26
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(生活2a)	Pink	27	27
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ(読替:総合英語Ⅴ)	Green	34	34
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅱ後期(文Ab)	Green	27	27
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(理・生活B)	Green	29	28
言語文化学科	外国語	総合英語Ⅰ　前期(文R)	Green	13	13
言語文化学科	外国語	総合英語Ⅱ　後期(文R/L)	Green	12	11
言語文化学科	外国語	総合英語Ⅱ　後期(文R)	Green	5	3
言語文化学科	外国語	総合英語(読替:総合英語Ⅱ)	Green	21	20
言語文化学科	外国語	総合英語　後期(理・生活L)	Green	6	6
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期(文Bc)	Green	2	2
言語文化学科	外国語	朝鮮語初歩Ⅰ	Pink	35	31
言語文化学科	外国語	朝鮮語初歩Ⅱ	Pink	20	17
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(理3b)	Pink	25	24
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期(文Aa)	Green	29	29
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅱ　後期(文Aa)	Green	29	29
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(理Ba)	Green	33	29
言語文化学科	外国語	中国語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎中国語(文法)Ⅰ)	Pink	44	44
言語文化学科	外国語	基礎中国語(文法)Ⅱ	Pink	42	42
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅱ　後期(文Bb)	Green	32	29
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(応用)Ⅰ	Pink	19	19
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(応用)Ⅱ	Pink	12	12
言語文化学科	外国語	ロシア語初歩Ⅰ	Pink	17	13
言語文化学科	外国語	ロシア語初歩Ⅱ	Pink	5	5
言語文化学科	外国語	基礎中国語(応用)Ⅰ	Pink	9	9
言語文化学科	外国語	基礎中国語(応用)Ⅱ	Pink	9	9
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(理2a)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期(文Ba)	Green	32	32
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅱ　後期(文Ba)	Green	33	31
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(理2b)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	中級英語Ⅰ　前期(文Ab)	Green	30	30
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(生活A)	Green	31	31
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(文2c)	Pink	27	25
言語文化学科	外国語	中国語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎中国語(文法)Ⅰ)	Pink	17	16
言語文化学科	外国語	中国語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎中国語(文法)Ⅱ)	Pink	14	12
言語文化学科	外国語	中国語初級(演習)Ⅰ(読替:基礎中国語(演習)Ⅰ)	Pink	45	38
言語文化学科	外国語	基礎中国語(演習)Ⅱ	Pink	42	42
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎ドイツ語(文法)Ⅰ)	Pink	43	40
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(演習)Ⅰ(読替:基礎ドイツ語(演習)Ⅰ)	Pink	43	40
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(文法)Ⅱ)	Pink	36	34
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(演習)Ⅱ)	Pink	36	34
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎ドイツ語(文法)Ⅰ)	Pink	30	30
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(文法)Ⅱ)	Pink	30	29
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(演習)Ⅰ(読替:基礎ドイツ語(演習)Ⅰ)	Pink	30	30
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(演習)Ⅱ)	Pink	30	29
言語文化学科	外国語	ドイツ語中級Ⅱ	※2	5	4
言語文化学科	外国語	ドイツ語初歩Ⅰ	Pink	27	24
言語文化学科	外国語	ドイツ語初歩Ⅱ	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(文2d)	Pink	26	26

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(理A)	Green	30	30
言語文化学科	外国語	フランス語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎フランス語(文法)Ⅰ)	Pink	32	26
言語文化学科	外国語	フランス語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎フランス語(文法)Ⅱ)	Pink	32	24
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習)Ⅰ(読替:基礎フランス語(演習)Ⅱ)	Pink	29	27
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎フランス語(演習)Ⅰ)	Pink	32	30
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(演習)Ⅰ	Pink	32	32
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(演習)Ⅱ	Pink	32	31
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(生活2a)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(生活2b)	Pink	26	26
言語文化学科	LA	ことばと世界25　ことばを読む(演習)	White	20	19
言語文化学科	LA	ことばと世界1　日本語論(読替:日本語論)	White	212	171
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(文法)Ⅱ)	Pink	31	28
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(文法)Ⅰ	Pink	31	29
言語文化学科	外国語	朝鮮語初歩Ⅰ	Pink	84	66
言語文化学科	外国語	朝鮮語初歩Ⅱ	Pink	33	25
言語文化学科	外国語	朝鮮語会話Ⅰ	Pink	16	12
言語文化学科	外国語	朝鮮語会話Ⅱ	Pink	14	11
言語文化学科	外国語	ビジネス英語Ⅰ	Green	26	24
言語文化学科	外国語	ビジネス英語Ⅱ	Green	20	14
言語文化学科	外国語	時事英語Ⅰ	Green	34	30
言語文化学科	外国語	時事英語Ⅱ	Green	31	26
言語文化学科	LA	ことばと世界4　文化の記号学	White	236	199
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎ドイツ語(演習)Ⅱ)	Pink	31	28
言語文化学科	外国語	ドイツ語中級Ⅰ	※2	17	15
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(演習)Ⅰ	Pink	30	29
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(文2b)	Pink	25	21
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(理2b)	Pink	27	20
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(理1)	Pink	25	24
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(文法)Ⅰ	※2	1	0
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(文法)Ⅰ	Pink	32	32
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(文法)Ⅱ	Pink	32	31
言語文化学科	外国語	フランス語初級(文法)Ⅰ(読替:基礎フランス語(文法)Ⅰ)	Pink	28	28
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習)Ⅰ(読替:基礎フランス語(演習)Ⅰ)	Pink	28	28
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習)Ⅱ(読替:基礎フランス語(演習)Ⅱ)	Pink	29	28
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(理2a)	Pink	27	27
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(理Bb)	Green	31	27
言語文化学科	外国語	ドイツ語初級(応用)Ⅰ(読替:基礎ドイツ語(応用)Ⅰ)	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	基礎ドイツ語(応用)Ⅱ	Pink	8	8
言語文化学科	外国語	フランス語初歩Ⅰ	Pink	35	32
言語文化学科	外国語	フランス語初歩Ⅱ	Pink	18	17
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(文2a)	Pink	27	27
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(生活2b)	Pink	27	26
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(文1a)	Pink	23	22
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(生活1)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	フランス語中級Ⅰ	※2	41	40
言語文化学科	外国語	フランス語中級Ⅱ	※2	32	27
言語文化学科	外国語	フランス語上級Ⅰ	※2	6	3
言語文化学科	外国語	フランス語上級Ⅱ	※2	2	1
言語文化学科	LA	ことばと世界6　海外の文学 (読替:外国文学)	White	137	103
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(文3a)	Pink	25	25
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(生活Bb)	Green	30	29
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅰ　前期(文1b)	Pink	23	23
言語文化学科	外国語	基礎英語Ⅱ　後期(文3b)	Pink	25	24
言語文化学科	LA	ことばと世界24　ことばを探る(演習)	White	13	13
言語文化学科	外国語	フランス語初級(文法)Ⅱ	※2	1	0
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習)Ⅱ	※2	1	0
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(文法)Ⅰ	Pink	22	22
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(文法)Ⅱ	Pink	21	21

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(演習) I	Pink	22	22
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(演習) II	Pink	21	21
言語文化学科	外国語	中国語初級(応用) I (読替:基礎中国語(応用) I)	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	中国語初級(応用) II (読替:基礎中国語(応用) II)	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	基礎英語 I　前期(文1a)	Pink	23	23
言語文化学科	外国語	基礎英語 I　前期(生活1)	Pink	25	25
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(文3a)	Pink	25	24
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(理3a)	Pink	25	23
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(生活3)	Pink	25	25
言語文化学科	外国語	中級英語 I　前期(文Bb)	Green	33	32
言語文化学科	外国語	中級英語 II (読替:中級英語)	Green	31	28
言語文化学科	外国語	中級英語　前期(理・生活B)	Green	29	27
言語文化学科	外国語	総合英語 I　前期(文R)	Green	9	9
言語文化学科	外国語	総合英語 I　前期(文L)	Green	17	16
言語文化学科	外国語	総合英語 II　後期(文L)	Green	11	10
言語文化学科	外国語	総合英語　後期(理・生活R)	Green	12	10
言語文化学科	外国語	中国語中級III	※2	18	17
言語文化学科	外国語	中国語中級IV	※2	5	5
言語文化学科	外国語	中国語上級 II	※2	2	2
言語文化学科	外国語	中国語初級会話 I	※2	9	5
言語文化学科	外国語	中国語初級会話 II	※2	4	4
言語文化学科	外国語	中国語初歩 I	Pink	22	19
言語文化学科	外国語	中国語初歩 II	Pink	10	10
言語文化学科	外国語	基礎中国語(文法) I	Pink	13	13
言語文化学科	外国語	基礎中国語(文法) II	Pink	10	10
言語文化学科	外国語	基礎中国語(演習) I	Pink	13	12
言語文化学科	外国語	基礎中国語(演習) II	Pink	10	10
言語文化学科	外国語	フランス語中級 II	※2	1	1
言語文化学科	外国語	フランス語中級III (読替:発展フランス語III)	Green	33	29
言語文化学科	外国語	フランス語中級IV	※2	23	21
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(文2c)	Pink	28	26
言語文化学科	外国語	ドイツ語中級III (読替:ドイツ語中級 I)	Green	11	10
言語文化学科	外国語	ドイツ語中級IV (読替:ドイツ語中級 II)	Green	5	5
言語文化学科	外国語	フランス語初級(文法) II (読替:基礎フランス語(文法) II)	Pink	6	5
言語文化学科	外国語	フランス語初級(演習) II (読替:基礎フランス語(演習) II)	Pink	1	1
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(文法) I	Pink	11	9
言語文化学科	外国語	基礎フランス語(演習) I	Pink	6	5
言語文化学科	外国語	基礎英語 I　前期(文3b)	Pink	25	24
言語文化学科	外国語	基礎英語 I　前期(生活2c)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(文1b)	Pink	25	23
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(生活2c)	Pink	26	26
言語文化学科	外国語	中国語初級(演習) I (読替:基礎中国語(演習) I)	Pink	16	15
言語文化学科	外国語	中国語初級(演習) II (読替:基礎中国語(演習) II)	Pink	12	10
言語文化学科	外国語	中国語中級 I	※2	27	26
言語文化学科	外国語	中国語中級 II	※2	16	16
言語文化学科	外国語	基礎英語 I　前期(文2b)	Pink	24	24
言語文化学科	外国語	基礎英語 II　後期(文2a)	Pink	27	25
言語文化学科	外国語	中級英語 II　後期(文Bd)	Green	31	28
人間社会科学科	基礎	現代心理学	White	328	282
人間社会科学科	基礎	法学 I (日本国憲法)	White	192	163
人間社会科学科	LA	生活世界の安全保障22　教育における危機(演習)	White	13	11
人間社会科学科	LA	ジェンダー6　グローバル化/ローカル性とジェンダー	White	124	81
人間社会科学科	LA	色・音・香21　感覚の科学(演習)	White	19	19
人間社会科学科	LA	生活世界の安全保障10　社会的弱者の存在論	White	107	88
芸術・表現行動学科	LA	色・音・香23　音を読む、創る(演習)	White	20	20
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	138	134
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	65	65
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	138	138

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	72	69
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習(新体操)	White	34	34
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	108	106
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	106	106
芸術・表現行動学科	スポーツ	生涯スポーツ	White	57	53
芸術・表現行動学科	スポーツ	生涯スポーツ	White	28	27
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ科学概論	White	18	12
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	99	96
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	98	96
芸術・表現行動学科	スポーツ	スポーツ健康実習	White	138	137
芸術・表現行動学科	スポーツ	健康科学概論	White	53	44
グローバル文化学環	LA	生命と環境10　開発と共生	White	26	26
グローバル文化学環	LA	生活世界の安全保障5　開発と共生	White	17	17
グローバル文化学環	LA	ジェンダー23　開発・社会変動とジェンダー(演習)	White	19	18
数学科	LA	ことばと世界22　数理のことば(演習)	White	2	2
数学科	基礎	統計学	White	77	62
数学科	基礎	数学パースペクティヴ	White	2	1
数学科	LA	ことばと世界7　数理のことば	White	24	21
数学科	基礎	基礎線形代数学	White	47	47
数学科	基礎	基礎微分積分学	White	22	20
数学科	基礎	基礎微分積分学	White	25	19
物理学科	LA	ことばと世界23　自然のことば(演習)	White	3	3
物理学科	LA	生命と環境6　惑星地球の科学(読替:地学(天文気象))	White	160	138
物理学科	LA	ことばと世界8　自然のことば	White	35	27
化学科	LA	生命と環境5　生命と環境の化学	White	45	42
化学科	基礎/総合	お茶の水女子大学論	White	265	247
化学科	LA	生命と環境23　環境保護活動リサーチ(演習)	White	19	18
化学科	LA	生活世界の安全保障7　現代物質文明の履歴(読替:教養の化学)	White	129	111
化学科	基礎	一般化学実験	White	1	1
生物学科	LA	生命と環境24　生命科学と環境問題(演習)	White	4	4
生物学科	LA	生命と環境21　基礎生命科学(実習)	White	7	7
生物学科	LA	生命と環境21　基礎生命科学(実習)	White	14	14
生物学科	LA	色・音・香2　生命と色・音・香	White	111	84
生物学科	LA	生命と環境1　生命の科学	White	27	18
生物学科	LA	生命と環境22　海洋環境学ダイビング(実習)	White	12	12
生物学科	LA	生命と環境3　多様性生物学	White	61	35
情報科学科	情報	情報処理学	Pink	50	42
情報科学科	基礎/総合	総合コース	White	17	12
情報科学科	LA	色・音・香4　コンピュータが創る色と音	White	198	169
情報科学科	情報	情報処理演習	Pink	19	19
情報科学科	情報	情報処理演習	Pink	27	27
情報科学科	情報	プログラミング演習1	Pink	15	10
情報科学科	LA	ことばと世界11　文法と意味	White	46	40
情報科学科	情報	情報学演習1	Pink	30	25
情報科学科	情報	プログラミング演習2	Pink	34	21
情報科学科	LA	ことばと世界26　計算機のことば(演習)	White	20	19
情報科学科	情報	情報処理演習	Pink	22	22
情報科学科	情報	プログラミング演習1	Pink	40	32
情報科学科	情報	情報科学	Pink	103	78
情報科学科	情報	情報処理演習	Pink	21	21
情報科学科	情報	情報処理演習	Pink	43	42
情報科学科	情報	プログラミング演習2	Pink	17	11
情報科学科	情報	コンピュータ演習2	Pink	47	36
情報科学科	情報	メディアリテラシ	Pink	100	73
情報科学科	情報	コンピュータ演習1	Pink	35	32
情報科学科	情報	コンピュータ演習1	Pink	10	9
情報科学科	情報	プログラミング演習1	Pink	10	7
情報科学科	情報	情報学演習2	Pink	19	13

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
情報科学科	LA	ことばと世界21　情報科学(演習)	White	9	8
情報科学科	LA	ことばと世界9　コンピュータの言語	White	72	60
食物栄養学科	LA	色・音・香22　おいしさのサイエンス(演習)	White	18	18
食物栄養学科	情報	情報処理演習	Pink	40	40
人間・環境科学科	情報	情報処理演習	Pink	25	25
人間・環境科学科	LA	色・音・香10　知覚認知と環境デザイン	White	185	115
人間・環境科学科	LA	生命と環境4　生物人類学(読替:自然人類学)	White	107	85
人間・環境科学科	LA	生活世界の安全保障9　水の安全保障	White	181	154
人間生活学科	基礎	政治学入門	White	38	26
人間生活学科	LA	ことばと世界27　手話学入門(演習)	White	13	13
人間生活学科	情報	情報処理演習	Pink	42	41
人間生活学科	LA	ジェンダー24　テクノロジーとジェンダー(演習)	White	4	4
人間生活学科	LA	生活世界の安全保障1　生活の中の危険と安全	White	38	31
人間生活学科	LA	色・音・香5　情緒と発達の心理学	White	238	190
人間生活学科	LA	ジェンダー1　政策とジェンダー	White	33	13
人間生活学科	基礎	法学Ⅱ(法学入門)	White	85	60
人間生活学科	基礎	法学Ⅰ(日本国憲法)	White	124	98
人間生活学科	基礎	ミクロ経済学入門	White	127	89
人間生活学科	基礎	マクロ経済学入門	White	101	63
人間生活学科	情報	情報処理演習	Pink	32	32
人間生活学科	LA	ジェンダー9　生殖テクノロジーとジェンダー	White	145	104
人間生活学科	LA	ジェンダー21　福祉・エコノミーとジェンダー(演習)	White	17	14
人間生活学科	LA	色・音・香6　色・音・香と生活文化	White	193	156
全学共通	LA	生活世界の安全保障23　NPOインターンシップ(実習)	White	13	11
全学共通	基礎/総合	総合コース	White	15	12
全学共通	基礎	安全管理概論	White	78	70
全学共通	LA	コンテンポラリー・リベラルアーツ	White	3	3
全学共通	LA	コンテンポラリー・リベラルアーツ2　(読替:総合コース)	White	5	3
全学共通	LA	生活世界の安全保障6　社会技術革新学概論	White	27	25
全学共通	LA	生活世界の安全保障24　リスク管理(演習)	White	2	2
全学共通	LA	生活世界の安全保障24　リスク管理(演習)	White	2	2
全学共通	LA	生活世界の安全保障24　リスク管理(演習)	White	3	3

※1　CCBM(Color Code Benchmark system)とは、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示したものです。

①ピンク・・・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。

②グリーン・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。

③レッド・・・一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーンの科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。

④アイボリー・・教職等資格関連科目。

⑤ホワイト・・コア科目(外国語・情報系科目以外)、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

※2　CCBM適用外(平成23年度以前の旧科目のため)

□　履修登録者に、非正規生(科目等履修生、特別聴講学生、日研生)を含む。ただし、聴講生は除く。

専門教育

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人文科学科	演習	日本中世史料演習Ⅰ	Red	12	12
人文科学科	演習	日本中世史料演習Ⅱ	Red	10	10
人文科学科	演習	哲学演習CⅢ	Red	10	9
人文科学科	演習	東洋社会史演習Ⅰ	※2	5	5
人文科学科	演習	東洋社会史演習Ⅱ	※2	6	6
人文科学科	演習	人文地理学分析基礎演習	Green	16	15
人文科学科	演習	地理情報システム演習Ⅰ	Green	16	15
人文科学科	演習	都市・福祉地理学演習Ⅰ	Red	7	6
人文科学科	演習	都市・福祉地理学演習Ⅱ	Red	2	2
人文科学科	演習	歴史・文化地理学演習Ⅱ	Red	7	6
人文科学科	演習	社会地理学演習Ⅱ	Red	3	3
人文科学科	演習	日本古代史料演習Ⅰ	Red	11	11
人文科学科	演習	日本古代史料演習Ⅱ	Red	8	8
人文科学科	演習	倫理学演習A	Red	4	4
人文科学科	演習	倫理思想史演習B	Red	7	5
人文科学科	演習	理論分析論演習Ⅰ	Red	4	3
人文科学科	演習	理論分析論演習Ⅱ	Red	7	4
人文科学科	演習	問題分析論演習Ⅰ	Red	9	6
人文科学科	演習	問題分析論演習Ⅱ	Red	11	7
人文科学科	演習	東洋社会経済史演習Ⅰ	※2	2	2
人文科学科	演習	東洋社会経済史演習Ⅱ	※2	3	3
人文科学科	演習	形象分析学演習Ⅱ	Red	8	8
人文科学科	演習	日本近代史料演習Ⅰ	Red	12	12
人文科学科	演習	日本近代史料演習Ⅱ	Red	13	13
人文科学科	演習	西洋社会史演習Ⅰ	Green	6	5
人文科学科	演習	西洋社会史演習Ⅱ	Green	7	7
人文科学科	演習	西洋社会経済史演習Ⅰ	Red	20	20
人文科学科	演習	西洋社会経済史演習Ⅱ	Red	19	19
人文科学科	演習	環境地理学演習Ⅰ	Red	8	6
人文科学科	演習	日本近世史料演習Ⅰ	Red	11	11
人文科学科	演習	日本近世史料演習Ⅱ	Red	11	10
人文科学科	演習	地域分析学演習Ⅰ	Red	9	9
人文科学科	演習	地域分析学演習Ⅱ	Red	1	1
人文科学科	演習	社会地理学演習Ⅰ	Red	6	5
人文科学科	演習	歴史・文化地理学演習Ⅰ	Red	7	4
人文科学科	演習	哲学演習CⅡ	Red	12	9
人文科学科	演習	地理学研究法演習	Red	11	11
人文科学科	演習	地理学卒業演習	Red	5	4
人文科学科	演習	概念分析論演習Ⅰ	Red	3	1
人文科学科	演習	概念分析論演習Ⅱ	Red	6	5
人文科学科	演習	哲学演習AⅠ	Red	11	9
人文科学科	演習	哲学演習AⅡ	Red	11	5
人文科学科	演習	環境地理学基礎演習	Green	19	18
人文科学科	演習	地理学フィールドワーク演習Ⅰ	※2	11	11
人文科学科	演習	地理学フィールドワーク演習Ⅱ	※2	11	10
人文科学科	演習	美術史学演習Ⅱ	Red	14	11
人文科学科	演習	史跡調査	Green	12	10
人文科学科	講義	文化交流論	Pink	22	22
人文科学科	講義	地図学	Green	25	22
人文科学科	講義	歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	Green	22	13
人文科学科	講義	西洋政治史演習Ⅰ	Red	11	11
人文科学科	講義	西洋政治史演習Ⅱ	Red	12	12
人文科学科	講義	西洋史研究法	Green	24	22
人文科学科	講義	西洋近代史	※2	45	32
人文科学科	講義	西洋史諸言語Ⅱ	※2	12	9
人文科学科	講義	外国史入門講読Ⅱ	Pink	18	18
人文科学科	講義	東洋美術史BⅢ	Green	9	5
人文科学科	講義	日本史講読	Green	15	14
人文科学科	講義	日本史入門講読	Pink	13	12
人文科学科	講義	歴史・文化地理学	Green	27	16

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人文科学科	講義	文化地理学	Green	2	1
人文科学科	講義	比較文化史	Pink	106	102
人文科学科	講義	東洋史講読	※2	18	18
人文科学科	講義	東洋政治史	※2	8	4
人文科学科	講義	外国史入門講読Ⅰ	Pink	11	10
人文科学科	講義	人間と空間	Pink	57	56
人文科学科	講義	都市地理学	Green	44	39
人文科学科	講義	東洋美術史AⅢ	Green	35	20
人文科学科	講義	比較社会史	Pink	95	93
人文科学科	講義	歴史現地調査Ⅰ	Green	12	7
人文科学科	講義	日本文化史概論	Pink	53	50
人文科学科	講義	日本史論文講読Ⅰ	※2	10	10
人文科学科	講義	日本古代中世文化史	Green	15	12
人文科学科	講義	古文書学	Green	10	10
人文科学科	講義	哲学BⅣ	Green	3	3
人文科学科	講義	生命と倫理学	Green	36	29
人文科学科	講義	倫理学通論Ⅰ	Pink	16	6
人文科学科	講義	倫理学通論Ⅱ	Pink	5	4
人文科学科	講義	倫理学基礎論	Pink	58	43
人文科学科	講義	倫理学概論Ⅰ	Pink	27	21
人文科学科	講義	倫理学概論Ⅱ	Pink	18	15
人文科学科	講義	倫理学特殊講義BⅠ	Green	3	3
人文科学科	講義	日本倫理思想史研究	Pink	8	7
人文科学科	講義	倫理学研究指導	※2	4	4
人文科学科	講義	西洋美術史AⅢ	Green	39	28
人文科学科	講義	哲学基礎論	Pink	86	78
人文科学科	講義	哲学研究指導	※2	5	5
人文科学科	講義	西洋政治史Ⅰ	※2	20	16
人文科学科	講義	形象分析学基礎論 （読替:美術史基礎論）	Pink	62	53
人文科学科	講義	形象分析学特殊講義Ⅲ	Green	13	10
人文科学科	講義	美術史学研究指導Ⅲ	Red	21	20
人文科学科	講義	社会地理学	Green	19	14
人文科学科	講義	歴史史料学(日本)	※2	9	9
人文科学科	講義	歴史現地調査Ⅱ	Green	11	11
人文科学科	講義	日本古代中世社会経済史	Green	21	16
人文科学科	講義	東洋史概説 （読替:アジア史概説）	Pink	75	65
人文科学科	講義	東洋政治社会史	※2	9	6
人文科学科	講義	ギリシャ語	Pink	12	8
人文科学科	講義	ラテン語	Pink	9	9
人文科学科	講義	歴史情報論(外国)	※2	13	13
人文科学科	講義	西洋史講読	Green	24	23
人文科学科	講義	西洋史概説	Pink	81	72
人文科学科	講義	外国史論文講読Ⅰ	※2	14	13
人文科学科	講義	西洋政治文化史	※2	25	17
人文科学科	講義	都市社会史(日本)	※2	19	13
人文科学科	講義	日本史概説	Pink	61	55
人文科学科	講義	日本史研究法	Green	15	13
人文科学科	講義	日本近世近代社会経済史	Green	16	12
人文科学科	講義	史学研究指導	Red	30	30
人文科学科	講義	経済地理学	Green	69	59
人文科学科	講義	都市と自然	Pink	34	33
人文科学科	講義	地誌学	Green	6	6
人文科学科	講義	地理学特殊講義Ⅱ	※2	6	1
人文科学科	講義	地理学特殊講義Ⅵ	※2	13	11
人文科学科	講義	考古学通論Ⅱ	Green	16	14
人文科学科	講義	英書講読･倫理学	※2	8	5
人文科学科	講義	哲学BⅢ	Green	16	12
人文科学科	講義	日本近世近代文化史	Green	8	8
人文科学科	講義	自然地理学	Green	15	13
人文科学科	講義	東洋史研究法	※2	19	16

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人文科学科	講義	東洋政治文化史	※2	26	24
人文科学科	講義	考古学通論Ⅰ	Green	24	21
人文科学科	講義	卒業論文	Red	5	5
人文科学科	講義	測量学	Green	24	17
人文科学科	講義	哲学通論Ⅰ	Pink	21	13
人文科学科	講義	哲学AⅢ	Green	19	13
人文科学科	講義	哲学概論Ⅰ	Pink	26	14
人文科学科	講義	哲学AⅣ	Green	3	3
人文科学科	講義	自然と人間	Pink	29	24
人文科学科	講義	卒業論文	Red	18	18
人文科学科	講義	美術史学特殊講義Ⅱ	Green	32	25
人文科学科	講義	西洋美術史BⅢ	Green	29	23
人文科学科	講義	西洋倫理思想史研究	Green	6	4
人文科学科	講義	西洋中世史	Green	27	21
人文科学科	講義	地理学特殊講義Ⅰ	※2	14	9
人文科学科	講義	倫理思想史特殊講義AⅠ	Green	6	6
人文科学科	講義	倫理思想史特殊講義AⅡ	Green	7	3
人文科学科	講義	倫理学資料講読	※2	8	8
人文科学科	講義	宗教と倫理学	Green	2	2
人文科学科	講義	日本の社会と文化	Green	19	12
人文科学科	講義	卒業論文	※2	30	30
人文科学科	講義	地理学英書講読	Green	16	15
人文科学科	講義	倫理思想史特殊講義BⅡ	Green	8	6
人文科学科	実験・実習	地理学フィールドワークB	Green	6	4
人文科学科	実験・実習	地理学フィールドワークA	※2	11	11
言語文化学科	演習	応用仏語学演習Ⅰ	Red	2	2
言語文化学科	演習	応用仏語学演習Ⅱ	Red	1	1
言語文化学科	演習	英作文演習(中級)	Green	10	9
言語文化学科	演習	英作文演習(初級)	Pink	14	12
言語文化学科	演習	英語音声学演習	Green	28	26
言語文化学科	演習	英作文演習(初級)	Pink	30	26
言語文化学科	演習	英会話演習(中級)	Green	29	28
言語文化学科	講義	第二言語教授法研究	Green	1	1
言語文化学科	演習	英作文演習(中級)	Green	29	25
言語文化学科	演習	英会話演習(初級)	Pink	39	39
言語文化学科	演習	英会話演習(上級)	Red	20	20
言語文化学科	講義	英米事情	Green	27	26
言語文化学科	演習	対照表現学演習Ⅰ	Red	32	31
言語文化学科	演習	対照表現学演習Ⅱ	Red	32	28
言語文化学科	演習	英作文演習(上級)	Red	19	13
言語文化学科	演習	基礎仏作文演習	Pink	20	17
言語文化学科	演習	中級仏作文演習	Green	17	17
言語文化学科	演習	基礎仏会話演習	Pink	15	15
言語文化学科	演習	中級仏会話演習	Green	16	16
言語文化学科	演習	上級仏会話演習	※2	6	6
言語文化学科	演習	基礎仏語学演習	Pink	8	7
言語文化学科	演習	中級仏語学演習	Red	11	9
言語文化学科	演習	上級仏語学演習	※2	9	9
言語文化学科	講義	中国語学概論	Pink	6	6
言語文化学科	講義	中国語講読 (読替:中国文化論)	Green	4	4
言語文化学科	講義	日中対照言語学 (読替:中国語学講読演習)	Green	9	8
言語文化学科	講義	中国語文法論 (読替:中国現代語学演習)	Red	5	4
言語文化学科	演習	中国現代語学特別演習	Red	1	0
言語文化学科	講義	中国古典文学史(先秦～唐)	Pink	24	24
言語文化学科	講義	中国語学文献講読 (読替:中国古典語学講読演習)	Red	11	11
言語文化学科	演習	中国古典語学講義演習 (読替:中国語学基礎演習)	※2	14	14
言語文化学科	演習	中国古典語学特別演習	※2	1	1
言語文化学科	講義	卒業論文	Red	34	34
言語文化学科	講義	日本古典文学史論(上代)	Green	31	31
言語文化学科	講義	日本古典文学論特殊研究(上代)	Green	23	23

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
言語文化学科	演習	日本古典文学論基礎演習Ⅰ	Pink	19	18
言語文化学科	講義	日本上代文学論特殊講義Ⅰ	※2	19	18
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(上代)Ⅰ	Red	5	5
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(上代)Ⅱ	Red	5	5
言語文化学科	演習	仏文学特別演習	※2	7	7
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(中古)Ⅰ	Red	11	11
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(中古)Ⅱ	Red	10	10
言語文化学科	講義	中国事情	Green	11	10
言語文化学科	講義	中国現代作家論	Red	10	9
言語文化学科	講義	中国現代作品論	Red	5	5
言語文化学科	演習	中国現代文学特別演習	※2	3	3
言語文化学科	講義	日本語史特殊研究(古代語)	※2	30	24
言語文化学科	講義	日本語文章表現論　(読替:日本語コミュニケーション論演習(文章語))	Pink	27	23
言語文化学科	講義	日本語史特殊講義(近代語)Ⅰ	※2	4	2
言語文化学科	講義	英語圏言語文化概論　(読替:英語圏言語文化入門)	Pink	54	51
言語文化学科	演習	英米文学演習(入門)	Pink	39	34
言語文化学科	演習	英米文学演習(初級)	Pink	22	20
言語文化学科	講義	米文学史Ⅰ	Green	19	17
言語文化学科	講義	米文学史Ⅱ	Green	14	14
言語文化学科	講義	西欧社会文化論Ⅰ	Pink	15	14
言語文化学科	講義	フランス社会文化論Ⅳ	Green	18	16
言語文化学科	講義	日本語構造論概論　(読替:日本語学通論)	Red	51	44
言語文化学科	演習	日本語構造論演習Ⅰ	※2	13	13
言語文化学科	演習	日本語構造論演習Ⅱ	※2	12	11
言語文化学科	講義	日本語学研究指導	Red	8	8
言語文化学科	講義	日本古典文学史論(近世)	Green	69	59
言語文化学科	講義	日本古典文学論特殊研究(近世)	Green	50	41
言語文化学科	講義	アジア比較言語文化論	※2	7	3
言語文化学科	講義	中国現代文学史	Pink	4	4
言語文化学科	講義	日本古典文学論特殊研究(中古)	Green	14	7
言語文化学科	講義	英語学特殊講義Ⅲ	Red	26	22
言語文化学科	講義	英語学特殊講義Ⅳ	Red	16	15
言語文化学科	講義	書道Ⅰ	Pink	17	16
言語文化学科	講義	書道Ⅰ	Pink	10	10
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(近世)Ⅰ	Red	16	16
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(近世)Ⅱ	Red	15	15
言語文化学科	講義	中国語コミュニケーション・スキル	Green	8	8
言語文化学科	講義	中国語ヒアリング基礎	Green	11	9
言語文化学科	講義	日本語構造論特殊講義(文章語)	※2	1	1
言語文化学科	講義	日本語構造論特殊講義(文章語)Ⅰ	※2	36	34
言語文化学科	講義	日本語構造論特殊講義(文章語)Ⅱ	※2	32	31
言語文化学科	講義	英文学史Ⅱ	Green	28	25
言語文化学科	演習	英米文学演習(上級)	Green	15	15
言語文化学科	講義	日本古典文学論講読(近世)　(読替:日本文学論講読Ⅲ)	Pink	37	30
言語文化学科	講義	書道Ⅱ	Pink	53	51
言語文化学科	講義	日本中古文学論特殊講義Ⅱ	※2	25	20
言語文化学科	演習	独文学演習	※2	6	6
言語文化学科	講義	英文学史Ⅰ	Green	31	26
言語文化学科	講義	英語圏テキスト講読Ⅰ	※2	19	17
言語文化学科	演習	英米文学演習(中級)	Green	13	13
言語文化学科	講義	英文学特殊講義Ⅶ	Red	23	17
言語文化学科	講義	日本古典文学史論(中世)	Green	35	34
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(中世)	※2	1	1
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(中世)Ⅰ	Red	9	9
言語文化学科	演習	日本古典文学論演習(中世)Ⅱ	Red	9	8
言語文化学科	講義	日本古典文学論特殊研究(中世)	Green	7	6
言語文化学科	講義	日本文学研究指導	Red	24	24
言語文化学科	演習	日本古典文学論基礎演習Ⅱ	Pink	19	18
言語文化学科	講義	日本語音声表現論	Green	45	40
言語文化学科	講義	日本語構造論特殊研究	※2	11	7

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
言語文化学科	講義	日本近代文学論特殊研究(近代)	Green	31	24
言語文化学科	演習	中国語作文基礎演習	Red	13	13
言語文化学科	演習	中国語作文応用演習	Red	11	10
言語文化学科	講義	英文学特殊講義Ⅱ	Red	9	7
言語文化学科	講義	英文学特殊講義Ⅴ	Red	9	7
言語文化学科	講義	日本近代文学史論(現代)	Green	38	36
言語文化学科	講義	日本文学概説 (読替:日本言語文化概論)	Pink	50	44
言語文化学科	演習	日本近代文学論演習(現代)	※2	1	1
言語文化学科	講義	日本近代文学論特殊研究(文学理論)	※2	36	28
言語文化学科	演習	日本近代文学論演習(現代)Ⅰ	Red	16	15
言語文化学科	演習	日本近代文学論演習(現代)Ⅱ	Red	16	15
言語文化学科	講義	英語学概論	Green	27	26
言語文化学科	演習	特別演習(言語研究方法論)Ⅱ	Red	18	17
言語文化学科	演習	特別演習(言語資料分析)Ⅰ	※2	25	24
言語文化学科	講義	英文法	※2	4	3
言語文化学科	講義	英語学特殊講義Ⅴ	Red	34	33
言語文化学科	講義	英文法Ⅰ	Pink	56	56
言語文化学科	講義	英文法Ⅱ	Pink	56	56
言語文化学科	講義	現代仏文学特殊講義	※2	8	7
言語文化学科	講義	ヨーロッパ言語文化論	Pink	73	70
言語文化学科	講義	卒業論文	Red	5	5
言語文化学科	講義	日本古典文学史論(中古)	Green	44	42
言語文化学科	講義	欧州文化論Ⅰ	Green	46	40
言語文化学科	講義	フランス社会文化論Ⅲ	Green	51	47
言語文化学科	講義	異言語文化受容論	※2	10	7
言語文化学科	演習	近代仏文学演習	※2	5	5
言語文化学科	講義	近代仏文学特殊講義	※2	4	4
言語文化学科	演習	英米文学演習(初級)	Pink	11	8
言語文化学科	演習	特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ	Red	14	14
言語文化学科	演習	特別演習(英米文学研究方法論)Ⅱ	Red	14	14
言語文化学科	演習	特別演習(作品分析)Ⅰ	※2	9	8
言語文化学科	講義	英語圏テキスト講読Ⅱ	※2	24	20
言語文化学科	演習	特別演習(作品分析)Ⅱ	※2	9	9
言語文化学科	講義	卒業論文	Red	32	32
言語文化学科	講義	卒業論文	Red	14	14
言語文化学科	講義	仏語言語文化研究指導	Red	13	13
言語文化学科	演習	中国語ヒアリング演習	Red	4	4
言語文化学科	演習	中国語上級演習	※2	2	1
言語文化学科	演習	中国語会話演習	Red	2	1
言語文化学科	講義	仏語圏言語文化論Ⅰ	Green	10	10
言語文化学科	講義	言語学概論	※2	14	10
言語文化学科	講義	言語学入門Ⅰ	Pink	49	48
言語文化学科	講義	言語学入門Ⅱ	Pink	46	43
言語文化学科	演習	英文法演習	Green	25	22
言語文化学科	演習	特別演習(言語研究方法論)Ⅰ	Red	18	17
言語文化学科	演習	特別演習(言語資料分析)Ⅱ	※2	26	26
言語文化学科	講義	英語学入門	Pink	33	29
言語文化学科	講義	英語学特殊講義Ⅱ	Red	23	15
言語文化学科	講義	仏語圏言語文化論Ⅱ	Green	16	14
言語文化学科	講義	日本近代文学史論(近代)	Green	37	35
言語文化学科	講義	日本近代文学論講読(総合) (読替:日本文学論講読Ⅳ)	Pink	53	44
言語文化学科	講義	中国古典文学史(宋～清)	Pink	49	48
言語文化学科	講義	中国文学古典講読 (読替:中国古典散文演習)	Green	10	10
言語文化学科	演習	中国古典文学特別演習	Red	1	1
人間社会科学科	講義	社会意識論	Green	1	1
人間社会科学科	講義	社会教育特講Ⅲ	※2	20	17
人間社会科学科	講義	博物館活動特殊講義	Ivory	28	26
人間社会科学科	講義	教育社会学概論	Pink	32	21
人間社会科学科	講義	教育科学特殊講義Ⅱ	Green	8	4
人間社会科学科	講義	発達心理学特殊講義Ⅱ	※2	5	3

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間社会科学科	講義	社会教育特講Ⅰ	Ivory	19	18
人間社会科学科	講義	社会教育課題研究	Ivory	14	11
人間社会科学科	講義	卒業論文	Red	19	19
人間社会科学科	講義	人間と発達	Pink	55	52
人間社会科学科	講義	教育科学研究指導Ⅰ	Green	1	1
人間社会科学科	講義	教育科学研究指導Ⅰ	Green	13	12
人間社会科学科	講義	教育科学研究指導Ⅱ	Red	21	20
人間社会科学科	講義	教育方法学特殊講義 （読替:授業研究特殊講義）	Green	10	10
人間社会科学科	演習	認知心理学演習(基礎)	Green	14	11
人間社会科学科	講義	社会心理学特殊講義Ⅰ	※2	27	20
人間社会科学科	講義	社会心理学特殊講義Ⅱ	※2	12	10
人間社会科学科	演習	社会心理学演習(応用)	Red	4	4
人間社会科学科	講義	社会心理学研究法Ⅱ(基礎)	※2	4	4
人間社会科学科	講義	社会心理学研究法Ⅱ(応用)	※2	3	3
人間社会科学科	講義	社会心理学の展開	Green	3	3
人間社会科学科	講義	教育人間学特殊講義	Green	30	26
人間社会科学科	講義	生涯学習概論	Pink	63	61
人間社会科学科	講義	社会教育学特殊講義	Green	20	20
人間社会科学科	演習	社会教育学演習	Red	16	16
人間社会科学科	講義	社会学通論	Green	87	78
人間社会科学科	講義	卒業論文	Red	12	12
人間社会科学科	講義	社会学研究指導Ⅰ	Green	12	11
人間社会科学科	講義	社会学研究指導Ⅱ	Red	12	11
人間社会科学科	演習	臨床心理学演習(理論)	※2	10	10
人間社会科学科	演習	発達心理学演習(基礎)	Green	5	4
人間社会科学科	講義	現代生活論	Pink	17	12
人間社会科学科	演習	学校社会学演習	Red	9	9
人間社会科学科	講義	卒業論文	Red	15	15
人間社会科学科	講義	人間と情報	Pink	56	53
人間社会科学科	演習	心理学基礎実験演習Ⅰ	Pink	11	11
人間社会科学科	演習	心理学基礎実験演習Ⅱ	Pink	13	12
人間社会科学科	演習	心理学応用実験演習Ⅰ	※2	19	17
人間社会科学科	演習	心理学応用実験演習Ⅱ	※2	17	17
人間社会科学科	実験・実習	社会教育実習	Ivory	10	9
人間社会科学科	講義	教育開発特殊講義	Green	13	12
人間社会科学科	講義	社会調査の設計と実施	Pink	63	56
人間社会科学科	講義	人間と社会	Pink	55	53
人間社会科学科	講義	社会調査法	Red	19	18
人間社会科学科	演習	現代社会論演習Ⅰ	Red	20	20
人間社会科学科	演習	現代社会論演習Ⅱ	Red	15	15
人間社会科学科	講義	臨床心理学概論	Pink	73	68
人間社会科学科	講義	臨床心理学研究法Ⅱ(基礎)	Red	4	4
人間社会科学科	講義	臨床心理学研究法Ⅱ(応用)	Red	4	4
人間社会科学科	演習	認知心理学演習(理論)	※2	6	6
人間社会科学科	講義	認知心理学研究法Ⅰ(基礎)	※2	2	2
人間社会科学科	講義	認知心理学研究法Ⅰ(応用)	※2	2	2
人間社会科学科	演習	臨床心理学演習(応用)	※2	15	13
人間社会科学科	演習	心理学基礎演習(理論)	Pink	11	11
人間社会科学科	講義	臨床心理学研究法Ⅰ(基礎)	Red	3	3
人間社会科学科	講義	臨床心理学研究法Ⅰ(応用)	Red	3	3
人間社会科学科	講義	学校社会学特殊講義	Green	14	11
人間社会科学科	講義	博物館学概論	Ivory	51	35
人間社会科学科	講義	博物館資料特殊講義	Ivory	33	30
人間社会科学科	実験・実習	博物館実習	Ivory	22	22
人間社会科学科	講義	人間科学論	Pink	46	44
人間社会科学科	講義	文化人類学概論	Pink	33	27
人間社会科学科	演習	民族誌学演習	Red	4	4
人間社会科学科	講義	人間科学方法論	Pink	17	17
人間社会科学科	講義	認知心理学概論	Pink	43	38
人間社会科学科	講義	教育思想概論	Pink	43	39

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間社会科学科	演習	教育人間学演習	Red	16	13
人間社会科学科	講義	現代社会論	Pink	73	65
人間社会科学科	演習	現代生活論演習Ⅰ	Red	20	20
人間社会科学科	演習	現代生活論演習Ⅱ	Red	19	19
人間社会科学科	演習	心理学基礎演習(応用)	Pink	12	12
人間社会科学科	講義	法学通論	Pink	27	26
人間社会科学科	講義	教育心理学特殊講義Ⅲ	※2	8	7
人間社会科学科	講義	民族誌学特殊講義	Green	25	17
人間社会科学科	講義	ジェンダー論	Pink	17	11
人間社会科学科	講義	社会教育計画Ⅱ	Ivory	27	20
人間社会科学科	講義	社会教育特講Ⅱ	Ivory	21	16
人間社会科学科	講義	比較社会論	Green	28	23
人間社会科学科	講義	心理統計法(基礎) (読替:心理統計法)	Pink	51	44
人間社会科学科	講義	教育史料分析特殊講義	Green	26	22
人間社会科学科	講義	認知心理学特殊講義Ⅲ	※2	22	16
人間社会科学科	演習	教育心理学演習(応用)	Red	4	4
人間社会科学科	講義	教育心理学研究法Ⅱ(基礎)	※2	3	3
人間社会科学科	講義	教育心理学研究法Ⅱ(応用)	※2	3	3
人間社会科学科	講義	教育開発概論	Pink	30	23
人間社会科学科	演習	教育開発演習	Red	10	8
人間社会科学科	講義	発達心理学概論	Pink	26	25
人間社会科学科	講義	教育方法学概論	Pink	39	32
人間社会科学科	演習	教育方法学演習 (読替:授業研究演習)	Red	18	17
人間社会科学科	講義	教育実地研究	Pink	25	25
人間社会科学科	講義	社会政策論Ⅰ	Pink	32	26
人間社会科学科	講義	社会政策論Ⅱ	Green	29	17
人間社会科学科	演習	社会政策論演習Ⅰ	Red	14	11
人間社会科学科	演習	社会政策論演習Ⅱ	Red	10	6
人間社会科学科	講義	教育史概論	Pink	38	29
人間社会科学科	演習	教育史料分析演習	Red	6	5
人間社会科学科	実験・実習	学校インターンシップ	Green	16	13
人間社会科学科	講義	臨床心理学特殊講義Ⅲ	※2	28	25
人間社会科学科	講義	教育課程概論	Pink	26	24
人間社会科学科	講義	社会心理学概論	Pink	61	35
人間社会科学科	講義	社会問題論	Green	2	1
人間社会科学科	講義	教育心理学概論	Pink	67	60
芸術・表現行動学科	講義	音楽形式論	Pink	14	13
芸術・表現行動学科	講義	民族音楽学	Green	13	12
芸術・表現行動学科	演習	比較音楽文化論演習	※2	8	8
芸術・表現行動学科	講義	比較音楽文化論 (読替:音楽学研究演習)	Red	14	14
芸術・表現行動学科	講義	西洋音楽史Ⅰ	Pink	14	13
芸術・表現行動学科	講義	西洋音楽史Ⅱ	Green	15	15
芸術・表現行動学科	講義	音楽学概論	Pink	18	16
芸術・表現行動学科	演習	合唱演習Ⅰ	Pink	25	25
芸術・表現行動学科	演習	合唱演習Ⅱ	Green	10	10
芸術・表現行動学科	講義	陸上競技	Green	17	15
芸術・表現行動学科	講義	ピアノレパートリー研究AⅡ	Green	9	8
芸術・表現行動学科	講義	卒業研究	Red	11	11
芸術・表現行動学科	講義	西洋音楽史特殊講義Ⅰ	Green	10	10
芸術・表現行動学科	講義	音楽学特殊講義Ⅰ	Green	11	11
芸術・表現行動学科	演習	ピアノ研究演習AⅡ	Pink	4	4
芸術・表現行動学科	演習	合奏演習	Pink	13	12
芸術・表現行動学科	実験・実習	スキー実習	Green	23	21
芸術・表現行動学科	講義	新体操	Pink	1	1
芸術・表現行動学科	講義	作曲原論Ⅰ	Pink	13	13
芸術・表現行動学科	講義	作曲原論Ⅱ	Pink	13	12
芸術・表現行動学科	演習	声楽Ⅰ演習	Pink	13	13
芸術・表現行動学科	講義	声楽Ⅲ	Red	7	7
芸術・表現行動学科	講義	声楽Ⅳ	Red	3	3
芸術・表現行動学科	演習	声楽特別演習	Pink	4	2

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
芸術・表現行動学科	講義	声楽作品研究B （読替:歌曲研究BⅠ）	Green	9	8
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊教育法実習(初等教育)	Green	15	15
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊教育法実習(中等教育)	Green	14	13
芸術・表現行動学科	講義	舞踊学概論	Pink	18	16
芸術・表現行動学科	講義	臨床舞踊論	Green	16	15
芸術・表現行動学科	演習	臨床舞踊論実験演習	Red	5	5
芸術・表現行動学科	講義	音楽行動概論Ⅰ （読替:音楽学基礎演習Ⅰ）	Green	14	14
芸術・表現行動学科	講義	音楽行動概論Ⅱ （読替:音楽学基礎演習Ⅱ）	Green	15	15
芸術・表現行動学科	講義	モダンダンス・テクニック(中級)Ⅱ	Green	17	16
芸術・表現行動学科	演習	ピアノⅠ演習(伴奏を含む)	Pink	13	12
芸術・表現行動学科	講義	ピアノⅡ	Green	11	8
芸術・表現行動学科	講義	ピアノⅢ	Red	3	2
芸術・表現行動学科	講義	ピアノⅣ	Red	5	5
芸術・表現行動学科	講義	卒業演奏研究	Red	6	6
芸術・表現行動学科	講義	ピアノレパートリー研究CⅠ （読替:ピアノ表現基礎論）	Green	14	14
芸術・表現行動学科	講義	ピアノレパートリー研究CⅡ	Green	11	11
芸術・表現行動学科	講義	ピアノ合奏研究	Green	10	8
芸術・表現行動学科	講義	室内楽研究	Green	10	9
芸術・表現行動学科	講義	ピアノ指導法研究 （読替:ピアノ演奏法研究C）	Green	10	8
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊表現技法実習	Green	27	27
芸術・表現行動学科	講義	スポーツ人間学	Green	15	15
芸術・表現行動学科	演習	スポーツ人間学実験演習	Red	10	9
芸術・表現行動学科	講義	表現行動論Ⅱ	Pink	17	16
芸術・表現行動学科	講義	動作学	Green	21	19
芸術・表現行動学科	演習	動作学実験演習	Red	8	7
芸術・表現行動学科	講義	解剖学	Green	21	19
芸術・表現行動学科	講義	生理学(運動生理学を含む)	Green	20	13
芸術・表現行動学科	講義	体育原理	Green	15	15
芸術・表現行動学科	演習	スポーツ文化論演習	Red	7	7
芸術・表現行動学科	講義	球技(教材研究)	Green	25	24
芸術・表現行動学科	講義	舞踊音楽構成法	Green	33	28
芸術・表現行動学科	講義	アジア音楽論Ⅱ	Green	12	12
芸術・表現行動学科	講義	学校安全と救急看護	Green	30	28
芸術・表現行動学科	演習	ピアノ研究演習CⅠ （読替:ピアノ演奏学B）	Pink	14	14
芸術・表現行動学科	演習	ピアノ研究演習CⅡ （読替:ピアノ演奏学特講B）	Pink	12	12
芸術・表現行動学科	講義	オペラ研究BⅢ	Red	7	6
芸術・表現行動学科	講義	オペラ研究BⅣ	Red	8	8
芸術・表現行動学科	講義	民族舞踊学	Green	16	16
芸術・表現行動学科	実験・実習	民族舞踊学実験演習	Red	7	7
芸術・表現行動学科	講義	舞踊学特殊講義	Green	16	16
芸術・表現行動学科	実験・実習	民族舞踊実習(基礎)	Pink	16	16
芸術・表現行動学科	講義	声楽Ⅱ	Green	13	13
芸術・表現行動学科	講義	舞踊芸術学	Green	17	16
芸術・表現行動学科	実験・実習	モダンダンス・テクニック(初級)	Pink	17	17
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊創作法実習(舞踊構成法)	Green	15	15
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊創作法実習(即興創作)	Pink	16	16
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊創作法実習(舞踊上演・制作)	Red	8	8
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊上演法実習(上級)	Green	20	20
芸術・表現行動学科	実験・実習	舞踊芸術学実験演習	Red	6	6
芸術・表現行動学科	実験・実習	音楽学概論Ⅰ （読替:音楽学研究法）	Green	14	14
芸術・表現行動学科	講義	イタリア語	Pink	49	29
芸術・表現行動学科	講義	病理学	Green	35	33
芸術・表現行動学科	講義	器械体操	Green	21	21
芸術・表現行動学科	実験・実習	ピアノ表現実技Ⅲ （読替:ピアノ研究演習BⅡ）	Pink	11	11
芸術・表現行動学科	演習	ピアノ研究演習BⅠ （読替:ピアノ表現実技Ⅳ）	Pink	4	4
芸術・表現行動学科	講義	日本音楽演奏法Ⅰ	※2	10	10
芸術・表現行動学科	実験・実習	バレエ実習	Green	29	28
芸術・表現行動学科	講義	歌曲研究AⅠ （読替:声楽作品研究C）	Green	8	8
芸術・表現行動学科	講義	卒業論文	Red	16	16
芸術・表現行動学科	講義	舞踊・運動科学研究法入門	Pink	15	15

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
芸術・表現行動学科	演習	舞踊・運動科学研究法演習	Red	14	14
芸術・表現行動学科	講義	オペラ作品研究A （読替:オペラ研究AⅢ）	Red	11	11
芸術・表現行動学科	講義	オペラ作品研究B （読替:オペラ研究AⅣ）	Red	11	11
芸術・表現行動学科	講義	日本音楽史概論	Pink	24	23
芸術・表現行動学科	講義	ソルフェージュ	Pink	13	13
芸術・表現行動学科	講義	ピアノ表現技法論	※2	1	1
グローバル文化学環	講義	国際機構論	Green	17	10
グローバル文化学環	講義	東南アジア社会文化論	Green	37	22
グローバル文化学環	講義	グローバル・メディア論	Pink	75	55
グローバル文化学環	講義	共生日本語	Green	14	12
グローバル文化学環	講義	多文化間交流論	Green	30	30
グローバル文化学環	講義	文化と人間関係Ⅰ	Green	47	43
グローバル文化学環	講義	文化と人間関係Ⅱ	Red	5	5
グローバル文化学環	講義	多文化共生論	Green	14	11
グローバル文化学環	講義	イスラム社会文化論Ⅰ	Green	33	31
グローバル文化学環	講義	中国社会文化論	Green	7	7
グローバル文化学環	講義	グローバル文化学総論Ⅰ （読替:グローバル文化学総論）	Pink	54	49
グローバル文化学環	講義	オセアニア社会文化論Ⅰ	Green	19	12
グローバル文化学環	講義	オセアニア社会文化論Ⅱ	Red	6	5
グローバル文化学環	講義	フィールドワーク方法論	Green	35	32
グローバル文化学環	講義	国際開発論Ⅰ	Green	31	26
グローバル文化学環	講義	国際開発論Ⅱ	Red	7	7
グローバル文化学環	講義	国際協力学	Green	64	56
グローバル文化学環	実験・実習	国際協力実習Ⅰ	Green	12	12
グローバル文化学環	実験・実習	国際協力実習Ⅱ	Red	12	12
グローバル文化学環	講義	国際協力方法論Ⅰ	Green	18	16
グローバル文化学環	講義	国際協力方法論Ⅱ	Red	10	9
グローバル文化学環	講義	グローバル・ヒストリー	Pink	74	65
グローバル文化学環	講義	イスラム社会文化論Ⅱ	Red	8	6
グローバル文化学環	講義	グローバル文化学方法論	Green	33	33
グローバル文化学環	講義	政治学概論	Pink	44	33
グローバル文化学環	講義	国際関係論	Pink	76	57
グローバル文化学環	講義	地域研究実習Ⅲ	※2	16	16
グローバル文化学環	講義	卒業研究	Red	26	26
グローバル文化学環	講義	国際協力特論Ⅰ（読替:平和構築論Ⅰ）	Green	48	41
グローバル文化学環	講義	国際協力特論Ⅱ（読替:平和構築論Ⅱ）	Red	14	13
グローバル文化学環	講義	グローバル文化学特論	Green	29	29
グローバル文化学環	講義	身体文化論Ⅱ	Pink	40	35
グローバル文化学環	講義	言語と文化	Green	35	33
グローバル文化学環	講義	グローバル化と日本語教育Ⅰ	Green	16	12
グローバル文化学環	講義	グローバル化と日本語教育Ⅱ	Red	4	4
グローバル文化学環	実験・実習	多文化交流実習Ⅰ	Green	10	10
グローバル文化学環	実験・実習	多文化交流実習Ⅱ	Red	10	10
グローバル文化学環	講義	NGO／NPO論	Green	7	7
グローバル文化学環	講義	文化理論研究	Green	41	34
グローバル文化学環	講義	クレオール文化論Ⅰ	Green	7	4
グローバル文化学環	講義	クレオール文化論Ⅱ	Red	13	9
グローバル文化学環	実験・実習	地域研究実習Ⅰ	Green	15	12
グローバル文化学環	講義	言語と社会Ⅲ	Green	12	7
グローバル文化学環	講義	グローバル化と経済	Pink	29	20
グローバル文化学環	講義	経済学概論	Green	52	44
グローバル文化学環	講義	国際金融論	Green	43	28
グローバル文化学環	講義	国際教育協力論	Green	29	25
グローバル文化学環	講義	国際交流論Ⅰ	Green	10	7
数学科	講義	代数学Ⅰ	Green	41	26
数学科	講義	代数学Ⅲ	Red	12	3
数学科	講義	代数幾何学	Red	12	9
数学科	講義	初等代数学	Pink	3	2
数学科	講義	数学輪講Ⅲ	Red	14	12
数学科	講義	数理逍遥Ⅳ	Red	48	42

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
数学科	講義	初等代数学	Pink	62	60
数学科	講義	初等線形代数学	Pink	35	29
数学科	講義	関数論続論	Red	25	24
数学科	講義	初等解析学Ⅱ	Pink	23	20
数学科	講義	数理統計学	Red	25	20
数学科	講義	数理統計学	Red	35	15
数学科	講義	微分積分学Ⅰ	Green	26	23
数学科	演習	微分積分学演習Ⅰ	Green	24	21
数学科	講義	関数解析	Red	22	15
数学科	講義	偏微分方程式論	※2	6	5
数学科	演習	数学演習Ⅴ	Red	22	18
数学科	講義	微分積分学Ⅲ	Green	36	24
数学科	演習	微分積分学演習Ⅲ	Green	24	24
数学科	講義	ベクトル解析	Green	26	14
数学科	講義	微分幾何学	Red	25	7
数学科	講義	リーマン幾何	※2	4	1
数学科	講義	関数論	Green	25	25
数学科	演習	関数論演習	Green	25	25
数学科	講義	微分方程式論	Red	21	14
数学科	講義	数の歴史	Pink	6	5
数学科	講義	微分方程式論	Red	1	1
数学科	講義	数の歴史	Pink	20	19
数学科	講義	数学講究	Red	23	23
数学科	講義	多様体論	Red	15	15
数学科	演習	数学演習Ⅰ	Red	15	15
数学科	演習	数学演習ⅩⅤ	Green	23	22
数学科	講義	数理逍遥Ⅴ	Red	36	33
数学科	講義	数理解析序論	Green	20	17
数学科	講義	数学輪講Ⅰ	Red	14	13
数学科	講義	線形代数学Ⅱ	Green	25	21
数学科	演習	線形代数学演習Ⅱ	Green	24	20
数学科	講義	力学系	※2	2	2
数学科	講義	数学英語	Green	22	19
数学科	講義	初等解析学Ⅰ	Pink	3	0
数学科	講義	初等解析学Ⅰ	Pink	34	29
数学科	講義	線形代数学Ⅰ	Green	24	21
数学科	演習	線形代数学演習Ⅰ	Green	24	23
数学科	講義	数学講話	※2	23	23
数学科	講義	位相空間論	Green	41	33
数学科	演習	位相空間論演習	Green	25	23
数学科	講義	数理経済学	Red	21	21
数学科	講義	線形代数学Ⅲ	Green	25	25
数学科	講義	代数学Ⅱ	Green	28	28
数学科	演習	代数学演習	Green	27	27
数学科	講義	ガロア理論	Red	12	10
数学科	講義	線形代数学Ⅲ	Green	35	31
数学科	講義	確率論	Red	25	20
数学科	講義	微分積分学Ⅱ	Green	24	16
数学科	演習	微分積分学演習Ⅱ	Green	25	20
数学科	講義	積分論	Red	27	10
数学科	演習	数学演習Ⅱ	Red	26	11
物理学科	講義	物理数学Ⅰ	Pink	24	23
物理学科	講義	物理数学Ⅱ	Pink	28	26
物理学科	講義	数理物理学	Green	29	25
物理学科	講義	連続体物理学	Green	24	23
物理学科	講義	基礎エレクトロニクス	Green	25	22
物理学科	講義	物理実験学	Green	21	21
物理学科	講義	凝縮系物理学	Red	10	2
物理学科	講義	物性物理学序論	Green	19	16
物理学科	実験・実習	物理学基礎実験	Pink	6	6

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
物理学科	講義	物理英語	Pink	23	23
物理学科	講義	宇宙・地球科学	Pink	2	2
物理学科	講義	宇宙・地球科学	Pink	42	40
物理学科	講義	ソフトマター物理	Red	38	25
物理学科	演習	統計力学演習	Green	27	27
物理学科	講義	物理学概論A	Pink	36	34
物理学科	講義	物理学概論A	Pink	41	40
物理学科	講義	電磁気学Ⅰ	Pink	25	22
物理学科	講義	量子力学Ⅲ	Red	29	29
物理学科	講義	流体物理学	Green	28	24
物理学科	講義	熱力学 （読替:熱・統計力学）	Pink	28	28
物理学科	講義	量子力学Ⅱ	Green	27	25
物理学科	講義	固体電子論	Red	20	9
物理学科	演習	計算物理学講義・演習	Green	18	10
物理学科	講義	力学系理論	Green	22	21
物理学科	演習	力学演習	Pink	24	19
物理学科	講義	宇宙物理学	Red	10	5
物理学科	講義	解析力学	Green	26	25
物理学科	講義	場の量子論	Red	26	13
物理学科	実験・実習	基礎物理学実験	Pink	26	26
物理学科	講義	原子核物理学	Red	13	10
物理学科	講義	物理学概論B	Pink	29	22
物理学科	講義	物理学概論B	Pink	19	19
物理学科	講義	量子力学Ⅰ	Green	27	21
物理学科	演習	量子力学演習	Pink	26	19
物理学科	講義	量子光学	Red	21	10
物理学科	講義	統計力学 （読替:量子統計力学）	Green	29	22
物理学科	実験・実習	物理学実験	Green	27	25
物理学科	講義	特別研究	Red	23	23
物理学科	講義	物理学基礎研究	Pink	28	28
物理学科	講義	古典力学	Pink	33	23
物理学科	演習	電磁気学演習	Pink	27	22
物理学科	演習	物理数学演習	Pink	27	26
物理学科	講義	電磁気学Ⅱ	Green	24	19
物理学科	講義	素粒子物理学	Red	26	16
物理学科	講義	相対論	Green	23	11
化学科	講義	化学英語	Green	22	22
化学科	講義	無機化学Ⅰ	Green	22	22
化学科	講義	無機化学Ⅲ	Red	21	20
化学科	実験・実習	基本化学実験Ⅱ	Green	22	22
化学科	演習	化学演習Ⅱ	Red	23	23
化学科	講義	特別研究Ⅰ	Red	21	21
化学科	講義	特別研究Ⅱ	Red	23	21
化学科	講義	化学特別ゼミⅡ	Pink	19	18
化学科	実験・実習	化学基礎実験	Pink	8	8
化学科	実験・実習	化学基礎実験	Pink	20	20
化学科	講義	反応物理化学	Red	15	13
化学科	講義	分析化学Ⅰ	Green	22	22
化学科	講義	分子分光法	Red	21	21
化学科	講義	物理化学Ⅱ	Green	28	27
化学科	講義	物理化学Ⅳ	Red	21	21
化学科	実験・実習	基本化学実験Ⅲ	Green	22	22
化学科	講義	有機化学Ⅲ	Green	23	22
化学科	講義	有機化学Ⅳ	Green	20	16
化学科	実験・実習	専門化学実験Ⅱ	Red	21	21
化学科	講義	基礎化学A	Pink	45	41
化学科	講義	生物化学Ⅰ	Green	22	22
化学科	講義	生物化学Ⅲ	※2	22	22
化学科	講義	無機化学特別講義Ⅰ	Red	26	25
化学科	講義	分析化学Ⅱ	Red	21	21

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
化学科	実験・実習	専門化学実験Ⅰ	Red	21	21
化学科	講義	物理化学Ⅲ	Green	22	22
化学科	演習	化学演習Ⅰ	Red	23	23
化学科	講義	分子生物化学	※2	9	9
化学科	講義	生体分子機能・認識学	Red	8	6
化学科	講義	生物化学Ⅱ	Green	23	23
化学科	講義	計算化学	Red	27	27
化学科	講義	物理化学Ⅰ	Green	26	25
化学科	講義	基礎化学B	Pink	59	59
化学科	講義	有機化学Ⅰ	Green	22	22
化学科	講義	地球環境科学	Pink	12	10
化学科	講義	地球環境科学	Pink	14	13
化学科	講義	高分子化学	Red	13	9
化学科	講義	有機化学Ⅱ	Green	22	22
化学科	講義	無機化学Ⅱ	Green	22	22
化学科	実験・実習	基本化学実験Ⅰ	Pink	21	21
化学科	実験・実習	基本化学実験Ⅳ	Green	22	22
生物学科	実験・実習	生物学基礎実験	Pink	4	4
生物学科	講義	生物学特殊講義ⅩⅧ	Red	48	34
生物学科	実験・実習	生物学基礎実験	Pink	21	21
生物学科	講義	代謝生物学Ⅱ	※2	31	29
生物学科	実験・実習	代謝生物学実習	Green	16	9
生物学科	講義	植物生理工学	Red	23	19
生物学科	講義	基礎生物学A	Pink	7	7
生物学科	講義	生態学Ⅰ	※2	35	27
生物学科	講義	植物生態学	Green	8	8
生物学科	講義	生物学特殊講義ⅩⅩⅠ	※2	13	10
生物学科	講義	分子細胞情報学	Red	29	24
生物学科	実験・実習	基礎遺伝学実習	Green	21	20
生物学科	講義	進化遺伝学	Red	27	18
生物学科	講義	生物学特殊講義ⅩⅨ	Red	25	14
生物学科	講義	神経生物学	※2	32	25
生物学科	講義	生物物理学	Pink	30	30
生物学科	講義	動物生理学	Green	26	23
生物学科	実験・実習	動物生理学実習	Green	25	24
生物学科	実験・実習	動物生理学臨海実習	Green	22	18
生物学科	講義	バイオメカニクス	Red	23	20
生物学科	講義	植物生理学Ⅱ	※2	25	23
生物学科	講義	生物学特別講義ⅩⅠ	Red	21	17
生物学科	実験・実習	植物生理学実習	Green	23	22
生物学科	講義	遺伝子工学	Red	27	24
生物学科	講義	植物生理学 （読替:植物生理学Ⅰ）	Green	30	28
生物学科	講義	細胞生物学	Green	25	23
生物学科	講義	生化学	Pink	30	30
生物学科	実験・実習	細胞生化学実習	Green	20	19
生物学科	講義	細胞生化学	Red	25	20
生物学科	講義	基礎遺伝学	Green	25	23
生物学科	講義	分子遺伝学	Green	26	24
生物学科	実験・実習	分子遺伝学実習	Green	26	23
生物学科	講義	基礎生物学B	Pink	21	20
生物学科	講義	動物系統学	Green	30	30
生物学科	実験・実習	動物系統学臨海実習	Green	10	10
生物学科	実験・実習	発生生物学臨海実習	Green	10	8
生物学科	実験・実習	公開臨海実習	Red	13	9
生物学科	実験・実習	公開臨海実習	Red	8	8
生物学科	実験・実習	生物学実習Ⅰ	Green	28	28
生物学科	実験・実習	生物学実習Ⅱ	Green	26	26
生物学科	演習	生物学演習Ⅰ	Red	25	24
生物学科	演習	生物学演習Ⅱ	Red	25	24
生物学科	講義	特別研究Ⅰ	Red	25	24

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
生物学科	講義	特別研究Ⅱ	Red	25	23
生物学科	講義	生物学特別講義Ⅸ	Red	24	15
生物学科	講義	発生生物学	Green	27	25
生物学科	実験・実習	発生生物学実習	Green	27	24
生物学科	講義	内分泌学	※2	13	10
生物学科	講義	代謝生物学Ⅰ	※2	29	29
生物学科	講義	生物学特殊講義ＸＸ	Red	36	24
生物学科	講義	進化生物学	Pink	35	33
生物学科	講義	発生遺伝学	Red	26	15
生物学科	講義	分子細胞生物学	※2	32	30
生物学科	実験・実習	細胞生物学実習	Green	18	18
生物学科	講義	バイオ政治学Ⅰ	※2	13	12
生物学科	講義	バイオ政治学Ⅱ	※2	9	7
生物学科	講義	生物学特殊講義ＸＸⅡ	※2	3	3
生物学科	講義	植物形態学	※2	25	23
生物学科	実験・実習	植物形態学実習	※2	22	22
生物学科	実験・実習	植物学野外実習	※2	17	14
生物学科	講義	生物学外書講読	Green	26	24
生物学科	実験・実習	植物系統学臨海実習	Pink	26	26
情報科学科	講義	コンピュータグラフィックス	Red	43	40
情報科学科	講義	コンピュータビジョン	Red	43	39
情報科学科	演習	情報科学演習Ⅰ	Red	24	21
情報科学科	講義	マルチメディア （読替:マルチメディアⅠ）	Green	43	41
情報科学科	講義	環境情報論	Red	46	44
情報科学科	講義	確率序論	Green	25	20
情報科学科	講義	微分積分学Ⅰ	Green	45	42
情報科学科	講義	確率序論	Green	44	42
情報科学科	講義	関数論	Red	45	34
情報科学科	講義	数値計算	Red	41	30
情報科学科	講義	情報理論	Green	35	33
情報科学科	実験・実習	地学基礎実験	Pink	3	2
情報科学科	実験・実習	地学基礎実験	Pink	28	27
情報科学科	講義	数理基礎論	Pink	7	4
情報科学科	講義	数理基礎論	Pink	44	40
情報科学科	講義	位相空間論	Green	40	37
情報科学科	講義	情報解析学	Red	50	28
情報科学科	演習	微分積分学演習Ⅲ	Green	52	38
情報科学科	講義	線形代数学Ⅰ	Green	45	44
情報科学科	講義	線形代数学Ⅱ	Green	44	42
情報科学科	演習	線形代数学演習Ⅰ	Green	43	43
情報科学科	演習	線形代数学演習Ⅱ	Green	44	42
情報科学科	講義	計算基礎論	Red	5	5
情報科学科	講義	計算基礎論	Red	41	19
情報科学科	演習	コンピュータ基礎演習	Green	43	41
情報科学科	講義	コンピュータネットワークⅠ	Green	40	37
情報科学科	講義	コンピュータネットワークⅡ	Red	45	43
情報科学科	実験・実習	プログラミング実習	Green	41	40
情報科学科	実験・実習	数値計算実習	※2	42	38
情報科学科	講義	人工知能論	Red	41	39
情報科学科	講義	自然言語論	Red	45	42
情報科学科	講義	ソフトウェア工学 （読替:ソフトウェア工学Ⅰ）	Red	33	20
情報科学科	講義	特別研究	Red	41	41
情報科学科	講義	英文講読	Green	44	44
情報科学科	演習	情報科学集中演習	Red	43	35
情報科学科	講義	情報科学特別講義Ⅴ	Red	60	53
情報科学科	講義	コンピュータシステム序論	Pink	4	3
情報科学科	講義	コンピュータシステム序論	Pink	42	41
情報科学科	講義	コンピュータシステム序論	Pink	18	16
情報科学科	実験・実習	マルチメディアプログラミング実習	Green	40	39
情報科学科	講義	情報と職業	Green	39	33

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
情報科学科	講義	ヒューマンインターフェイス	Red	47	42
情報科学科	実験・実習	システムプログラミング実習	Green	42	41
情報科学科	講義	微分積分学Ⅱ	Green	41	38
情報科学科	講義	微分積分学Ⅲ	Green	45	41
情報科学科	講義	グラフ理論	Green	41	40
情報科学科	講義	組み合わせ論	Red	2	2
情報科学科	講義	暗号と符号	Red	51	46
情報科学科	講義	情報数学	※2	4	4
情報科学科	講義	コンピュータアーキテクチャⅠ	Green	40	39
情報科学科	講義	コンピュータアーキテクチャⅡ	Green	39	39
情報科学科	講義	フーリエ解析とラプラス変換	Red	2	1
情報科学科	講義	フーリエ解析とラプラス変換	Red	45	43
情報科学科	講義	データ構造とアルゴリズム	Green	43	42
情報科学科	講義	関数型言語	Green	43	39
情報科学科	講義	言語理論とオートマトン	Red	45	30
情報科学科	講義	コンパイラ構成論	Red	22	14
情報科学科	講義	離散数学	Green	41	2
情報科学科	演習	微分積分学演習Ⅰ	Green	42	41
情報科学科	演習	微分積分学演習Ⅱ	Green	41	40
食物栄養学科	実験・実習	応用調理学実習	Green	37	37
食物栄養学科	講義	公衆衛生学	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食品化学	Green	37	37
食物栄養学科	実験・実習	食品化学実験	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食品学	Green	24	22
食物栄養学科	講義	病態栄養学	Red	39	39
食物栄養学科	講義	臨床医学各論Ⅰ	Green	37	34
食物栄養学科	講義	食物環境学	※2	37	37
食物栄養学科	講義	調理科学	Pink	40	40
食物栄養学科	実験・実習	基礎調理学実習	Pink	40	40
食物栄養学科	講義	食嗜好評価学	Green	37	37
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	6	6
食物栄養学科	講義	国際栄養学	Green	21	20
食物栄養学科	講義	公衆栄養学	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	食品微生物学実験	Green	37	36
食物栄養学科	講義	臨床栄養アセスメント学	Green	37	37
食物栄養学科	講義	臨床栄養療法学	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食事療法学	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	臨床栄養アセスメント学実習	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	臨床栄養臨地実習	※2	40	40
食物栄養学科	講義	食品衛生学	Red	39	38
食物栄養学科	実験・実習	調理科学実験	Red	39	39
食物栄養学科	講義	卒業論文	Red	40	40
食物栄養学科	講義	基礎有機化学	Pink	40	40
食物栄養学科	実験・実習	分析化学実験	Green	37	36
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	8	8
食物栄養学科	講義	臨床医学総論	Green	37	37
食物栄養学科	講義	臨床医学各論Ⅱ	Green	37	36
食物栄養学科	講義	栄養行政学	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	公衆栄養学実習	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	公衆栄養臨地実習	※2	40	40
食物栄養学科	講義	栄養カウンセリング論	Green	37	36
食物栄養学科	講義	栄養教育論Ⅰ	Green	37	37
食物栄養学科	講義	栄養教育論Ⅱ	Red	39	39
食物栄養学科	実験・実習	栄養カウンセリング論実習	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	3	3
食物栄養学科	講義	食品評価論	Red	48	38
食物栄養学科	講義	生活科学概論	Pink	79	79
食物栄養学科	講義	生活環境学	Green	37	37
食物栄養学科	講義	食品製造・保存学	Green	37	35
食物栄養学科	講義	食品微生物学	Green	38	38

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
食物栄養学科	実験・実習	食品製造・保存学実験	Red	40	40
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	4	4
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	8	8
食物栄養学科	講義	代謝栄養学	Green	37	36
食物栄養学科	講義	応用栄養学	Green	37	37
食物栄養学科	実験・実習	栄養学実験	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	5	5
食物栄養学科	講義	社会福祉学	Green	37	37
食物栄養学科	講義	食物学概論	Pink	73	70
食物栄養学科	講義	解剖生理学Ⅰ	Pink	39	39
食物栄養学科	講義	解剖生理学Ⅱ	Pink	40	40
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	4	4
食物栄養学科	実験・実習	解剖生理学実験	Green	37	36
食物栄養学科	演習	食物栄養学基礎演習	Red	40	40
食物栄養学科	講義	給食マネジメント論	Red	39	39
食物栄養学科	演習	食物栄養管理論総合演習	Red	40	40
食物栄養学科	実験・実習	給食経営管理臨地実習	※2	40	40
食物栄養学科	実験・実習	給食経営管理実習	Red	39	39
食物栄養学科	講義	給食経営管理論	Green	37	36
食物栄養学科	講義	食糧経済学	Green	31	22
食物栄養学科	講義	生化学	Pink	40	40
食物栄養学科	講義	ライフステージ栄養学	Red	39	39
食物栄養学科	講義	ライフスタイル栄養学	Red	40	33
食物栄養学科	実験・実習	応用栄養学実習	Red	39	39
食物栄養学科	講義	食物栄養専門英語	Green	38	37
食物栄養学科	講義	食物栄養学輪講	Red	2	2
人間・環境科学科	演習	建築設計製図演習Ⅱ	Red	12	12
人間・環境科学科	講義	住居学概論	Pink	81	72
人間・環境科学科	講義	建築施工	Green	22	20
人間・環境科学科	講義	建築法規	Green	21	20
人間・環境科学科	講義	応用統計学	Green	37	33
人間・環境科学科	講義	環境化学	Green	25	25
人間・環境科学科	講義	人体生理学	※2	28	25
人間・環境科学科	演習	人体計測学演習	Green	26	26
人間・環境科学科	演習	建築設計製図演習Ⅰ	Green	13	13
人間・環境科学科	講義	建築意匠論	Red	25	24
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学特別実習Ⅱ	※2	10	8
人間・環境科学科	講義	設計製図基礎	Pink	17	17
人間・環境科学科	講義	建築一般構造	Pink	25	23
人間・環境科学科	講義	生活設備学	Green	34	28
人間・環境科学科	演習	統計学演習	Red	15	12
人間・環境科学科	講義	ヒトと文化 （読替:生物人間論）	Pink	53	48
人間・環境科学科	演習	科学英語演習Ⅰ	※2	32	31
人間・環境科学科	講義	人類進化史	Green	32	30
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学実験実習	※2	2	1
人間・環境科学科	講義	人間・環境科学輪講Ⅰ	※2	23	23
人間・環境科学科	講義	人間・環境科学輪講Ⅱ	※2	22	22
人間・環境科学科	講義	卒業論文	Red	22	22
人間・環境科学科	演習	人間・環境科学演習	※2	29	26
人間・環境科学科	講義	人間・環境科学特別講義	※2	54	29
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学実験実習Ⅰ	※2	29	29
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学実験実習Ⅱ	※2	29	29
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学実験実習Ⅲ	※2	29	29
人間・環境科学科	講義	人間環境科学特別講義	Green	13	12
人間・環境科学科	講義	基礎有機化学 （読替:有機化学Ⅰ）	Pink	26	26
人間・環境科学科	講義	人体解剖学	Pink	31	31
人間・環境科学科	演習	科学英語演習Ⅱ	※2	30	29
人間・環境科学科	講義	物理化学英語Ⅰ	※2	26	26
人間・環境科学科	講義	システム工学	Red	19	14
人間・環境科学科	講義	人間工学	Green	28	25

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間・環境科学科	実験・実習	人間・環境科学特別実習Ⅰ	※2	21	2
人間・環境科学科	講義	環境衛生学	Green	26	24
人間・環境科学科	講義	移動現象論	※2	28	25
人間・環境科学科	講義	水環境工学	Red	29	25
人間・環境科学科	講義	基礎構造力学 （読替:建築物理学）	Pink	47	44
人間・環境科学科	講義	物理化学英語Ⅱ	※2	20	17
人間・環境科学科	演習	機器分析演習	Green	21	19
人間・環境科学科	講義	環境材料物性	Red	31	28
人間・環境科学科	講義	建築環境計画論 （読替:環境リスク解析）	Green	36	26
人間・環境科学科	講義	統計学	Green	29	26
人間・環境科学科	講義	建築材料学Ⅱ	Green	21	20
人間・環境科学科	演習	数学物理学演習Ⅰ	Pink	28	25
人間・環境科学科	演習	数学物理学演習Ⅱ	Pink	27	23
人間・環境科学科	講義	環境物理学	Red	27	21
人間・環境科学科	講義	基礎生化学Ⅰ	※2	27	22
人間・環境科学科	講義	基礎生化学Ⅱ	※2	20	14
人間・環境科学科	演習	数学物理学演習Ⅲ	Green	16	11
人間・環境科学科	演習	数学物理学演習Ⅳ	※2	13	11
人間・環境科学科	講義	物理学 （読替:基礎物理学）	Pink	27	26
人間生活学科	講義	生活社会科学専門英語	Green	30	30
人間生活学科	講義	学校臨床学	Green	33	31
人間生活学科	講義	学校心理講義講読	Red	2	2
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	3	3
人間生活学科	実験・実習	発達臨床学特別実習Ⅰ	Red	8	8
人間生活学科	講義	発達臨床心理学専門英語	Green	24	21
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	3	3
人間生活学科	講義	発達臨床基礎論Ⅰ	Pink	44	44
人間生活学科	講義	人格心理学	Green	39	38
人間生活学科	講義	心理臨床講義講読	Red	7	7
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	3	3
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	2	2
人間生活学科	講義	生活と行政Ⅰ	Green	27	11
人間生活学科	講義	生活と行政Ⅱ	Green	3	2
人間生活学科	講義	社会保障論	Pink	40	34
人間生活学科	講義	労働経済学各論	Green	7	5
人間生活学科	演習	労働経済学演習Ⅰ	Red	11	10
人間生活学科	演習	労働経済学演習Ⅱ	Red	10	10
人間生活学科	講義	労働経済学総論	Green	36	31
人間生活学科	講義	現代文化論	Green	24	21
人間生活学科	講義	ジェンダー論	Pink	54	40
人間生活学科	講義	面接法	Green	45	43
人間生活学科	演習	心理臨床研究演習	Red	6	6
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	1	1
人間生活学科	講義	カウンセリング論	Green	39	35
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	1	1
人間生活学科	講義	民俗学	Pink	58	46
人間生活学科	実験・実習	生活文化実習	※2	5	4
人間生活学科	演習	生活文化史基礎演習	※2	12	12
人間生活学科	演習	民俗文化史演習 （読替:生活文化史演習）	Red	15	15
人間生活学科	講義	民俗文化史概論 （読替:生活文化史概論）	Green	24	23
人間生活学科	講義	歴史民俗文化論 （読替:歴史文化論）	Green	27	22
人間生活学科	講義	民俗文化史各論 （読替:生活文化史各論）	Red	24	22
人間生活学科	講義	日本芸術論	※2	49	38
人間生活学科	講義	人間関係学	Pink	50	45
人間生活学科	講義	保育臨床学	Green	40	34
人間生活学科	演習	保育臨床研究演習	Red	6	6
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	4	4
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	4	4
人間生活学科	講義	社会統計学Ⅰ	Green	33	33
人間生活学科	講義	社会統計学Ⅱ	Green	37	33

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間生活学科	講義	企業経営論	Green	51	46
人間生活学科	講義	発達過程論	Green	6	4
人間生活学科	講義	生涯発達講義講読	Red	6	6
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	3	3
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	3	3
人間生活学科	講義	家政経済学概論	Pink	90	79
人間生活学科	講義	消費者科学入門	Pink	24	21
人間生活学科	講義	生活社会科学概論	Pink	50	50
人間生活学科	講義	生活経済学	Green	25	16
人間生活学科	演習	生活経済学演習Ⅰ	Red	4	4
人間生活学科	演習	生活経済学演習Ⅱ	Red	4	4
人間生活学科	講義	応用生活統計学	Pink	48	42
人間生活学科	講義	発達臨床特殊講義Ⅰ	Green	35	20
人間生活学科	講義	精神医学	※2	81	67
人間生活学科	演習	生涯発達研究演習	Red	12	12
人間生活学科	講義	家族法Ⅰ	Green	35	35
人間生活学科	演習	発達臨床基礎演習Ⅱ	Pink	39	38
人間生活学科	講義	発達臨床観察法	Green	28	28
人間生活学科	講義	発達社会文化論	Green	22	21
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	1	1
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	1	1
人間生活学科	講義	集団心理療法	※2	21	10
人間生活学科	講義	児童学概論	Pink	83	82
人間生活学科	講義	発達臨床特殊講義Ⅱ	Green	11	2
人間生活学科	演習	人間関係研究演習	Red	6	6
人間生活学科	講義	児童社会文化論	Green	18	17
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	5	5
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	6	6
人間生活学科	講義	日本古代・中世服飾史	※2	24	23
人間生活学科	講義	日本近世・近代服飾史	※2	26	23
人間生活学科	講義	生活法学総論	※2	21	19
人間生活学科	講義	生活関連法	Green	10	10
人間生活学科	演習	生活法学演習Ⅰ	Red	8	8
人間生活学科	演習	生活法学演習Ⅱ	Red	9	9
人間生活学科	実験・実習	生活社会科学特別実習	※2	5	5
人間生活学科	講義	生活文化論	Green	22	18
人間生活学科	講義	生活設計論	Green	18	15
人間生活学科	講義	西洋服飾論	Green	22	19
人間生活学科	講義	人間生活論	Pink	70	70
人間生活学科	講義	比較家族思想史	Green	21	9
人間生活学科	講義	生活政治学Ⅰ	※2	35	32
人間生活学科	演習	生活政治学演習Ⅰ	Red	2	2
人間生活学科	演習	生活政治学演習Ⅱ	Red	2	2
人間生活学科	講義	児童文化論	Green	25	18
人間生活学科	講義	卒業論文	Red	31	31
人間生活学科	演習	生活社会科学論文演習Ⅰ	Red	33	31
人間生活学科	演習	生活社会科学論文演習Ⅱ	Red	30	29
人間生活学科	講義	卒業論文	Red	14	14
人間生活学科	講義	生活文化学概論	Pink	35	35
人間生活学科	講義	地域社会論	Green	36	30
人間生活学科	演習	人格発達研究演習	Red	4	4
人間生活学科	実験・実習	心理臨床実習	Red	25	24
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	2	2
人間生活学科	講義	心理臨床学	Green	22	21
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	2	2
人間生活学科	講義	発達臨床心理学Ⅰ　(読替:発達臨床心理学概論)	Green	76	68
人間生活学科	演習	生活社会科学演習	Green	30	30
人間生活学科	講義	家族社会学総論	※2	32	31
人間生活学科	演習	家族社会学演習Ⅰ	Red	8	8
人間生活学科	演習	家族社会学演習Ⅱ	Red	8	8

開講部局	区分	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間生活学科	講義	生活社会調査実習	Green	24	20
人間生活学科	講義	生活調査法	Green	27	25
人間生活学科	講義	生活文化学専門英語	Green	10	9
人間生活学科	講義	消費者経済学	Green	26	19
人間生活学科	演習	消費者経済学演習Ⅰ	Red	7	7
人間生活学科	演習	消費者経済学演習Ⅱ	Red	7	7
人間生活学科	講義	国民経済と生活	Red	35	18
人間生活学科	講義	生活と金融	Green	14	12
人間生活学科	講義	発達社会学	Green	23	17
人間生活学科	講義	労働法	Green	14	7
人間生活学科	講義	服飾美学概論	Pink	16	16
人間生活学科	講義	工芸史	Green	34	30
人間生活学科	講義	比較生活文化史Ⅱ	Red	16	12
人間生活学科	講義	産業心理臨床	Green	32	17
人間生活学科	講義	家族関係論	Pink	66	59
人間生活学科	講義	社会福祉学	Green	39	36
人間生活学科	演習	生活福祉学演習Ⅰ	Red	9	9
人間生活学科	演習	生活福祉学演習Ⅱ	Red	9	9
人間生活学科	講義	老人福祉論	Green	27	23
人間生活学科	演習	発達臨床基礎演習Ⅰ	Pink	41	40
人間生活学科	講義	発達臨床人格検査法	Green	26	26
人間生活学科	講義	人格発達講義講読	Red	6	6
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	5	5
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	5	5
人間生活学科	講義	被服学概論	Pink	53	44
人間生活学科	講義	服飾文化概論	Pink	25	21
人間生活学科	講義	西洋服飾史論	※2	30	28
人間生活学科	講義	西洋服飾史資料論	※2	19	18
人間生活学科	演習	服飾文化論演習	Red	7	7
人間生活学科	演習	服飾文化論基礎演習	Red	7	7
人間生活学科	演習	西洋服飾史演習	※2	4	4
人間生活学科	講義	被服学概論	Pink	8	8
人間生活学科	講義	卒業論文	Red	33	32
人間生活学科	講義	心理統計法(理論)	Green	30	27
人間生活学科	講義	心理統計法(実践)	Green	35	30
人間生活学科	講義	発達臨床基礎論Ⅱ	Pink	41	41
人間生活学科	講義	保育学	Green	32	31
人間生活学科	講義	保育臨床講義講読	Red	8	8
人間生活学科	実験・実習	発達臨床学特別実習Ⅱ	Red	7	7
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	1	1
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	1	1
人間生活学科	実験・実習	保育臨床実習	Red	21	20
人間生活学科	講義	法女性学	Green	23	16
人間生活学科	講義	生活造形論	Pink	24	22
人間生活学科	講義	比較生活文化論	Green	20	20
人間生活学科	講義	比較生活文化史Ⅰ	Green	22	20
人間生活学科	演習	比較生活文化史演習	※2	9	7
人間生活学科	演習	比較文化論演習	Red	13	13
人間生活学科	演習	比較文化論基礎演習	Red	16	15
人間生活学科	講義	質問紙法	Green	26	26
人間生活学科	講義	障害臨床学	Green	55	50
人間生活学科	演習	学校心理研究演習	Red	7	7
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅰ	Red	4	4
人間生活学科	演習	発達臨床論文演習Ⅱ	Red	4	3
人間生活学科	講義	国際経済と生活	Green	22	17
人間生活学科	実験・実習	服飾制作実習	Green	16	15

※1　CCBM(Color Code Benchmark system)とは、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示したものです。

①ピンク・・・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。

②グリーン・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。

③レッド・・・一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーンの科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。

④アイボリー・・教職等資格関連科目。

⑤ホワイト・・コア科目（外国語・情報系科目以外）、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

※2　CCBM適用外（平成23年度以前の旧科目のため）

□　履修登録者に、非正規生（科目等履修生、特別聴講学生、日研生）を含む。ただし、聴講生は除く。

教職、留学生特別科目、関連科目

開講部局	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人文科学科	社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	Ivory	13	11
人文科学科	社会科教育法Ⅱ(公民)	Ivory	16	16
人文科学科	地理歴史科教育法	Ivory	13	13
人文科学科	公民科教育法	Ivory	11	11
人文科学科	女性リーダーへの道(ロールモデル入門編)	Pink	67	50
言語文化学科	英語科教育法Ⅰ	Ivory	14	13
言語文化学科	TOEFL対策ゼミS/W	White	15	7
言語文化学科	TOEFL対策ゼミS/W	White	14	9
言語文化学科	TOEFL対策ゼミR/L	White	15	6
言語文化学科	TOEFL対策ゼミR/L	White	15	7
言語文化学科	英語基礎強化ゼミ	Pink	9	8
言語文化学科	第二言語教授法演習Ⅰ	Pink	18	17
言語文化学科	第二言語教授法演習Ⅱ	Pink	14	13
言語文化学科	多文化間人間関係論演習Ⅰ	※	13	11
言語文化学科	日本事情演習ⅢA	Pink	9	9
言語文化学科	日本事情演習ⅢB	Pink	6	6
言語文化学科	日本語演習ⅣA	Pink	1	1
言語文化学科	日本語演習ⅣB	Pink	7	7
言語文化学科	日本語非母語話者年少者教育学概論 (読替:日本語非母語話者年少者教育学特論)	Pink	30	25
言語文化学科	日本事情演習ⅣA	Pink	11	11
言語文化学科	日本事情演習ⅣB	Pink	12	10
言語文化学科	国語科教育法Ⅰ	Ivory	13	13
言語文化学科	日本事情演習ⅡA	Pink	8	8
言語文化学科	国語科教育法Ⅱ	Ivory	13	13
言語文化学科	日本語学概論Ⅰ	Pink	16	13
言語文化学科	日本語学概論Ⅱ	Pink	12	8
言語文化学科	日本語演習ⅤA	Pink	2	2
言語文化学科	日本語演習ⅤB	Pink	7	7
言語文化学科	日本事情演習ⅤA	Pink	2	2
言語文化学科	日本事情演習ⅤB	Pink	9	9
言語文化学科	日本語演習ⅡA	Pink	13	13
言語文化学科	日本語演習ⅡB	Pink	7	7
言語文化学科	日本語表現法Ⅰ(読替:日本語表現法概論)	Pink	9	8
言語文化学科	日本語教育学研究法実習	Green	3	2
言語文化学科	日本語演習ⅠA	Pink	4	4
言語文化学科	日本語演習ⅠB	Pink	6	6
言語文化学科	日本事情演習ⅠA	Pink	11	11
言語文化学科	日本事情演習ⅠB	Pink	5	5
言語文化学科	日本語教育学講義演習Ⅰ(読替:日本語教育学概論Ⅰ)	Pink	14	12
言語文化学科	日本語教育学講義演習Ⅱ(読替:日本語教育学概論Ⅱ)	Pink	19	18
言語文化学科	クリエイティブ・ライティングⅢ	Green	11	9
言語文化学科	日本事情演習ⅡB	Pink	8	6
言語文化学科	日本語学習環境デザイン論演習Ⅱ(読替:日本語教育法演習)	Green	5	4
言語文化学科	日本語演習ⅢB	Pink	7	7
言語文化学科	英語科教育法Ⅱ	Ivory	13	11
人間社会科学科	小学校教材研究(社会)	Ivory	38	38
人間社会科学科	グローバルCOE人間発達科学論Ⅰ	Green	7	4
人間社会科学科	グローバルCOE人間発達科学論Ⅱ	Green	3	2
人間社会科学科	学校カウンセリング	Ivory	174	156
人間社会科学科	小学校教材研究(生活)	Ivory	46	42
人間社会科学科	生徒指導の研究	Ivory	182	171
人間社会科学科	小学校教材研究(算数)	Ivory	46	45
人間社会科学科	グローバルCOE人間発達科学論Ⅲ	Green	10	9
人間社会科学科	情報コミュニケーション技術と創発性	Pink	12	10
人間社会科学科	情報コミュニケーション技術と創発性	Pink	10	7
人間社会科学科	教育方法論	Ivory	213	206
人間社会科学科	小学校教材研究(理科)	Ivory	41	41
人間社会科学科	教職総合演習	※2	2	2

開講部局	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
人間社会科学科	教育原論(思想・歴史)	Ivory	259	247
人間社会科学科	教育実習(高等学校)	Ivory	34	34
人間社会科学科	教育実習(中学校)	Ivory	46	44
人間社会科学科	教育実習(小学校)	Ivory	11	11
人間社会科学科	教育実習(幼稚園)	Ivory	11	11
人間社会科学科	事前・事後指導(高等学校)	Ivory	34	34
人間社会科学科	事前・事後指導(中学校)	Ivory	46	44
人間社会科学科	事前・事後指導(小学校)	Ivory	11	11
人間社会科学科	事前・事後指導(幼稚園)	Ivory	11	11
人間社会科学科	教育心理	Ivory	173	146
人間社会科学科	道徳教育の研究	Ivory	169	159
人間社会科学科	視聴覚教育メディア論	Ivory	54	50
人間社会科学科	社会科教育論	Ivory	27	25
人間社会科学科	教育原論(社会・制度)	Ivory	183	174
人間社会科学科	小学校教材研究(国語)	Ivory	29	27
人間社会科学科	教職概論	Ivory	284	272
人間社会科学科	教育課程論	Ivory	224	206
人間社会科学科	特別活動の研究	Ivory	221	204
芸術・表現行動学科	音楽科教育法Ⅰ	Ivory	10	10
芸術・表現行動学科	音楽科教育法Ⅱ	Ivory	10	10
芸術・表現行動学科	教職合唱	Ivory	28	23
芸術・表現行動学科	教職指揮法	Ivory	28	23
芸術・表現行動学科	幼・小体育実技	Ivory	24	21
芸術・表現行動学科	教職ピアノ	Ivory	31	24
芸術・表現行動学科	教職声楽	Ivory	31	24
芸術・表現行動学科	保健体育科教育法Ⅰ	Ivory	8	8
芸術・表現行動学科	保健体育科教育法Ⅱ	Ivory	8	8
芸術・表現行動学科	幼・小体育実技	Ivory	30	29
数学科	初等代数学	Pink	5	2
数学科	初等線形代数学	Pink	4	2
数学科	科学英語Ⅰ	White	98	93
数学科	初等解析学Ⅱ	Pink	4	4
数学科	数学科教育法Ⅱ	Ivory	26	24
数学科	数の歴史	Pink	20	11
数学科	理数特別講義演習Ⅰ	White	4	3
数学科	理数特別講義演習Ⅱ	White	3	3
数学科	科学英語Ⅱ	White	19	19
数学科	初等解析学Ⅰ	Pink	8	4
数学科	数学科教育法Ⅰ	Ivory	27	25
物理学科	物理学基礎実験	Pink	17	15
物理学科	宇宙・地球科学	Pink	6	4
物理学科	物理学概論A	Pink	8	3
物理学科	物理学概論B	Pink	30	24
化学科	理科教育法Ⅱ	Ivory	26	26
化学科	基礎化学A	Pink	49	42
化学科	理科教育法Ⅰ	Ivory	26	25
化学科	物理学サプリメント	Pink	14	12
化学科	女性リーダーへの道(入門編)	Pink	29	27
化学科	女性リーダーへの道(実践入門編)	Green	21	17
化学科	理数特別講義演習ⅩⅣ	White	8	6
化学科	生物学サプリメント	Pink	12	12
化学科	基礎化学B	Pink	3	3
化学科	地球環境科学	Pink	34	26
生物学科	生物学基礎実験	Pink	4	1
生物学科	基礎生物学A	Pink	30	23
生物学科	基礎生物学B	Pink	16	14
生物学科	生命情報学概論	Green	17	11
生物学科	計算生物学	Green	9	5
情報科学科	確率序論	Green	10	7

開講部局	授業科目名	※1CCBM(H23～)	履修登録者数	単位取得者数
情報科学科	地学基礎実験	Pink	16	10
情報科学科	数理基礎論	Pink	6	3
情報科学科	情報科教育法Ⅰ	Ivory	15	14
情報科学科	コンピュータシステム序論	Pink	5	1
食物栄養学科	栄養教育実習	Red	11	11
食物栄養学科	調理実習	Pink	14	13
人間生活学科	幼児理解とその方法Ⅰ	※	10	6
人間生活学科	比較保育実践研究Ⅰ	White	16	12
人間生活学科	保育表現Ⅱ(指導法)	Green	16	15
人間生活学科	子どもと家族	White	9	9
人間生活学科	算数科教育論	Ivory	64	64
人間生活学科	幼児理解と教育相談	Ivory	9	8
人間生活学科	乳幼児教育・保育政策論Ⅱ　(読替:現代育児論Ⅱ)	White	6	5
人間生活学科	家庭科教育法Ⅱ	Ivory	10	10
人間生活学科	保育内容の研究Ⅱ(人間関係)	Ivory	22	16
人間生活学科	生活科教育論	Ivory	50	46
人間生活学科	家庭科教育論	Ivory	39	38
人間生活学科	保育指導法Ⅰ	Ivory	54	53
人間生活学科	被服製作実習	Green	13	13
人間生活学科	被服製作実習	Green	9	9
人間生活学科	家庭看護学	Green	14	14
人間生活学科	保育表現Ⅰ(指導法)	Ivory	1	1
人間生活学科	家庭科教育法Ⅰ	Ivory	10	10
人間生活学科	保育実践論	Green	11	10
人間生活学科	保育内容の研究Ⅲ(環境)	Ivory	32	32
人間生活学科	保育内容の研究Ⅰ(言葉)	Ivory	45	43
人間生活学科	現代保育課題研究Ⅱ	White	16	15
人間生活学科	家庭機械及び家庭電気	Pink	8	4
人間生活学科	家庭機械及び家庭電気	Pink	11	11
生活科学部特別設置科目	絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅰ	※	5	5
生活科学部特別設置科目	保育メディア論	White	18	12
生活科学部特別設置科目	実践音楽療法	White	18	16
生活科学部特別設置科目	乳幼児教育・保育政策論Ⅰ　(読替:保育システム論)	White	5	5
生活科学部特別設置科目	現代保育課題研究Ⅰ	White	16	16
全学共通	NPO入門	Pink	31	19
全学共通	キャリアプランとライフプランⅡ　(読替:キャリアプランニングⅡ)	Pink	13	12
全学共通	キャリアプランとライフプランⅡ(読替:キャリアプランニングⅡ)	Pink	9	6
全学共通	キャリアプランとライフプランⅠ　(読替:キャリアプランニングⅠ)	Pink	18	17
全学共通	キャリアプランとライフプランⅠ　(読替:キャリアプランニングⅠ)	Pink	21	20
全学共通	キャリアプランニング実習	Pink	17	12

※1　CCBM(Color Code Benchmark system)とは、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示したものです。

①ピンク・・・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。

②グリーン・・カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。

③レッド・・・一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーンの科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。

④アイボリー・・教職等資格関連科目。

⑤ホワイト・・コア科目(外国語・情報系科目以外)、既修得単位や単位互換などによる認定科目。

※2　CCBM適用外(平成23年度以前の旧科目のため)

□　履修登録者に、非正規生(科目等履修生、特別聴講学生、日研生)を含む。ただし、聴講生は除く。

大学院人間文化創成科学研究科　博士前期課程　　H23年度

	開講科目数	単位取得者数	平均受講者数（人）
比較社会文化学専攻	183	1,168	6.4
人間発達科学専攻	85	565	6.6
ジェンダー社会科学専攻	51	256	5.0
ライフサイエンス専攻	107	785	7.3
理学専攻	90	871	9.7

大学院人間文化創成科学研究科　博士後期課程

	開講科目数	単位取得者数	平均受講者数（人）
比較社会文化学専攻	98	211	2.2
人間発達科学専攻	62	125	2.0
ジェンダー学際研究専攻	25	48	1.9
ライフサイエンス専攻	58	148	2.6
理学専攻	59	86	1.5

大学院人間文化早世科学研究科　博士前期課程

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	英語アカデミック・ライティング	26	20
比較社会文化学専攻	英語アカデミック・プレゼンテーション	15	12
比較社会文化学専攻	第二言語習得論研究	7	7
比較社会文化学専攻	TOEFL対策演習S／W	2	1
比較社会文化学専攻	比較日本文化論(理論)	9	8
比較社会文化学専攻	比較日本文化論(応用)	4	4
比較社会文化学専攻	比較日本文化論演習(理論)	1	1
比較社会文化学専攻	比較日本文化論演習(応用)	1	1
比較社会文化学専攻	英語教育方法論演習	8	8
比較社会文化学専攻	西洋近世史特論	8	8
比較社会文化学専攻	西洋近世史演習	6	6
比較社会文化学専攻	歴史・地理特別演習(基礎)	3	2
比較社会文化学専攻	歴史史料論	6	6
比較社会文化学専攻	歴史史料論演習	7	7
比較社会文化学専攻	比較歴史史料学演習	7	7
比較社会文化学専攻	中国言語表現論演習	6	6
比較社会文化学専攻	現代中国語学演習	5	4
比較社会文化学専攻	中国古典語学演習	5	5
比較社会文化学専攻	中国古典文献学	4	4
比較社会文化学専攻	TOEFL対策演習R／L	2	1
比較社会文化学専攻	音楽表象文化特論	10	8
比較社会文化学専攻	音楽表象文化演習	7	7
比較社会文化学専攻	日本語教育学特論	5	5
比較社会文化学専攻	日本語教育方法論	12	12
比較社会文化学専攻	日本語教育方法論演習	5	5
比較社会文化学専攻	日本語教育実習	6	6
比較社会文化学専攻	応用日本言語学研究法演習	15	15
比較社会文化学専攻	言語テスト論演習	12	12
比較社会文化学専攻	日本語教育学研究特論	12	12
比較社会文化学専攻	日本上代文学特論	7	6
比較社会文化学専攻	日本上代文学表現史論	10	10
比較社会文化学専攻	音楽文化演習	4	4
比較社会文化学専攻	異文化間コミュニケーション特論	4	4
比較社会文化学専攻	異文化間コミュニケーション演習	4	4
比較社会文化学専攻	多文化間カウンセリング特論	10	9
比較社会文化学専攻	多文化間カウンセリング演習	7	7
比較社会文化学専攻	舞踊文化特論	6	6
比較社会文化学専攻	アジア政治文化特論	12	12
比較社会文化学専攻	アジア政治文化演習	10	10
比較社会文化学専攻	民俗文化論特論	4	4
比較社会文化学専攻	民俗文化論研究	5	5
比較社会文化学専攻	日本民俗学	5	1
比較社会文化学専攻	現代中国語圏文学特論	6	6
比較社会文化学専攻	近代中国語圏文学特論	4	4
比較社会文化学専攻	中国言語文化特論	4	4
比較社会文化学専攻	比較社会文化総論	83	83
比較社会文化学専攻	日本美術史特論Ⅱ	2	1
比較社会文化学専攻	音楽研究方法論	13	13
比較社会文化学専攻	音楽研究方法論演習	13	13
比較社会文化学専攻	音楽思想研究(近代)	12	11
比較社会文化学専攻	音楽思想研究演習(近代)	10	10
比較社会文化学専攻	文化財政策論	10	9
比較社会文化学専攻	言語分析学演習	8	6
比較社会文化学専攻	表現行動論特論	6	6
比較社会文化学専攻	日本政治経済史特論	5	5
比較社会文化学専攻	日本政治経済史料特論	6	6
比較社会文化学専攻	日本政治経済史演習	7	7
比較社会文化学専攻	日本政治経済史料演習	8	8
比較社会文化学専攻	近世日本語学特論	11	11

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	英語圏文学・文化特論	2	2
比較社会文化学専攻	英語圏文学・文化演習	1	1
比較社会文化学専攻	ピアノ演奏学演習(現代)	3	3
比較社会文化学専攻	現代日本語学特論	3	3
比較社会文化学専攻	日本言語表現論特論	4	4
比較社会文化学専攻	倫理思想史特論(理論)	2	2
比較社会文化学専攻	倫理思想史特論(応用)	2	2
比較社会文化学専攻	倫理思想史資料演習(理論)	1	1
比較社会文化学専攻	倫理思想史資料演習(応用)	1	1
比較社会文化学専攻	倫理学特論(理論)	4	4
比較社会文化学専攻	倫理学特論(応用)	4	4
比較社会文化学専攻	倫理学原論(理論)	3	3
比較社会文化学専攻	倫理学原論(応用)	3	3
比較社会文化学専攻	日本倫理思想論Ⅰ	2	2
比較社会文化学専攻	日本倫理思想論Ⅱ	3	3
比較社会文化学専攻	言語教育統計学	15	13
比較社会文化学専攻	言語教育統計学演習	8	8
比較社会文化学専攻	日本語コミュニケーション特論	2	2
比較社会文化学専攻	日本語コミュニケーション演習	2	2
比較社会文化学専攻	言語コミュニケーション論特論	7	7
比較社会文化学専攻	言語コミュニケーション論演習	5	5
比較社会文化学専攻	質的研究法演習	15	15
比較社会文化学専攻	科学哲学特論	3	3
比較社会文化学専攻	科学哲学演習(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	思想文化学研究法	7	7
比較社会文化学専攻	比較アジア社会文化特論	4	4
比較社会文化学専攻	比較アジア社会文化演習	5	5
比較社会文化学専攻	日本近世文学特論	13	13
比較社会文化学専攻	日本近世出版文化特論	12	12
比較社会文化学専攻	舞踊表現学特論	7	7
比較社会文化学専攻	舞踊表現学演習	2	2
比較社会文化学専攻	東洋美術史特論(基礎)	4	4
比較社会文化学専攻	東洋美術史特論(応用)	4	4
比較社会文化学専攻	東洋美術史演習(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	東洋美術史演習(応用)	1	1
比較社会文化学専攻	ピアノ演奏学特論(近代)	3	3
比較社会文化学専攻	ピアノ演奏学特論(現代)	5	5
比較社会文化学専攻	ピアノ表現演習(近代)	2	2
比較社会文化学専攻	ピアノ表現演習(現代)	2	2
比較社会文化学専攻	日本社会史特論	10	10
比較社会文化学専攻	日本社会史演習	6	6
比較社会文化学専攻	日本社会史料演習	6	6
比較社会文化学専攻	歴史資料論特論	7	7
比較社会文化学専攻	歴史資料論演習	8	8
比較社会文化学専攻	史料管理論特論	8	8
比較社会文化学専攻	アカデミック女性リーダーへの道(実践編)	34	22
比較社会文化学専攻	英文学特論(ジャンル研究)	3	3
比較社会文化学専攻	英文学演習(歴史表象研究)	3	3
比較社会文化学専攻	形而上学演習(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	形而上学演習(応用)	2	2
比較社会文化学専攻	西洋中世史特論	6	6
比較社会文化学専攻	西洋中世史演習	5	5
比較社会文化学専攻	スポーツマネージメント特論	5	5
比較社会文化学専攻	スポーツマネージメント演習	6	4
比較社会文化学専攻	対照言語学特論	3	3
比較社会文化学専攻	対照言語学演習	4	4
比較社会文化学専攻	言語習得・教育特論	7	5
比較社会文化学専攻	言語習得・教育演習	6	5
比較社会文化学専攻	声楽演奏学特論	5	5

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	声楽演奏学演習	5	5
比較社会文化学専攻	声楽表現方法論	3	3
比較社会文化学専攻	声楽表現方法論演習	4	4
比較社会文化学専攻	伝統芸能文化論演習	18	16
比較社会文化学専攻	日本文化史演習	4	4
比較社会文化学専攻	日本文化史料演習	3	3
比較社会文化学専攻	日本中古文学表現史論演習	10	9
比較社会文化学専攻	表現行動科学特論	4	4
比較社会文化学専攻	表現行動科学実験演習	2	2
比較社会文化学専攻	応用心理言語学演習	11	9
比較社会文化学専攻	現代スポーツ論特論	6	6
比較社会文化学専攻	近代独文学論	4	2
比較社会文化学専攻	近代独文学演習	4	4
比較社会文化学専攻	英語圏文学表象論	3	3
比較社会文化学専攻	生活文化特論演習	3	3
比較社会文化学専攻	応用日本言語学研究法実習	15	15
比較社会文化学専攻	言語学習論特論	10	9
比較社会文化学専攻	言語学習論演習	2	2
比較社会文化学専攻	日本中世文学演習	6	6
比較社会文化学専攻	日本中世文学表現史論演習	6	6
比較社会文化学専攻	日本現代文学特論	9	9
比較社会文化学専攻	日本言語文化特論	12	12
比較社会文化学専攻	博物館経営論	11	11
比較社会文化学専攻	英語圏批評理論研究	5	2
比較社会文化学専攻	英語圏批評理論演習	2	2
比較社会文化学専攻	日本近代文学演習	9	9
比較社会文化学専攻	英語学特論(語用論)	5	5
比較社会文化学専攻	英語学演習(語用論)	5	5
比較社会文化学専攻	現代仏文学研究	4	4
比較社会文化学専攻	現代仏文学研究演習	4	4
比較社会文化学専攻	英語圏・仏語圏言語文化特論	8	8
比較社会文化学専攻	仏語圏比較社会論	4	4
比較社会文化学専攻	仏語圏比較社会論演習	4	4
比較社会文化学専攻	民族舞踊学特論	7	6
比較社会文化学専攻	民族舞踊方法論演習	1	1
比較社会文化学専攻	哲学特論(基礎)	3	2
比較社会文化学専攻	哲学特論(応用)	2	2
比較社会文化学専攻	舞踊芸術学特論	7	6
比較社会文化学専攻	舞踊方法論演習	2	2
比較社会文化学専攻	西洋美術史理論特論(近代)	4	4
比較社会文化学専攻	西洋美術史特論(近代)	4	4
比較社会文化学専攻	西洋美術史理論演習(現代)	3	3
比較社会文化学専攻	西洋美術史演習(現代)	2	2
比較社会文化学専攻	仏語言語表現論	5	5
比較社会文化学専攻	仏語言語表現論演習	5	5
比較社会文化学専攻	近代仏文学特論	5	5
比較社会文化学専攻	近代仏文学特別演習	5	4
比較社会文化学専攻	西洋服飾文化論	3	3
比較社会文化学専攻	西洋服飾文化論特論	3	3
比較社会文化学専攻	英語圏言語文化特論	5	5
比較社会文化学専攻	英語圏言語文化演習	6	6
比較社会文化学専攻	特別研究	63	63
比較社会文化学専攻	日本音楽論	3	3
比較社会文化学専攻	中国語教育実践方法論(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	英語学特論(統語論)	5	4
比較社会文化学専攻	英語学演習(統語論)	5	4
比較社会文化学専攻	倫理学資料演習(理論)	5	5
比較社会文化学専攻	倫理学資料演習(応用)	4	4
比較社会文化学専攻	日本文化論	1	1

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	日本語教育学研究演習	6	6
比較社会文化学専攻	生活造形特論	6	6
比較社会文化学専攻	生活芸術論演習	12	11
比較社会文化学専攻	歴史文化学基礎論	16	16
比較社会文化学専攻	東アジア比較言語文化論演習(古典)	6	6
比較社会文化学専攻	中国古典文学思想論	7	7
人間発達科学専攻	探究力・活用力養成論	1	1
人間発達科学専攻	臨床心理学特論(理論)	14	14
人間発達科学専攻	コミュニティ心理学	5	5
人間発達科学専攻	カウンセリング特論(実践)	13	13
人間発達科学専攻	臨床心理実習	20	14
人間発達科学専攻	心理療法特論	13	13
人間発達科学専攻	心理面接法演習(実践)	13	13
人間発達科学専攻	医療心理学特論	19	14
人間発達科学専攻	臨床心理学特論(実践)	13	13
人間発達科学専攻	臨床心理学研究法(理論)	13	13
人間発達科学専攻	教育科学研究方法論	3	3
人間発達科学専攻	人間発達科学論	5	5
人間発達科学専攻	博物館学特論(応用)	2	2
人間発達科学専攻	保育臨床学特論	6	6
人間発達科学専攻	保育臨床学演習	4	4
人間発達科学専攻	保育者養成論特論	7	7
人間発達科学専攻	保育者養成論演習	5	5
人間発達科学専攻	社会心理学特論(理論)	3	3
人間発達科学専攻	社会心理学特論(応用)	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学論	5	5
人間発達科学専攻	小児医療論演習	9	9
人間発達科学専攻	子どもの心身発達論演習	3	3
人間発達科学専攻	Special Lectures in Humanities and Sciences Ⅰ	2	2
人間発達科学専攻	成人教育研究特論	5	5
人間発達科学専攻	成人教育演習	6	6
人間発達科学専攻	成人学習論特論	8	8
人間発達科学専攻	成人学習論演習	6	6
人間発達科学専攻	教育社会学	1	1
人間発達科学専攻	教育社会学演習	1	1
人間発達科学専攻	多変量解析演習	15	12
人間発達科学専攻	子ども行動学特論	5	4
人間発達科学専攻	子ども行動学演習	1	1
人間発達科学専攻	子ども社会学特論	7	7
人間発達科学専攻	子ども社会学演習	7	7
人間発達科学専攻	現代社会論	9	7
人間発達科学専攻	心理学研究法	5	5
人間発達科学専攻	特別研究	29	29
人間発達科学専攻	社会集団論	6	6
人間発達科学専攻	社会学基礎論	8	8
人間発達科学専攻	発達精神病理学基礎論	9	8
人間発達科学専攻	発達精神病理学基礎論演習	4	4
人間発達科学専攻	カウンセリング特論(理論)	14	14
人間発達科学専攻	発達臨床心理学特論	14	14
人間発達科学専攻	認知システム論演習	2	1
人間発達科学専攻	認知科学基礎論	1	1
人間発達科学専攻	認知計算論演習	1	1
人間発達科学専攻	応用発達科学論演習	7	6
人間発達科学専攻	社会意識論特論	3	3
人間発達科学専攻	社会コミュニケーション特殊研究	3	2
人間発達科学専攻	健康心理学特論	2	2
人間発達科学専攻	博物館学特論(理論)	1	1
人間発達科学専攻	社会コミュニケーション先端研究	4	2
人間発達科学専攻	公教育研究特論	4	4

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
人間発達科学専攻	公教育研究演習	3	3
人間発達科学専攻	探究力・活用力養成法研究(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	社会コミュニケーション方法論	5	5
人間発達科学専攻	臨床心理査定演習(実践)	14	14
人間発達科学専攻	臨床心理基礎実習	14	14
人間発達科学専攻	非行臨床心理学特論	17	17
人間発達科学専攻	人格形成論演習(理論)	3	3
人間発達科学専攻	人格形成論演習(応用)	3	3
人間発達科学専攻	心理面接法演習(理論)	12	12
人間発達科学専攻	臨床心理特別実習	12	12
人間発達科学専攻	人間発達科学論	14	14
人間発達科学専攻	保育人間学特論	8	8
人間発達科学専攻	保育人間学演習	1	1
人間発達科学専攻	教育開発論特論(理論)	4	4
人間発達科学専攻	教育開発論特論(実践論)	3	3
人間発達科学専攻	教育方法学(理論)	6	6
人間発達科学専攻	教育方法学(応用)	3	3
人間発達科学専攻	臨床心理学研究法(実践)	15	11
人間発達科学専攻	政策科学	8	7
人間発達科学専攻	プログラム評価の設計と解析	4	4
人間発達科学専攻	社会福祉論演習	4	3
人間発達科学専攻	人間発達科学論	2	2
人間発達科学専攻	社会政策論演習	2	2
人間発達科学専攻	近代教育史	4	3
人間発達科学専攻	現代教育史	4	4
人間発達科学専攻	人間発達科学論	7	7
人間発達科学専攻	保育・児童学研究方法論	4	4
人間発達科学専攻	応用発達科学論特論	16	6
人間発達科学専攻	認知システム論	2	2
人間発達科学専攻	社会変動論	14	13
人間発達科学専攻	障害臨床心理学特論	16	16
人間発達科学専攻	臨床心理査定演習(理論)	14	14
ジェンダー社会科学専攻	特別研究	18	18
ジェンダー社会科学専攻	労働経済論	2	2
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー統計論演習	3	3
ジェンダー社会科学専攻	開発・ジェンダー論特論	8	8
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー社会科学論	8	8
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー関係論	4	4
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー関係論演習	4	3
ジェンダー社会科学専攻	国際社会ジェンダー論	6	6
ジェンダー社会科学専攻	国際社会ジェンダー論演習	4	2
ジェンダー社会科学専攻	地理情報論	4	4
ジェンダー社会科学専攻	社会環境学演習	1	1
ジェンダー社会科学専攻	開発地域文化論	6	5
ジェンダー社会科学専攻	開発研究実践論	2	2
ジェンダー社会科学専攻	開発研究実践論演習	2	2
ジェンダー社会科学専攻	生活経済論	6	6
ジェンダー社会科学専攻	生活経済論演習	11	10
ジェンダー社会科学専攻	生活法社会論	3	3
ジェンダー社会科学専攻	生活法社会論演習	2	2
ジェンダー社会科学専攻	グローバル政治経済論	4	3
ジェンダー社会科学専攻	グローバル政治経済論演習	3	3
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー立法過程論	2	2
ジェンダー社会科学専攻	フェミニズム理論の争点	5	5
ジェンダー社会科学専攻	フェミニズム理論の争点・演習	6	6
ジェンダー社会科学専攻	地域経済論	6	6
ジェンダー社会科学専攻	生活政治論	1	1
ジェンダー社会科学専攻	生活政治論演習	1	1
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー基礎論	19	19

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
ジェンダー社会科学専攻	生活情報論	13	9
ジェンダー社会科学専攻	生活政策学特論	6	5
ジェンダー社会科学専攻	生活政策学演習(応用分析)	7	6
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー社会科学論	8	8
ジェンダー社会科学専攻	家族関係学演習	9	8
ジェンダー社会科学専攻	生活政策学演習(方法論基礎)	10	10
ジェンダー社会科学専攻	開発言説論	2	2
ジェンダー社会科学専攻	開発言説論演習	3	3
ジェンダー社会科学専攻	開発経済学	7	7
ジェンダー社会科学専攻	開発経済学演習	5	5
ジェンダー社会科学専攻	消費者問題論	1	1
ジェンダー社会科学専攻	開発人類学	4	3
ジェンダー社会科学専攻	開発人類学演習	3	3
ジェンダー社会科学専攻	環境認識論演習	3	3
ジェンダー社会科学専攻	ジェンダー社会科学論	3	3
ジェンダー社会科学専攻	環境文化論	4	1
ジェンダー社会科学専攻	フィールドワーク方法論	7	6
ジェンダー社会科学専攻	自然環境論	6	6
ジェンダー社会科学専攻	地理環境学特殊講義	4	4
ジェンダー社会科学専攻	地理環境論特殊講義	4	4
ジェンダー社会科学専攻	地理環境調査講義実習	4	4
ジェンダー社会科学専攻	長寿社会論	13	11
ジェンダー社会科学専攻	長寿社会論演習	13	8
ジェンダー社会科学専攻	女性政策論	1	1
ライフサイエンス専攻	生命科学演習	18	18
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論	63	63
ライフサイエンス専攻	特別研究	42	42
ライフサイエンス専攻	臨床遺伝学Ⅰ	4	4
ライフサイエンス専攻	臨床遺伝学Ⅱ	4	4
ライフサイエンス専攻	遺伝統計学	4	4
ライフサイエンス専攻	植物相関生理学	2	2
ライフサイエンス専攻	植物相関生理学演習	2	2
ライフサイエンス専攻	エビデンス食教育論	40	37
ライフサイエンス専攻	食育研究コロキアム	18	18
ライフサイエンス専攻	食のサイエンス	19	18
ライフサイエンス専攻	食をめぐる環境論	24	23
ライフサイエンス専攻	食文化論	23	18
ライフサイエンス専攻	CST理科教育法Ⅰ	8	1
ライフサイエンス専攻	CST理科教育法Ⅱ	8	1
ライフサイエンス専攻	自由研究指導法	8	1
ライフサイエンス専攻	教員研修実践論	9	2
ライフサイエンス専攻	教職インターンシップ	8	1
ライフサイエンス専攻	カウンセリング概論	3	1
ライフサイエンス専攻	嗜好成分化学	29	27
ライフサイエンス専攻	嗜好成分化学演習	8	8
ライフサイエンス専攻	分子細胞生物学(動物)	1	1
ライフサイエンス専攻	分子細胞生物学(動物)演習	1	1
ライフサイエンス専攻	生命科学特論(分子細胞生理学)	2	2
ライフサイエンス専攻	分子進化学	1	1
ライフサイエンス専攻	集団遺伝学	5	1
ライフサイエンス専攻	集団遺伝学	4	4
ライフサイエンス専攻	老年学	38	37
ライフサイエンス専攻	老年学演習	4	3
ライフサイエンス専攻	建築計画学特論	8	8
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンスのための放射線計測学	3	3
ライフサイエンス専攻	調理科学特論	17	17
ライフサイエンス専攻	調理科学演習	3	3
ライフサイエンス専攻	細胞生理学	1	1
ライフサイエンス専攻	植物環境応答学	6	5

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
ライフサイエンス専攻	植物環境応答学演習	3	1
ライフサイエンス専攻	医療倫理学	3	3
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング心理社会論	3	3
ライフサイエンス専攻	分子細胞生物学(植物)	2	2
ライフサイエンス専攻	臨床栄養学特論	3	3
ライフサイエンス専攻	臨床栄養学演習	5	5
ライフサイエンス専攻	細胞情報特論	8	4
ライフサイエンス専攻	細胞遺伝学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	糖質科学	2	2
ライフサイエンス専攻	生体膜代謝論	9	9
ライフサイエンス専攻	生体膜代謝論演習	2	2
ライフサイエンス専攻	オルガネラ遺伝学	2	2
ライフサイエンス専攻	オルガネラ遺伝学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	人類進化学特論	12	12
ライフサイエンス専攻	顕微計測学特論	16	7
ライフサイエンス専攻	食品分析化学特論	11	11
ライフサイエンス専攻	食品機能・分析化学演習	9	9
ライフサイエンス専攻	健康医学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	臨床医学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	発達精神病理学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	海洋生物学特論	1	1
ライフサイエンス専攻	栄養教育学特論	7	7
ライフサイエンス専攻	栄養教育学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	分子発生学	4	4
ライフサイエンス専攻	分子発生学演習	4	4
ライフサイエンス専攻	生殖発生遺伝学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	サイエンス・コミュニケーション論	11	4
ライフサイエンス専攻	食品衛生管理学特論	26	26
ライフサイエンス専攻	医療概論	6	6
ライフサイエンス専攻	遺伝学実習	4	4
ライフサイエンス専攻	臨床遺伝学特論	3	3
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング学	4	4
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング学演習(基礎)	4	4
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング学演習(応用)	3	3
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング準備実習	3	3
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング研究方法論(応用)	3	3
ライフサイエンス専攻	人類遺伝学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	遺伝医学	4	4
ライフサイエンス専攻	臨床遺伝学各論	4	4
ライフサイエンス専攻	臨床遺伝学演習	4	4
ライフサイエンス専攻	ゲノム医科学特論	19	18
ライフサイエンス専攻	食品加工貯蔵学演習	2	2
ライフサイエンス専攻	医用福祉工学	9	9
ライフサイエンス専攻	生体工学特論	11	4
ライフサイエンス専攻	人間・環境科学方法論	12	12
ライフサイエンス専攻	人間生活工学演習	11	11
ライフサイエンス専攻	環境生活工学演習	12	12
ライフサイエンス専攻	臨床心理科学論	2	2
ライフサイエンス専攻	環境工学特論	11	11
ライフサイエンス専攻	資源微生物学	10	10
ライフサイエンス専攻	食品栄養生化学特論	19	18
ライフサイエンス専攻	食品栄養生化学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	心理臨床基礎論	4	4
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング研究方法論(基礎)	3	3
ライフサイエンス専攻	機能材料特論	5	4
ライフサイエンス専攻	栄養化学演習	3	3
ライフサイエンス専攻	生活習慣病医学・疫学演習	3	3
ライフサイエンス専攻	フードサービスマネジメント特論	4	3
ライフサイエンス専攻	フードサービスマネジメント演習	3	3

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
ライフサイエンス専攻	植物代謝生理学	7	4
ライフサイエンス専攻	計算生物学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	計算生物学演習	5	5
ライフサイエンス専攻	総合ライフサイエンス演習	16	16
ライフサイエンス専攻	細胞生物学特論	1	1
ライフサイエンス専攻	細胞生物学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	バイオ科学技術社会論演習	1	1
ライフサイエンス専攻	生体制御学特論	4	4
ライフサイエンス専攻	生体制御学演習	2	2
ライフサイエンス専攻	食品栄養科学研究法	30	29
ライフサイエンス専攻	感覚工学特論	3	3
ライフサイエンス専攻	植物系統進化学	6	6
ライフサイエンス専攻	植物系統進化学演習	2	2
理学専攻	物理学特論(物性)	7	1
理学専攻	ビジュアルコンピューティング特論	18	16
理学専攻	ビジュアルコンピューティング演習	18	10
理学専攻	シミュレーション科学特論	10	10
理学専攻	無機物理化学	8	8
理学専攻	溶液化学演習	2	2
理学専攻	液体の物理学演習	3	3
理学専攻	代数幾何学演習	1	1
理学専攻	化学教材開発法研究(基礎)	10	10
理学専攻	化学・生物化学演習	23	23
理学専攻	物理学特別講義(素粒子・宇宙)	8	5
理学専攻	シミュレーション科学演習	7	6
理学専攻	核物性特論	15	7
理学専攻	応用磁性物理学演習	3	3
理学専攻	応用数学特論	16	15
理学専攻	応用数学演習	14	10
理学専攻	英語アカデミック・ライティング	66	56
理学専攻	界面化学特論	16	16
理学専攻	界面化学演習	4	4
理学専攻	現代化学(現代生化学)	4	4
理学専攻	数理科学特論	5	4
理学専攻	数理科学演習	5	4
理学専攻	相転移特論	15	6
理学専攻	相転移演習	4	1
理学専攻	蛋白質結晶学	6	6
理学専攻	構造生物化学特論	1	1
理学専攻	有機立体化学	9	9
理学専攻	物理有機化学演習	7	7
理学専攻	非線形物理学特論	15	8
理学専攻	非線形物理学演習	6	6
理学専攻	分散処理特論	26	25
理学専攻	分散処理演習	26	25
理学専攻	理学総論	72	71
理学専攻	生物超分子化学演習	5	4
理学専攻	糖鎖分子機能認識学	3	3
理学専攻	言語メディア特論	20	18
理学専攻	言語メディア演習	19	8
理学専攻	物性物理学特論	8	3
理学専攻	物性物理学演習	1	1
理学専攻	英語アカデミック・プレゼンテーション	18	13
理学専攻	情報科学基礎演習	33	33
理学専攻	非線形化学	19	17
理学専攻	非平衡系化学演習	4	4
理学専攻	天体物理学特論	10	10
理学専攻	天体物理学演習	12	12
理学専攻	関数方程式特論	10	8

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
理学専攻	関数方程式演習	2	2
理学専攻	数理基礎演習	7	7
理学専攻	場の理論演習	9	9
理学専攻	生体分子間相互作用特論	8	7
理学専攻	生体機能分子化学演習	4	4
理学専攻	物理化学特論	7	7
理学専攻	数学基礎演習	8	4
理学専攻	計算化学特論	9	8
理学専攻	理論化学演習	4	4
理学専攻	超分子化学特論	15	15
理学専攻	超分子化学演習	1	1
理学専攻	機能物質化学特論	15	13
理学専攻	人間機械系演習	18	18
理学専攻	多様体構造特論	9	8
理学専攻	等質空間演習	3	3
理学専攻	人間機械系特論	19	18
理学専攻	応用代数学特論	9	9
理学専攻	応用代数学演習	8	8
理学専攻	応用数理基礎演習	3	3
理学専攻	コンピュータアーキテクチャ特論	2	2
理学専攻	コンピュータアーキテクチャ演習	2	2
理学専攻	有機化学特論	11	11
理学専攻	統計力学特論	22	22
理学専攻	量子物理学演習	1	1
理学専攻	放射光科学演習	3	3
理学専攻	物理学特論(素粒子・宇宙)	7	6
理学専攻	量子物理学特論	9	5
理学専攻	解析的整数論特論	6	6
理学専攻	整数論演習	1	1
理学専攻	構造物質化学特論	5	5
理学専攻	有機反応化学演習	6	6
理学専攻	生命情報科学特論	1	1
理学専攻	生命情報科学演習	1	1
理学専攻	総合バイオインフォマティクス特論	3	3
理学専攻	特別研究	74	74
理学専攻	物質合成化学特論	14	13
理学専攻	計算機言語特論	7	4
理学専攻	計算機言語演習	7	4
理学専攻	数式処理特論	11	10
理学専攻	数式処理演習	11	10
理学専攻	物理学特別講義(物性)	5	1
理学専攻	現象論的素粒子論	8	7
理学専攻	高エネルギー物理学演習	6	5
理学専攻	確率過程特論	5	3

□ 履修登録者に、非正規生(科目等履修生、特別聴講学生、日研生)を含む。ただし、聴講生は除く。

大学院人間文化創成科学研究科　博士後期課程

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	日本中世史研究	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	音楽文化論	5	5
比較社会文化学専攻	音楽文化論演習	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	日本語教育論	2	2
比較社会文化学専攻	日本語教育論演習	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	多文化間心理学研究	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	3	3
比較社会文化学専攻	比較アジア論	6	6
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	中国近代文学論	3	3
比較社会文化学専攻	中国近代文学論演習	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	音楽理論	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	日本文化基層論	3	3
比較社会文化学専攻	日本古代史研究	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	アメリカ言語文化論	3	3
比較社会文化学専攻	日本言語分析論	1	1
比較社会文化学専攻	日本言語分析論演習	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	4	4
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	倫理思想研究論	2	2
比較社会文化学専攻	倫理思想研究論演習	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	言語コミュニケーション論	4	4
比較社会文化学専攻	言語コミュニケーション論演習	9	9
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	4	4
比較社会文化学専攻	認識論・知識の哲学	2	2
比較社会文化学専攻	認識論・知識の哲学演習	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	イスラム社会論	2	2
比較社会文化学専攻	イスラム歴史文化研究	1	1
比較社会文化学専攻	日本近世言語文化論	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	舞踊表現論	1	1
比較社会文化学専攻	舞踊表現論演習	1	1

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	比較芸術論演習	1	1
比較社会文化学専攻	国際日本分析論	4	4
比較社会文化学専攻	国際日本分析論演習	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	応用言語学研究	6	6
比較社会文化学専攻	応用言語学演習	7	7
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	4	4
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	5	5
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	2	2
比較社会文化学専攻	日本社会分析論	3	3
比較社会文化学専攻	日本近世史研究	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	2	2
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	2	2
比較社会文化学専攻	日本中世言語文化論	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	日本現代言語文化論演習	4	4
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	3	3
比較社会文化学専攻	仏語圏言語芸術論	2	2
比較社会文化学専攻	仏語圏言語芸術論演習	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	西洋美術論	1	1
比較社会文化学専攻	西洋美術論演習	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	3	3
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(基礎)	3	3
比較社会文化学専攻	西洋服飾論	2	2
比較社会文化学専攻	西洋服飾論演習	1	1
比較社会文化学専攻	イギリス言語文化論	1	1
比較社会文化学専攻	イギリス言語文化論演習	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化論文指導	1	1
比較社会文化学専攻	比較社会文化研究報告(発展)	1	1
比較社会文化学専攻	文化思想分析論	1	1
比較社会文化学専攻	中国言語芸術・批評論	2	2
比較社会文化学専攻	中国言語芸術・批評論演習	1	1
人間発達科学専攻	コミュニティ心理学特論	2	2
人間発達科学専攻	コミュニティ心理学演習	3	2
人間発達科学専攻	心理発達臨床論	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	1	1
人間発達科学専攻	人格システム論演習	1	1
人間発達科学専攻	幼児教育論	1	1
人間発達科学専攻	メディア心理学	1	1
人間発達科学専攻	メディア心理学演習	6	3
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	1	1
人間発達科学専攻	発達障害の医学	3	3
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	2	2
人間発達科学専攻	生涯学習論演習	4	4
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	1	1

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
人間発達科学専攻	生涯学習論演習	1	1
人間発達科学専攻	生涯学習論	1	1
人間発達科学専攻	教育社会学方法論演習	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	1	1
人間発達科学専攻	比較行動発達論	1	1
人間発達科学専攻	教育文化論	4	4
人間発達科学専攻	教育文化論演習	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	5	5
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	3	3
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	3	3
人間発達科学専攻	生涯発達臨床心理学	2	2
人間発達科学専攻	生涯発達臨床心理学演習	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	4	4
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	3	3
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	2	2
人間発達科学専攻	認知科学論演習	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	1	1
人間発達科学専攻	家族変容論	4	4
人間発達科学専攻	家族変容論演習	6	6
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	2	2
人間発達科学専攻	心理学プレゼンテーション研究	3	3
人間発達科学専攻	保育関係論	1	1
人間発達科学専攻	国際教育開発論	1	1
人間発達科学専攻	国際教育開発論演習	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	カリキュラム論	3	3
人間発達科学専攻	カリキュラム論	1	1
人間発達科学専攻	カリキュラム論演習	1	1
人間発達科学専攻	社会政策総論	1	1
人間発達科学専攻	社会政策各論	3	3
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	1	1
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	1	1
人間発達科学専攻	教育史論演習	5	5
人間発達科学専攻	人間発達科学論文指導	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(基礎)	2	2
人間発達科学専攻	人間発達科学研究報告(発展)	2	2
人間発達科学専攻	発達環境科学基礎論	4	4
ジェンダー学際研究専攻	労働論演習	2	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究報告(発展)	2	2
ジェンダー学際研究専攻	労働論	1	1
ジェンダー学際研究専攻	労働論	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー史論	3	3
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー史論演習	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究論文指導	3	2
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究報告(基礎)	1	1
ジェンダー学際研究専攻	地域研究論	3	3
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究論文指導	3	3
ジェンダー学際研究専攻	地域開発論	1	1
ジェンダー学際研究専攻	地域開発論演習	3	2
ジェンダー学際研究専攻	女性労働:労働法と人的資源管理論の視点から	6	5

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
ジェンダー学際研究専攻	家族論	2	2
ジェンダー学際研究専攻	家族論演習	4	4
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究論文指導	1	1
ジェンダー学際研究専攻	文化変容論	3	3
ジェンダー学際研究専攻	文化変容論演習	2	2
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー政治経済学	4	4
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー政治経済学演習	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究論文指導	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究報告(基礎)	1	1
ジェンダー学際研究専攻	比較文化ジェンダー論演習	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究論文指導	1	1
ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー学際研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	1
ライフサイエンス専攻	嗜好性設計学	1	1
ライフサイエンス専攻	嗜好性設計学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	2	2
ライフサイエンス専攻	生命史、性、ヒト／細胞周期制御	12	10
ライフサイエンス専攻	生体応答ダイナミクス	1	1
ライフサイエンス専攻	生体応答ダイナミクス演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	生態環境応答	1	1
ライフサイエンス専攻	生態環境応答演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	情報分子機能学	4	4
ライフサイエンス専攻	情報分子機能学演習	4	4
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	4	4
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	3	3
ライフサイエンス専攻	細胞膜機能学	1	1
ライフサイエンス専攻	細胞膜機能学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	分子遺伝情報演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	1
ライフサイエンス専攻	食品生理機能学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	1
ライフサイエンス専攻	細胞・発生生物学	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	1
ライフサイエンス専攻	食品微生物管理学	2	1
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング論	5	5
ライフサイエンス専攻	遺伝カウンセリング論演習	4	4
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	4	4
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	4	4
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	4	4
ライフサイエンス専攻	食品貯蔵学	1	1
ライフサイエンス専攻	食品貯蔵学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	1
ライフサイエンス専攻	人間環境評価学	1	1
ライフサイエンス専攻	環境材料機能学	2	2
ライフサイエンス専攻	環境材料機能学演習	2	2
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	2	2
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	2	2
ライフサイエンス専攻	分子栄養学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	生物圏科学	1	1
ライフサイエンス専攻	生物圏科学演習	1	1

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(発展)	2	2
ライフサイエンス専攻	総合生命科学	21	16
ライフサイエンス専攻	生命情報学演習	17	14
ライフサイエンス専攻	生命情報学	17	12
ライフサイエンス専攻	予測生物学	13	10
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
ライフサイエンス専攻	構造植物科学	1	1
ライフサイエンス専攻	構造植物科学演習	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス論文指導	1	1
ライフサイエンス専攻	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	画像情報論	5	5
理学専攻	画像情報論演習	3	3
理学専攻	理学論文指導	2	2
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1
理学専攻	ソフトマテリアルズの物理	1	1
理学専攻	ソフトマテリアルズの物理演習	1	1
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	2	2
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	環境情報論	3	3
理学専攻	環境情報論演習	1	1
理学専攻	理学論文指導	3	3
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	3	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1
理学専攻	ナノ界面化学	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1
理学専攻	複雑系の秩序形成	1	1
理学専攻	複雑系の秩序形成演習	1	1
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	非線形現象解析	1	1
理学専攻	非線形現象解析演習	1	1
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	2	2
理学専攻	糖鎖生物化学	2	2
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	知能情報処理論	1	1
理学専攻	知能情報処理論演習	1	1
理学専攻	宇宙天体物理学	1	1
理学専攻	宇宙天体物理学演習	1	1
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	ゲージ理論	2	2
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1
理学専攻	複雑系量子化学演習	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	2	2
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論演習	1	1
理学専攻	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論	1	1
理学専攻	理学論文指導	2	2
理学専攻	理学研究報告(基礎)	2	2

開講部局	授業科目名	履修登録者数	単位取得者数
理学専攻	理学研究報告(発展)	2	2
理学専攻	離散構造論	1	1
理学専攻	プログラム変換論	3	3
理学専攻	理学論文指導	2	2
理学専攻	理学研究報告(基礎)	3	3
理学専攻	理学研究報告(発展)	2	2
理学専攻	コンピュータ援用論	1	1
理学専攻	コンピュータ援用論演習	1	1
理学専攻	高エネルギー物理演習	2	2
理学専攻	高エネルギー物理	2	2
理学専攻	理学論文指導	1	1
理学専攻	理学研究報告(基礎)	1	1
理学専攻	理学研究報告(発展)	1	1

□ 履修登録者に、非正規生(科目等履修生、特別聴講学生、日研生)を含む。ただし、聴講生は除く。

（3）資格の状況　　【担当：教務チーム】　　(H23 年度)

国家試験（受験資格）取得の種類	受験資格取得者数
管理栄養士	４０
二級建築士	１３

(H23 年度)

教員免状取得の種類	取得者数（件数）
中学校（一種）	６２
高等学校（一種）	７２
小学校（一種）	１０
幼稚園（一種）	１５
栄養教諭（一種）	4
中学校（専修）	３２
高等学校（専修）	３８
幼稚園（専修）	2
小学校（専修）	2

(H23 年度)

資格の種類	取得認定者数
食品衛生監視員	４０
食品衛生管理者	４０
栄養士	４０

（4）外国人教員数等　【担当：国際交流チーム】

① ２．７％　（外国人教員　６名／教員全体２２１名、学校基本調査人数）H24.5.1 現在

② 海外において通算して通算して１年以上教育研究に従事した、または国外で学位を取得した日本人教員の在籍状況　２３．９％　（該当者　５３／教員全体２２１名）H24.5.1 現在

（5）海外研究機関との共同研究　　【担当：ファカルティ支援チーム】　　(H23 年度)

所属等	国名	内容・機関名等
人間文化創成科学研究科	フランス	ストラスブール大学にて研究打ち合わせ
〃	ベトナム	ホーチミン国立栄養研究所及びハノイ国立栄養研究所にて共同研究まとめ・報告
〃	チェコ	チェコ工科大学にて素粒子現象論に関する研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	Accelerated Experiential Dynamic Psychotherapy 研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	マイアミ大学にて研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	Berkeley Initiative in Soft Computing にて研究打ち合わせ
〃	スイス	パウル・シェラー研究所での中性子散乱実験
〃	アメリカ合衆国	オークリッジ国立研究所での中性子散乱実験
〃	ウズベキスタン	中央アジア文書資料共同調査
〃	フランス	先端研究拠点形成プログラム共同研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	ソーク研究所での研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	感情調整能力に関する研究打ち合わせ
〃	韓国	梨花女子大学
〃	アメリカ合衆国	アメリカＷＬＢ法制度研究所
〃	スペイン	バヤドリド大学にて特異点の研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	南フロリダ大学での研究打ち合わせ
〃	フランス	17～19 世紀植民地期マルティニク島(カリブ海小アンティール諸島)統治、1946 年以降海外県化統治の社会文化変容研究のためフランス

		国立石文書館、ボルドー大学、アンティール大学・ギアナ大学、マルティニク県立博物館で研究打ち合わせ
〃	フランス	ソフトマター物理学の共同研究
〃	アメリカ合衆国	融合マテリアルに関する研究交流
〃	アメリカ合衆国	テキサス州立大学ダラス校にて共同研究
〃	スロベニア、フランス	ベシクルの変形（非平ダイナミクス）に関する共同研究者との研究打ち合わせ
〃	ドイツ	ミュンヘン工科大学にて燃料電池の触媒開発に関する打合わせ
〃	オーストラリア	ANSTO(Australian Nuclear Science and Technology Organisation)での中性子散乱実験
〃	チェコ	余剰次元を持つ素粒子模型の現象論に関する打ち合わせ
〃	ドイツ	拡散過程のカップリングと次元曲率条件に関する打ち合わせ
〃	アメリカ	感情能力とメンタルヘルスに関する研究打ち合わせ
〃	オランダ、フランス	欧州宇宙センター及びパリ第七大学にてしずく、バブルに関する研究打ち合わせ
〃	マレーシア、シンガポール	Pareto-Optimal Peer-to-Peer Networks に関する研究打ち合わせ
〃	アメリカ合衆国	表面X線散乱／分光実験に関する研究打ち合わせ
〃	ドイツ	ジャワ原人に関する研究打ち合わせ
〃	中国	北京大学における歴史分野の研究者との学術交流及び調査
〃	香港	Sub-Riemann 多様体上の確率解析に関する研究打ち合わせ

（6）協定を結している海外の大学　【担当：国際交流チーム】

①大学間交流協定校一覧

（平成24年4月1日現在）

協定大学		当初締結年月日	最新更新年月日	相談員	国・地域名
アジア（19校）					
1	韓国芸術総合学校舞踊院	2011. 01. 17		柴真理子　教授	韓国
2	慶北大学校	2011. 06. 22		幀住光子　教授	韓国
3	淑明女子大学校	2000. 02. 14	自動更新	森山新　教授	韓国
4	同徳女子大学校	2005. 03. 30	2010. 03. 30	森山新　教授	韓国
5	釜山大学校	2012. 03. 21		三輪　健二　教授	韓国
6	梨花女子大学校	2000. 02. 28	自動更新	森山新　教授	韓国
7	アジア工科大学院大学	2004. 12. 29		熊谷圭知　教授	タイ
8	タマサート大学	2007. 06. 13		森山新　教授	タイ
9	チェンマイ大学	2010. 05. 27		熊谷圭知　教授	タイ
10	プリンス・オブ・ソンクラー大学	2009. 08. 14		森義仁　准教授	タイ
11	国立政治大学	2001. 07. 25	2012. 02. 12	浅田徹　教授	台湾
12	国立台北芸術大学	2002. 01. 29	自動更新	永原恵三　教授	台湾
13	国立台湾大学	1999. 12. 17	自動更新	森山新　教授	台湾
14	大連外国語学院	2006. 10. 02		森山新　教授	中国
15	北京外国語大学	2005. 10. 17	2010. 10. 17	小風秀雅　教授	中国
16	北京大学歴史学系	2002. 01. 26	自動更新	小風秀雅　教授	中国
17	復旦大学歴史学系	2010. 10. 12	自動更新	小風秀雅　教授	中国
18	国立ハノイ教育大学	2008. 03. 03		浜野隆　准教授	ベトナム
19	カブール大学	2003. 09. 22		森義仁　准教授	アフガニスタン
中　東（1校）					
20	アンカラ大学	2007. 08. 08		三浦徹　教授	トルコ
アフリカ（2校）					
21	カイロ大学	2007. 03. 15		三浦徹　教授	エジプト
22	マンソウラ大学	2003. 03. 30	自動更新	森義仁　准教授	エジプト
北　米（4校）					
23	ヴァッサー大学	2006. 06. 01		戸谷陽子　准教授	アメリカ
24	カリフォルニア大学デービス校	2010. 09. 30		大塚譲　教授	アメリカ
25	パーデュー大学	2004. 01. 26	自動更新	戸谷陽子　准教授	アメリカ
26	マウントアリソン大学	2006. 08. 09		菅本晶夫　教授	カナダ

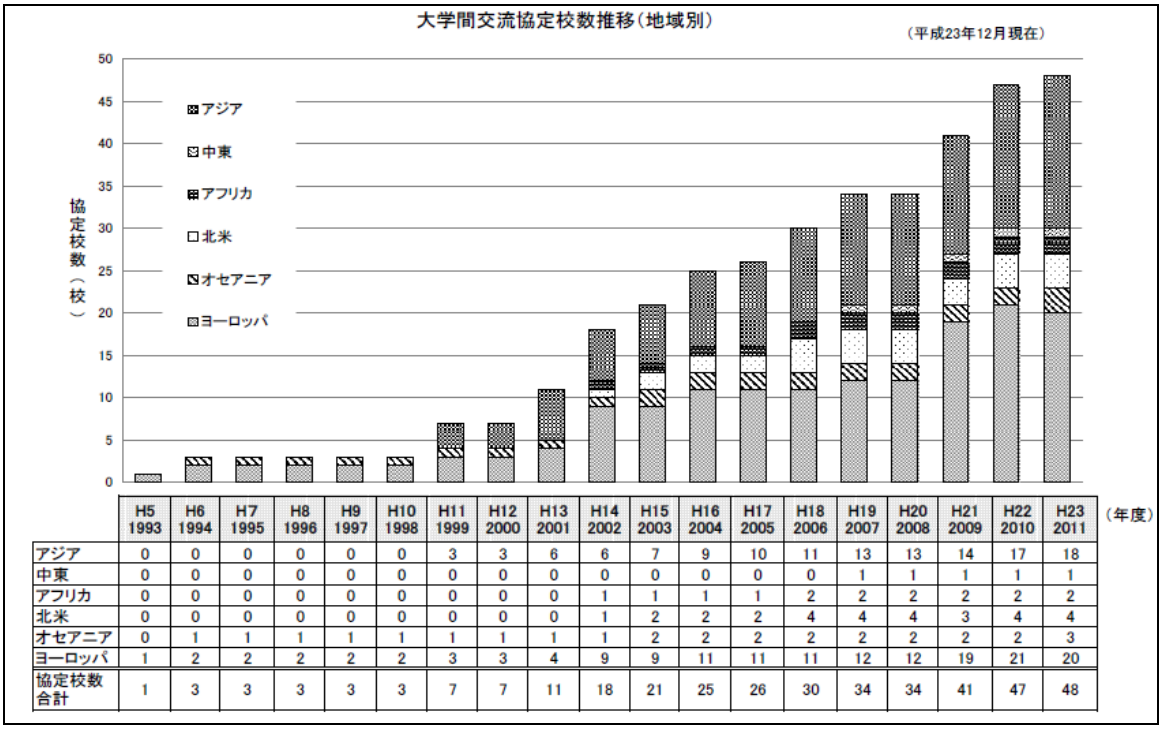
	協定大学	当初 締結年月日	最新 更新年月日	相談員	国・地域名
オセアニア（3校）					
27	ニューサウスウェルズ大学	2011. 09. 30		森山新　教授	オーストラリア
28	モナシュ大学	1994. 12. 14	自動更新	森山新　教授	オーストラリア
29	オタゴ大学	2003. 12. 19	2008. 12. 20	市古夏生　教授	ニュージーランド
ヨーロッパ（21校）					
30	オックスフォード大学クイーンズコレッジ	1994. 01. 18	自動更新	森山新 教授	イギリス
31	ケンブリッジ大学ガートンコレッジ	1994. 07. 20	2007. 08. 30	由良敬 教授	イギリス
32	マンチェスター大学	2009. 09. 15	自動更新	森山新　教授	イギリス
33	ロンドン大学　東洋・アフリカ研究学院	1999. 08. 05	自動更新	小風秀雅　教授	イギリス
34	国立ナポリ大学オリエンターレ	2011. 01. 11		小谷眞男　准教授	イタリア
35	ウィーン工科大学	2002. 12. 05	自動更新	近藤敏啓　教授	オーストリア
36	リンショーピン大学	2012. 01. 12		石井クンツ昌子　教授	スウェーデン
37	スロバキア工科大学	2003. 03. 04	自動更新	曺基哲　教授	スロバキア
38	カレル大学	2004. 09. 07	2011. 11.16	森山新　教授	チェコ
39	ケルン大学	2010. 03. 18	自動更新	近藤譲　教授	ドイツ
40	ブレーメン応用科学大学	2011. 01. 21		伊藤貴之　教授	ドイツ
41	バーギシェ・ブッパタール大学	2002. 02. 24	自動更新	鷹野景子　教授	ドイツ
42	オウステロボテニア先端科学大学	2009. 12. 01		椎尾一郎　教授	フィンランド
43	タンペレ大学	2003. 02. 13	自動更新	椎尾一郎　教授	フィンランド
44	ストラスブール大学	2002. 07. 05	自動更新	室伏きみ子　教授	フランス
45	パリ・ディドロ（パリ第7）大学	2008. 02. 01	自動更新	古瀬奈津子　教授 田中琢三　助教	フランス
46	ブレーズ・パスカル（クレルモン第2）大学	2009. 08. 28		ロール・シュワルツ准教授 田中琢三　助教	フランス
47	ボルドー第一大学	2010. 03. 01		棚谷綾　准教授	フランス
48	ワルシャワ大学	2010. 02. 10		森山新　教授	ポーランド
49	ブカレスト大学	2009. 08. 03		森山新　教授	ルーマニア
50	トムスク国立教育大学	2002. 07. 03	自動更新	菅本晶夫　教授	ロシア

※網掛けは、新規締結大学

地域別大学数

地　域	国・地域数	大学数
アジア	6	19
中東	1	1
アフリカ	1	2
北米	2	4
オセアニア	2	3
ヨーロッパ	12	21
合　計	24	50

②大学間交流協定校数推移（海外の大学との交流を積極的に進めており、過去５年間に 1.5 倍に増えている）



	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011
アジア	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6	7	9	10	11	13	13	14	17	18
中東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
アフリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2
北米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	4	4	4	3	4	4
オセアニア	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3
ヨーロッパ	1	2	2	2	2	2	3	3	4	9	9	11	11	11	12	12	19	21	20
協定校数合計	1	3	3	3	3	3	7	7	11	18	21	25	26	30	34	34	41	47	48

（7）上記（6）大学との教員・学生交流や単位互換、ダブル・ディグリー等の実績を示す指標

① 教員の交流実績　【担当：ファカルティ支援チーム】　（H23 年度）

所属等	国名	大学名	備　考 （大学間交流締結校等）
大学院人間文化創成科学研究科	中国	北京大学	大学間交流締結校
〃	オーストラリア	ニューサウスウェルズ大学	〃
〃	フランス	ボルドー第一大学	〃
〃	フランス	ストラスブール大学	〃
〃	韓国	梨花女子大学	〃
〃	ドイツ	バーギッシュブッパタール大学	〃

② 学生の交流状況（学生海外プログラム及び大学間交流の現状と推移）　【担当：国際交流チーム】

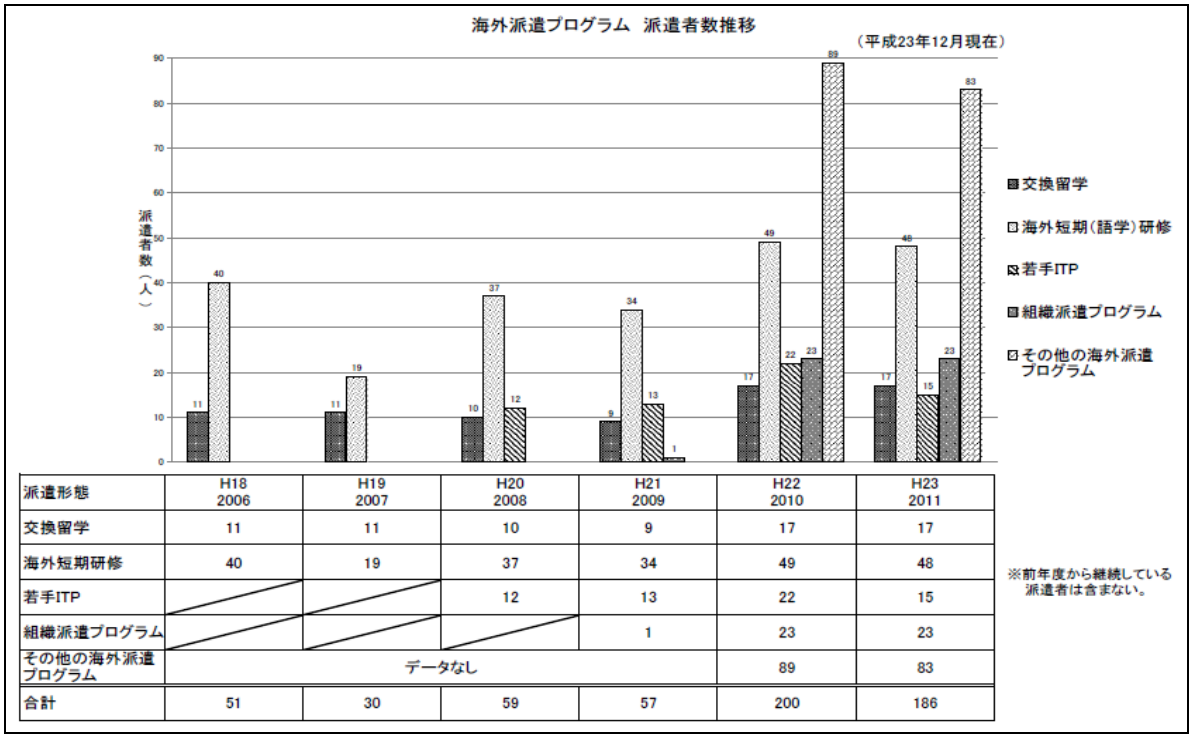
A：学生海外プログラム

お茶の水女子大学学生海外派遣プログラム一覧〔H23年度版〕 *派遣年度実績（予定含む）　H24/2/2現在

	事業名		担当部署	海外派遣 計	学部	院	応募資格	支援期間 短期	中期	長期	日程	機関名（国名）
1	女性リーダーを創出する国際拠点の形成	「学生海外派遣」プログラム 学生海外調査研究	リーダーシップ養成教育研究センター	20		20	博士後期課程	2D～	～6D		～2012/1/11	指定なし
		日韓3女子大学交流合同シンポジウム		24		24	・理系大学院生	2W			12/20-22	梨花女子大学校
		Women's Education Worldwide Student Leadership Conference		3	3	0		5D			6/6-10	イタリア
		学生海外調査研究「バーギシェ・ブッパール大学環境科学サマースクール」		7	7		・自然科学系学部3、4年生 ・英語能力	2W			9/6-18	ドイツ
2	グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成ー女性の役割を見据えた知の国際連携ー	平和構築分野における国際調査	グローバル協力センター	5	0	5	本学学部生・院生				～2012/3/31	指定なし（韓国、タイ、東ティモール、インド、フィリピン）
3		東ティモールにおける国際調査		10	10	0	本学学部生・院生	8D			2/27-	東ティモール
4	理数学生応援プロジェクト 理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育	理系語学研修	理学部	8	8	0	理系学部生・院生		6W		2/11-3/25	ハル大学（英）
5	国公私を通じた大学教育改革の支援 グローバルCOE 格差センシティブな人間発達科学の創成	研究発表支援	グローバルCOE事務局	5		5	・人間発達科学専攻博士後期課程 ・国内外の学会等での研究発表者	4～5D			6月～12月	指定なし（本年アメリカ、ノルウェー）
		公募研究	グローバルCOE事務局	4		4	博士後期課程在学者、修了者				5月～11月	指定なし（本年中国、韓国）
6	若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP) 桜風をつなぐ女性科学者の育成－第2のマリー・キュリーをめざせ－	研修留学	国際交流チーム	12		12	・理学専攻 ・博士前期学生 ・英語能力・GPA		4M		1セメスター（10/4-2/11）	バーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）
		研究留学		3		3	・理学専攻 ・博士後期学生 ・英語能力・GPA		6M～	～1Y	60日～1年	バーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）等4機関2カ国
7	研究者海外派遣基金助成金（組織的な若手研究者等海外派遣プログラム） 国際水準の女性科学者の育成ーお茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル	短期派遣（サマースクール、インターンシップ、学会等）	国際交流チーム	10		10	自然科学系大学院生	1W～	～2M		約1週間～2か月	学会実施先
		理系語学研修		7	7	0	理系学部生・院生	6W			2/11-3/25	ハル大学（英）
8	湯浅年子記念特別研究員奨学基金		ファカルティ支援チーム	1		1	自然科学関係研究者、仏政府給費留学生出願要件			1Y	1学年度	フランス
9	お茶の水女子大学120周年記念国際交流振興基金	桜蔭会国際交流奨励費	国際交流チーム	0		0	本学大学院修了者			1Y	1年未満	指定なし
10	大学間交流協定	交換留学派遣制度	国際交流チーム グローバル教育センター（海外留学担当）	17	15	2	相手機関との協定による		5M	1Y	半期、一学年	44協定校
11	海外短期研修	モナシュ大学短期研修	グローバル教育センター（海外留学担当）	18	18	0	TOEIC500点以上		5W		2/25-4/1	モナシュ大学
		オタゴ大学短期研修		8	8	0	TOEIC500点以上		6W		2/14-4/1	オタゴ大学
		マンチェスター大学短期研修		22	20	2	TOEIC500点以上		5W		7/25-8/26	マンチェスター大学
		梨花女子大学校サマープログラム		5	3	2		2W			8/1-12	梨花女子大学校
		淑明女子大学校サマープログラム		0	0	0		3W			8/3-23	淑明女子大学校
12	グローバル文化学環	淑明女子大学校サマープログラム	グローバル文化学環	11	11	0	授業履修者	3W			8/3-23	淑明女子大学校
13	グローバル文化学環	日韓大学生国際交流セミナー（本年度は代替として淑明サマープログラムを実施）	グローバル教育センター	－	－	－	授業履修者				－	同徳女子大学校
14	グローバル文化学環	国際協力実習	グローバル文化学環	12	12	0	全学部・大学院生	1W			1週間	タイ
15	開発ジェンダー論コース	AITワークショップ（本年度は洪水により派遣中止）	ジェンダー研究センター	0		0	博士前・後期学生	2W			2月中（2週間程度）	タイ・アジア工科大学院（AIT）
16	フィンランド共和国CENTRIA学生研究交流		椎尾教授	3	1	2	情報科学専攻学部生・大学院生		3M		11月～3月の間の3か月間	オウステロボテニア先端科学大学
			計	215	123	92						

短期 1ヶ月未満
中期 1ヶ月以上1年未満
長期 1年以上

B：海外プログラム派遣者数推移



派遣形態	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011
交換留学	11	11	10	9	17	17
海外短期研修	40	19	37	34	49	48
若手ITP			12	13	22	15
組織派遣プログラム				1	23	23
その他の海外派遣プログラム	データなし				89	83
合計	51	30	59	57	200	186

※前年度から継続している派遣者は含まない。

C：大学間交流協定校と学生交流状況

（平成23年12月現在）

地域	No.	大学名	国名	年度	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	合計	No.
アジア	1	韓国芸術総合学校舞踊院	大韓民国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	
	2	慶北大学校	大韓民国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	2
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	
	3	淑明女子大学校	大韓民国	受入	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2	1	0	2	0	1	2	1	1	2	14	3
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	4	同徳女子大学校	大韓民国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	2	1	1	0	6	4
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	梨花女子大学校	大韓民国	受入	—	—	—	—	—	—	—	1	5	1	2	2	2	5	3	3	5	6	2	37	5
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	2	1	9	
	6	大連外国語学院	中国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	0	4	1	6	6
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	0	1	
	7	北京外国語大学	中国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	0	0	0	0	1	2	7
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	0	1	1	3	
	8	北京大学歴史学系	中国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	1	2	1	1	0	1	1	1	11	8
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	2	1	1	1	0	0	1	0	7	
	9	復旦大学	中国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	9
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	
	10	国立政治大学	台湾	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	2	2	2	2	2	2	4	0	0	18	10
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	国立台北芸術大学	台湾	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	12	国立台湾大学	台湾	受入	—	—	—	—	—	—	0	0	2	2	2	1	1	2	4	1	2	2	3	22	12
				派遣	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	1	5	
	13	アジア工科大学院大学	タイ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14	タマサート大学	タイ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	2	1	5	14
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	0	0	0	1	
	15	チェンマイ大学	タイ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	1	15
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	16	プリンス・オブ・ソンクラー大学	タイ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	16
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	17	国立ハノイ教育大学	ベトナム	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	17
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	
	18	カブール大学	アフガニスタン	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	18
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			小計	受入	—	—	—	—	—	—	0	2	8	10	9	7	10	13	13	13	16	17	12	130	
				派遣	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	3	3	3	5	3	1	0	5	5	29	

地域	No.	大学名	国名	年度	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	合計	No.
中東	19	アンカラ大学	トルコ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	0	3	19
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	0	2	
			小計	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	0	3	
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	0	2	
アフリカ	20	カイロ大学	エジプト	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	1	1	20
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	
	21	マンソウラ大学	エジプト	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			小計	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北米	22	ヴァッサー大学	アメリカ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	22
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	0	0	1	2	
	23	カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	23
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	
	24	バーデュー大学	アメリカ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	2	0	0	0	0	2	24
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	2	1	2	0	1	1	8	
	25	カルガリー大学	カナダ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	25
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	
	26	マウントアリソン大学	カナダ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	26
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	0	1	
			小計	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	2	1	3	1	1	2	11	
オセアニア	27	ニューサウスウェルズ大学	オーストラリア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	27
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	
	28	モナシュ大学	オーストラリア	受入	—	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	11	28
				派遣	—	0	0	1	1	1	0	1	3	2	1	0	1	2	0	1	1	1	1	17	
	29	オタゴ大学	ニュージーランド	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	29
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	1	1	1	0	1	5	
			小計	受入	—	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	1	2	0	14	
				派遣	—	0	0	1	1	1	0	1	3	2	1	0	2	2	1	2	2	1	2	22	
ヨーロッパ	30	オックスフォード大学クイーンズコレッジ	英国	受入	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	2	1	16	30
				派遣	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	11	
	31	ケンブリッジ大学ガートンコレッジ	英国	受入	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
				派遣	—	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	32	マンチェスター大学	英国	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	0	2	32
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	2	4	
	33	ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院	英国	受入	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	2	0	1	1	2	2	1	1	1	15	33
				派遣	—	—	—	—	—	—	0	0	2	0	0	1	2	2	1	0	1	1	2	12	

地域	No.	大学名	国名	年度	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	合計	No.
ヨーロッパ	34	ストラスブール大学	フランス	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	35	パリ・ディドロ(パリ第7)大学	フランス	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	2	0	3	35
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	2	0	2	
	36	ブレーズ・パスカル大学	フランス	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0	1	36
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	2	0	3	
	37	ボルドー第一大学	フランス	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	37
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2	
	38	ケルン大学	ドイツ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	38
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	39	ブレーメン応用科学大学	ドイツ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	39
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	
	40	バーギシェ・ブッパタール大学	ドイツ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	1	0	2	1	2	1	1	10	
	41	国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	2	41
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	
	42	ウィーン工科大学	オーストリア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	
	43	スロバキア工科大学	スロバキア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	43
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	44	カレル大学	チェコ	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	0	0	0	0	0	2	44
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	45	ワルシャワ大学	ポーランド	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	45
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	46	ブカレスト大学	ルーマニア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	46
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	47	オウステロボテニア先端科学大学	フィンランド	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	47
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	
	48	タンペレ大学	フィンランド	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	48
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	1	1	1	2	5	
	49	トムスク国立教育大学	ロシア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	5	49
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	50	ロシア連邦国立科学センター理論実験物理学研究所	ロシア	受入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—	0	50
				派遣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	—	0	
			小計	受入	0	1	1	1	1	1	2	2	2	1	6	0	3	4	5	4	2	8	2	46	
				派遣	0	0	1	1	2	1	1	1	3	1	2	4	3	2	5	3	5	10	9	54	
			合計	受入	0	2	2	2	2	2	3	5	11	11	16	8	14	20	18	19	20	28	19	202	
				派遣	0	0	1	2	3	2	1	2	6	4	6	8	10	11	10	9	9	18	18	120	

※ 各年度内(4/1～3/31)の新規受入・新規派遣学生数
※ 受入留学生数には、交換留学生、国費留学生(研究留学生、日本語・日本文化研究留学生)を含む
※ 派遣学生数には語学研修及びその他のプログラムを含まない

③　海外協定校との単位互換の実績　【担当：教務チーム】　(H23 年度)

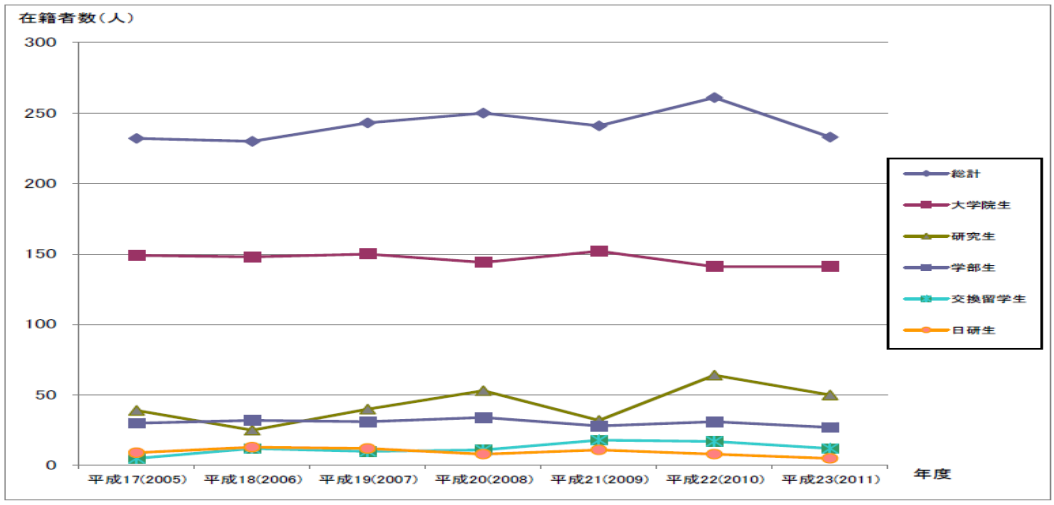
国名	大学名	人数	備　　考
アメリカ	パデュー大学	1	
イギリス	マンチェスター大学	2	
イギリス	ロンドン大学 アジアアフリカ研究学院	1	
韓国	梨花女子大学校	1	
韓国	淑明女子大学校	1	
中国	大連外国語学院	1	
中国	北京外国語大学	1	
ドイツ	ブッパタール大学	1	
トルコ	アンカラ大学	1	
フランス	パリ第７大学	1	
フランス	ブレーズ・パスカル大学	1	

④　ダブルディグリー等に関する実績　【担当：教務チーム】　(H23 年度)

学部・研究科名	実績の有無
文教育学部	無
理学部	無
生活科学部	無
人間文化創成科学研究科	無

（８）　外国人留学生数の受入れの推移（各年）　【担当：国際交流チーム】

	学部生				大学院生			学部研究生				大学院研究生			日研生	交換留学生（学部）	交換留学生（大学院）	計
	文教育学部	理学部	生活科学部	小計	博士前期課程	博士後期課程	小計	文教育学部	理学部	生活科学部	小計	博士前期課程	博士後期課程	小計				
平成17(2005)年度	23	1	6	30	57	92	149	27	1	6	34	5	0	5	9	5	0	232
平成18(2006)年度	23	2	7	32	58	90	148	12	0	4	16	9	0	9	13	10	2	230
平成19(2007)年度	20	2	9	31	62	88	150	34	0	3	37	3	0	3	12	9	1	243
平成20(2008)年度	22	1	11	34	59	85	144	29	1	6	36	17	0	17	8	9	2	250
平成21(2009)年度	18	1	9	28	67	85	152	17	1	5	23	9	0	9	11	15	3	241
平成22(2010)年度	21	1	9	31	64	77	141	34	2	13	49	15	0	15	8	15	2	261
平成23(2011)年度	17	2	8	27	55	86	141	26	2	11	41	9	0	9	5	10	2	233



（9）　英語によるサマープログラムの実施（平成 23 年度から本学開催事業）　【担当：教務チーム】

学生のキャリア発展と海外学生との交流促進を図り、国際的に活躍できるグローバル人材の育成や学生の双方向交流の推進を目指すため、本事業を実施いたしました。

留学生を含む本学学生、並びに国内協定校の特別聴講学生向け（単位互換）に集中講義として開講すると同時に、海外協定校等からの留学生を受け入れ、英語による授業として「サマープログラム」として開講しました。

開講したテーマは３つ。講義はすべて英語で行われました。

＜テーマ１＞　「現代日本の社会政策、教育、家族、発達に関するパークスペクティブ」
"Contemporary Perspectives on Social Policy, Education,Family and Development"

＜テーマ２＞　「形と色の科学」
"Science on Form and Color"

＜テーマ３＞　「東アジア世界における儀礼と権力」
"Ritual and Power in East Asian Societies"

開催日時：平成２４年７月２３日（月）～７月２７日（金）
http://www.ocha.ac.jp/news/summer_prog_2012.html

（１０）外部評価・第三者評価の実施状況【担当：総務チーム】

平成24年5月現在

区分	実施年度	実施部局	評価の概要	外部評価等の実施体制	公表状況		備考
					自己評価書	外部評価結果(報告書)	
外部評価	平成 18 年度	文教育学部 理学部 生活科学部 大学院人間文化研究科 センター部	「国立大学法人お茶の水女子大学部局別評価要綱」の評価項目に基づき、3学部、1研究科、センター部の単位で実施	外部評価委員会 (学外の有識者 24 名で構成) ・文教育学部14名 ・理学部5名 ・生活科学部5名 ・大学院8名　※ ・センター部7名※ ※大学院とセンター部の委員は学部の委員が兼任	印刷物	HP	
認証評価	平成 21 年度	全学	認定評価機関が定める「大学評価基準」に基づき、教育研究や業務運営等の項目に関し、実施	認証評価機関 (独立行政法人大学評価・学位授与機構)	HP	HP	

（１１）その他、本学の国際化戦略に関すること
http://www.ocha.ac.jp/kokusai/index.html

１２．財務・経営情報に関すること　【担当：財務チーム】

平成２３年度

① 財務諸表等　http://www.ocha.ac.jp/introduction/publication/index.html

② 決算報告書　http://www.ocha.ac.jp/introduction/publication/index.html

③ 監査結果報告書　http://www.ocha.ac.jp/introduction/publication/index.html

１３．教育プロジェクト（特別経費等）実施事業

Ⅰ．学士課程教育における取り組み　＜　継続中　＞

１．学生主体の新しい学士課程の創成　（文部科学省特別経費プロジェクト　2010 年度～）
－21 世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育－

本学における教育は、21 世紀型リベラルアーツ（文系、理系の領域を横断した視野を獲得し、自在につかえる技を学ぶ）を基礎とした広い視野のもとに、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ人間を育成する新たな学士課程教育である。自然・人文・社会領域の総合的理解を深める「文理融合 21 世紀型リベラルアーツ」（LA、教養教育課程）の基盤の上に、学生主体の複数プログラム選択型専門教育課程を導入し、21 世紀の社会に必要とされる教養と専門性を備え、自主自律の精神に富み、女性リーダーを育成する学士課程教育を構築する。具体的には、従来の学科、コースの専門性の枠内で閉鎖的に専門教育を実施するのではなく、学部学科等の教育組織を横断した複数プログラム選択履修制度を導入し、主プログラムと選択プログラムの組合わせにより、学生個々の特性と志向性に応じた多様な可能性をもつ専門基礎力を育成するものである（図１）。

さらに、学生への効果的、確実な教育の質保証を推進するため、３つの一体運用（図２，３）を実施している。

(1)　開講全科目にカラーコードベンチマークシステムの導入科目の授業水準を色分けによって科目履修を適正にガイドし、構造体系を感覚的にも把握できるようにしたこと。

(2)　ファンクショナル GPA 制度の導入による厳格な成績評価の実施と教育成果の質保証を明確にする仕組みの開発と運用優秀な成果をできるだけ適正に評価したことと、教育成果の質保証を確保するため、直接グレードポイントを算定する fGPA（functional Grade Point　Average）を導入し、成績向上につなげること。

(3)　(1),(2)で生じる多様な学修のあり方を適切にガイドしていくきめ細やかな学修支援体制（組織+情報基盤）を整えたこと。

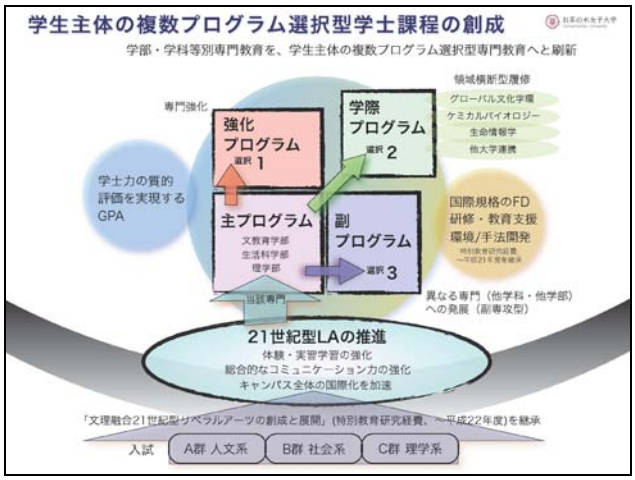


図１

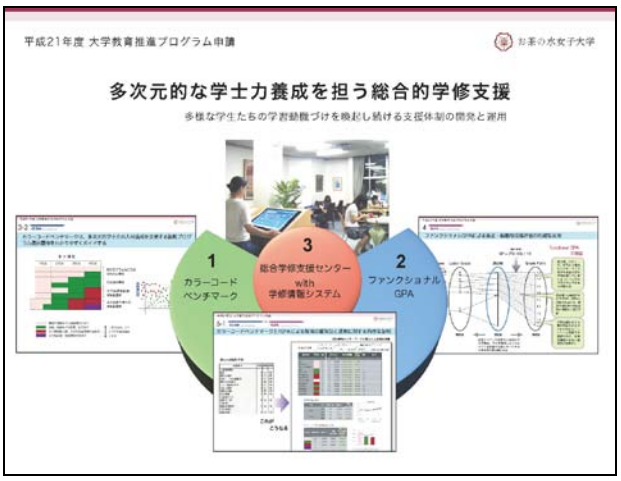


図２

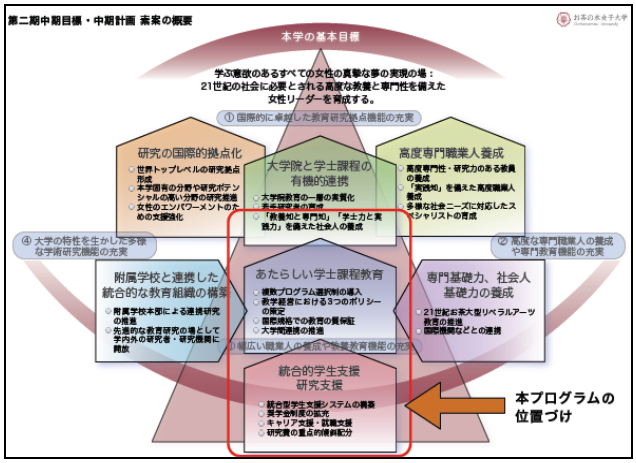


図３

詳細は

http://www.ocha.ac.jp/nsep/

（学生主体の新しい学士課程の創成）

https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/CRDESite/GP.html

（多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援）

2.理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育　（文部科学省採択 理数学生応援プロジェクト 2009 年度～）

専攻分野の“理”に根ざす学びへの目的意識や意欲の触発、あるいは科学に対する広い視野の啓発のため、関連あるいは隣接分野の他学科の教員の下で学生が卒業研究を行える方策、学際的分野の副専攻の開設、複数プログラム選択履修制などにより、ひとりひとりの学生の個性と能力を伸ばす種々の取り組みを行う（図４）。

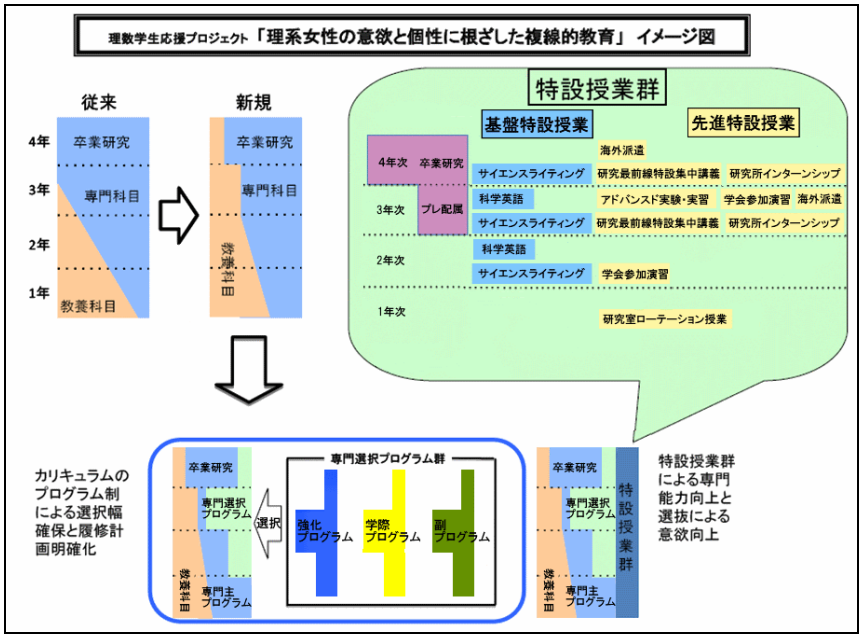


図４

詳細は　http://www.sci.ocha.ac.jp/risuouen/　理数学生応援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育

3.統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証
（文部科学省特別経費プロジェクト 2010 年度～）

支援する側の視点から個別に展開されてきた、授業料減免施策、学寮施策、大学独自奨学金施策を見直し、被支援者である個々の学生ごとに、多様なニーズを把握し、きめ細やかで効果的な統合型学生支援システムを構築し、留学生支援の拡充も図る（図５）。具体的には、①学生支援カルテシステムの構築　②新寮（「お茶大 SCC」（Students Community Commons）と学寮機能の整理　③大学独自奨学金制度の設計　について計画実施。これにより、女子高等教育機会の均等化を図り、本学の教育機能の基盤を確保する。

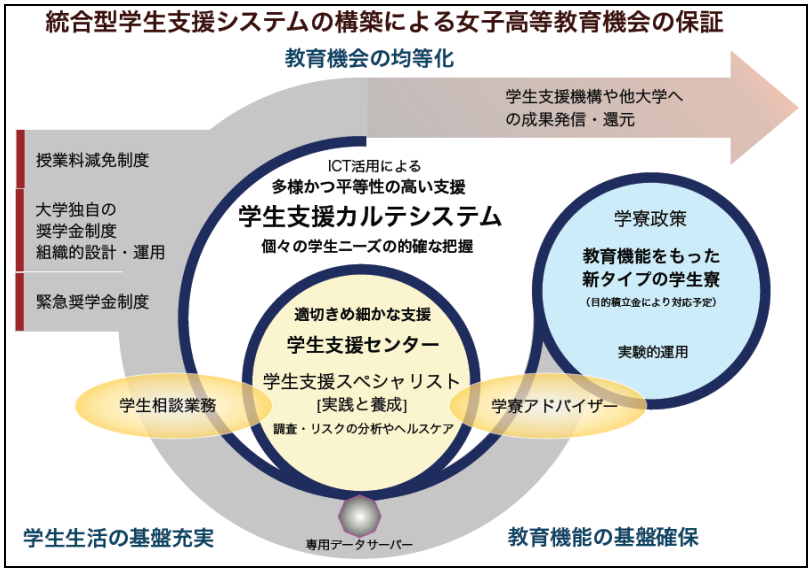


図５

詳細は　http://www.ocha.ac.jp/gss/index.html　統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保障

Ⅱ．大学院課程教育における取組み　＜　継続中　＞

１．多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成　（文部科学省特別経費プロジェクト　2010 年度～）

食育の高度化・多様化に対応し、日本発の SHOKUIKU を新しい概念として海外に発信していくために、従来の食育の枠を超えた学際的な幅広い教養をもち、多様な場やレベルに応じて科学的根拠に基づいた情報を、正しく発信できる高度専門家を育成する（図６）。

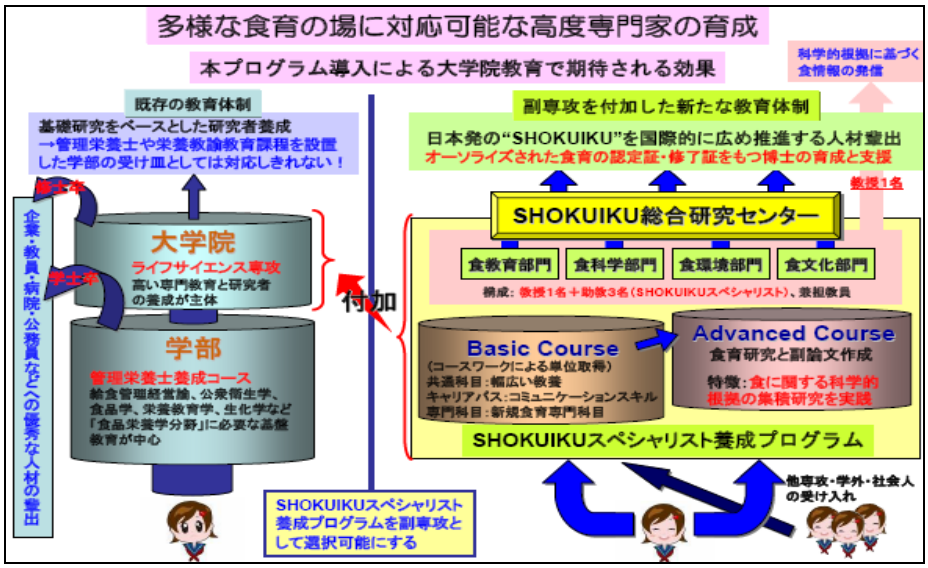


図６

詳細は　http://www.cf.ocha.ac.jp/ochashoku/　多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成

（関連取組）　http://www.cf.ocha.ac.jp/shokuiku/index.html

どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育(2007 年度～2009 年度)

２．校風をつなぐ女性科学者の育成　第二のマリー・キュリーをめざせ　　（2008 年度～）
（日本学術振興会採択　若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム【ITP】）

女性人材育成の土壌のある欧州研究機関に理学専攻の大学院生を派遣する。3 つの段階を経て社会に羽ばたく「ホップ・ステップ・ジャンプモデル」を構築し、国際的視野をもつ女性研究者を育成する（図７，８）。

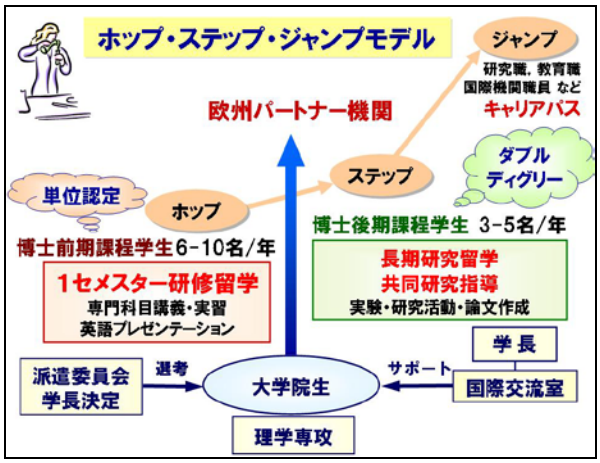


図７

図８

詳細は　http://www.dc.ocha.ac.jp/itp/index.html

校風をつなぐ女性科学者の育成　第二のマリー・キュリーをめざせ

３．『理学する心』を持つ小・中学校教員の指導者養成　（2009 年度～）
（独立行政法人 科学技術振興機構採択 理数系教員（コア･サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業）

理科が好きで得意な小学校教員と理学部出身の大学院生を、指導力と教材開発力に優れた小・中学校教員に育てることを目指す。科目には、小・中学校の接続を意識した理科と先端研究をつなぐ「ＣＳＴ理科教育法」、地域の教育資源を教材化するための「教材開発法」、夏休みの「自由研究指導法」、そして「教員研修実践論」を学び、「教職インターンシップ」で教育現場を体験学習する。これら科目全てに合格した受講者は、ＣＳＴと認定され、各市区に設置する理数教育支援拠点とＣＳＴ専属理科支援員を活用し、地域の理数教育を振興する（図９）。

図９

詳細は　http://www.ocha.ac.jp/topics/h210928.htmlhttp//　（NEWS&INFO＞理数系教員養成拠点構築事業）

Ⅲ．女性リーダー育成・学生支援　＜　継続中　＞

１．女性リーダーを創出する国際拠点の形成　（文部科学省特別経費プロジェクト　2010 年度～）
－　国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実　－

本取組は、本学が実践してきた「女性リーダー育成プログラム」の成果を踏まえ、先進的学際的な分野を開拓する女性研究者を育成する国際的拠点形成を目的とする（図 10, 11）。そのために、以下の事業を実施する。

(1) リーダーシップ教育の理論構築
(2) 女性の能力を開発する国際的ネットワークの構築
(3) 国際水準の女性研究者の育成システムの構築

図 10

「OG が仕事や学生時代　語る」

OGが仕事や学生時代 語る

▼お茶大▲

「お茶の水女子大学論」で話す龍住先生（左）＝東京工科大・西谷幸撮影

図 11

詳細は　http://www.cf.ocha.ac.jp/leader/index.html　女性リーダーを創出する国際拠点の形成

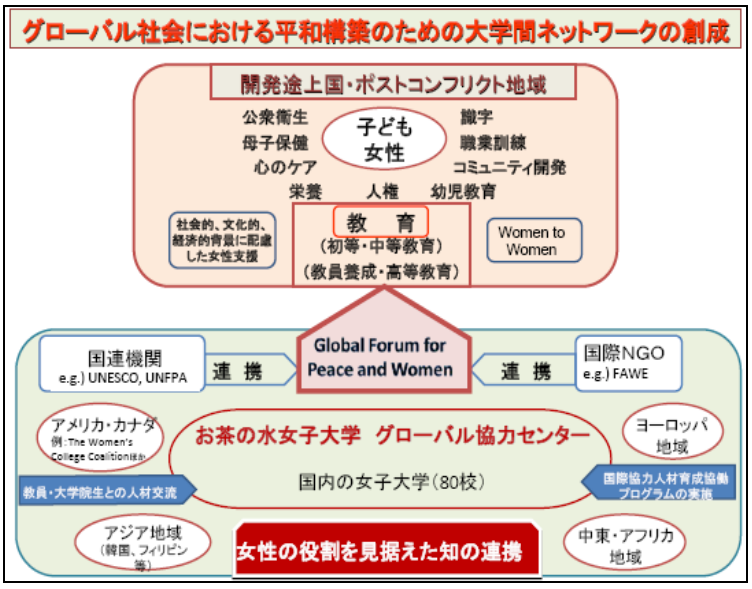
（関連取組）　女性リーダー育成プログラム（2006 年度～2009 年度）

女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築(COSMOS)(2006 年度～2008 年度)

２．グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
－女性の役割を見据えた知の国際連携－　（文部科学省特別経費プロジェクト　2010 年度～）

本取組では、グローバル社会における平和構築を目指して、先進国と開発途上国の大学、研究機関との国際的ネットワークを創成する。このネットワークは女性 の役割を見据えた知的国際連携であり、アジア・中東・アフリカ地域における特に紛争後の国・地域における女性と子どものエンパワーメントを目指す。そのた めに、以下の事業を実施する（図 12)。

(1) 女性と子どもの支援に関する国際協力のための世界各地の(女子)大学とのネットワークの形成
(2) 国際機関・国際 NGO および援助機関の女性と子どもの支援に関するプロジェクトとの連携
(3) 教員・学生（院生）との協力と交流、卒業生組織による女性と子どもへの国際協力活動
(4) 平和構築に向けての国際協力人材育成のプログラム化と人材交流
(5) 国際貢献（平和構築、女性支援、子ども支援分野）における日本の（女子）大学のリーダーシップ



詳細は　準備中　　グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成

（関連取組）→　五女子大学コンソーシアム（2006～2009 年度）, 国際協力人材育成（2006～2009 年度）

開発途上国における女子教育支援のモデルの構築（2002 年度）, 国際教育協力イニシアティブ（2006 年度）

Ⅳ．教育モデル開発　＜　継続中　＞

１．附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究（文部科学省特別経費プロジェクト）
－高度専門的研究力を持つ教員養成・現職研修システムの構築と幼小接続期の新学校制度開発－（2010 年度～）

幼児/児童の「探究力・活用力」育成を目的とする新たな学校制度と教育課程を検討・開発するとともに、附属学校園を活用して「コア・ティーチャー」となる大学院生を育成し、教員の研究＝探究力形成を促す教員養成・現職教員研修システムを開発・普及する（図 13）。

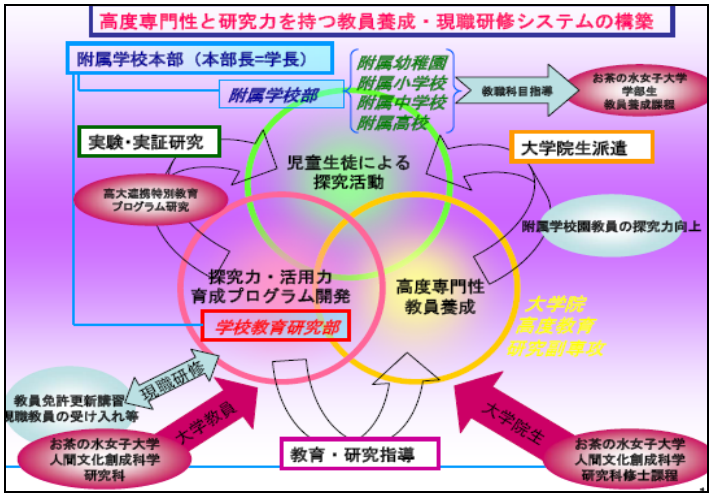


図 13

詳細は　http://www.cf.ocha.ac.jp/sesd/　　附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究

2．乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築　（文部科学省特別経費プロジェクト 2010 年度～）

乳幼児教育に関心を持つ女性・社会人の学び直しの場を、教員養成・乳幼児教育における本学のリソースと連携しつつ新たに構築し、ケア的資質と戦略的子育て支援力のある人材の社会還元モデルを発信する（図 14）。

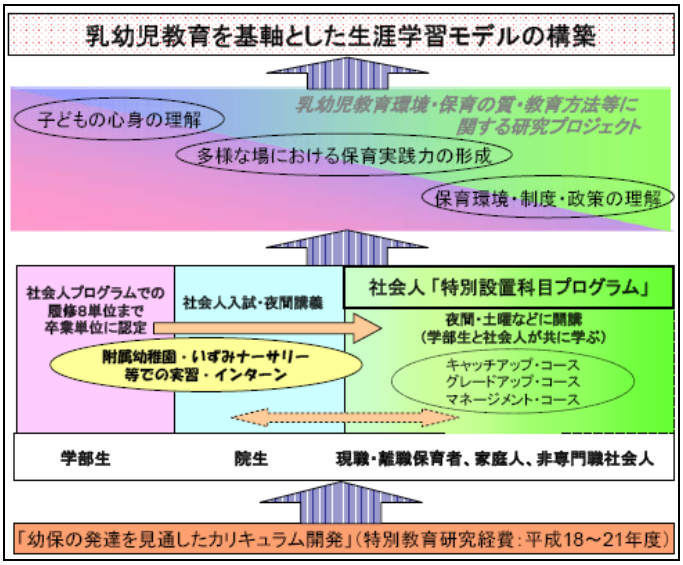


図 14

詳細は　http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji/index.html　乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築
（関連取組）→　幼・保の発達を見通したカリキュラム開発（2006 年度～2009 年度）

Ⅴ．若手研究者育成取り組み　＜　継続中　＞

1．国際水準の女性科学者の育成－お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル
（日本学術振興会 研究者海外派遣基金助成金【組織的な若手研究者等海外派遣プログラム】 2010 年度～）

指導的女性・女性研究者の育成をすること、及び国際交流を通じて国際的に認知される高度な水準の研究を行うことができる女性科学者の育成に取り組んでいる。対象として、ポスドク研究員や若手研究者に対する研究留学の機会を与え、海外で研究できる資源の幅を広げることで研究能力の向上が諮られ、多様なキャリアパスへとつながることが国際水準の育成を加速する（図 15）。

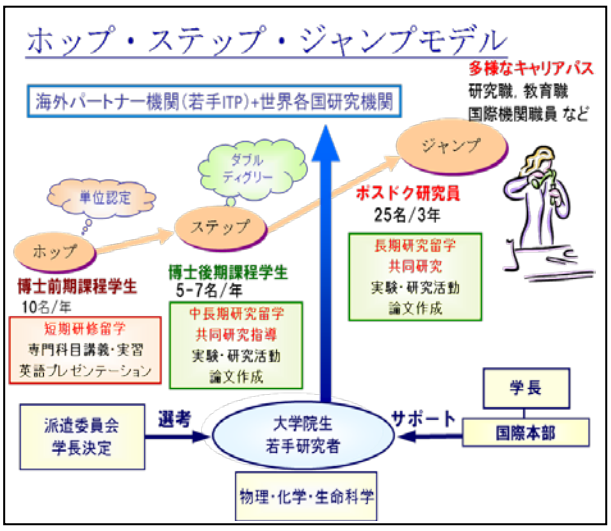


図 15

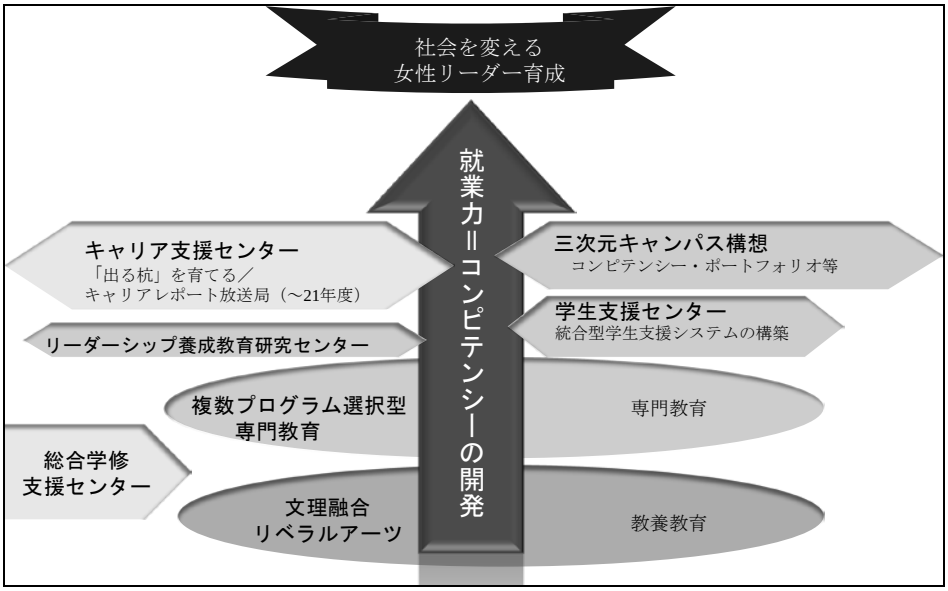
詳細は　準備中
（国際水準の女性科学者の育成－お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル）

支援期間が終了した事業

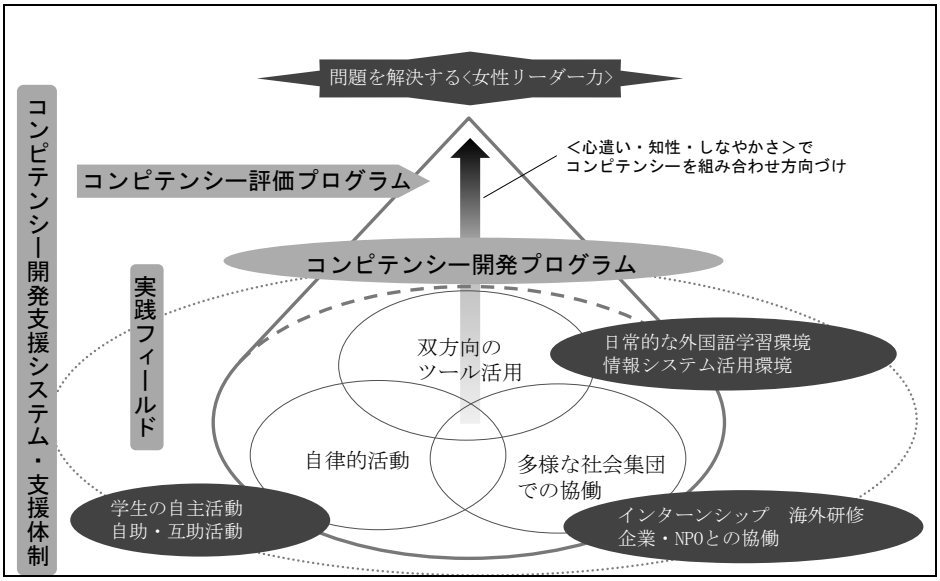
1．女性リーダーのためのコンピテンシー開発　－自分で創る・仲間と伸ばす＜社会を変えるリーダー力＞－
（文部科学省採択 大学生の就業力育成支援事業 2010 年度～2011 年度）

女性の地位向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力として発揮できるよう、高い就業力としての「女性リーダー力」をコンピテンシー（高いパフォーマンスを生むための包括的能力）の枠組みでとらえ、学生が主体的に、また仲間と協働してこれを伸ばせるしくみ（図１）と現代人に必要な基幹能力（キー・コンピテンシー）の概念枠組み作る。

これをもとに、＜双方向のツール活用＞＜自律的活動＞＜多様な社会集団での協働＞という３分野のコンピテンシーを身につけ、本学が女性リーダー力の核と考えてきた思考・行動特性＜心遣い・知性・しなやかさ＞により、学生自身の目的に応じて就業力を客観的基準ではかり自律的に向上させるための学修計画を立てられるようにする（図２）。



お茶の水女子大学におけるキャリア開発支援の全体像（図１）

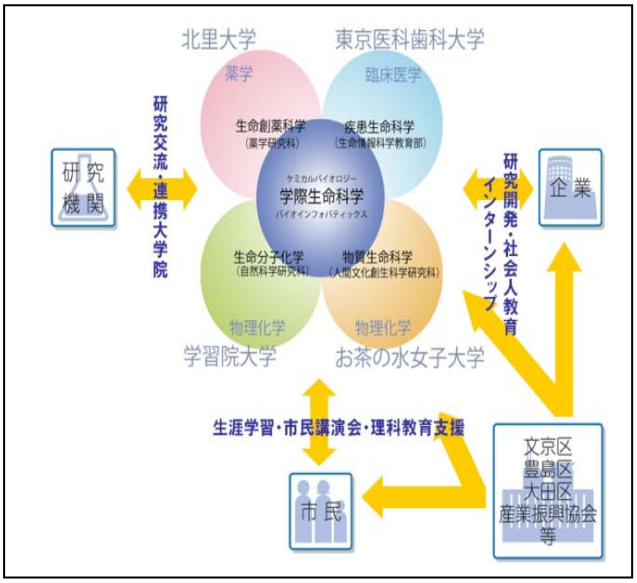


コンピテンシー開発による問題解決型就業力育成（図２）

詳細は　http://www.cf.ocha.ac.jp/careerdesign/　　女性リーダーのためのコンピテンシー開発

２．学際生命科学東京コンソーシアムによる全人的大学院人材育成拠点の確立　（2009 年度～2011 年度）
（文部科学省採択　戦略的大学連携支援事業〔東京医科歯科大学、北里大学、学習院大学連携事業〕）

学際生命科学の高度化において互いに補完的な特色を有し、東京の中心部に位置する四大学が中核となり、首都圏の様々な研究機関・企業・自治体と連携の輪を広げ、生命科学領域の産官学地域拠点を形成し、イノベーションの推進や人材育成に貢献する（図３，４）。



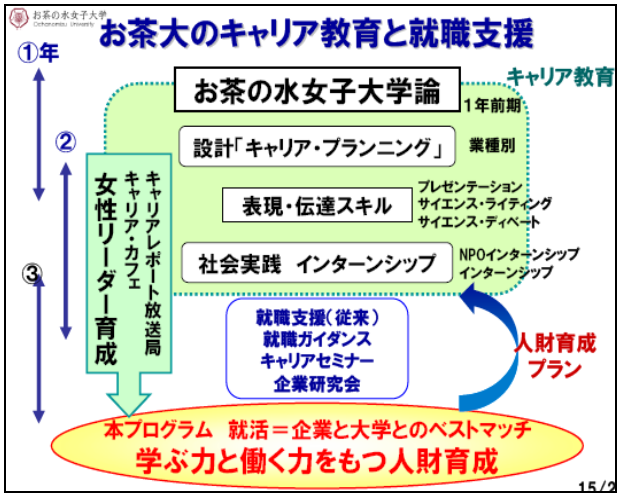
コンソーシアムの連携スキーム（図３）　　コンソーシアムの活動と目標（図４）

詳細は　http://cib.cf.ocha.ac.jp/CONS/　　学際生命科学東京コンソーシアム

３．「出る杭」を育てる　～企業で女性が輝くための学生支援～
（文部科学省採択　新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム　2008 年度～2011 年度）

大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行う（図５，６）。そのために、次の事業を実施する。

ＯＧ就活（就職活動）ネットワークと就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアパスのモデルを築く。さらに、働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、企業とタイアップしてキャリア・セミナーを開講して働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成する。これらにより、将来、指導的な地位で活躍する活力ある女性（出る杭）を社会に送り出す。



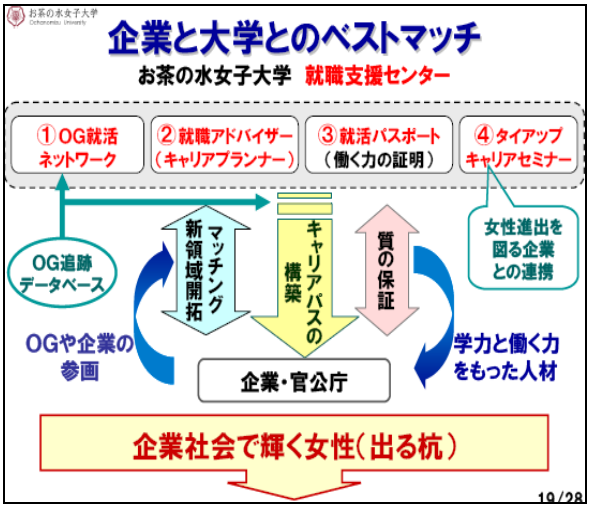
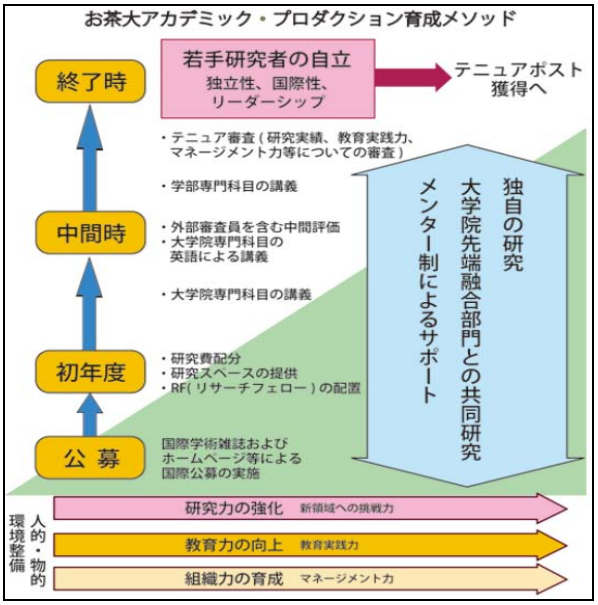


図５　　図６

詳細は　http://www.ocha.ac.jp/topics/h200716.html「出る杭」を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～

４．挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成　（科学技術振興機構,科学技術振興調整費プロジェクト
若手研究者の自立的研究環境整備促進 2007 年度～2011 年度）

平成 19 年度より、先端分野で国際的に活躍する若手研究者を育成するプログラムを開始しました。このプログラムは、優れた若手研究者を自立的環境のもとで育成し、わが国の国際的競争力とステイタスを高めることを意図している。また、本学で学んだ博士学位取得者は、大学や研究所でテニュアなポストに就き、これまでにも国内外の女性研究者･教員の増加に貢献してきた。そこで、この実績をもとに、先端的な研究分野で国際的に活躍しうる若手研究者を育成し、国際競争力の強化のための人材システム改革モデルを提案する（図 21）。



詳細は
http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index.html
（挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成）

問い合わせ先一覧

担当チーム	問い合わせ先	E-mail
総務チーム	０３－５９７８－５１０８	TL-soumu@cc.ocha.ac.jp
財務チーム	０３－５９７８－５１１９	TL-zaimu@cc.ocha.ac.jp
教務チーム	０３－５９７８－５１４１	TL-kyoumu@cc.ocha.ac.jp
ファカルティ支援チーム	０３－５９７８－５２８６	TL-faculty-sien@cc.ocha.ac.jp
学生・キャリア支援チーム	０３－５９７８－５１４７	TL-gakusei@cc.ocha.ac.jp
入試チーム	０３－５９７８－５１５１	TL-nyushi@cc.ocha.ac.jp
国際交流チーム	０３－５９７８－５１４３	TL-kokusai@cc.ocha.ac.jp
研究協力・社会連携チーム	０３－５９７８－５１６２	TL-kenkyo@cc.ocha.ac.jp
広報チーム	０３－５９７８－５１０５	TL-kouhou@cc.ocha.ac.jp
図書・情報チーム	０３－５９７８－５８３６	TL-tosho-johou@cc.ocha.ac.jp